

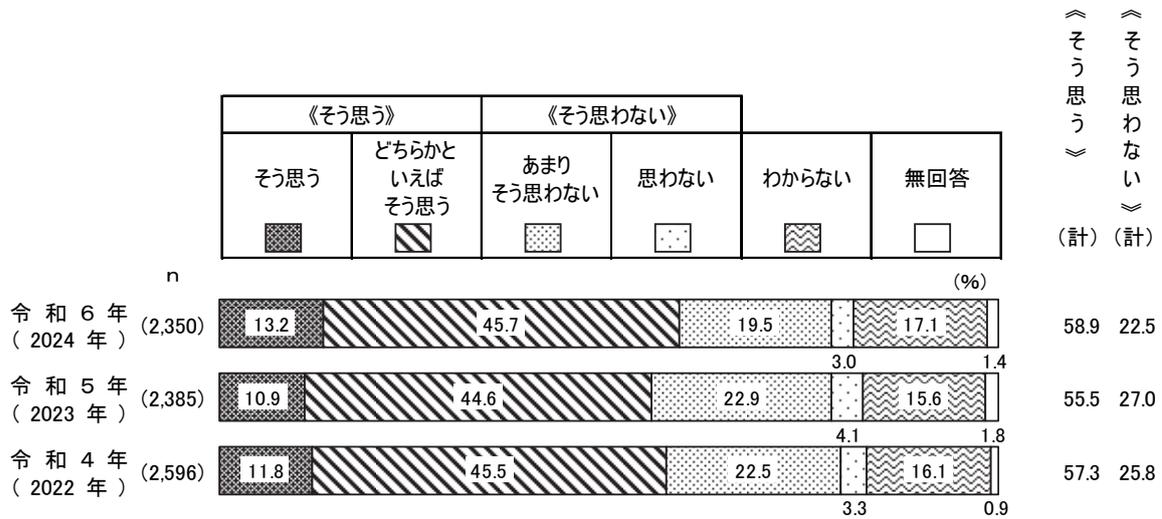
3. 「八王子未来デザイン2040」の施策指標等に関する調査

(1) 都市の美観が保持されたまち

◇《《そう思う》》が6割近く

問 12 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(○は1つだけ)

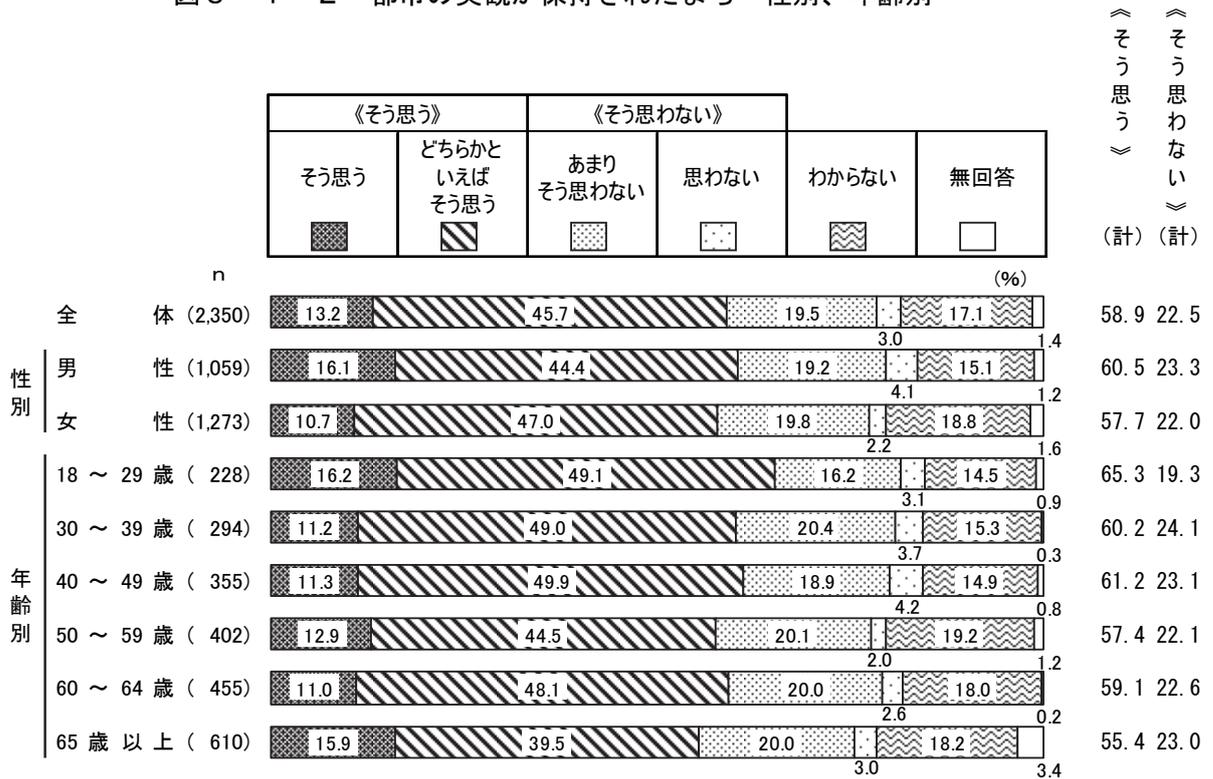
図 3-1-1 都市の美観が保持されたまち—全体、経年比較



都市の美観が保持されているまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(13.2%)と「どちらかといえばそう思う」(45.7%)を合わせた《《そう思う》》(58.9%)は6割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(19.5%)と「思わない」(3.0%)を合わせた《《そう思わない》》(22.5%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和5年(2023年)(55.5%)より3.4ポイント増加している。(図3-1-1)

図3-1-2 都市の美観が保持されたまち—性別、年齢別

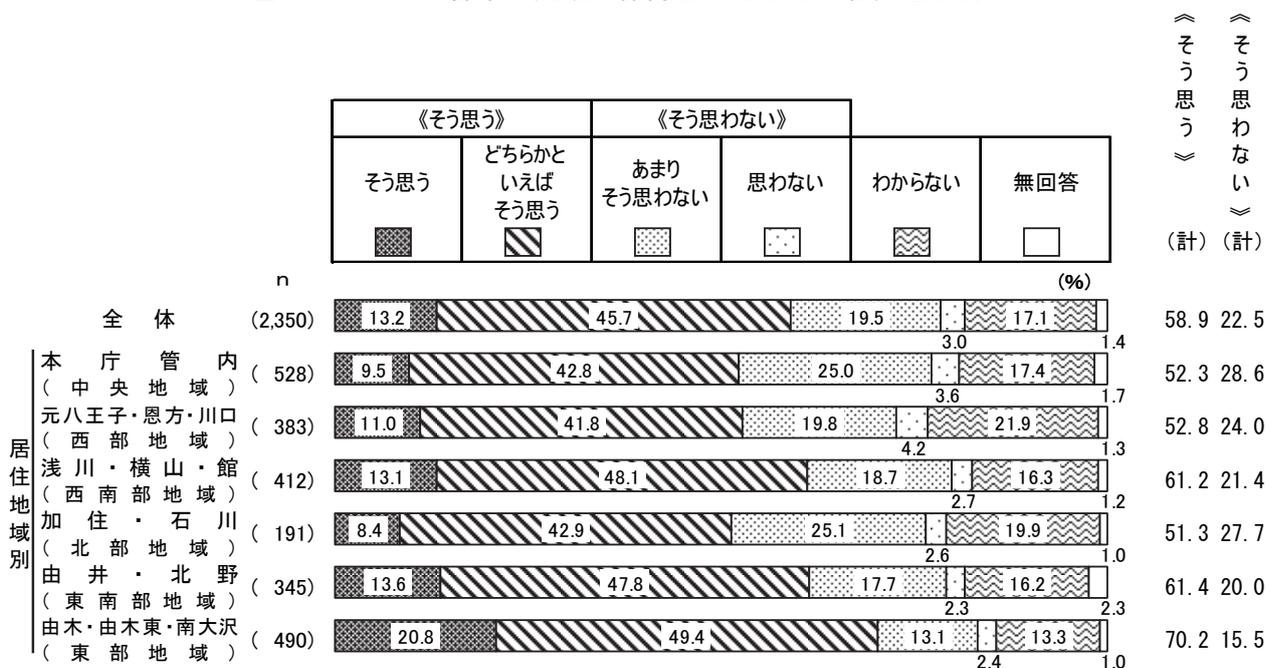


性別にみると、《そう思う》は男性（60.5%）が女性（57.7%）より2.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（65.3%）で6割台半ばと多くなっている。

(図3-1-2)

図3-1-3 都市の美観が保持されたまち—居住地域別



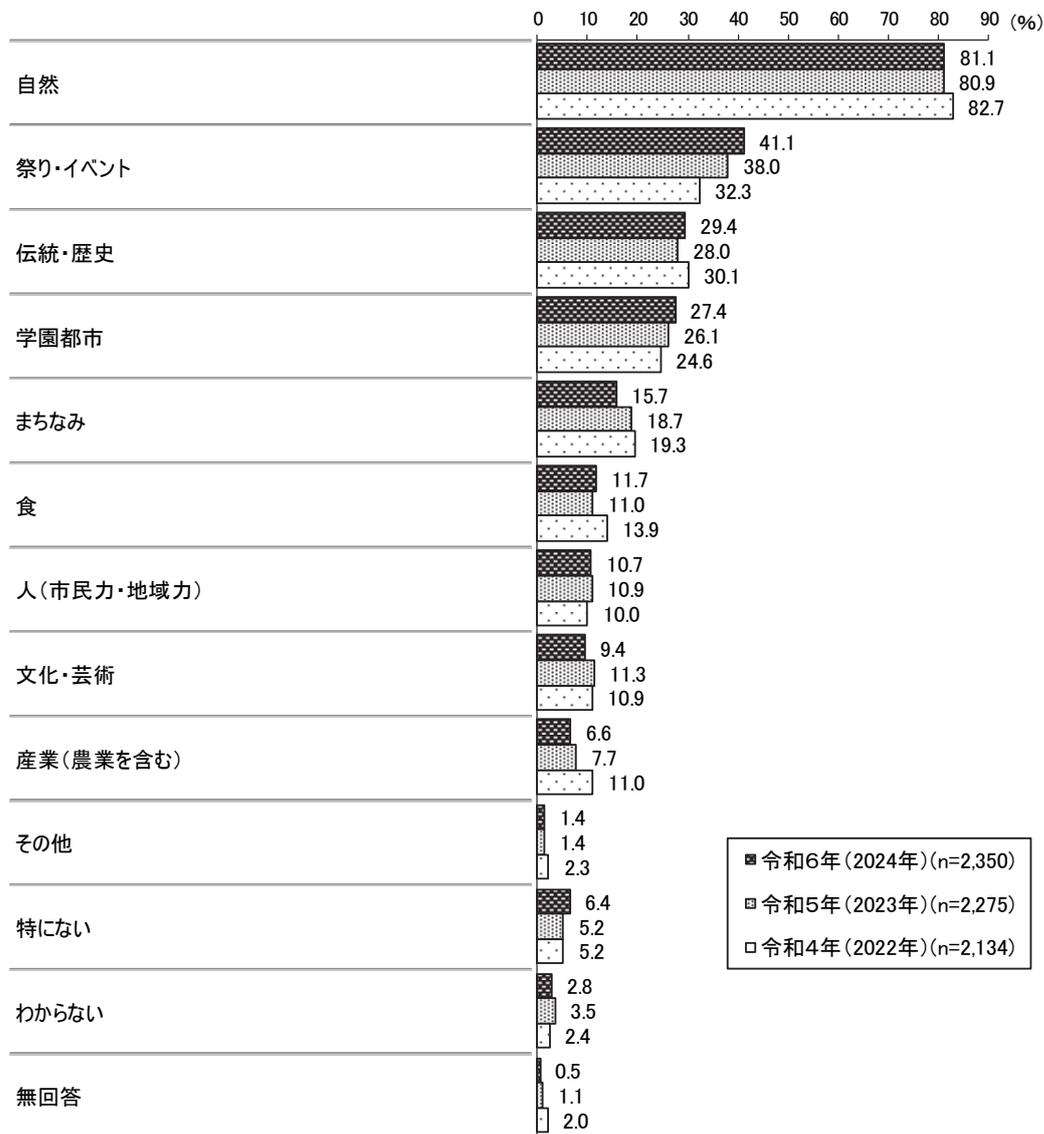
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（70.2%）で約7割と多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（28.6%）、加住・石川（北部地域）（27.7%）で3割近くと多くなっている。（図3-1-3）

(2) 八王子の魅力

◇「自然」が8割強

問13 あなたが思う、八王子の魅力を以下から選択してください。(〇はいくつでも)

図3-2-1 八王子の魅力ー全体、経年比較

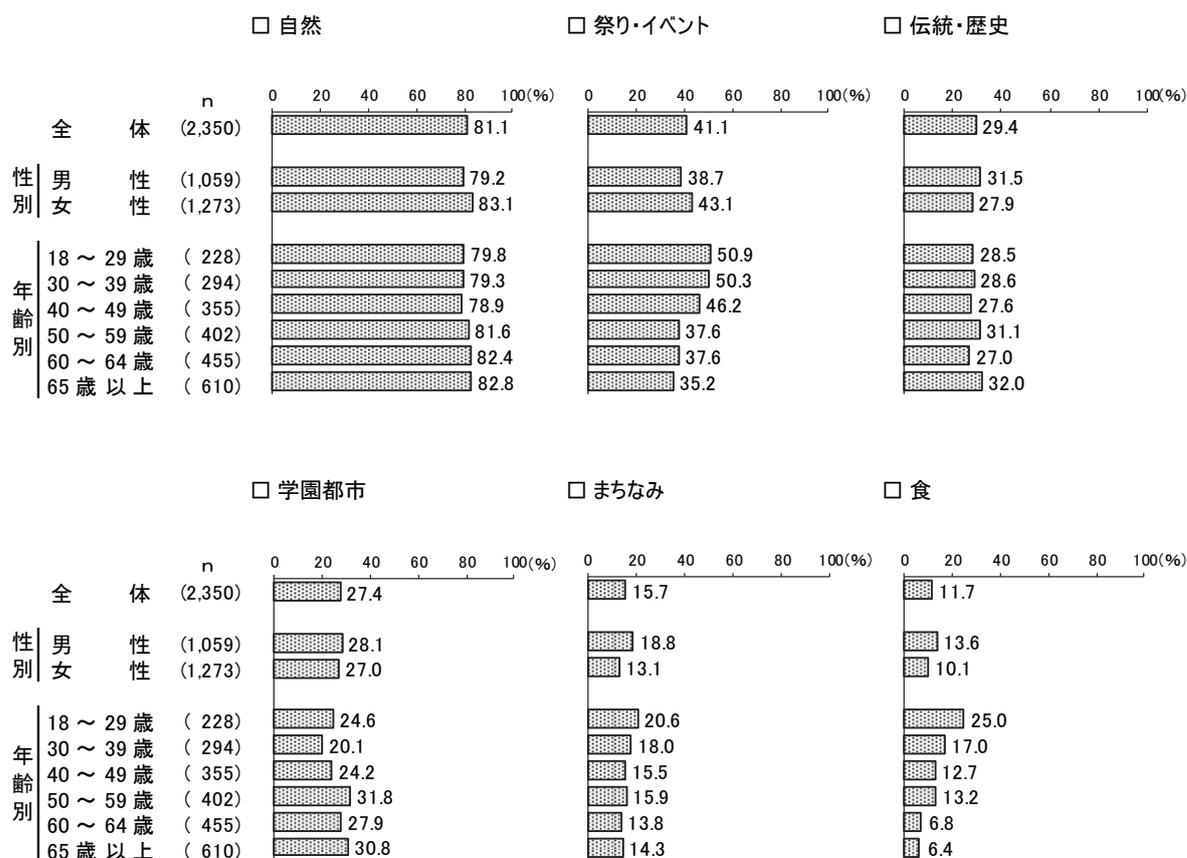


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

八王子の魅力聞いたところ、「自然」(81.1%)が8割強で最も多くなっている。次いで「祭り・イベント」(41.1%)、「伝統・歴史」(29.4%)、「学園都市」(27.4%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「祭り・イベント」は令和5年(2023年)(38.0%)より3.1ポイント増加している。一方、「まちなみ」は令和5年(2023年)(18.7%)より3.0ポイント減少している。(図3-2-1)

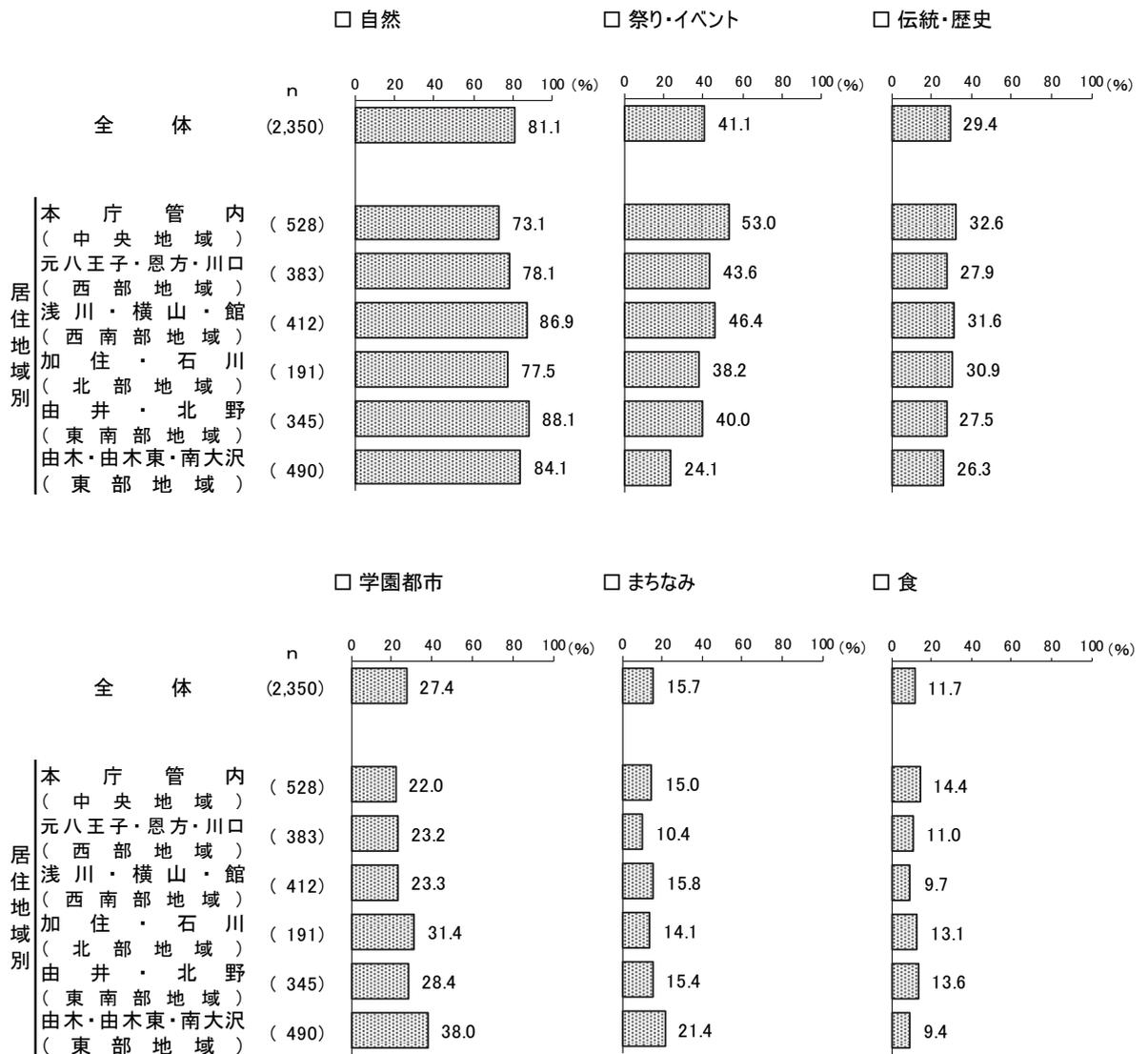
図3-2-2 八王子の魅力ー性別、年齢別（上位6項目）



性別にみると、「まちなみ」は男性（18.8%）が女性（13.1%）より 5.7 ポイント高くなっている。一方、「祭り・イベント」は女性（43.1%）が男性（38.7%）より 4.4 ポイント、「自然」は女性（83.1%）が男性（79.2%）より 3.9 ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「自然」は 65 歳以上（82.8%）、60～64 歳（82.4%）、50～59 歳（81.6%）で 8 割強と多くなっている。「祭り・イベント」は 18～29 歳（50.9%）、30～39 歳（50.3%）で約 5 割と多くなっている。「伝統・歴史」は 65 歳以上（32.0%）、50～59 歳（31.1%）で 3 割強と多くなっている。（図 3-2-2）

図3-2-3 八王子の魅力—居住地域別（上位6項目）



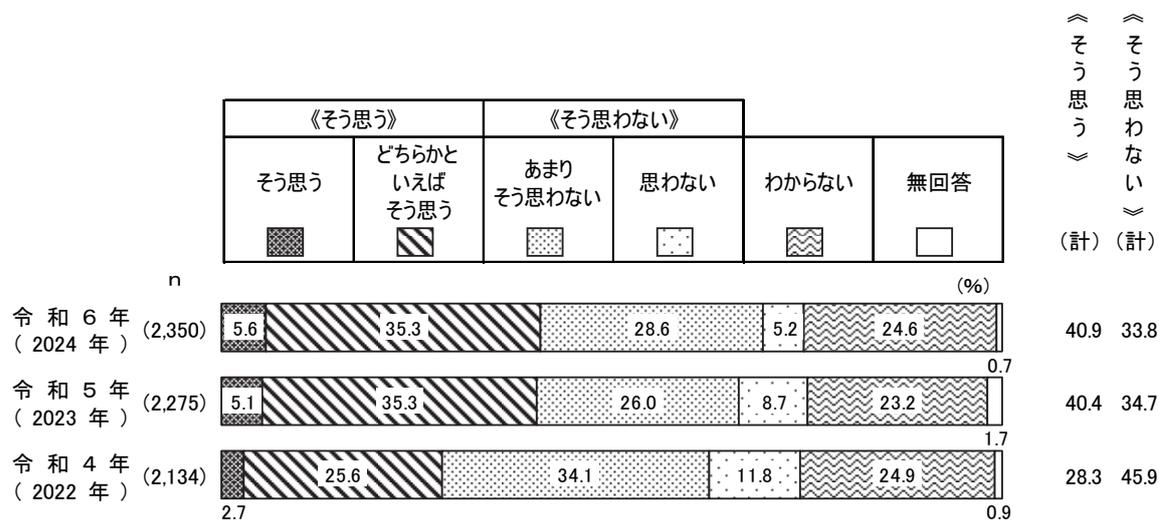
居住地域別にみると、「自然」は由井・北野（東南部地域）（88.1%）、浅川・横山・館（西南部地域）（86.9%）で9割近くと多くなっている。「祭り・イベント」は本庁管内（中央地域）（53.0%）で5割強と多くなっている。「学園都市」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（38.0%）で4割近くと多くなっている。（図3-2-3）

(3) 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか

◇《《そう思う》》が約4割

問 14 あなたは、八王子市が地域で助け合いや交流があるなど、「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

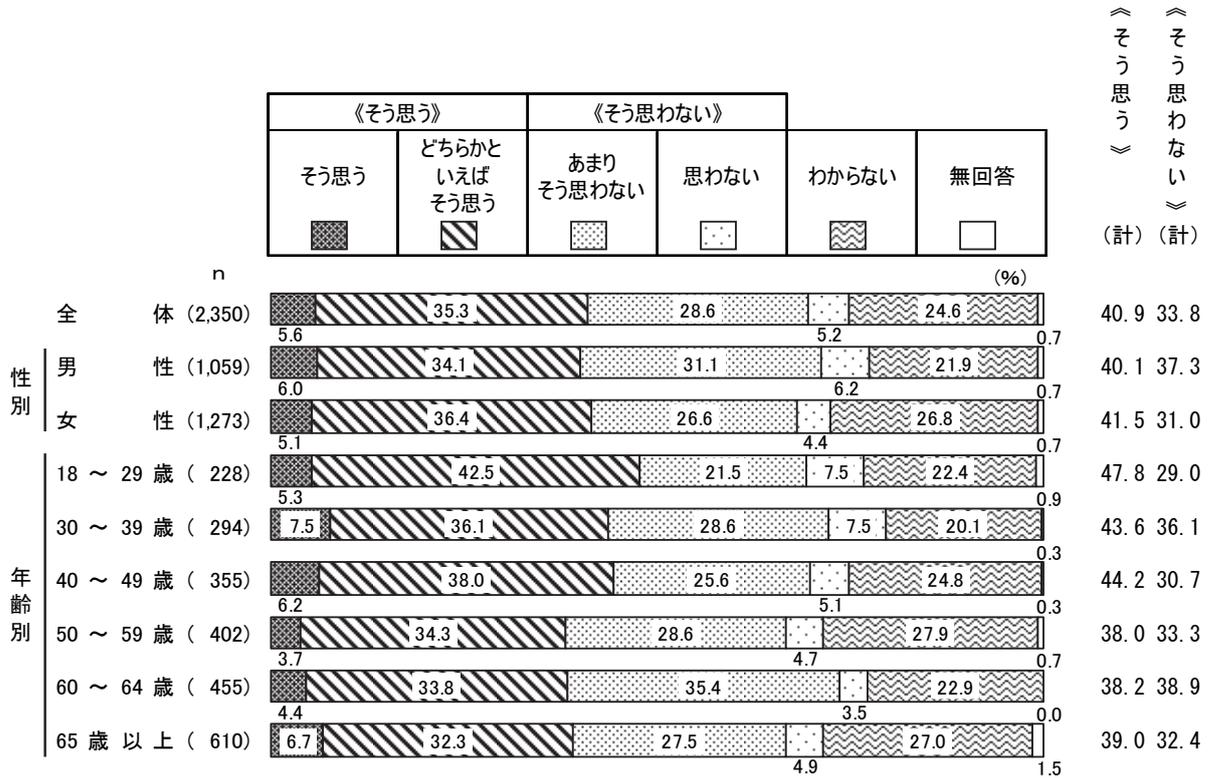
図3-3-1 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うかー全体、経年比較



「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.6%)と「どちらかといえばそう思う」(35.3%)を合わせた《《そう思う》》(40.9%)は約4割となっている。一方、「あまりそう思わない」(28.6%)と「思わない」(5.2%)を合わせた《《そう思わない》》(33.8%)は3割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「思わない」は令和5年(2023年)(8.7%)より3.5ポイント減少している。(図3-3-1)

図 3-3-2 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか—性別、年齢別

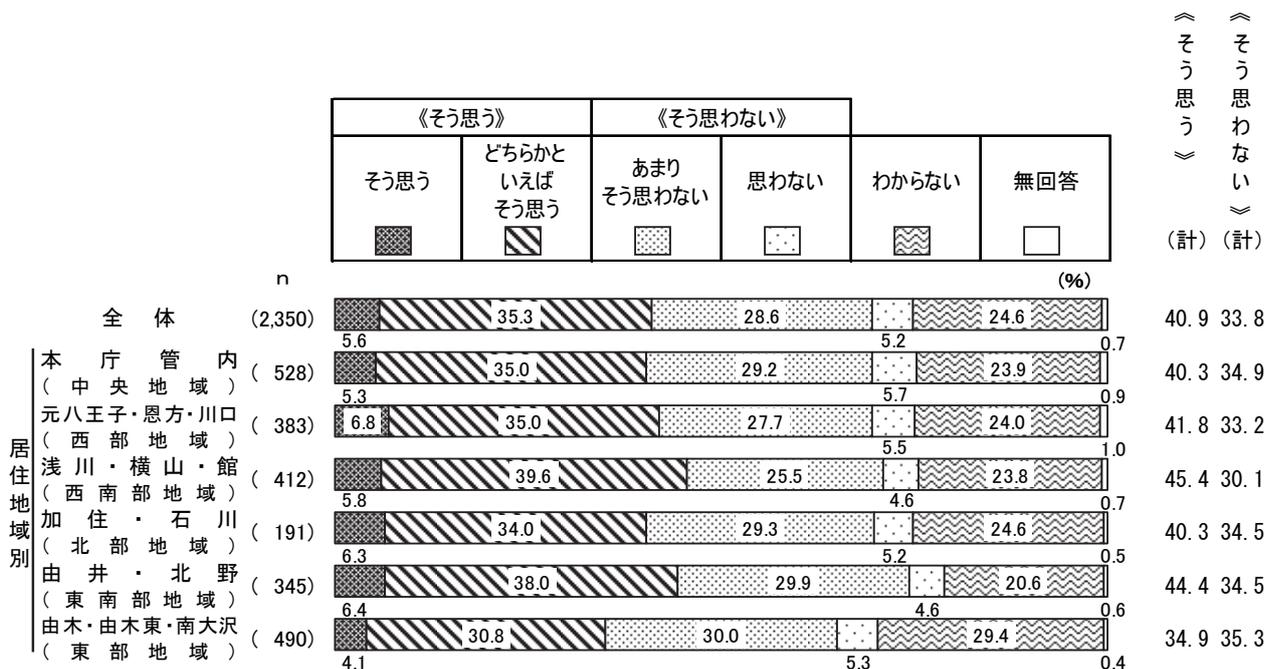


性別にみると、《そう思わない》は男性 (37.3%) が女性 (31.0%) より 6.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は 18～29 歳 (47.8%) で 5 割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は 60～64 歳 (38.9%)、30～39 歳 (36.1%) で 4 割近くと多くなっている。

(図 3-3-2)

図 3-3-3 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか—居住地域別



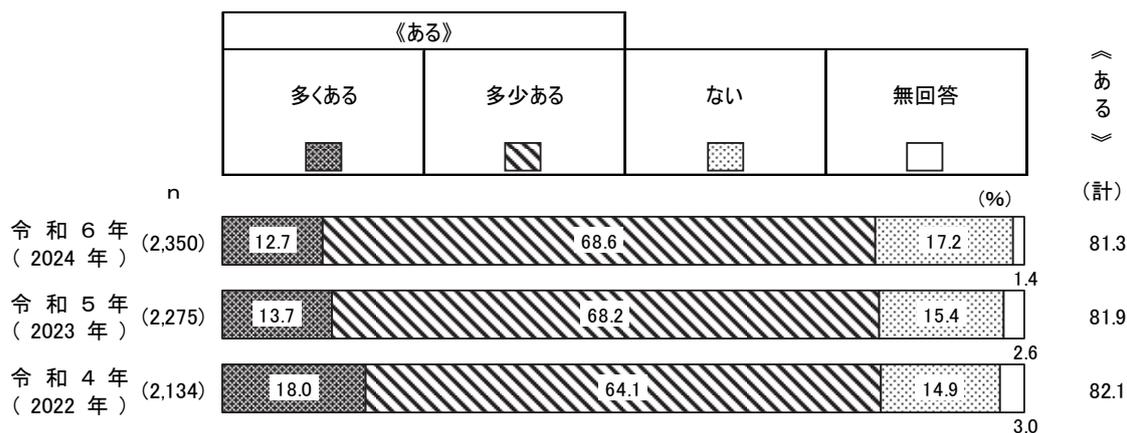
居住地域別にみると、《そう思う》は浅川・横山・館 (西南部地域) (45.4%)、由井・北野 (東南部地域) (44.4%) で 4 割台半ばと多くなっている。(図 3-3-3)

(4) 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無

◇《ある》が8割強

問 15 あなたは、八王子市に「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」がありますか。
(○は1つだけ)

図 3-4-1 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無—全体、経年比較



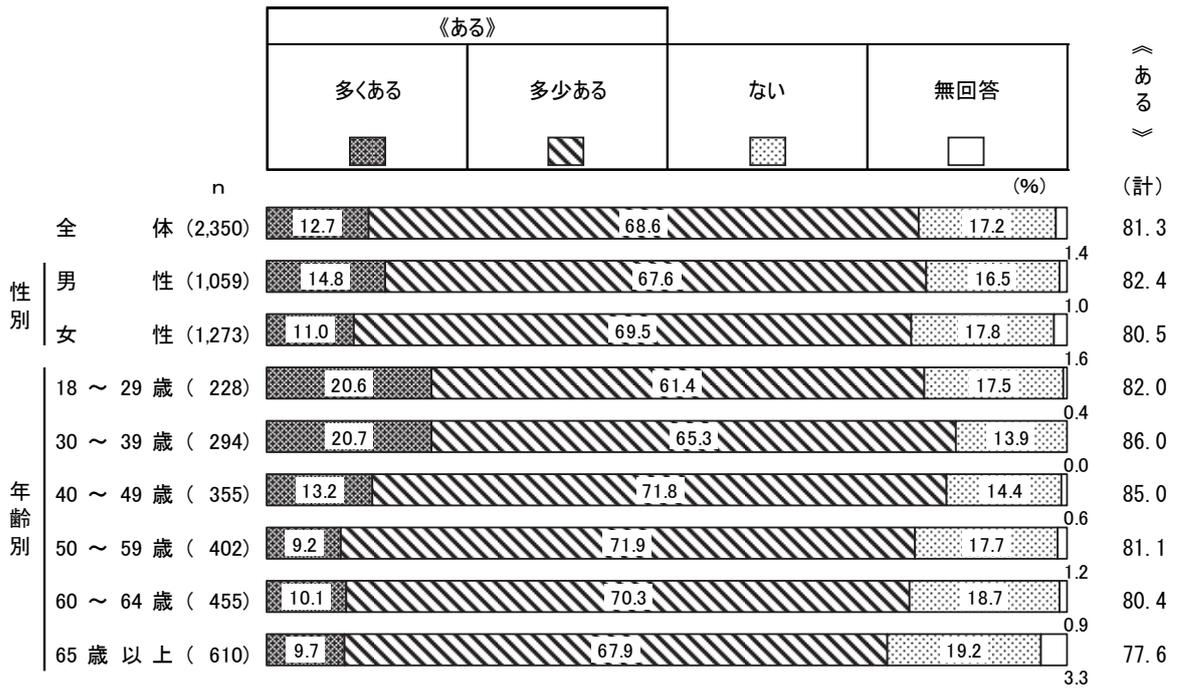
※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

八王子市に「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」があるか聞いたところ、「多くある」(12.7%)と「多少ある」(68.6%)を合わせた《ある》(81.3%)は8割強となっている。一方、「ない」(17.2%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図 3-4-1)

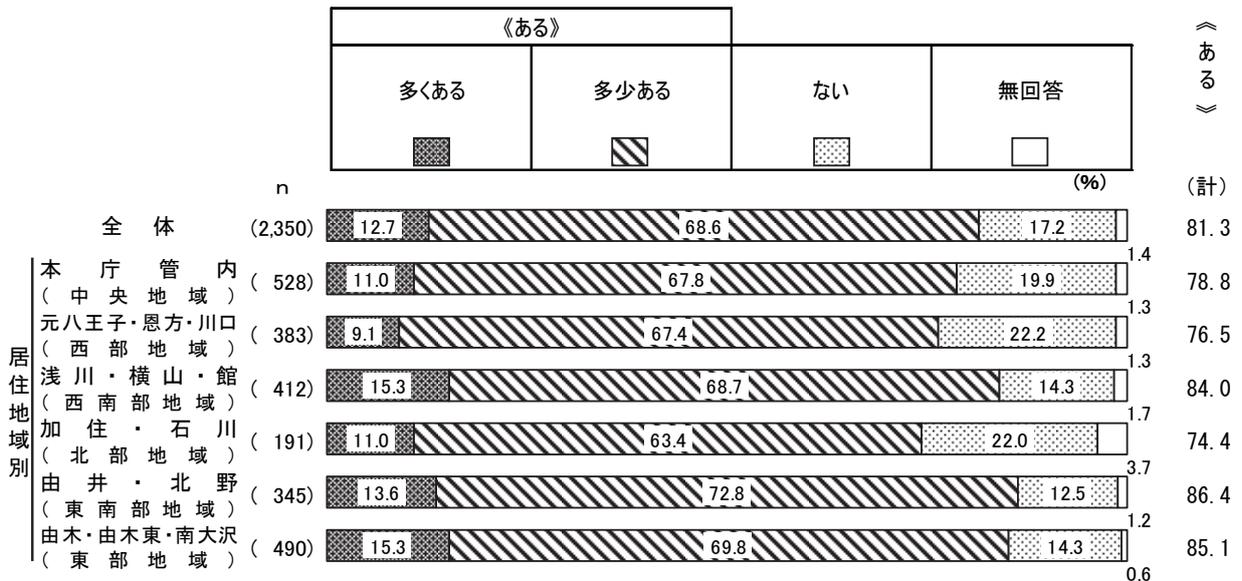
図 3-4-2 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無—性別、年齢別



性別にみると、「多くある」は男性（14.8%）が女性（11.0%）より 3.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《ある》は 30~39 歳（86.0%）で 9 割近くと多くなっている。（図 3-4-2）

図 3-4-3 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無—居住地域別



居住地域別にみると、《ある》は由井・北野（東南部地域）（86.4%）で 9 割近くと多くなっている。（図 3-4-3）

(5) 「歩きたくなるまち」になっていると思うか

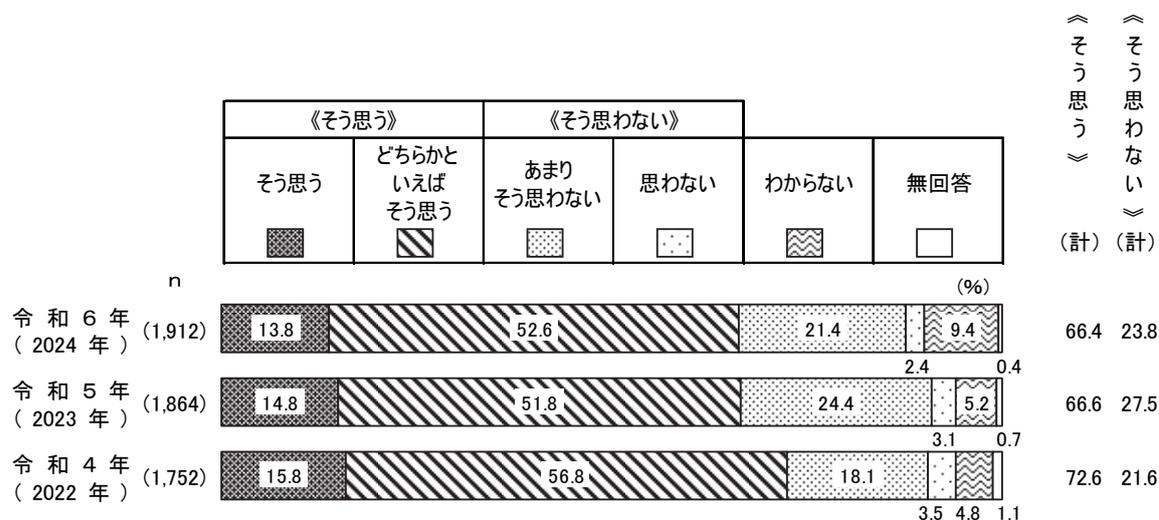
◇《《そう思う》》が7割近く

(問15で「多くある」または「多少ある」とお答えの方へ)

問15-1 あなたは、八王子市が「歩きたくなるまち」になっていると思いますか。

(○は1つだけ)

図3-5-1 「歩きたくなるまち」になっていると思うかー全体、経年比較

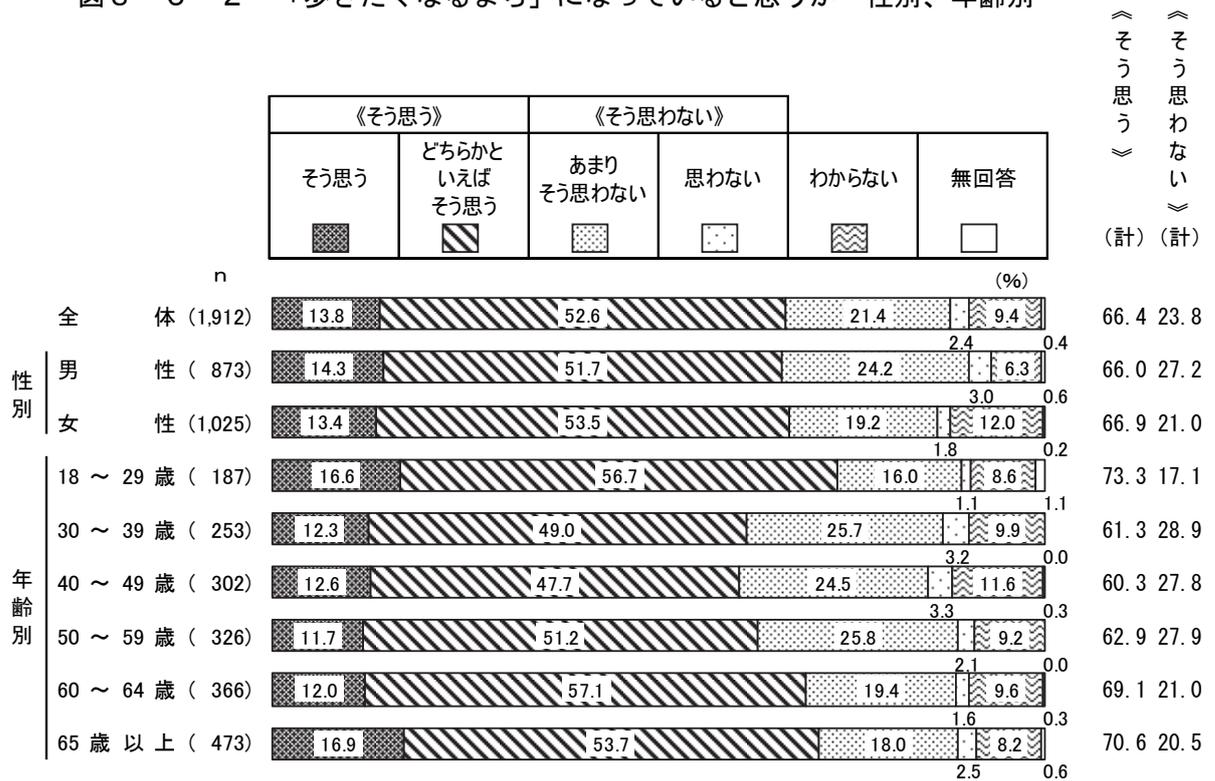


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年) 結果と比較

「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無について《ある》と回答した1,912人に、「歩きたくなるまち」になっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(13.8%)と「どちらかといえばそう思う」(52.6%)を合わせた《そう思う》(66.4%)は7割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(21.4%)と「思わない」(2.4%)を合わせた《そう思わない》(23.8%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《そう思わない》は令和5年(2023年)(27.5%)より3.7ポイント減少している。(図3-5-1)

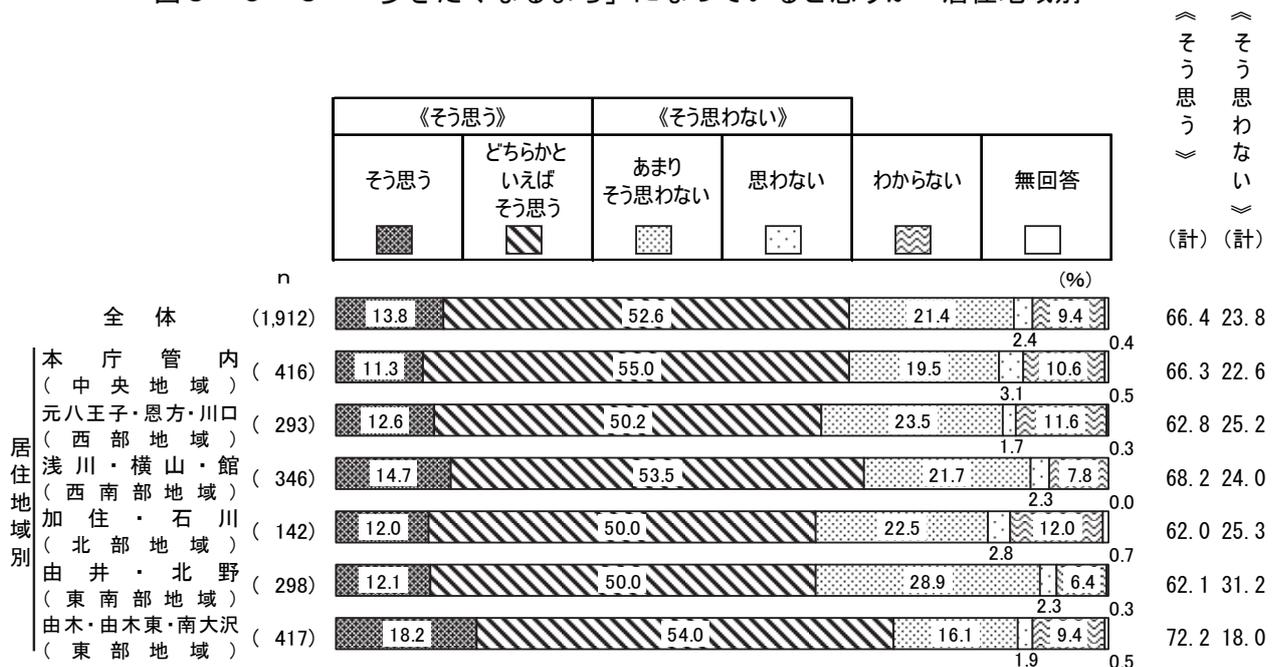
図3-5-2 「歩きたくなるまち」になっていると思うかー性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（27.2%）が女性（21.0%）より6.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（73.3%）で7割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は30～39歳（28.9%）、50～59歳（27.9%）、40～49歳（27.8%）で3割近くと多くなっている。（図3-5-2）

図3-5-3 「歩きたくなるまち」になっていると思うかー居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（72.2%）で7割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は由井・北野（東南部地域）（31.2%）で3割強と多くなっている。（図3-5-3）

(6) 若者の居場所になっているか

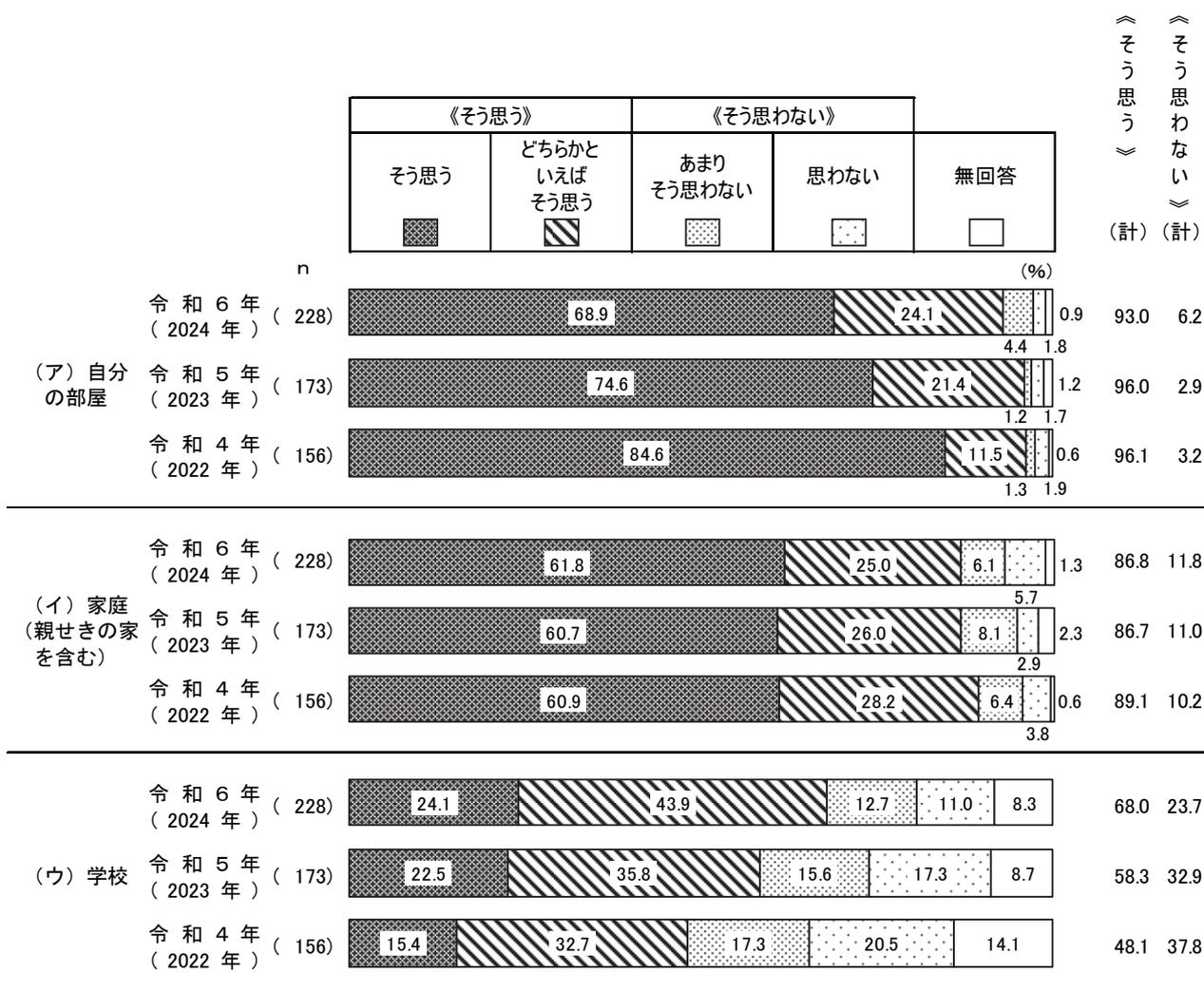
◇《《そう思う》》は(ア) 自分の部屋が9割強

(現在 18 歳から 29 歳の方へ)

問 16 次の(ア)～(カ)の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっていますか。

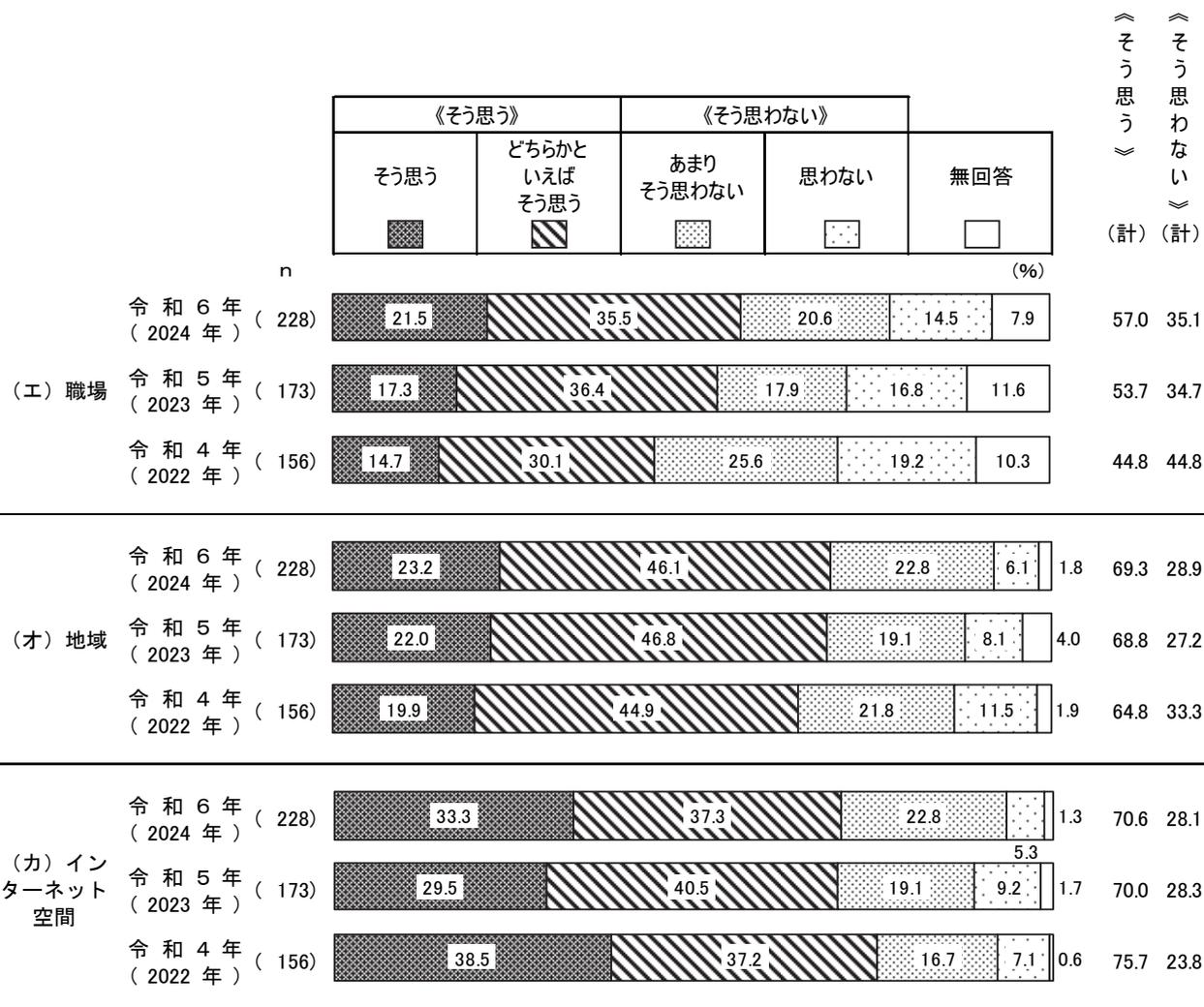
(ア)～(カ)の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つつ)

図 3-6-1 若者の居場所になっているかー全体、経年比較(ア)～(ウ)



※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和 4 年及び 5 年) 結果と比較
 ※年齢において、「18～19 歳」、「20～24 歳」及び「25～29 歳」と回答した方を母数とした。

図3-6-2 若者の居場所になっているかー全体、経年比較（エ）～（カ）



※「八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査」（令和4年及び5年）結果と比較
 ※年齢において、「18～19歳」、「20～24歳」及び「25～29歳」と回答した方を母数とした。

18歳から29歳の方を対象に、どの場所が今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）となっているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》は（ア）自分の部屋（93.0%）が9割強で最も多くなっている。次いで（イ）家庭（親せきの家を含む）（86.8%）、（カ）インターネット空間（70.6%）、（オ）地域（69.3%）、（ウ）学校（68.0%）、（エ）職場（57.0%）の順となっている。

前回までの調査と比較すると、《そう思う》は令和5年（2023年）より、（ウ）学校で9.7ポイント、（エ）職場で3.3ポイント、それぞれ増加している。一方、（ア）自分の部屋で3.0ポイント減少している。（図3-6-1／図3-6-2）

(7) 市民協働の進捗状況

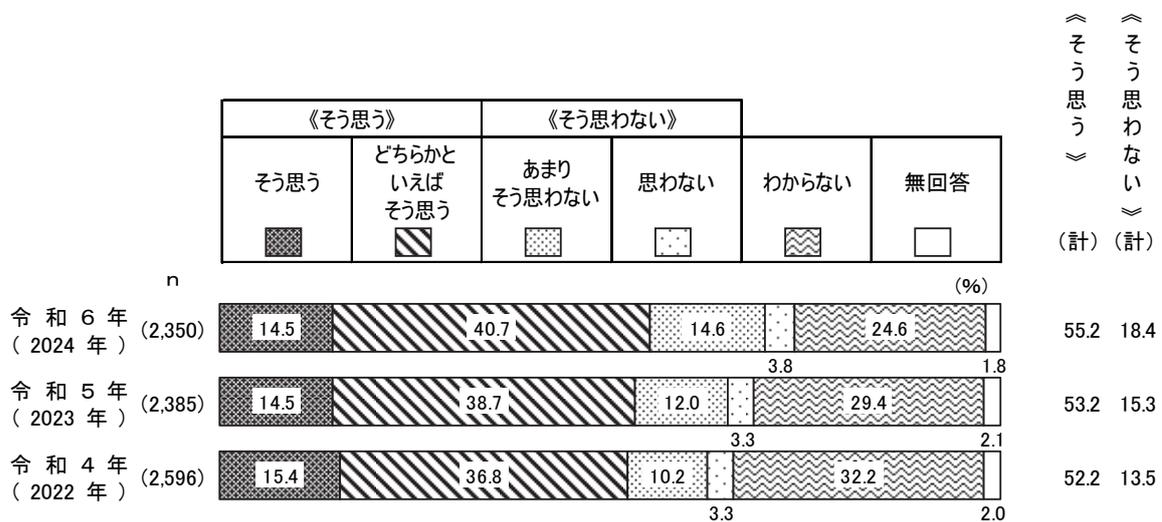
◇《《そう思う》》が5割台半ば

問 17 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。(〇は1つだけ)

※市民協働によるまちづくりとは・・・

- 八王子まつり、いちよう祭り、環境フェスティバルなどを市民と市が協力して開催
- 町会・自治会等が主体となって行う防犯・防災活動や環境美化活動
- 公園や道路の維持活動（清掃や除草などのボランティア活動）を地域の住民の方が担うアドプト制度
- 各種審議会や市の計画策定などに参加していただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント（意見募集）の実施 など

図 3-7-1 市民協働の進捗状況—全体、経年比較

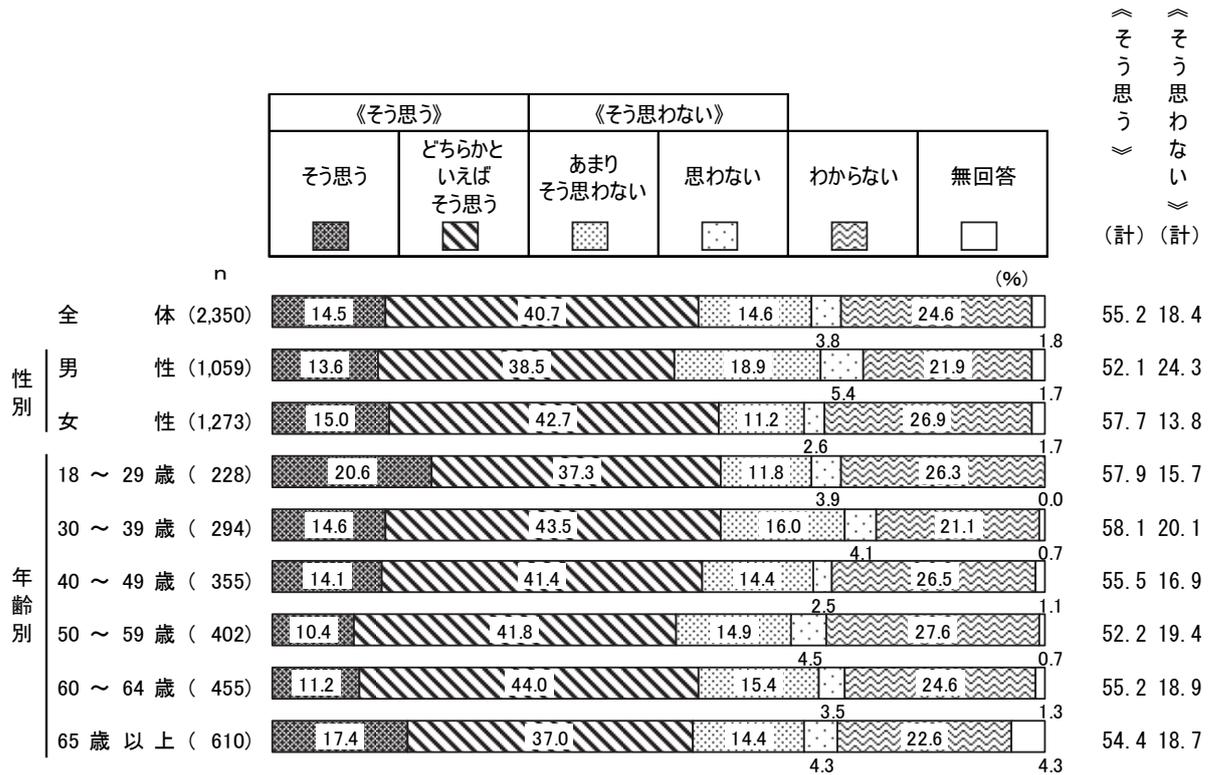


市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「そう思う」(14.5%)と「どちらかといえばそう思う」(40.7%)を合わせた《《そう思う》》(55.2%)は5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(14.6%)と「思わない」(3.8%)を合わせた《《そう思わない》》(18.4%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思わない》》は令和5年(2023年)(15.3%)より3.1ポイント、《《そう思う》》は令和5年(2023年)(53.2%)より2.0ポイント、それぞれ増加している。

(図 3-7-1)

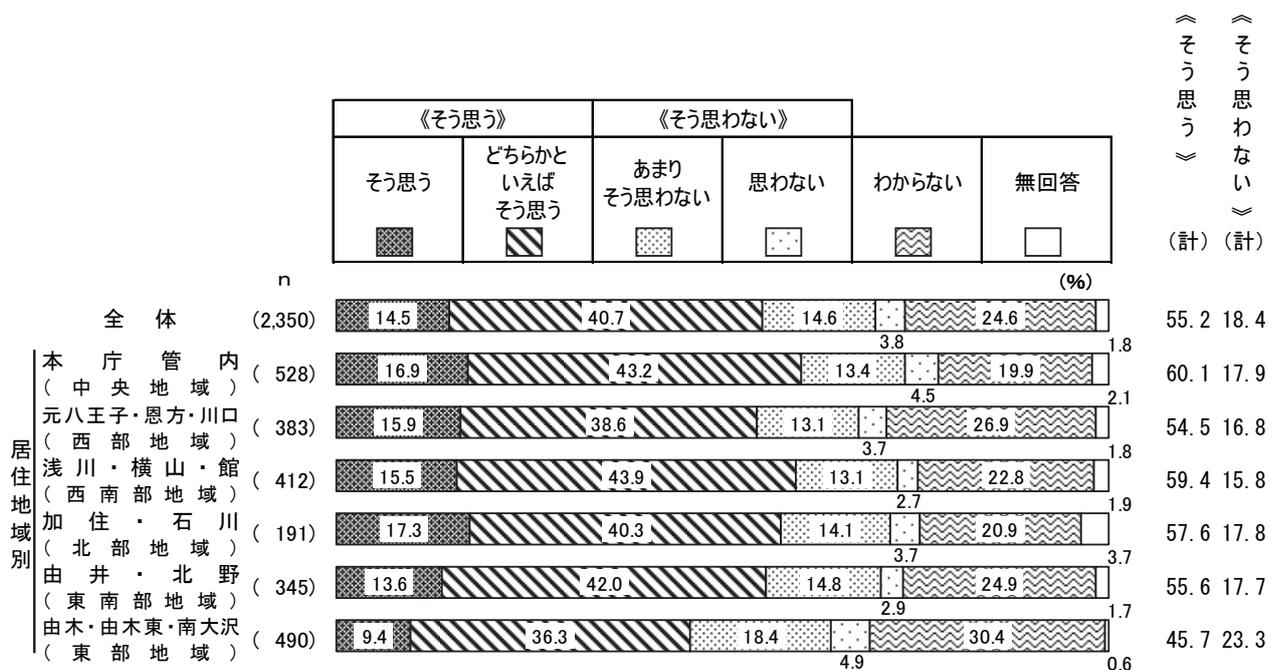
図 3-7-2 市民協働の進捗状況—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（24.3%）が女性（13.8%）より 10.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は 30～39 歳（58.1%）、18～29 歳（57.9%）で 6 割近くと多くなっている。（図 3-7-2）

図 3-7-3 市民協働の進捗状況—居住地域別



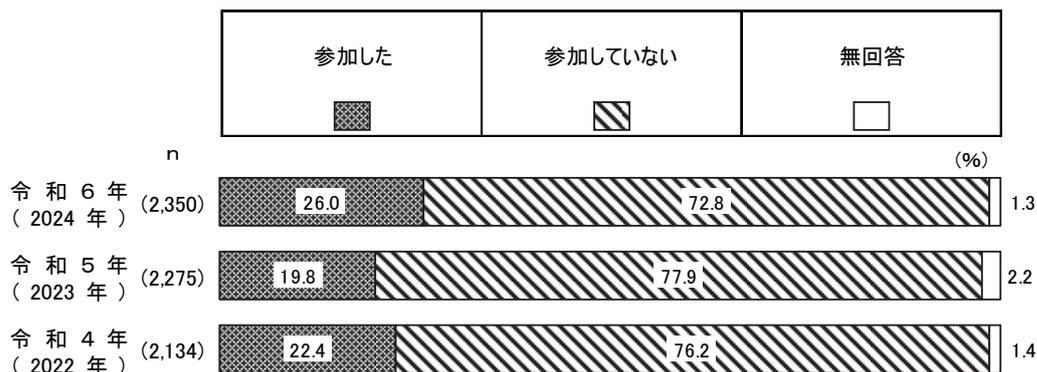
居住地域別にみると、《そう思う》は本庁管内（中央地域）（60.1%）で約 6 割と多くなっている。（図 3-7-3）

(8) 地域コミュニティ活動への参加状況

◇「参加した」が3割近く

問 18 あなたは、この1年間に、地域コミュニティの活動に参加しましたか。(○は1つだけ)

図3-8-1 地域コミュニティ活動への参加状況—全体、経年比較

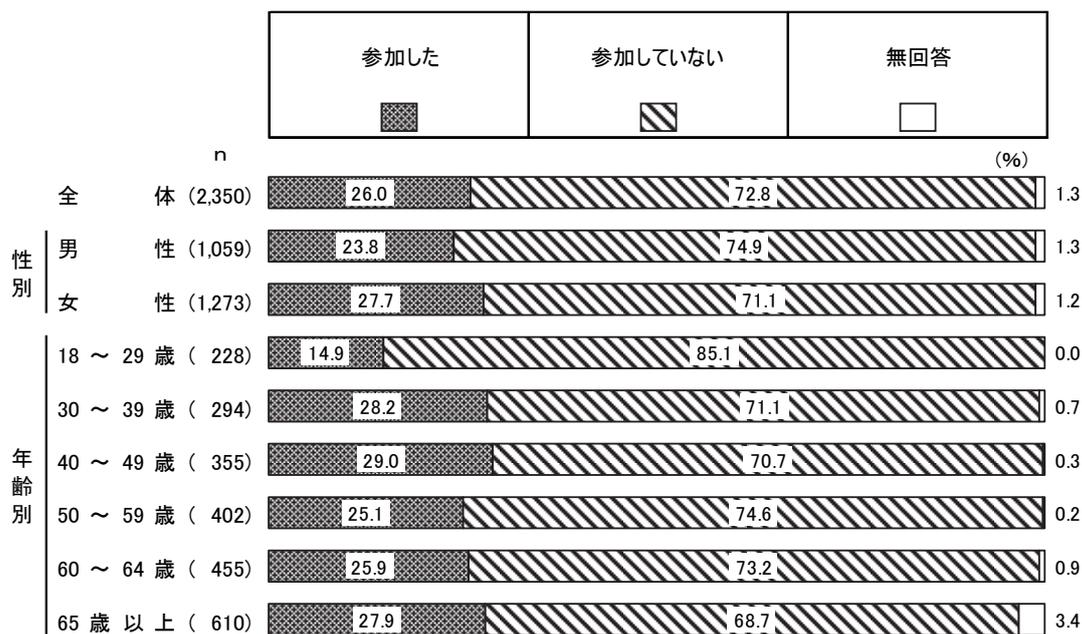


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年) 結果と比較

この1年間に地域コミュニティの活動に参加したか聞いたところ、「参加した」(26.0%)は3割近くとなっている。一方、「参加していない」(72.8%)は7割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「参加した」は令和5年(2023年)(19.8%)より6.2ポイント増加している。(図3-8-1)

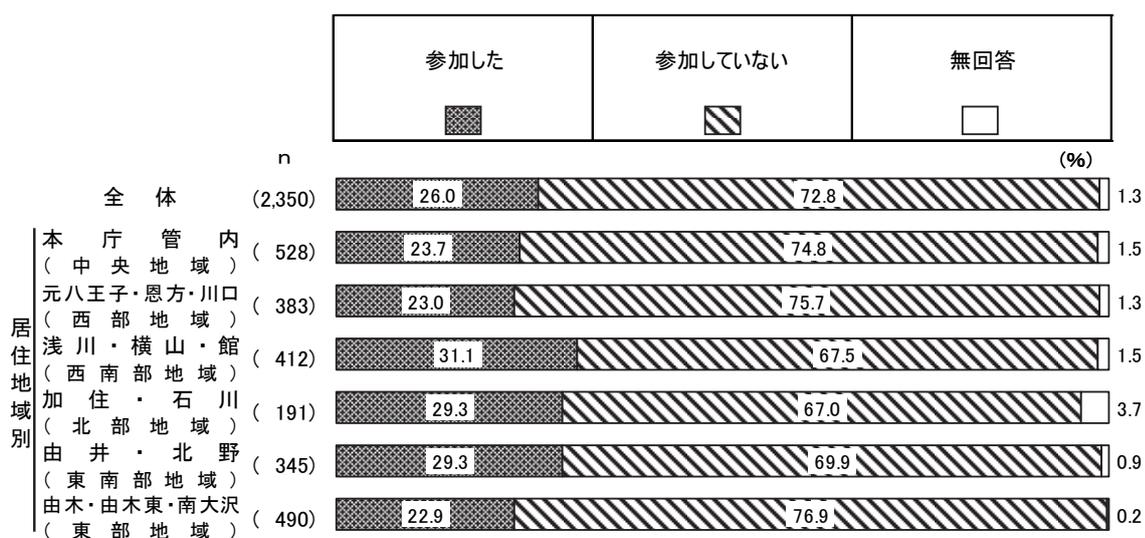
図3-8-2 地域コミュニティ活動への参加状況—性別、年齢別



性別にみると、「参加した」は女性（27.7%）が男性（23.8%）より 3.9 ポイント高くなっている。

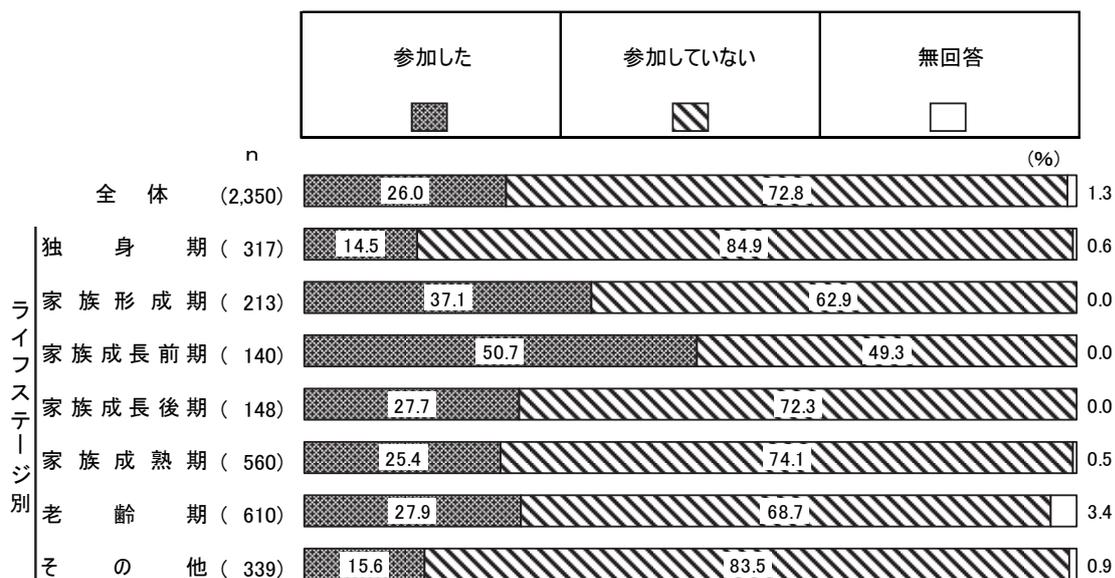
年齢別にみると、「参加した」は 40～49 歳（29.0%）で 3 割弱と多くなっている。一方、「参加していない」は 18～29 歳（85.1%）で 8 割台半ばと多くなっている。（図 3-8-2）

図3-8-3 地域コミュニティ活動への参加状況—居住地域別



居住地域別にみると、「参加した」は浅川・横山・館（西南部地域）（31.1%）で 3 割強と多くなっている。一方、「参加していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（76.9%）で 8 割近くと多くなっている。（図 3-8-3）

図 3-8-4 地域コミュニティ活動への参加状況－ライフステージ別



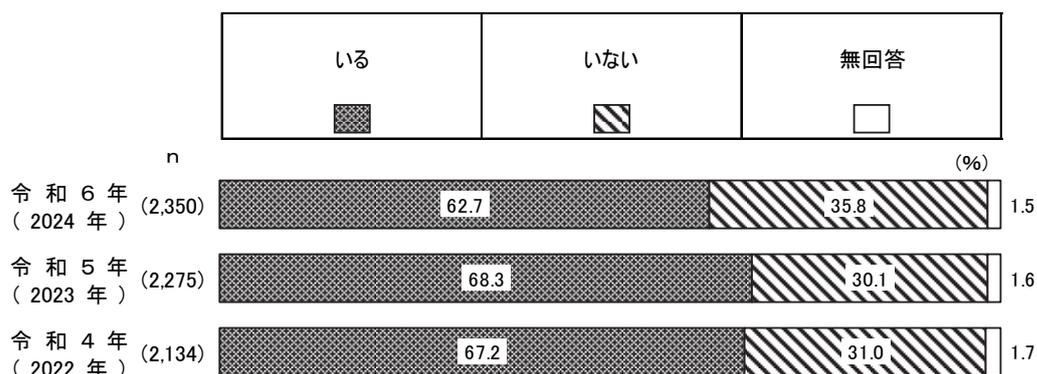
ライフステージ別にみると、「参加した」は家族成長前期（50.7%）で約5割と多くなっている。一方、「参加していない」は独身期（84.9%）で8割台半ばと多くなっている。（図3-8-4）

(9) 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無

◇「いる」が6割強

問 19 あなたは、身近な場所に困りごとを相談したり、助け合ったりできる人がいますか。
(○は1つだけ)

図 3-9-1 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無—全体、経年比較

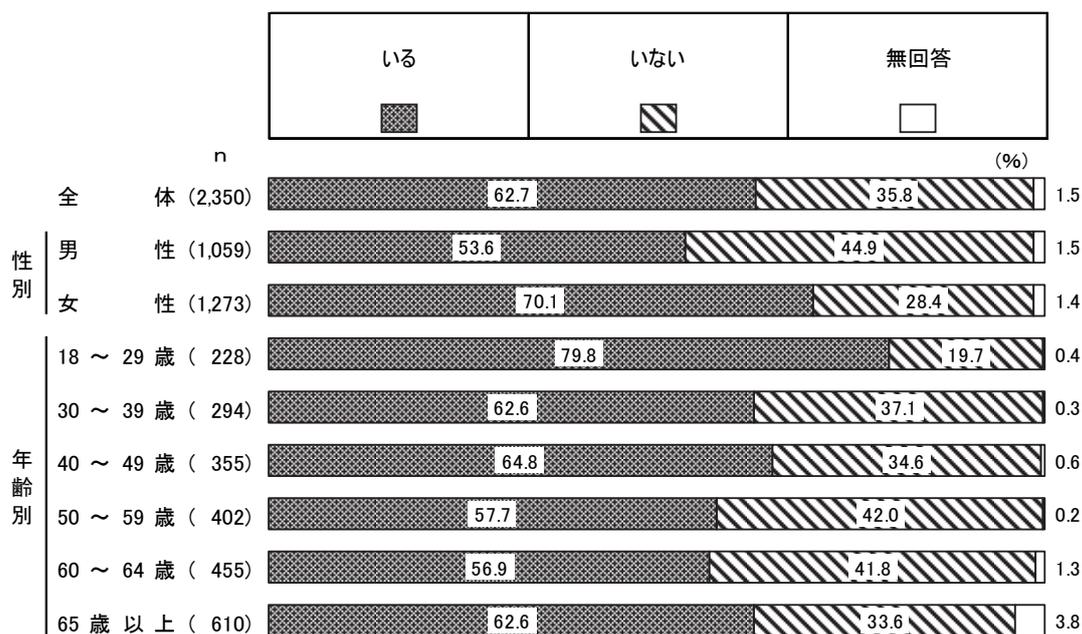


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和 4 年及び 5 年) 結果と比較

身近な場所に困りごとを相談したり、助け合ったりできる人がいるか聞いたところ、「いる」(62.7%)は6割強となっている。一方、「いない」(35.8%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「いない」は令和 5 年(2023 年)(30.1%)より 5.7 ポイント増加している。(図 3-9-1)

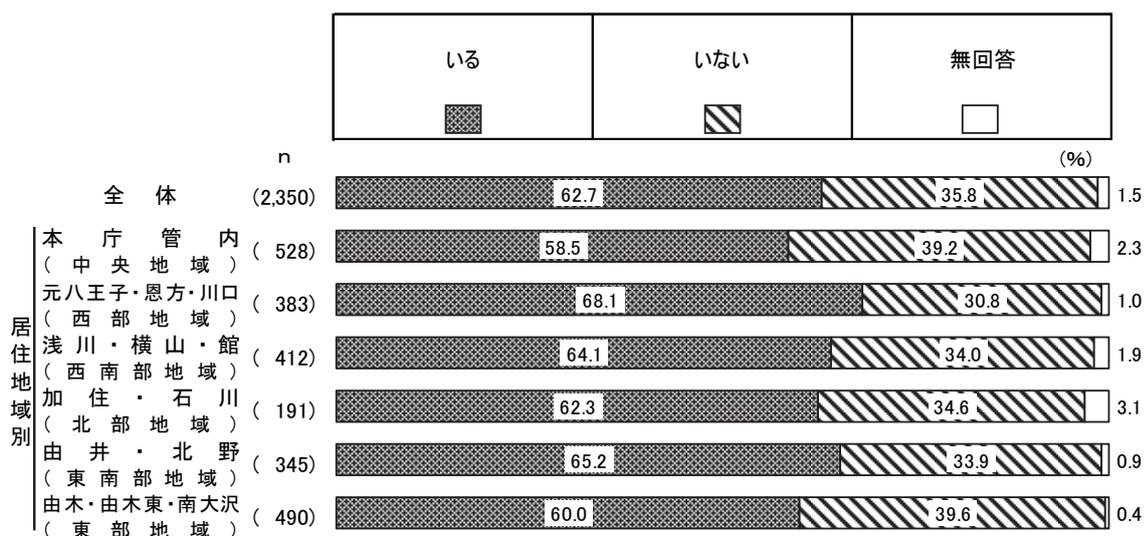
図3-9-2 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無—性別、年齢別



性別にみると、「いる」は女性（70.1%）が男性（53.6%）より16.5ポイント高くなっている。

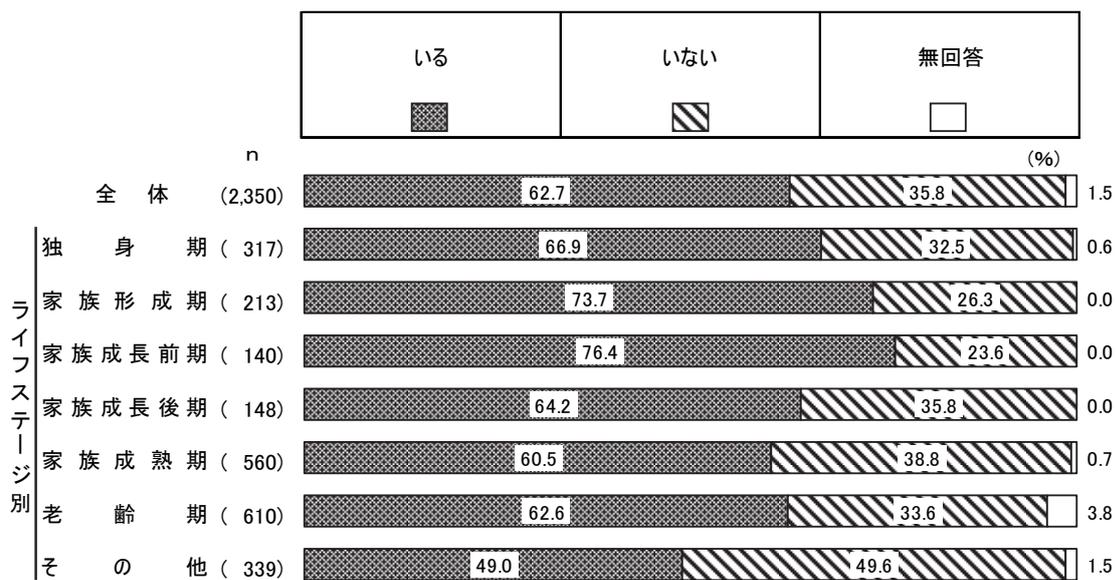
年齢別にみると、「いる」は18～29歳（79.8%）で8割弱と多くなっている。一方、「いない」は50～59歳（42.0%）、60～64歳（41.8%）で4割強と多くなっている。（図3-9-2）

図3-9-3 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無—居住地域別



居住地域別にみると、「いる」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（68.1%）で7割近くと多くなっている。一方、「いない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（39.6%）、本庁管内（中央地域）（39.2%）で4割弱と多くなっている。（図3-9-3）

図3-9-4 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無—ライフステージ別



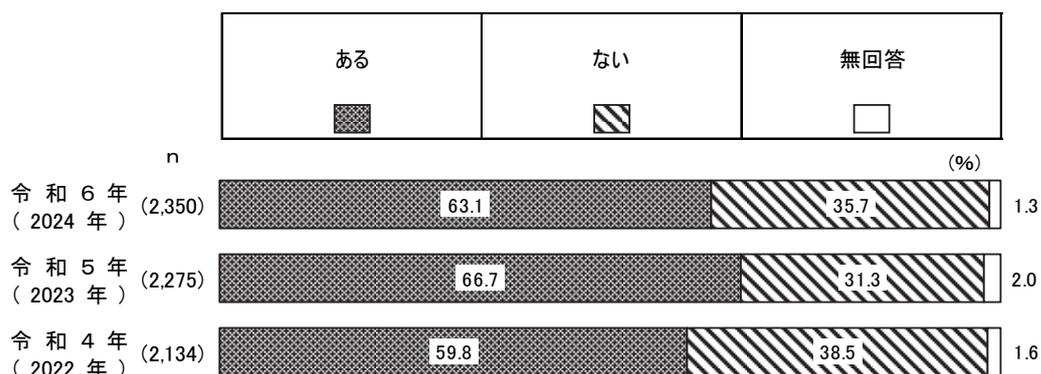
ライフステージ別にみると、「いる」は家族成長前期（76.4%）で8割近くと多くなっている。一方、「いない」はその他（49.6%）で5割弱と多くなっている。（図3-9-4）

(10) 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無

◇「ある」が6割強

問 20 あなたにとって、身近な地域に気軽に立ち寄れる場所（公共施設（集会所や図書館など）、飲食店やカフェなどの民間施設、公園、サロンなど）はありますか。（○は1つだけ）

図 3-10-1 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無－全体、経年比較

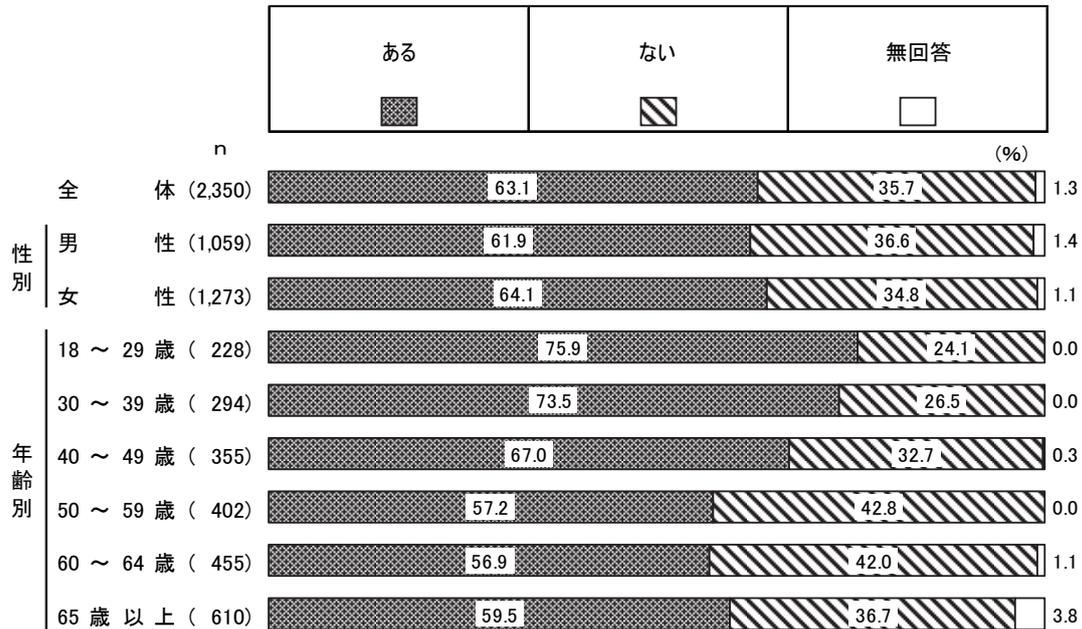


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」（令和 4 年及び 5 年）結果と比較

身近な地域に気軽に立ち寄れる場所（公共施設（集会所や図書館など）、飲食店やカフェなどの民間施設、公園、サロンなど）はあるか聞いたところ、「ある」（63.1%）は6割強となっている。一方、「ない」（35.7%）は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「ない」は令和 5 年（2023 年）（31.3%）より 4.4 ポイント増加している。（図 3-10-1）

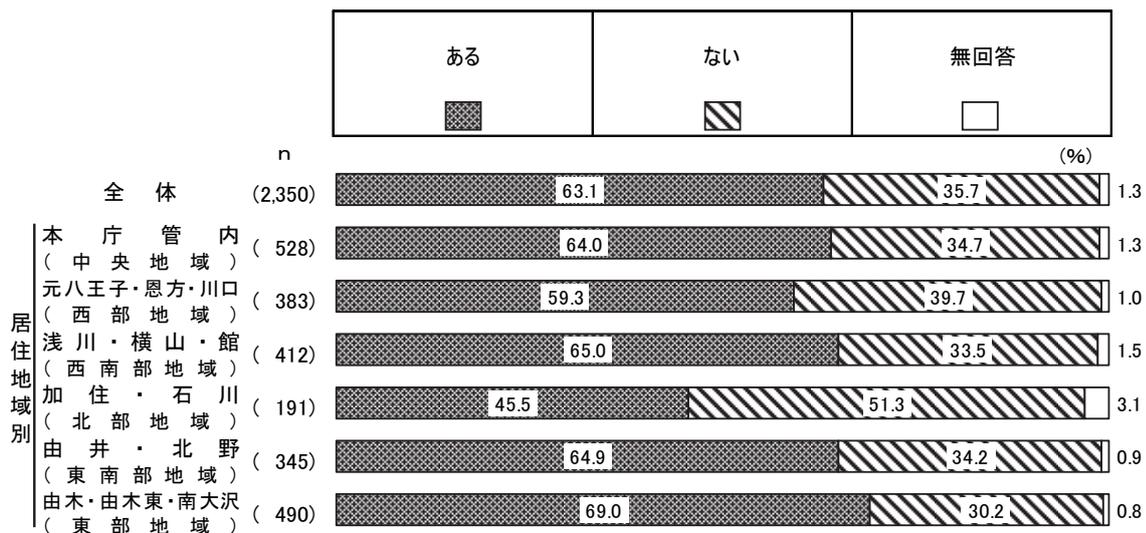
図 3-10-2 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無—性別、年齢別



性別にみると、「ある」は女性（64.1%）が男性（61.9%）より 2.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は 18~29 歳（75.9%）で 7 割台半ばと多くなっている。一方、「ない」は 50~59 歳（42.8%）、60~64 歳（42.0%）で 4 割強と多くなっている。（図 3-10-2）

図 3-10-3 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無—居住地域別



居住地域別にみると、「ある」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（69.0%）で 7 割弱と多くなっている。一方、「ない」は加住・石川（北部地域）（51.3%）で 5 割強と多くなっている。

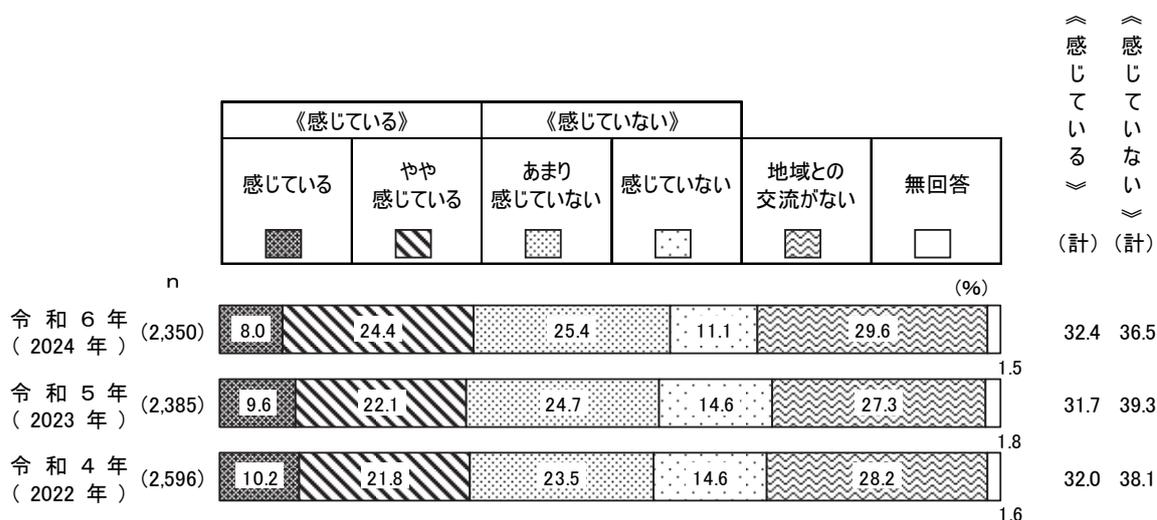
（図 3-10-3）

(11) 地域での交流や活動による充実感や生きがい

◇《《感じる》》が3割強

問 21 あなたは、地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで、充実感や生きがいを感じていますか。(〇は1つだけ)

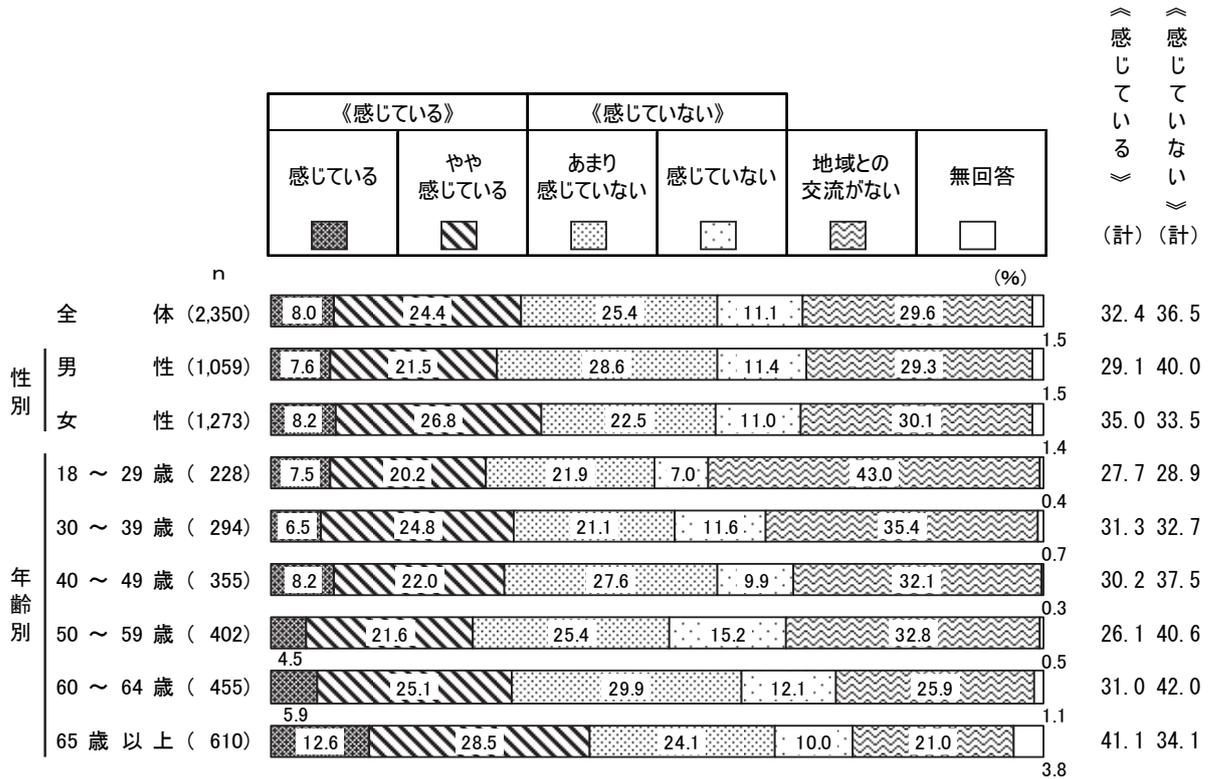
図 3-11-1 地域での交流や活動による充実感や生きがい—全体、経年比較



地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで充実感や生きがいを感じているか聞いたところ、「感じる」(8.0%)と「やや感じる」(24.4%)を合わせた《感じる》(32.4%)は3割強となっている。一方、「あまり感じていない」(25.4%)と「感じていない」(11.1%)を合わせた《感じていない》(36.5%)は4割近くとなっている。また、「地域との交流がない」(29.6%)は3割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、「地域との交流がない」は令和5年(2023年)(27.3%)より2.3ポイント増加している。一方、《感じていない》は令和5年(2023年)(39.3%)より2.8ポイント減少している。(図3-11-1)

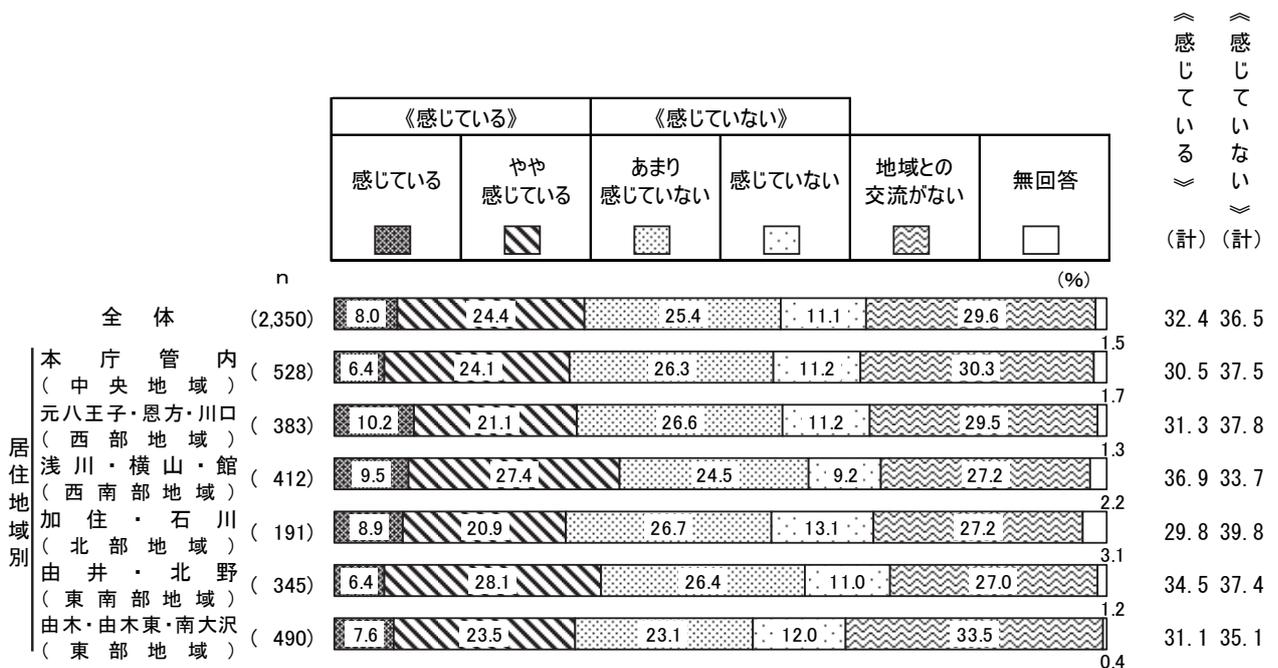
図3-11-2 地域での交流や活動による充実感や生きがい—性別、年齢別



性別にみると、《感じていない》は男性（40.0%）が女性（33.5%）より6.5ポイント高くなっている。

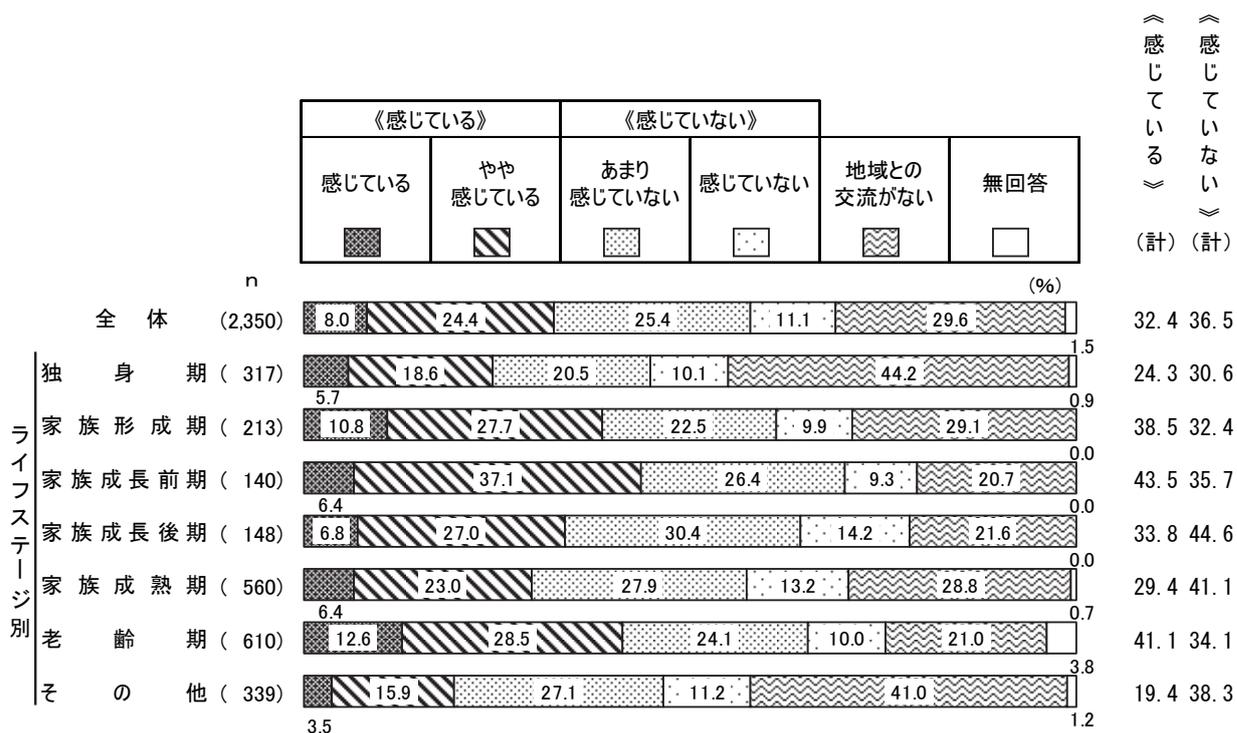
年齢別にみると、《感じている》は65歳以上（41.1%）で4割強と多くなっている。一方、《感じていない》は60～64歳（42.0%）で4割強と多くなっている。（図3-11-2）

図3-11-3 地域での交流や活動による充実感や生きがい—居住地域別



居住地域別にみると、《感じている》は浅川・横山・館（西南部地域）（36.9%）で4割近くと多くなっている。一方、《感じていない》は加住・石川（北部地域）（39.8%）で4割弱と多くなっている。（図3-11-3）

図3-11-4 地域での交流や活動による充実感や生きがい—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《感じている》は家族成長前期（43.5%）、老齡期（41.1%）で4割強と多くなっている。一方、《感じていない》は家族成長後期（44.6%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-11-4）

(12) ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度

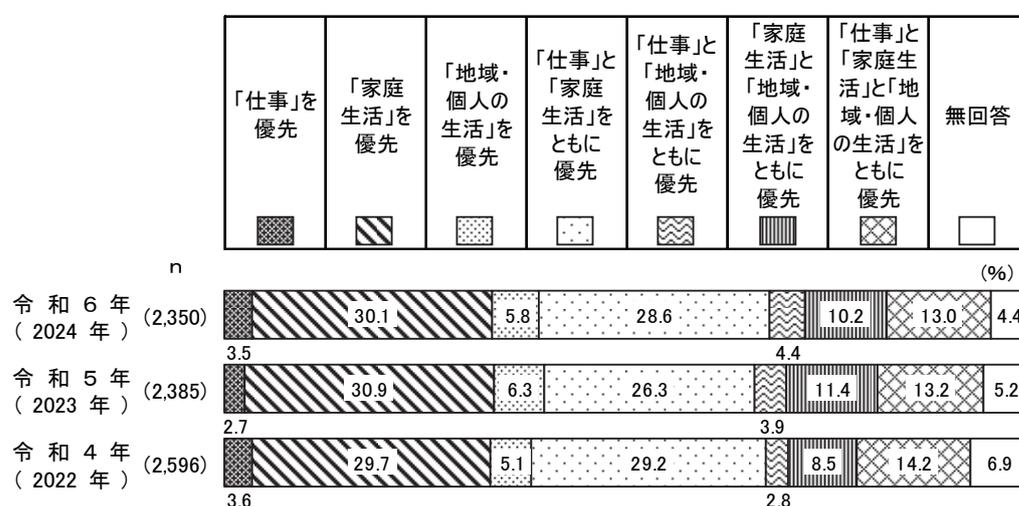
◇『家庭生活』を優先が約3割

問 22 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

（○はそれぞれ1つずつ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・
人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

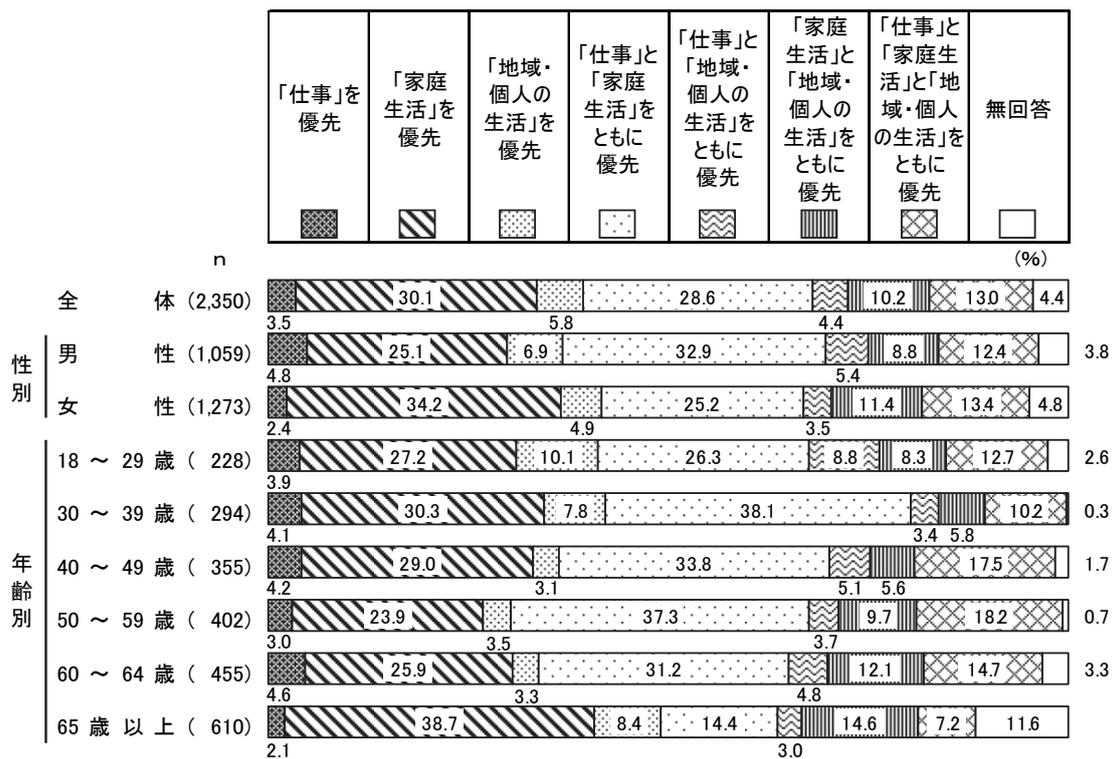
図3-12-1 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、希望する優先度を聞いたところ、『家庭生活』を優先（30.1%）が約3割で最も多くなっている。次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先（28.6%）、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先（13.0%）、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先（10.2%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は令和5年(2023年)(26.3%)より2.3ポイント増加している。(図3-12-1)

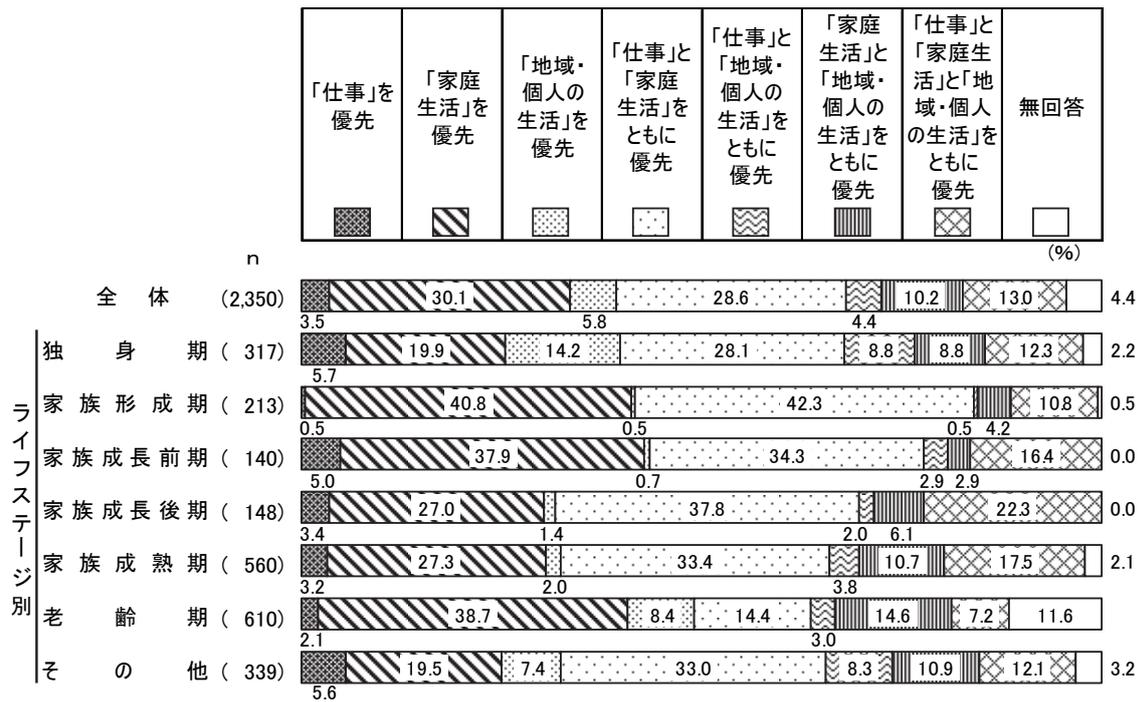
図3-12-2 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—性別、年齢別



性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（34.2%）が男性（25.1%）より9.1ポイント高くなっている。一方、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は男性（32.9%）が女性（25.2%）より7.7ポイント高くなっている。

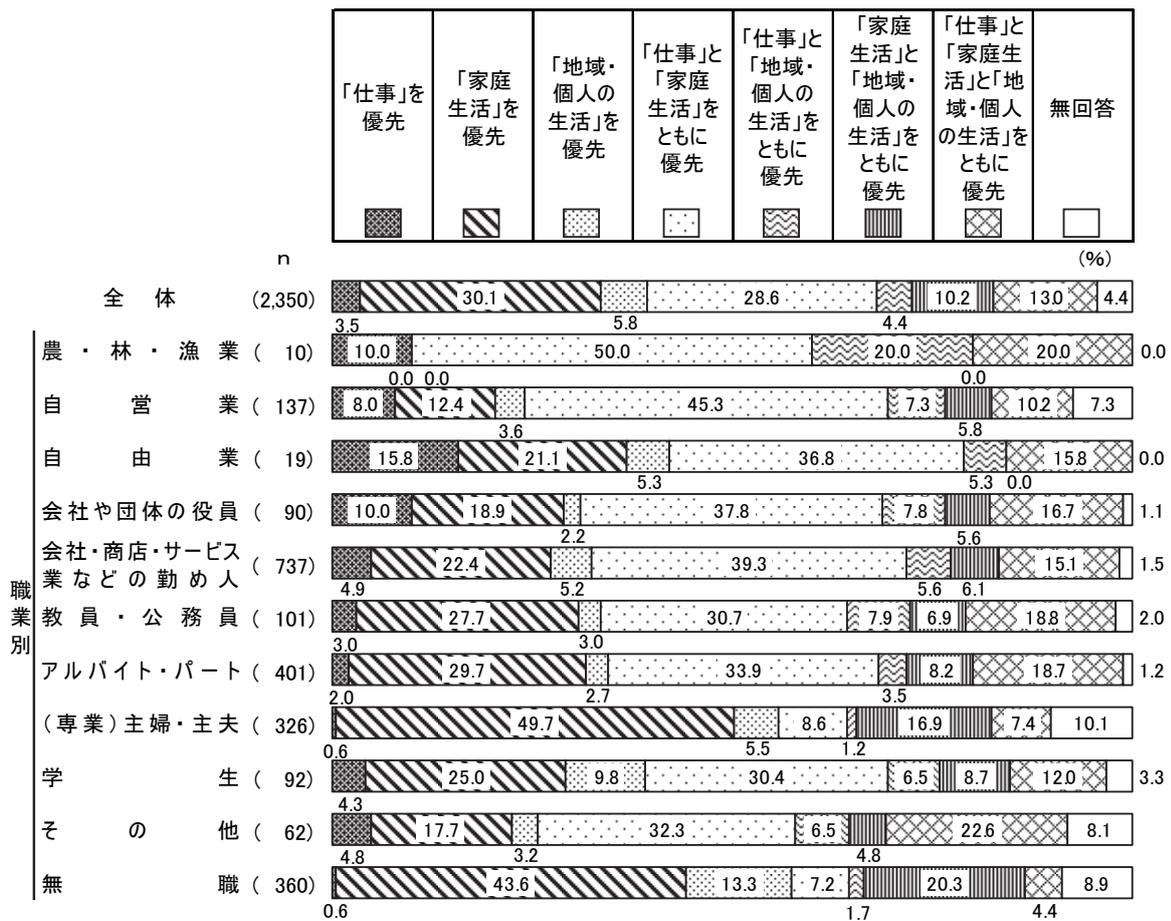
年齢別にみると、『家庭生活』を優先は65歳以上（38.7%）で4割近くと多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は30～39歳（38.1%）、50～59歳（37.3%）で4割近くと多くなっている。（図3-12-2）

図3-12-3 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「『家庭生活』を優先」は家族形成期（40.8%）で約4割と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族形成期（42.3%）で4割強と多くなっている。（図3-12-3）

図 3-12-4 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－職業別



職業別にみると、『家庭生活』を優先は(専業)主婦・主夫(49.7%)で5割弱と多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は自営業(45.3%)で4割台半ばと多くなっている。

(図 3-12-4)

(13) ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度

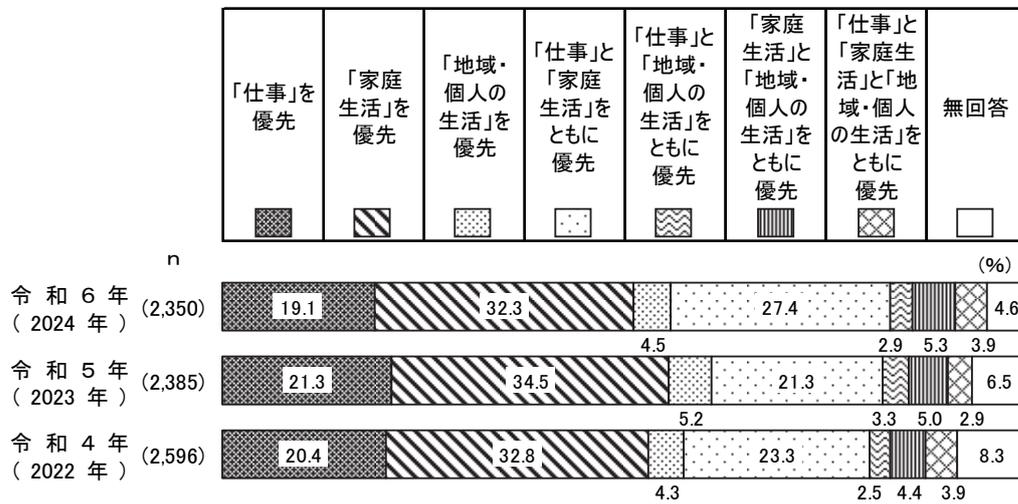
◇『家庭生活』を優先が3割強

問 22 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

（○はそれぞれ1つずつ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・
人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

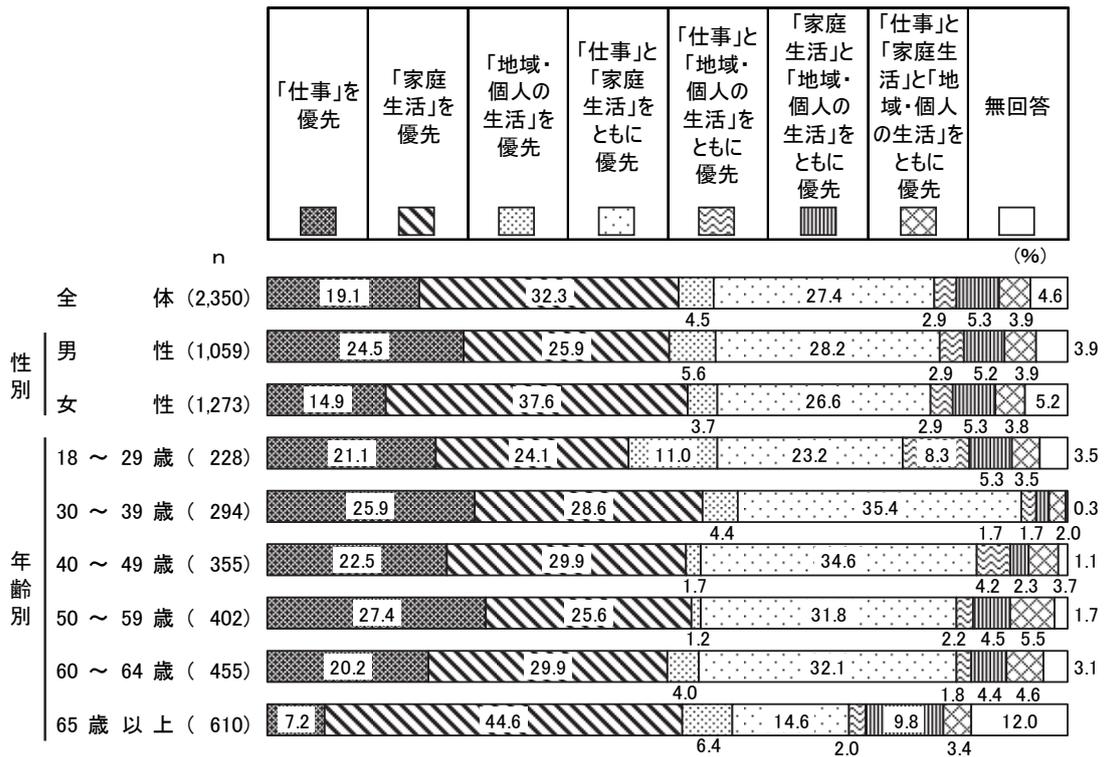
図 3-13-1 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、実際の優先度を聞いたところ、『家庭生活』を優先（32.3%）が3割強で最も多くなっている。次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先（27.4%）、『仕事』を優先（19.1%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は令和 5 年(2023 年) (21.3%) より 6.1 ポイント増加している。一方、『仕事』を優先は令和 5 年 (2023 年) (21.3%) より 2.2 ポイント、『家庭生活』を優先は令和 5 年 (2023 年) (34.5%) より 2.2 ポイント、それぞれ減少している。(図 3-13-1)

図 3-13-2 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度—性別、年齢別

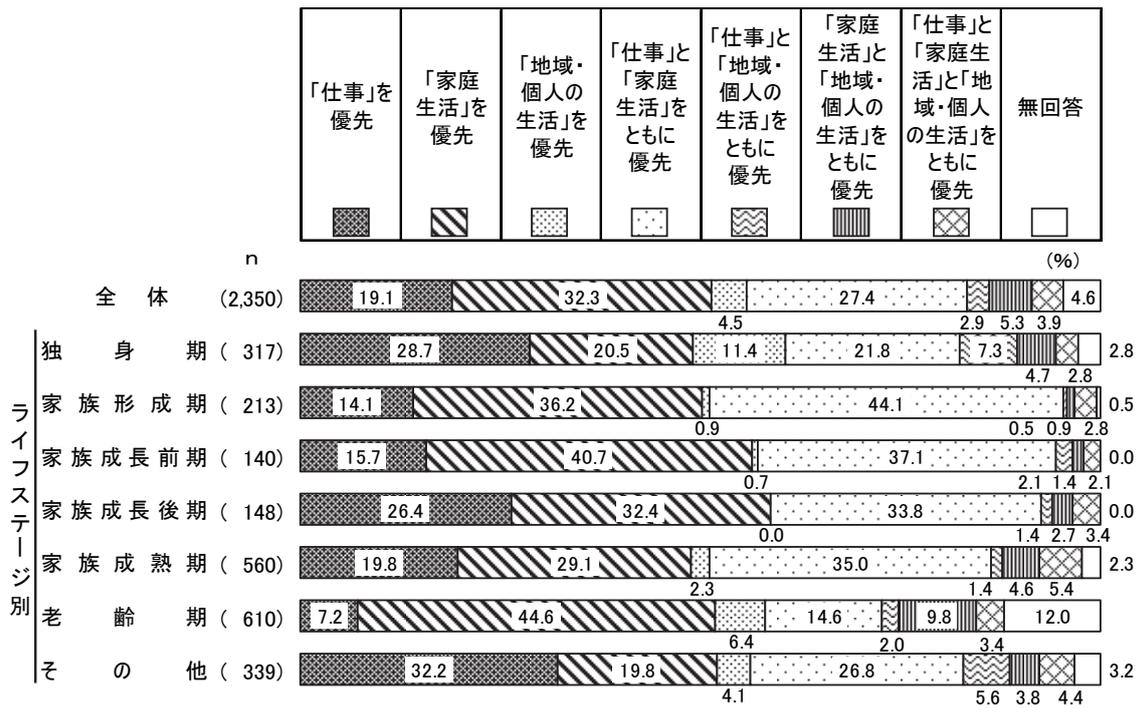


性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（37.6%）が男性（25.9%）より 11.7 ポイント高くなっている。一方、『仕事』を優先は男性（24.5%）が女性（14.9%）より 9.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『仕事』を優先は 50～59 歳（27.4%）で 3 割近くと多くなっている。『家庭生活』を優先は 65 歳以上（44.6%）で 4 割台半ばと多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は 30～39 歳（35.4%）、40～49 歳（34.6%）で 3 割台半ばと多くなっている。

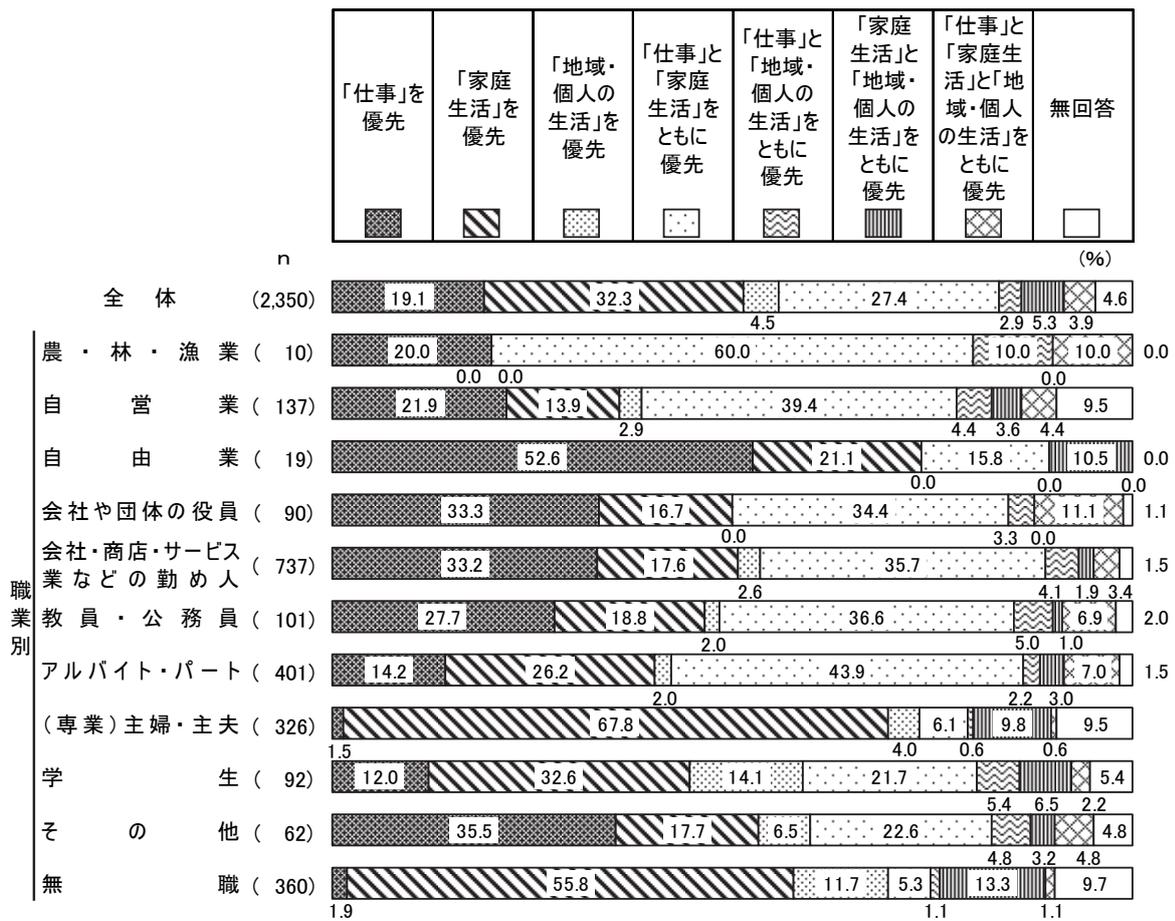
(図 3-13-2)

図3-13-3 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「『仕事』を優先」はその他（32.2%）で3割強と多くなっている。「『家庭生活』を優先」は老齢期（44.6%）で4割台半ばと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族形成期（44.1%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-13-3）

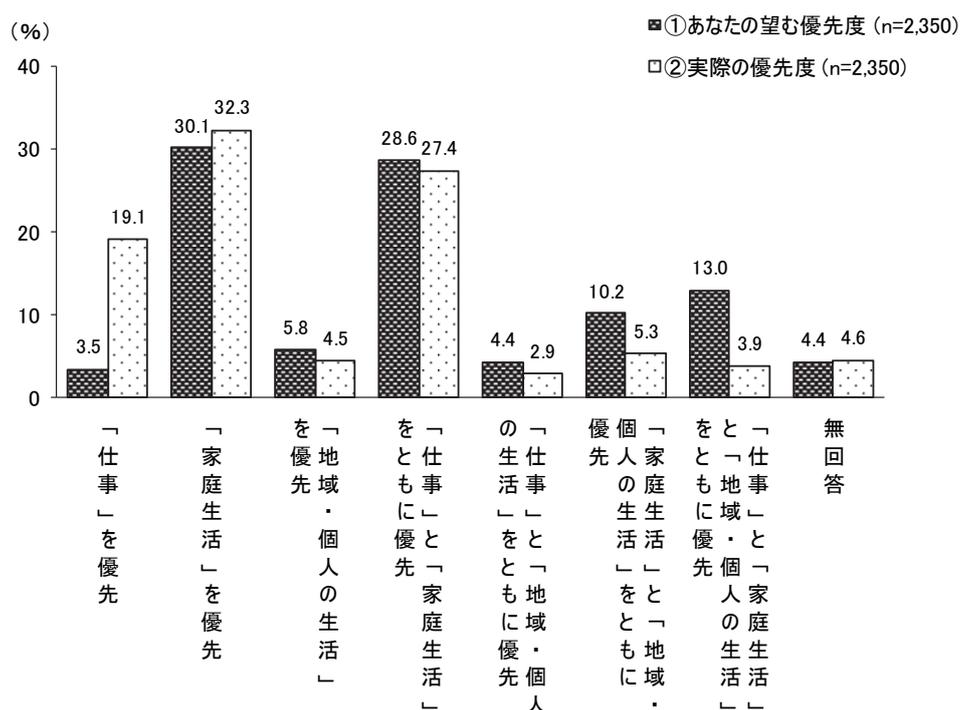
図3-13-4 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－職業別



職業別にみると、「『仕事』を優先」はその他 (35.5%) で3割台半ば、会社や団体の役員 (33.3%)、会社・商店・サービス業などの勤め人 (33.2%) で3割強と多くなっている。「『家庭生活』を優先」は(専業)主婦・主夫 (67.8%) で7割近く、無職 (55.8%) で5割台半ばと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」はアルバイト・パート (43.9%) で4割強と多くなっている。

(図3-13-4)

図3-13-5 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度について比較したところ、『「仕事」を優先』は②実際の優先度（19.1%）が①希望する優先度（3.5%）を15.6ポイント上回っており、全7項目の中で最も両者の比率の差が大きくなっている。次いで比率の差の大きい『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』は②実際の優先度（3.9%）が①希望する優先度（13.0%）を9.1ポイント下回っている。3番目に比率の差が大きい『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』は②実際の優先度（5.3%）が①希望する優先度（10.2%）を4.9ポイント下回っている。

一方、全7項目の中で最も比率の差が小さいのは『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』で②実際の優先度（27.4%）と①希望する優先度（28.6%）の比率の差が1.2ポイントとなっている。

（図3-13-5）

図3-13-6 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度-②実際の優先度別

		n	① あなたの望む優先度							無回答
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と「家庭生活」をともに優先	の「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先	優先「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先	を「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先	
全体		2,350	3.5	30.1	5.8	28.6	4.4	10.2	13.0	4.4
② 実際の優先度	「仕事」を優先	450	14.7	13.8	5.1	38.9	7.6	6.4	13.1	0.4
	「家庭生活」を優先	759	0.9	63.4	3.6	13.8	0.8	10.4	6.6	0.5
	「地域・個人の生活」を優先	106	1.9	10.4	53.8	1.9	5.7	17.0	7.5	1.9
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	644	0.8	18.6	1.6	57.6	3.0	4.3	14.0	0.2
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	68	-	5.9	19.1	4.4	42.6	8.8	16.2	2.9
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	124	-	10.5	4.0	5.6	4.0	58.1	16.1	1.6
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	91	2.2	8.8	1.1	3.3	3.3	7.7	72.5	1.1
	無回答	108	-	7.4	0.9	5.6	0.9	0.9	1.9	82.4

(注) は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をみると、実際に「『仕事』を優先」している人（450名）においては、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」することを希望する人（38.9%）が4割近くで最も多くなっており、「『仕事』を優先」することを希望する人（14.7%）は1割台半ばとなっている。一方、実際の優先度で「『仕事』を優先」以外の項目を回答した人においては、①希望する優先度と②実際の優先度が一致している人の割合がそれぞれ最も多くなっている。（図3-13-6）

図3-13-7 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度の一致

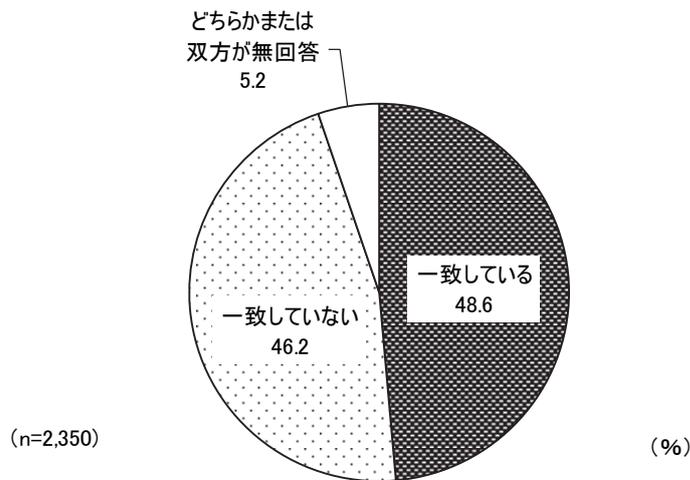


図3-13-6に示した、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をもとに、①希望と②実際の2つの回答が一致した人、すなわち①希望する優先度のおりに②実際の優先度が実現できている人の割合（48.6%）は5割近くとなっている。

一方、2つの回答が一致しない人、すなわち①希望する優先度のおりに②実際の優先度が実現できていない人の割合（46.2%）は5割近くとなっている。（図3-13-7）

(14) この1年間に行った学習・余暇活動

◇「趣味的なもの」が5割近く

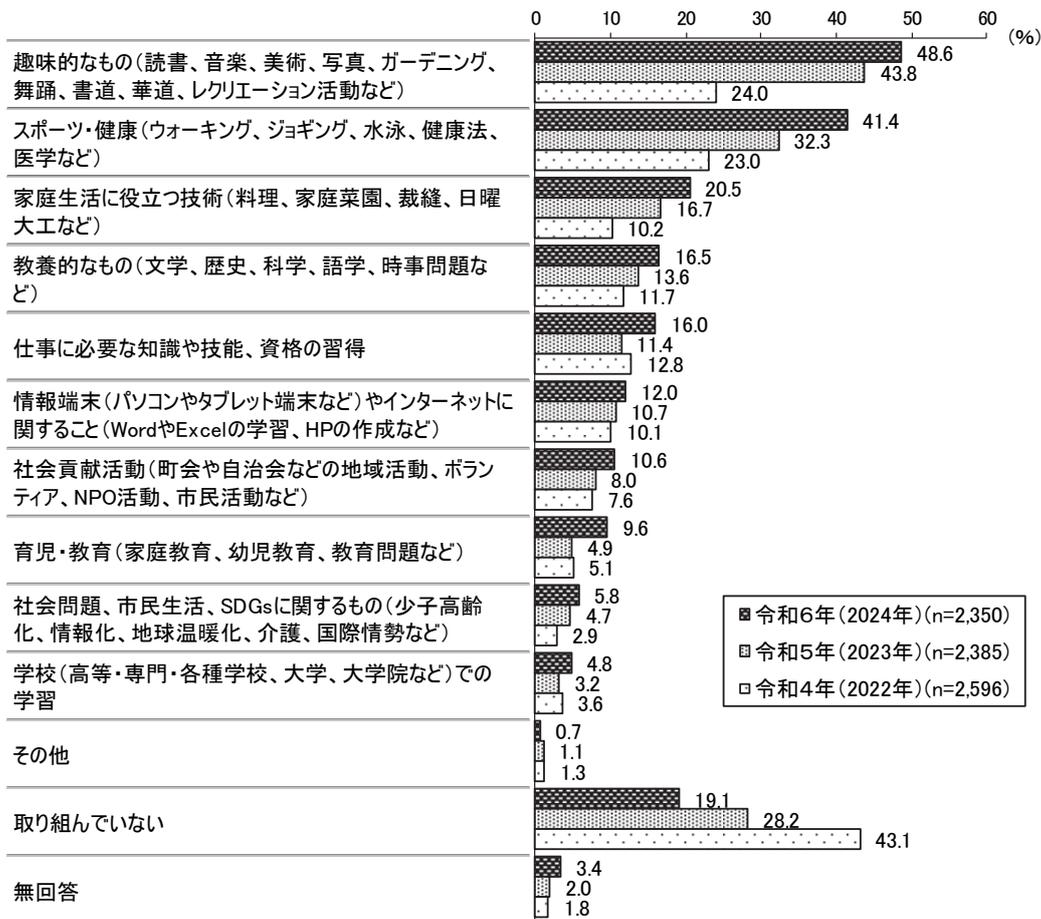
問 23 あなたはこの1年間に、次のうちどのような学習・余暇活動を行いましたか。

(○はいくつでも)

※ここでいう「学習・余暇活動」とは・・・

教育機関での学習だけでなく、個人または仲間と行う趣味・教養、スポーツ・レクリエーション、文化・芸術（鑑賞を含む）、地域貢献、仕事に必要な知識・技能の習得、社会の出来事に対する調べものなど、日常で自発的に行う幅広い活動を指します。

図 3-14-1 この1年間に行った学習・余暇活動—全体、経年比較



(注) 設問文の「あなたはこの1年間に、次のうちどのような学習・余暇活動を行いましたか。」は、令和4年(2022年)までは「あなたは、この1年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。」としていた。

(注) 「趣味的なもの(読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など)」は、令和4年(2022年)までは「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」としていた。

(注) 「スポーツ・健康(ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など)」は、令和4年(2022年)までは「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」としていた。

(注) 「家庭生活に役立つ技術(料理、家庭菜園、裁縫、日曜大工など)」は、令和4年(2022年)までは「家庭生活に役立つ技術(料理、裁縫、日曜大工など)」としていた。

(注) 「情報端末(パソコンやタブレット端末など)やインターネットに関すること(WordやExcelの学習、HPの作成など)」は、令和4年(2022年)までは「情報端末(パソコンやタブレット端末など)やインターネットに関すること」としていた。

(注) 「社会貢献活動(町会や自治会などの地域活動、ボランティア、NPO活動、市民活動など)」は、令和4年(2022年)までは「社会貢献活動(町内会などの地域活動、ボランティア、NPO、市民活動など)」としていた。

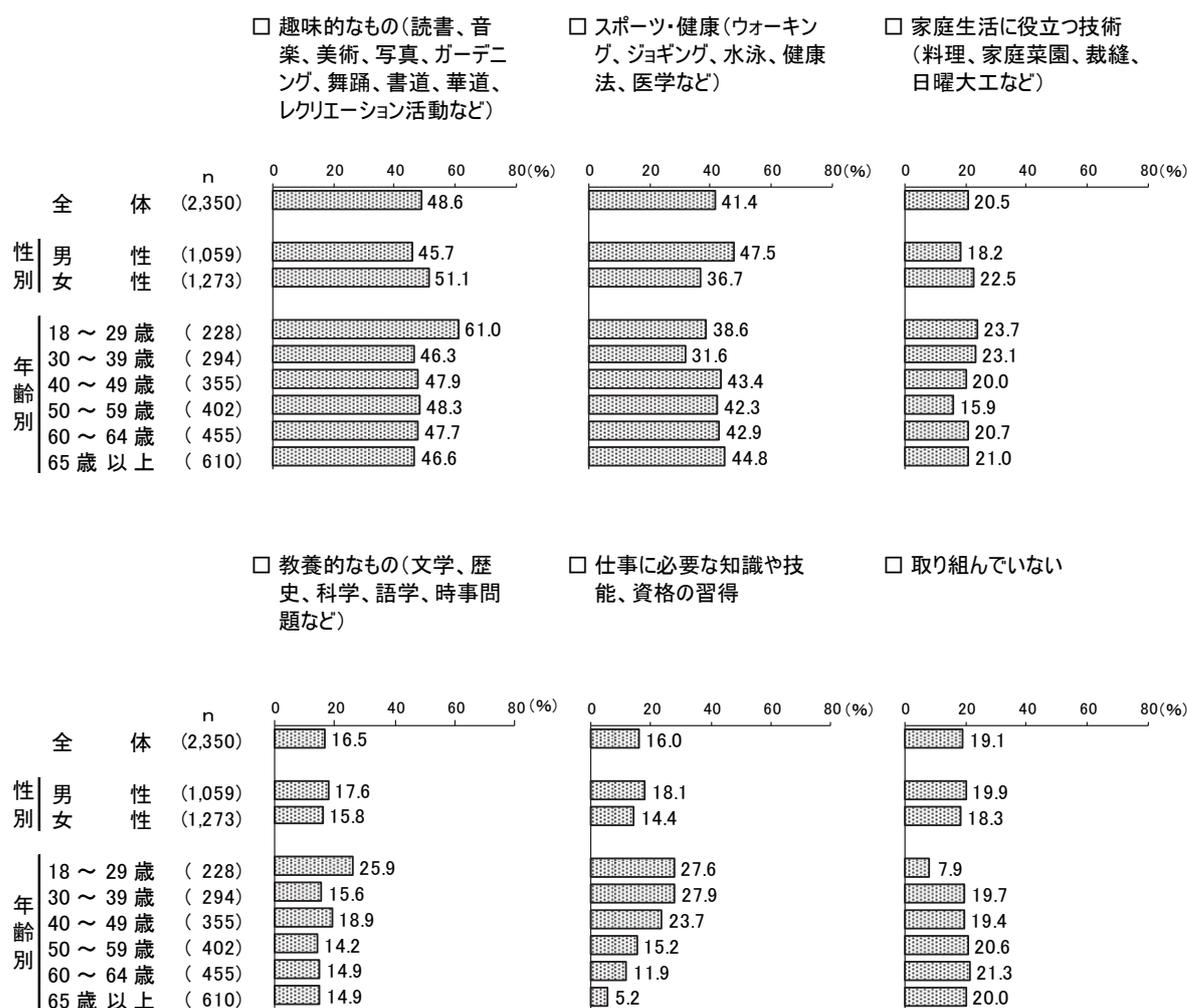
(注) 「社会問題、市民生活、SDGsに関するもの(少子高齢化、情報化、地球温暖化、介護、国際情勢など)」は、令和4年(2022年)までは「社会問題・市民生活に関するもの(少子高齢化、情報化、環境、介護、国際交流など)」としていた。

(注) 「学校(高等・専門・各種学校、大学、大学院など)での学習」は、令和4年(2022年)までは「学校(高等・専門・各種学校、大学、大学院など)の正規課程での学習」としていた。

この1年間に行った学習・余暇活動を聞いたところ、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」（48.6%）が5割近くで最も多くなっている。次いで「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」（41.4%）、「家庭生活に役立つ技術（料理、家庭菜園、裁縫、日曜大工など）」（20.5%）などの順となっている。一方、「取り組んでいない」（19.1%）は2割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は令和5年（2023年）（32.3%）より9.1ポイント増加している。一方、「取り組んでいない」は令和5年（2023年）（28.2%）より9.1ポイント減少している。（図3-14-1）

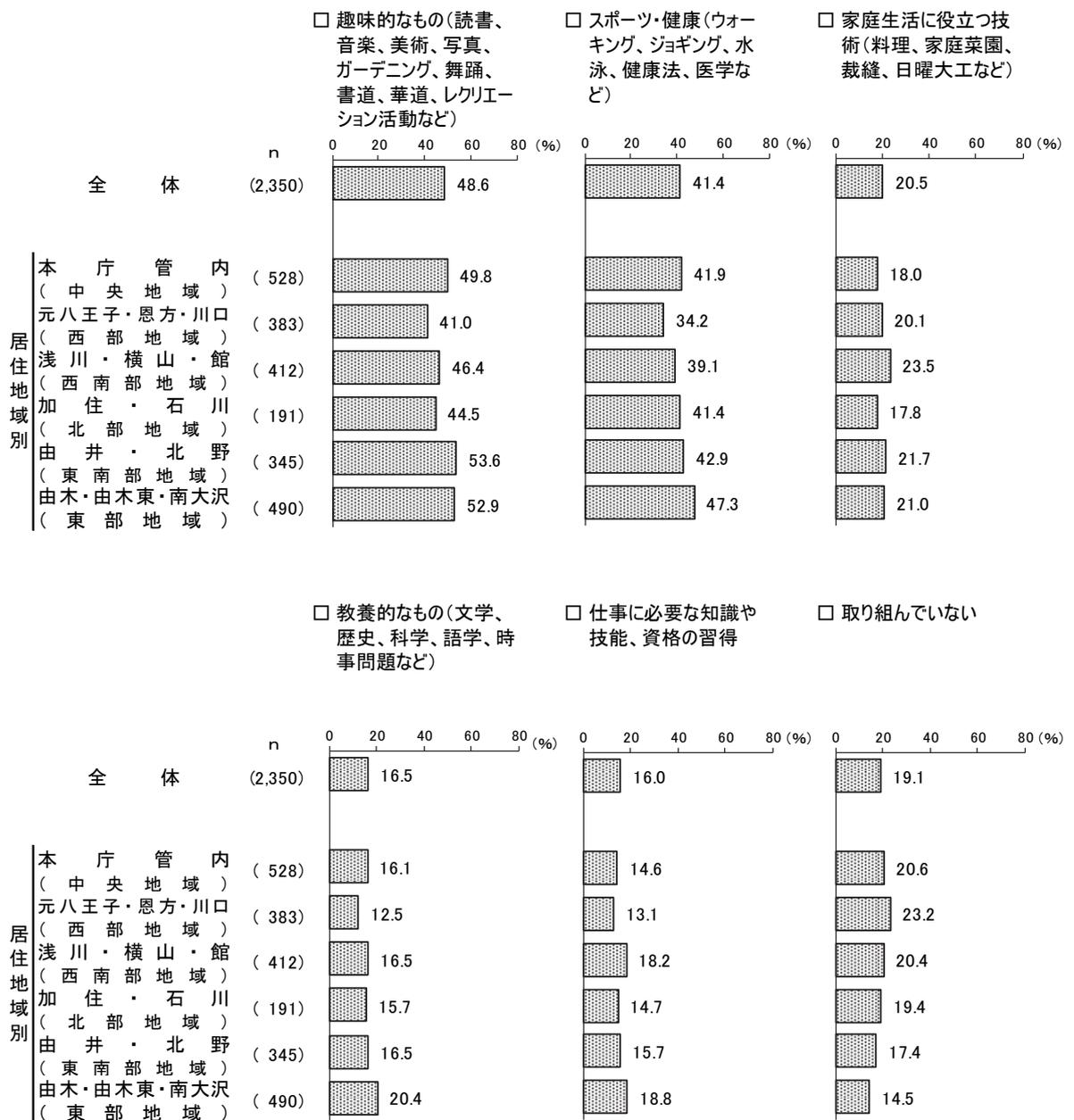
図3-14-2 この1年間に行った学習・余暇活動—性別、年齢別（上位5項目+「取り組んでいない」）



性別にみると、「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は男性（47.5%）が女性（36.7%）より 10.8 ポイント高くなっている。一方、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は女性（51.1%）が男性（45.7%）より 5.4 ポイント、「家庭生活に役立つ技術（料理、家庭菜園、裁縫、日曜大工など）」は女性（22.5%）が男性（18.2%）より 4.3 ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は 18～29 歳（61.0%）で 6 割強と多くなっている。「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は 65 歳以上（44.8%）で 4 割台半ばと多くなっている。「仕事に必要な知識や技能、資格の習得」は 30～39 歳（27.9%）、18～29 歳（27.6%）で 3 割近くと多くなっている。（図3-14-2）

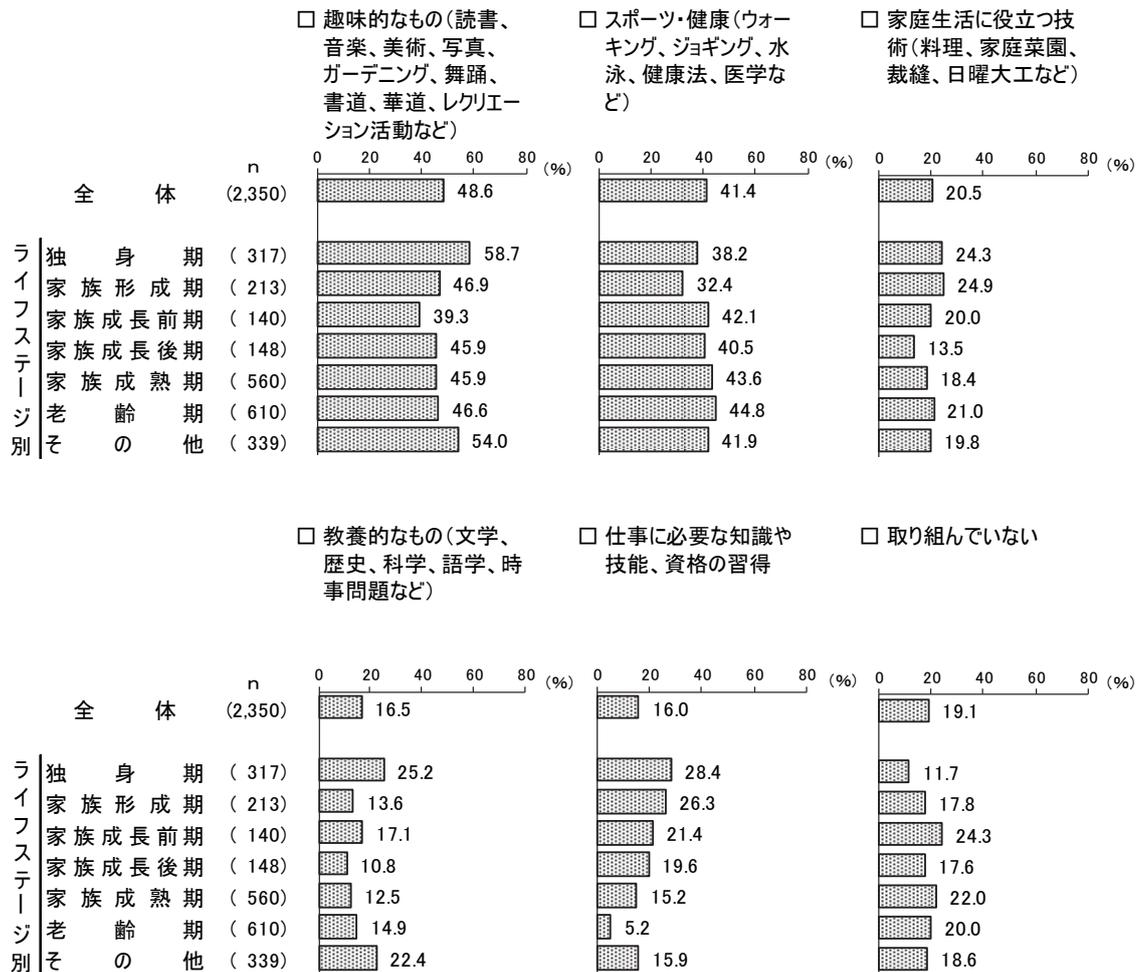
図3-14-3 この1年間に行った学習・余暇活動—居住地域別（上位5項目+「取り組んでいない」）



居住地域別にみると、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は由井・北野（東南部地域）（53.6%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（52.9%）で5割強と多くなっている。「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（47.3%）で5割近くと多くなっている。

(図3-14-3)

図3-14-4 この1年間に行った学習・余暇活動－ライフステージ別
(上位5項目+「取り組んでいない」)



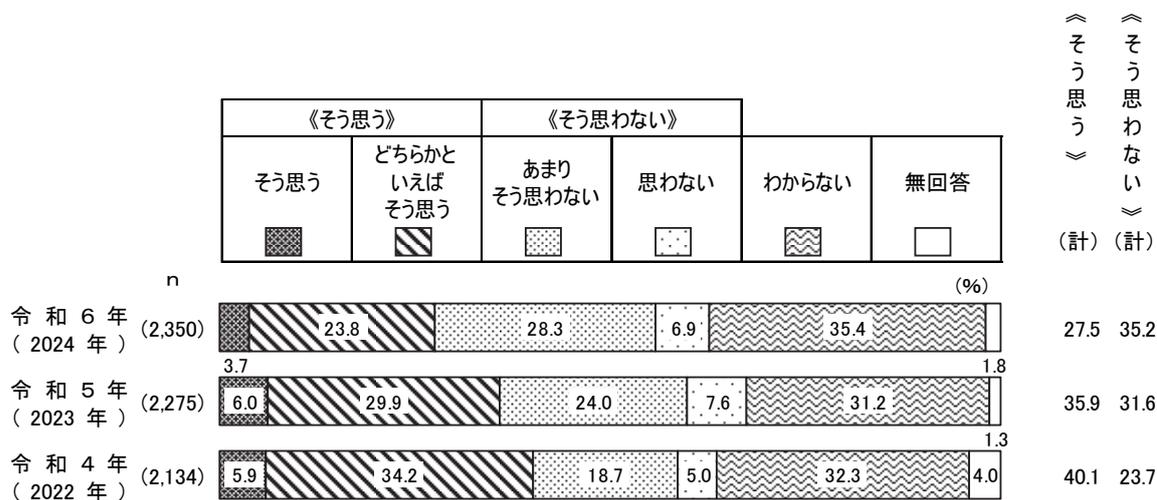
ライフステージ別にみると、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は独身期（58.7%）で6割近くと多くなっている。「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は老齢期（44.8%）で4割台半ばと多くなっている。「仕事に必要な知識や技能、資格の習得」は独身期（28.4%）、家族形成期（26.3%）で3割近くと多くなっている。（図3-14-4）

(15) 生涯学習環境が整っていると思うか

◇《《そう思う》》が3割近く

問 24 あなたは、八王子市が「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

図 3-15-1 生涯学習環境が整っていると思うかー全体、経年比較

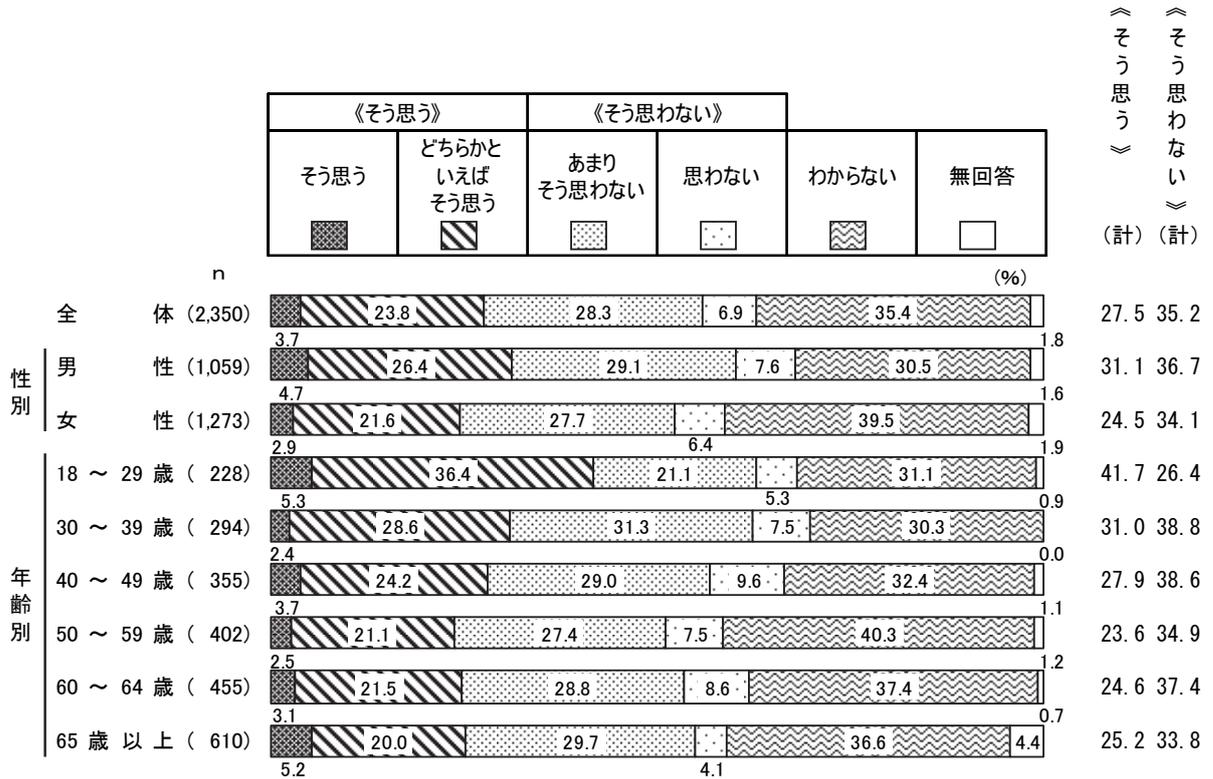


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和 4 年及び 5 年) 結果と比較

「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.7%)と「どちらかといえばそう思う」(23.8%)を合わせた《《そう思う》》(27.5%)は3割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(28.3%)と「思わない」(6.9%)を合わせた《《そう思わない》》(35.2%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思わない》》は令和 5 年(2023 年)(31.6%)より 3.6 ポイント増加している。(図 3-15-1)

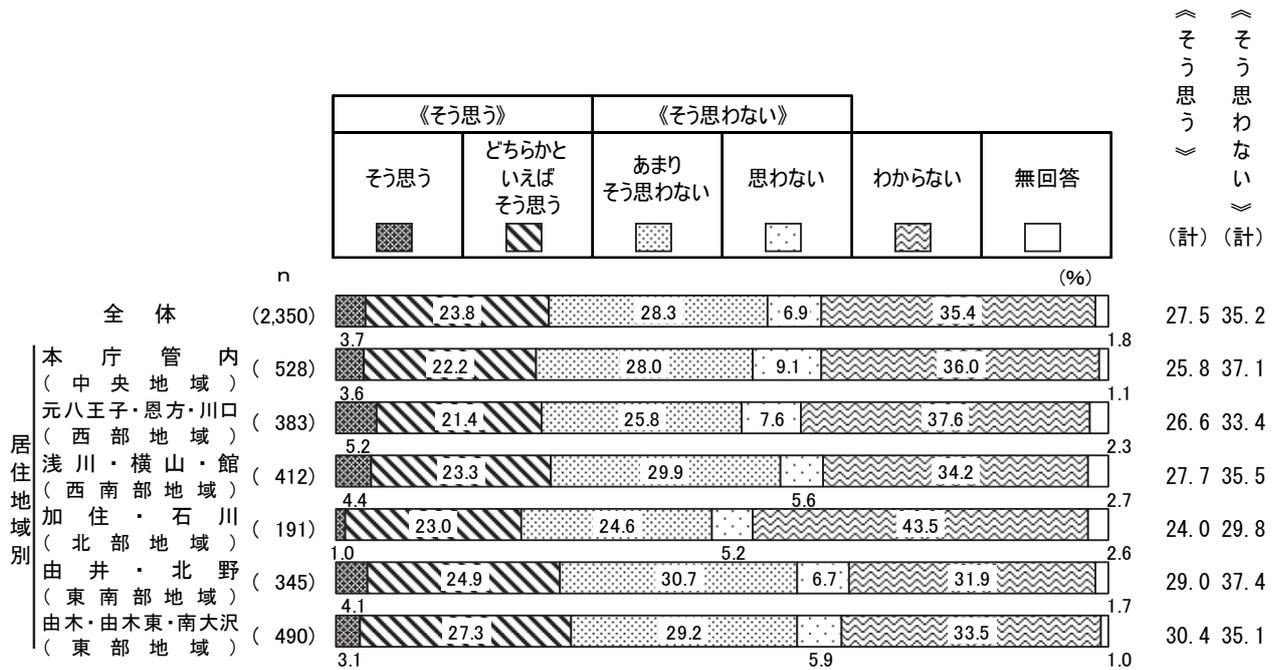
図 3-15-2 生涯学習環境が整っていると思うか—性別、年齢別



性別にみると、《そう思う》は男性（31.1%）が女性（24.5%）より 6.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は 18～29 歳（41.7%）で 4 割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は 30～39 歳（38.8%）、40～49 歳（38.6%）、60～64 歳（37.4%）で 4 割近くと多くなっている。（図 3-15-2）

図3-15-3 生涯学習環境が整っていると思うか—居住地域別



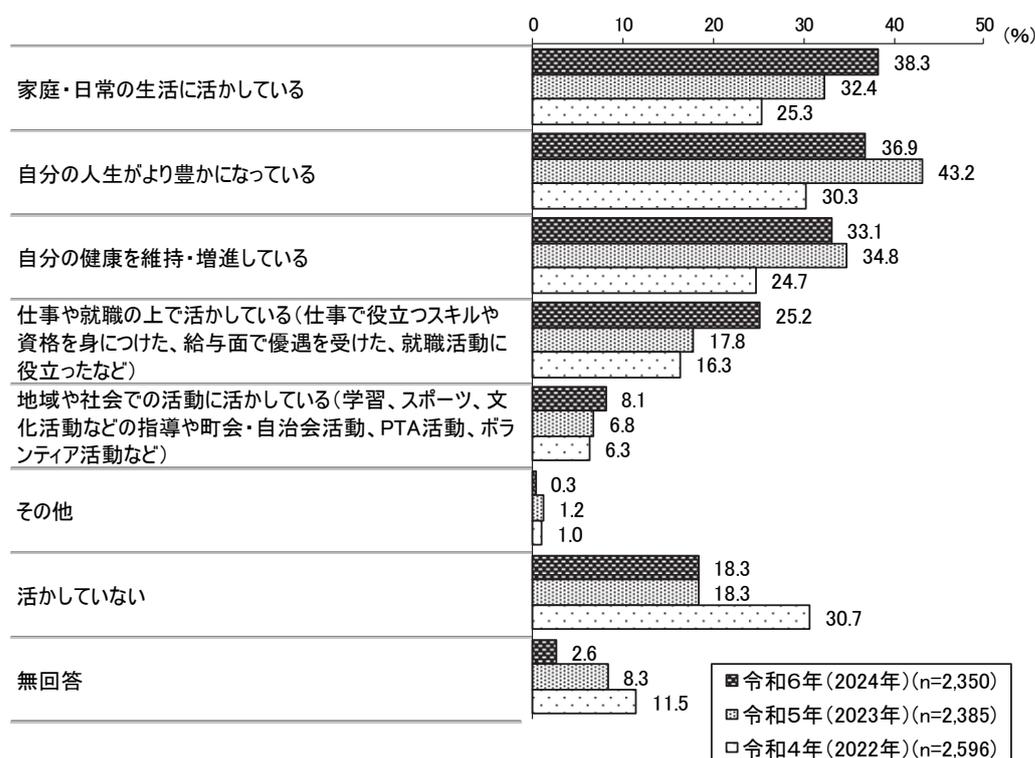
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（30.4%）で約3割と多くなっている。一方、《そう思わない》は由井・北野（東南部地域）（37.4%）、本庁管内（中央地域）（37.1%）で4割近くと多くなっている。（図3-15-3）

(16) 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法

◇「家庭・日常の生活に活かしている」が4割近く

問 25 あなたは、学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。(〇はいくつでも)

図3-16-1 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法—全体、経年比較

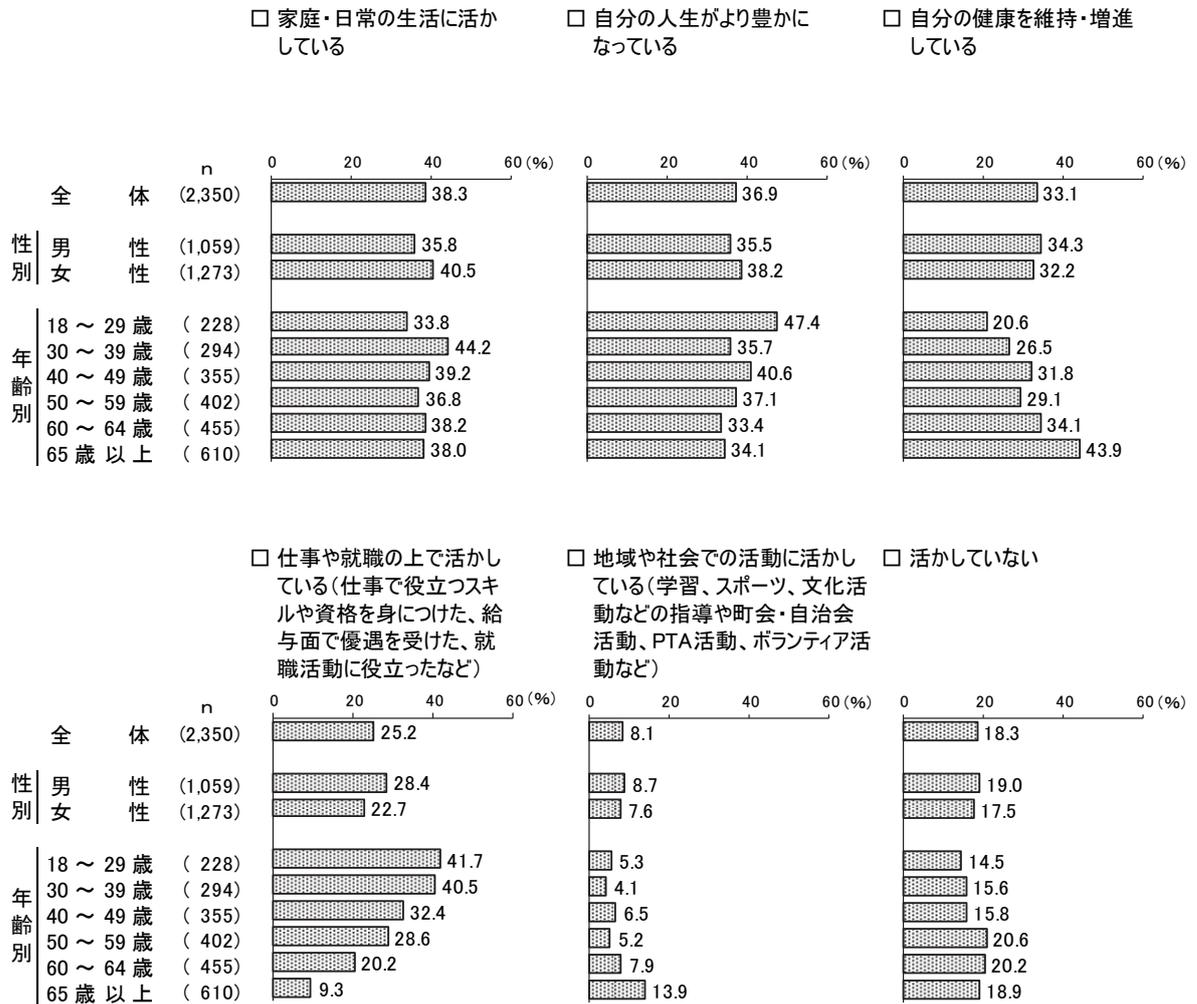


(注) 設問文の「あなたは、学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。」は、令和4年(2022年)までは「あなたは、生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように生かしていますか。」としていた。

学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「家庭・日常の生活に活かしている」(38.3%)が4割近くで最も多くなっている。次いで「自分の人生がより豊かになっている」(36.9%)、「自分の健康を維持・増進している」(33.1%)、「仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)」(25.2%)などの順となっている。一方、「活かしていない」(18.3%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)」は令和5年(2023年)(17.8%)より7.4ポイント、「家庭・日常の生活に活かしている」は令和5年(2023年)(32.4%)より5.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「自分の人生がより豊かになっている」は令和5年(2023年)(43.2%)より6.3ポイント減少している。(図3-16-1)

図 3-16-2 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法—性別、年齢別
(「その他」を除く)

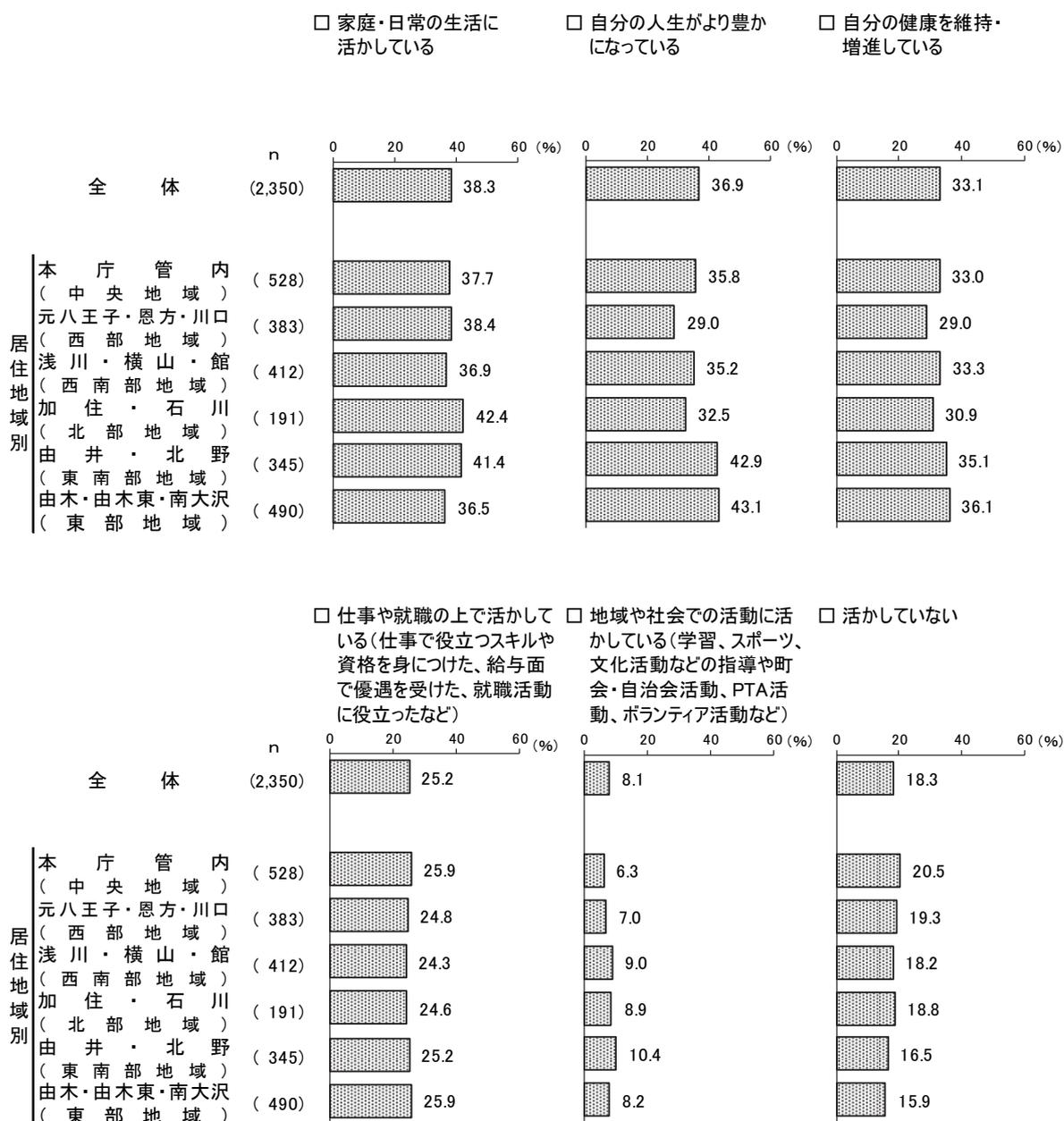


性別にみると、「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は男性（28.4%）が女性（22.7%）より 5.7 ポイント高くなっている。一方、「家庭・日常の生活に活かしている」は女性（40.5%）が男性（35.8%）より 4.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「家庭・日常の生活に活かしている」は 30~39 歳（44.2%）で 4 割台半ばと多くなっている。「自分の人生がより豊かになっている」は 18~29 歳（47.4%）で 5 割近くと多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は 65 歳以上（43.9%）で 4 割強と多くなっている。

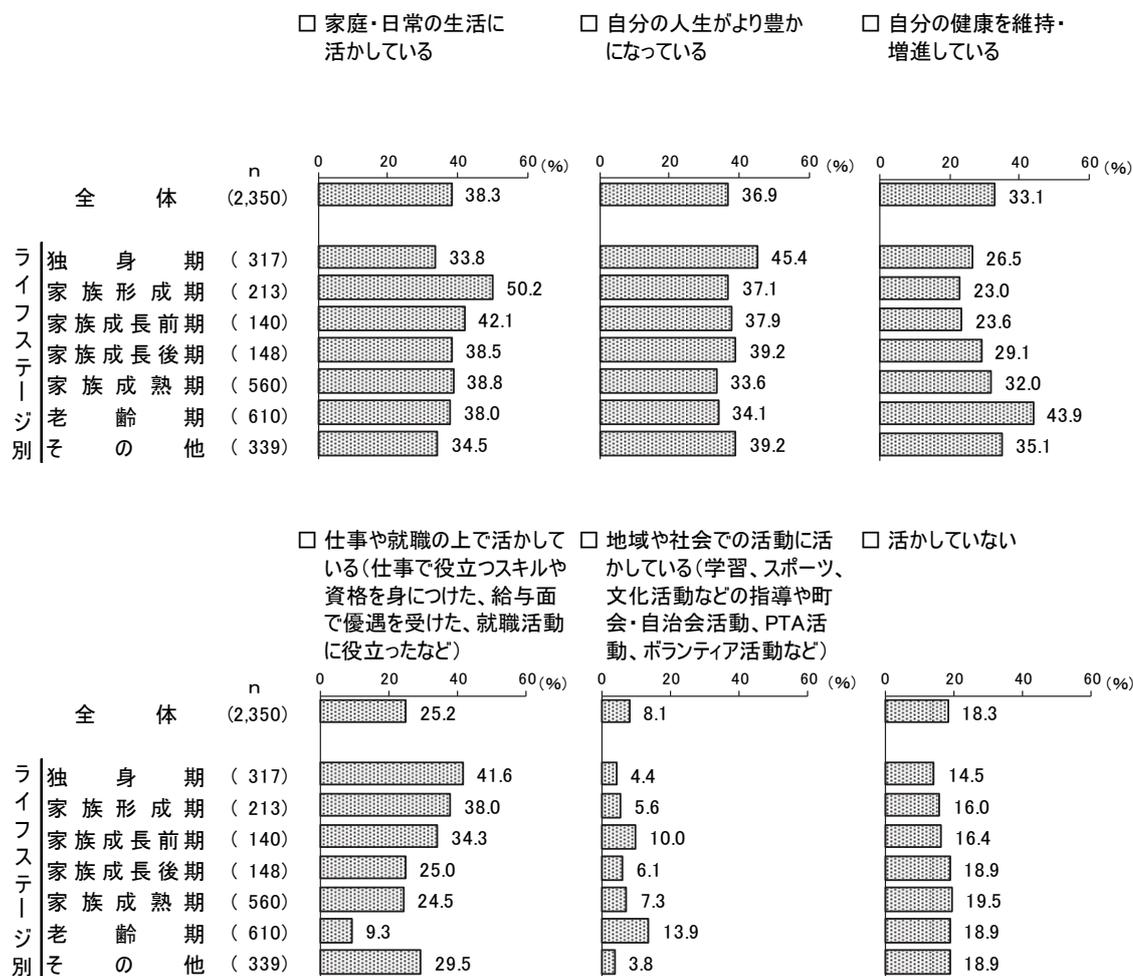
(図 3-16-2)

図3-16-3 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法—居住地域別
(「その他」を除く)



居住地域別にみると、「家庭・日常の生活に活かしている」は加住・石川（北部地域）（42.4%）、由井・北野（東南部地域）（41.4%）で4割強と多くなっている。「自分の人生がより豊かになっている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（43.1%）、由井・北野（東南部地域）（42.9%）で4割強と多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（36.1%）で4割近くと多くなっている。（図3-16-3）

図3-16-4 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法—ライフステージ別
(「その他」を除く)



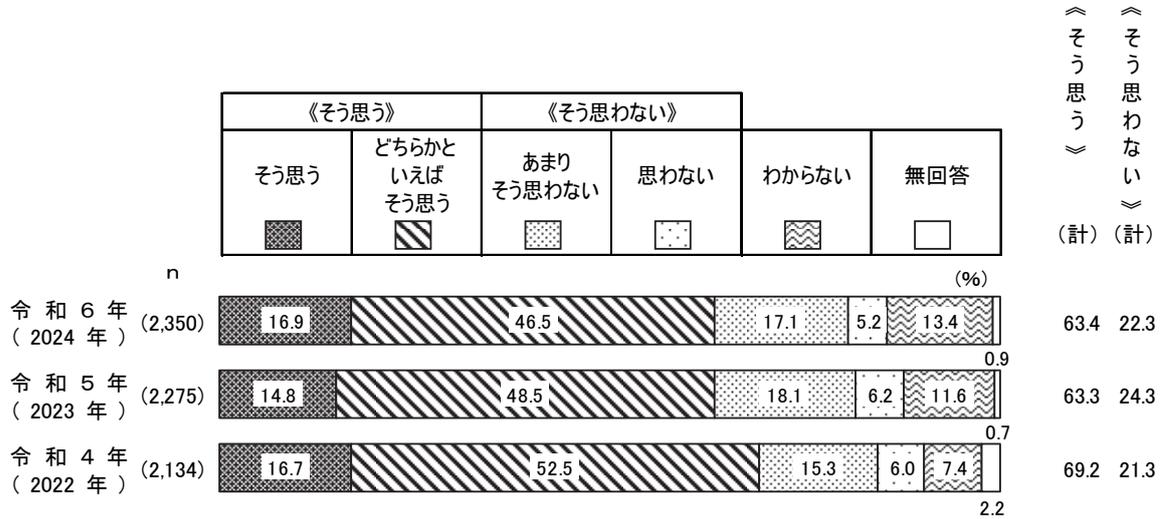
ライフステージ別にみると、「家庭・日常の生活に活かしている」は家族形成期（50.2%）で約5割と多くなっている。「自分の人生がより豊かになっている」は独身期（45.4%）で4割台半ばと多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は老齢期（43.9%）で4割強と多くなっている。（図3-16-4）

(17) 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか

◇《《そう思う》》が6割強

問 26 あなたは、八王子市が「安心して医療を受けられるまち」になっていると思いますか。
(○は1つだけ)

図 3-17-1 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うかー全体、経年比較

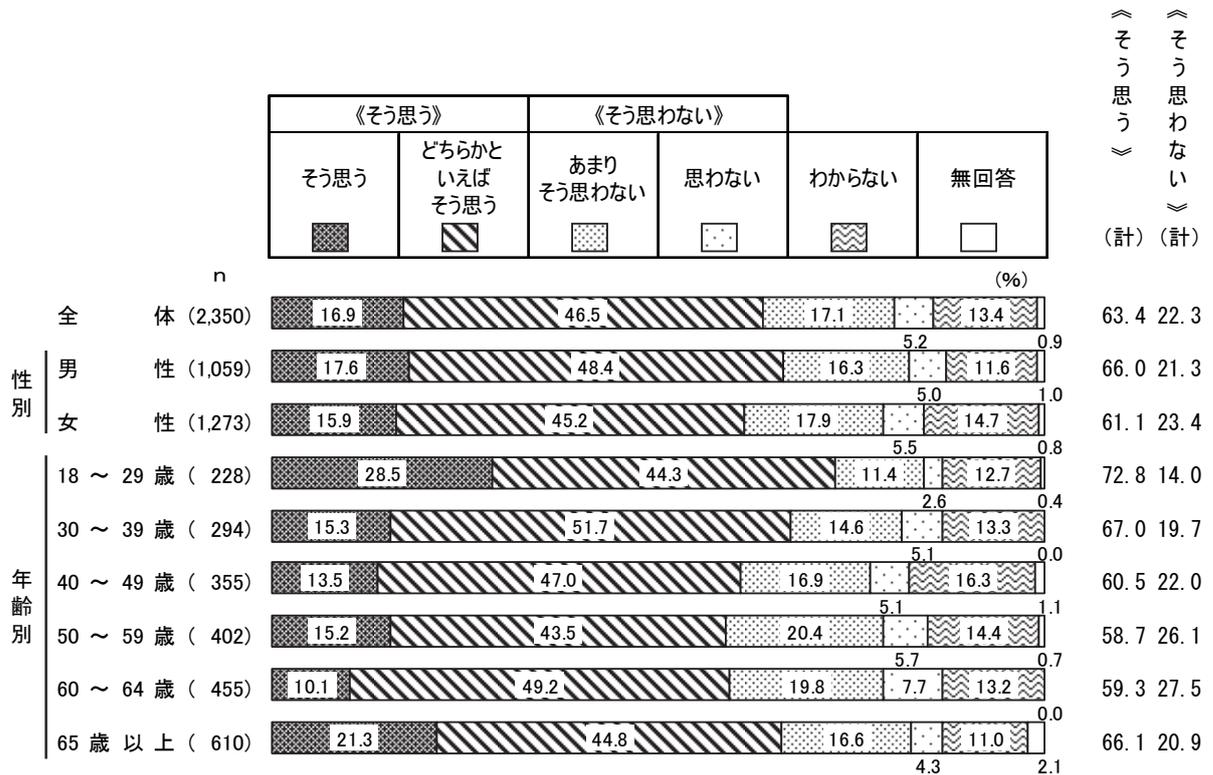


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(16.9%)と「どちらかといえばそう思う」(46.5%)を合わせた《《そう思う》》(63.4%)は6割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(17.1%)と「思わない」(5.2%)を合わせた《《そう思わない》》(22.3%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思わない》》は令和5年(2023年)(24.3%)より2.0ポイント減少している。(図3-17-1)

図3-17-2 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うかー性別、年齢別

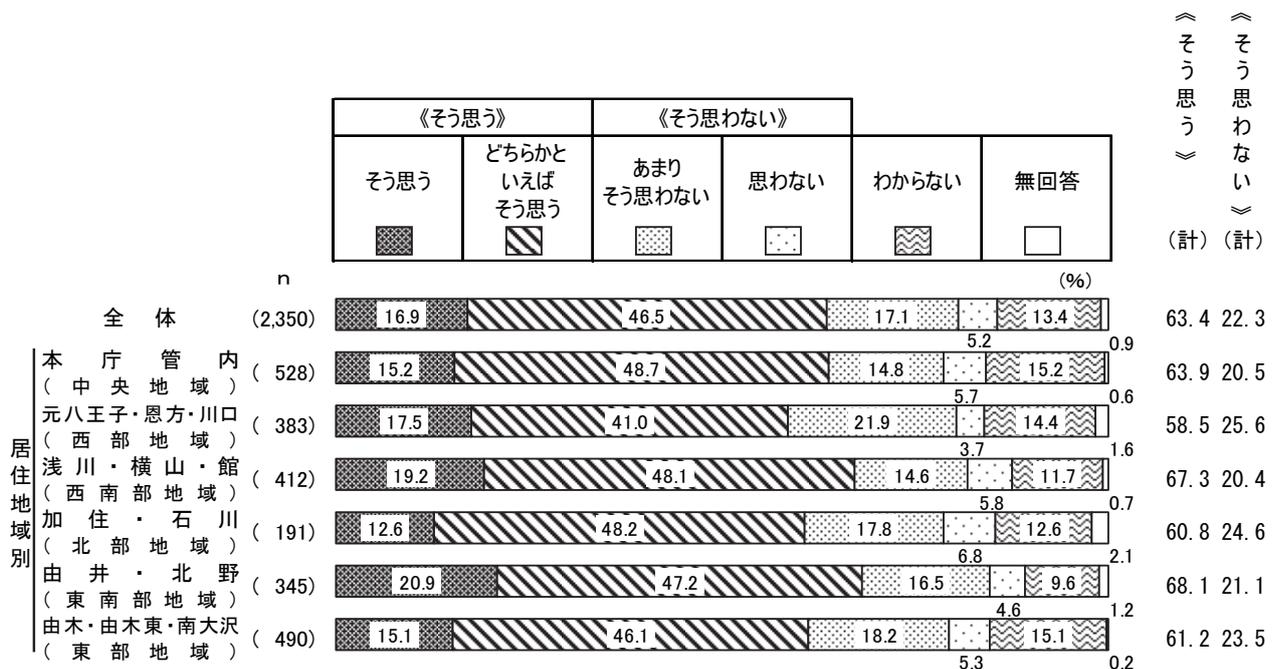


性別にみると、《そう思う》は男性（66.0%）が女性（61.1%）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（72.8%）で7割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（27.5%）、50～59歳（26.1%）で3割近くと多くなっている。

(図3-17-2)

図3-17-3 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うかー居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（68.1%）、浅川・横山・館（西南部地域）（67.3%）で7割近くと多くなっている。（図3-17-3）

(18) かかりつけの医療機関の有無

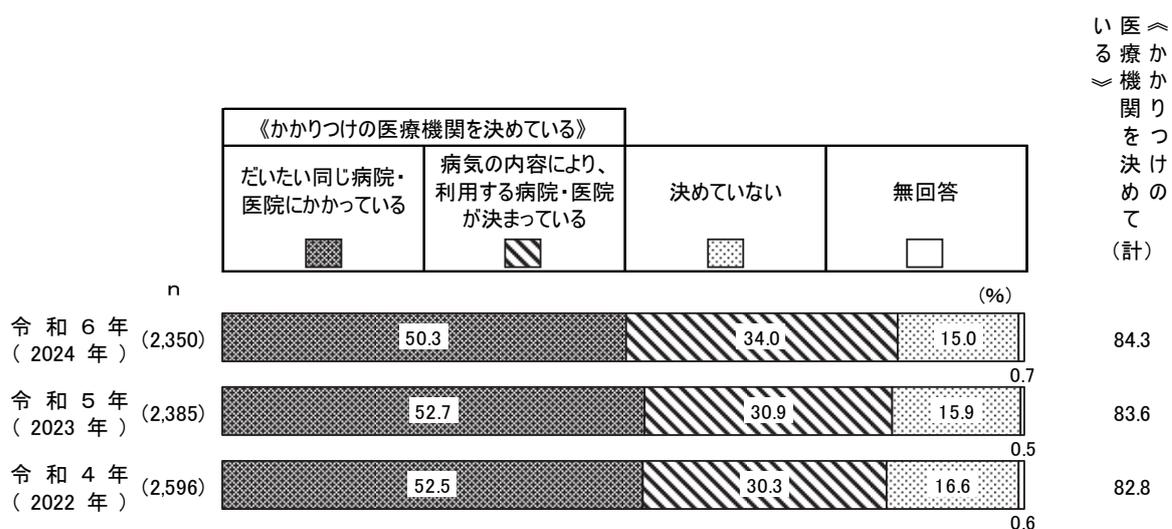
◇《かかりつけの医療機関を決めている》が8割台半ば

問 27 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

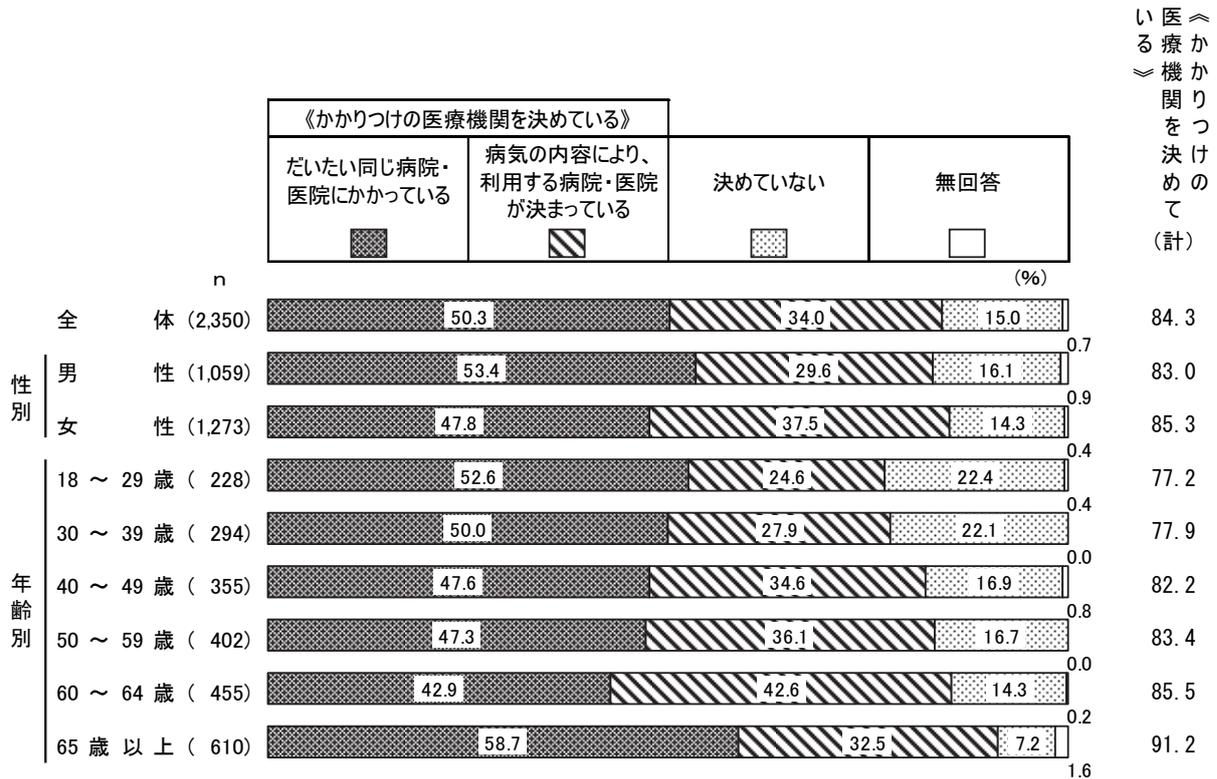
図 3-18-1 かかりつけの医療機関の有無－全体、経年比較



かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(50.3%)と「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(34.0%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》(84.3%)は8割台半ばとなっている。一方、「決めていない」(15.0%)は1割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」は令和5年(2023年)(30.9%)より3.1ポイント増加している。一方、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」は令和5年(2023年)(52.7%)より2.4ポイント減少している。(図3-18-1)

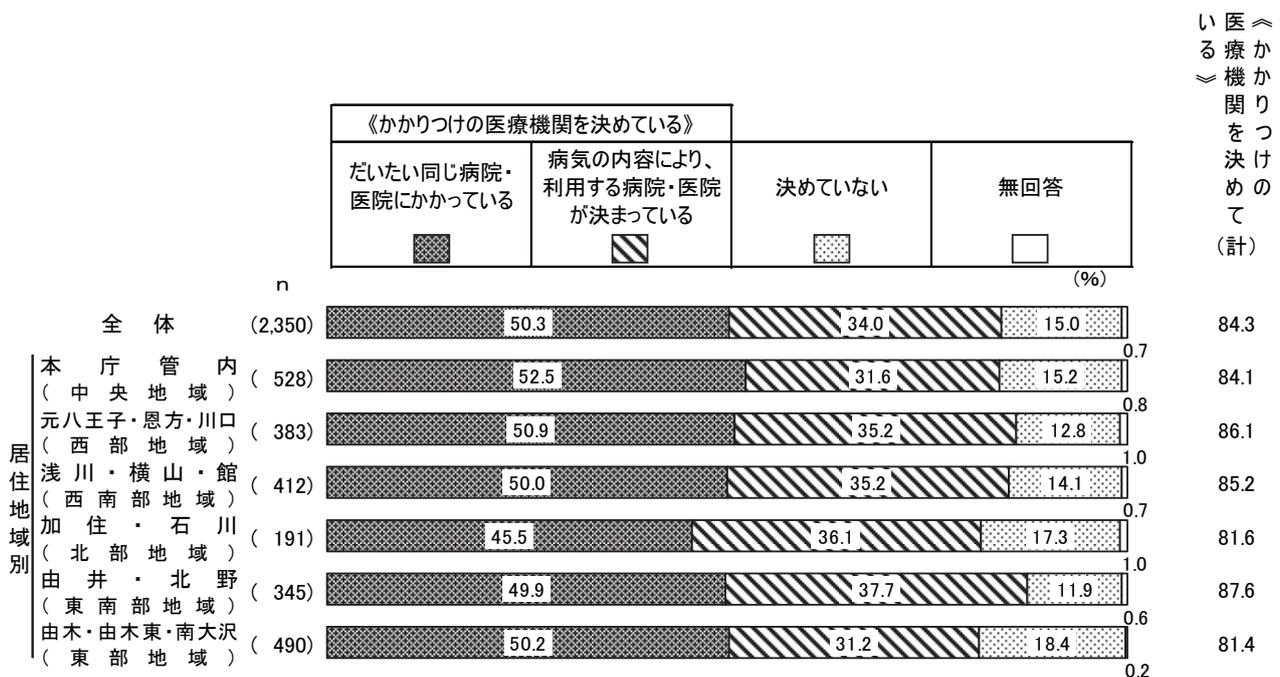
図3-18-2 かかりつけの医療機関の有無－性別、年齢別



性別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は女性（85.3%）が男性（83.0%）より2.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は65歳以上（91.2%）で9割強と多くなっている。（図3-18-2）

図3-18-3 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



居住地域別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は由井・北野（東南部地域）（87.6%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（86.1%）で9割近くと多くなっている。

（図3-18-3）

(19) 「高齢者あんしん相談センター」の周知度

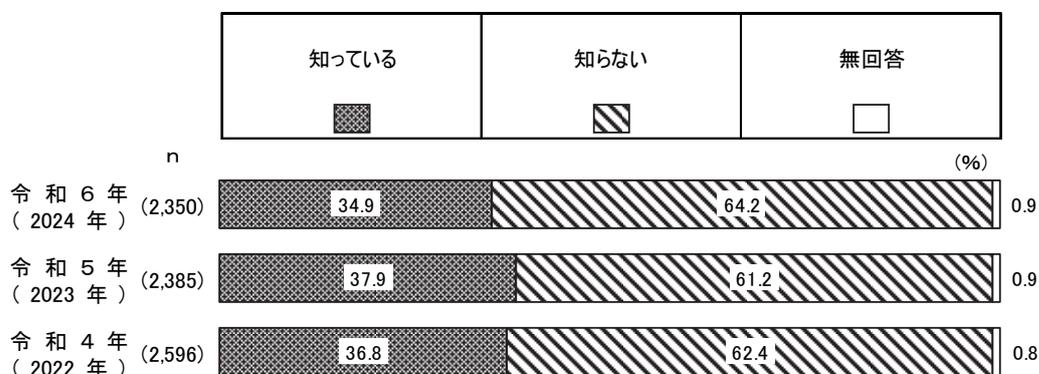
◇ 「知っている」が3割台半ば

問 28 あなたは、「高齢者あんしん相談センター」を知っていますか。(○は1つだけ)

※高齢者あんしん相談センターとは・・・

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らせるよう、地域の身近な相談窓口として市内に設置している施設です。介護保険法に規定された地域包括支援センターのことで、八王子市では親しみやすいようこの愛称を付けています。

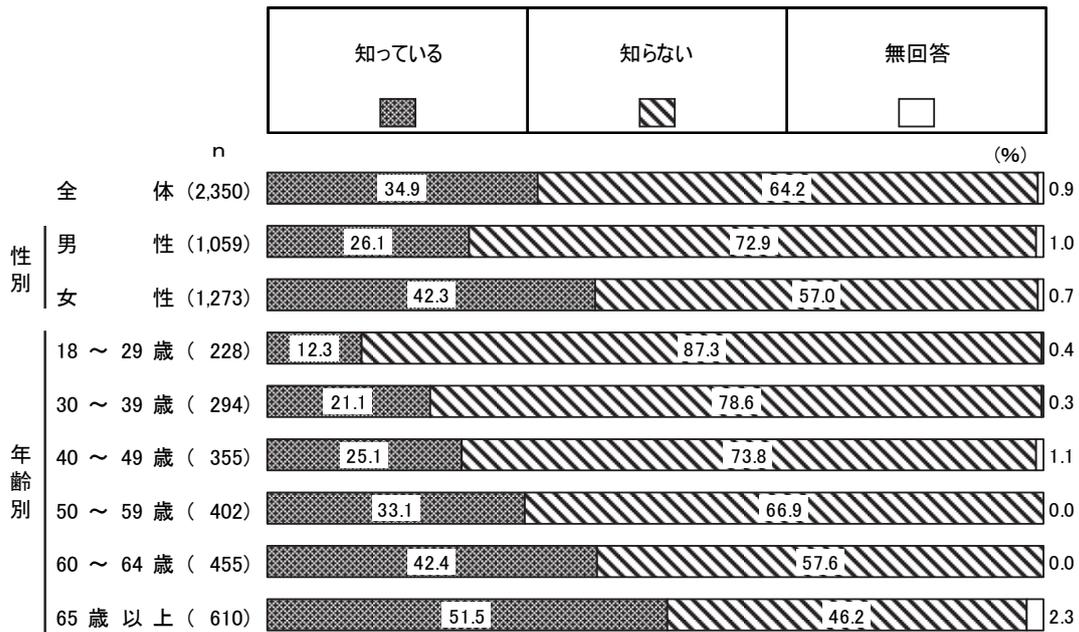
図 3-19-1 「高齢者あんしん相談センター」の周知度—全体、経年比較



「高齢者あんしん相談センター」を知っているか聞いたところ、「知っている」(34.9%)は3割台半ばとなっている。一方、「知らない」(64.2%)は6割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「知らない」は令和5年(2023年)(61.2%)より3.0ポイント増加している。(図3-19-1)

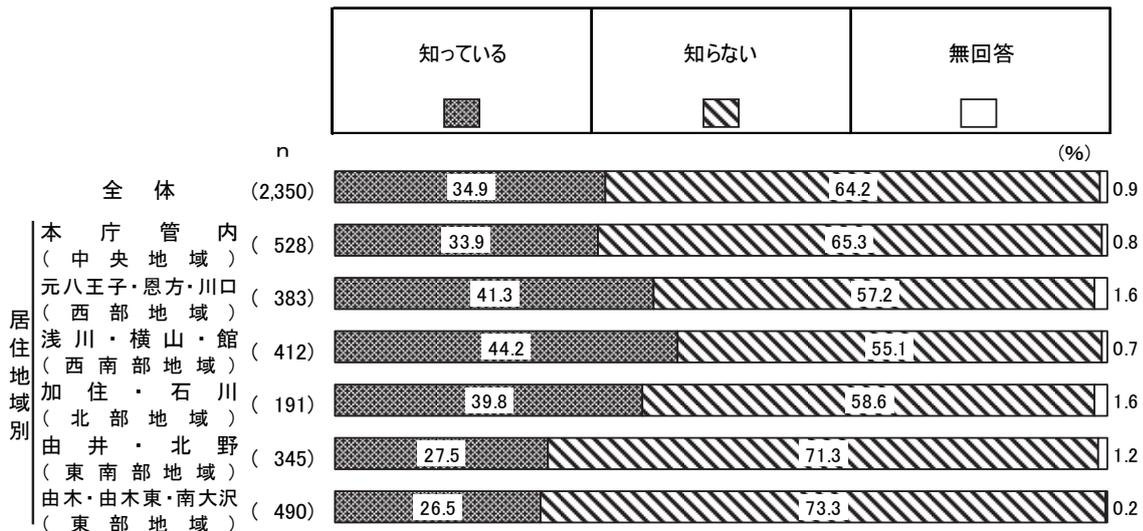
図 3-19-2 「高齢者あんしん相談センター」の周知度—性別、年齢別



性別にみると、「知っている」は女性（42.3%）が男性（26.1%）より 16.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は年代が高くなるほど割合が高く、65 歳以上（51.5%）で 5 割強と多くなっている。（図 3-19-2）

図 3-19-3 「高齢者あんしん相談センター」の周知度—居住地域別



居住地域別にみると、「知っている」は浅川・横山・館（西南部地域）（44.2%）で 4 割台半ばと多くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（73.3%）、由井・北野（東南部地域）（71.3%）で 7 割強と多くなっている。（図 3-19-3）

(20) 「はちまるサポート」の認知度

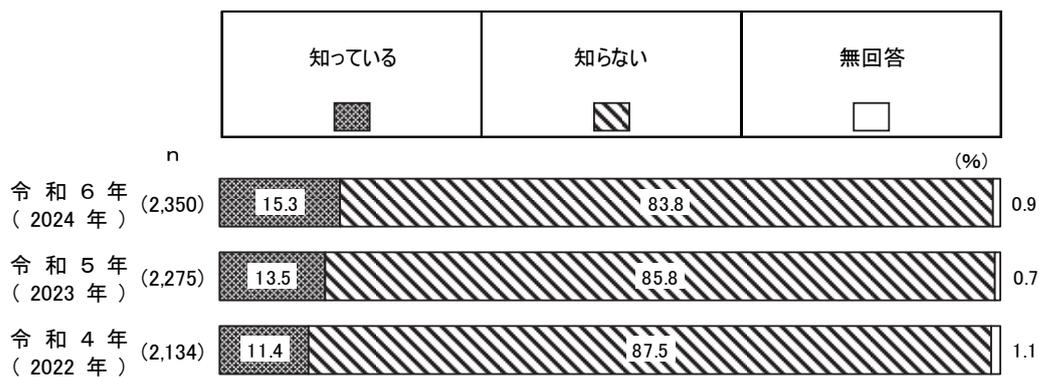
◇「知っている」が1割台半ば

問 29 あなたは、「はちまるサポート」を知っていますか。(○は1つだけ)

※はちまるサポートとは・・・

八王子まるごとサポートセンター（愛称：はちまるサポート）では、社会福祉協議会の職員であるCSW(コミュニティーソーシャルワーカー)が常駐し、地域課題・生活課題を受け付けています。内容に応じて公的機関やサービスにつないだり、地域活動団体や資源とのコーディネートを行っています。(地域でサロンを立ち上げたい、地域で困っている人がいる、どこで相談したらいいかわからないなど高齢者や要援護者に限らず、すべての方を対象に相談を受け付けます。)

図 3-20-1 「はちまるサポート」の認知度—全体、経年比較

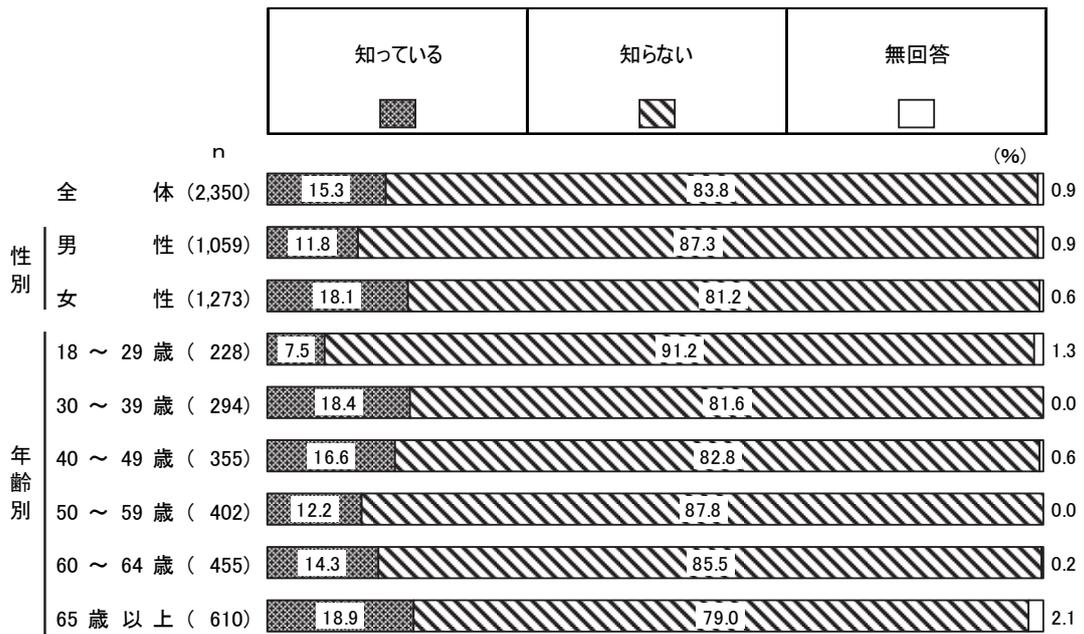


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和 4 年及び 5 年) 結果と比較

「はちまるサポート」を知っているか聞いたところ、「知っている」(15.3%)は1割台半ばとなっている。一方、「知らない」(83.8%)は8割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「知らない」は令和 5 年(2023 年)(85.8%)より 2.0 ポイント減少している。(図 3-20-1)

図3-20-2 「はちまるサポート」の認知度—性別、年齢別

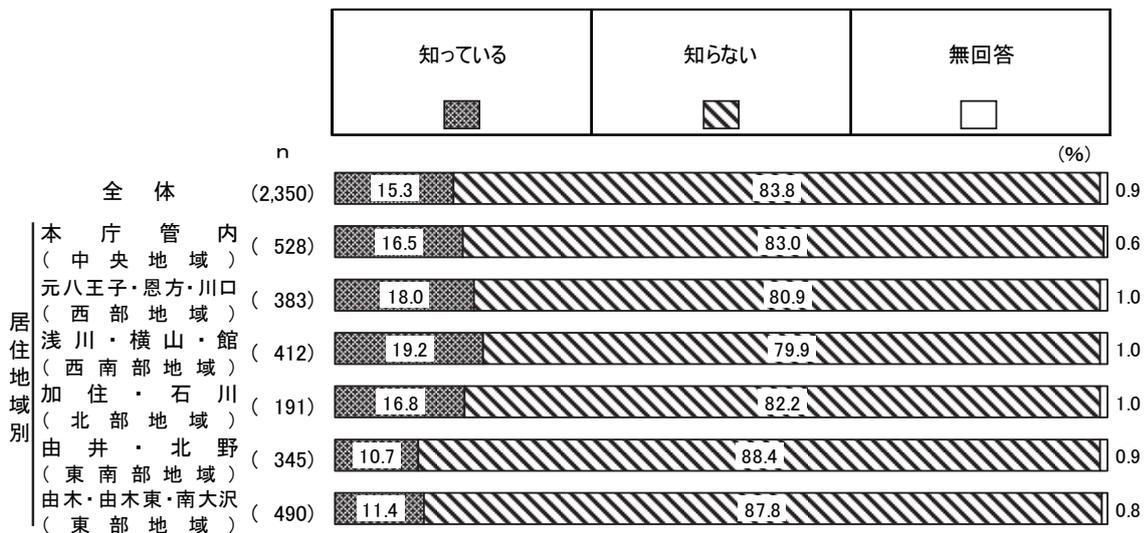


性別にみると、「知っている」は女性（18.1%）が男性（11.8%）より 6.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知らない」は18~29歳（91.2%）で9割強と多くなっている。

(図3-20-2)

図3-20-3 「はちまるサポート」の認知度—居住地域別



居住地域別にみると、「知らない」は由井・北野（東南部地域）（88.4%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（87.8%）で9割近くと多くなっている。（図3-20-3）

(21) 障害のある方への理解や配慮

◇《《している》》が7割強

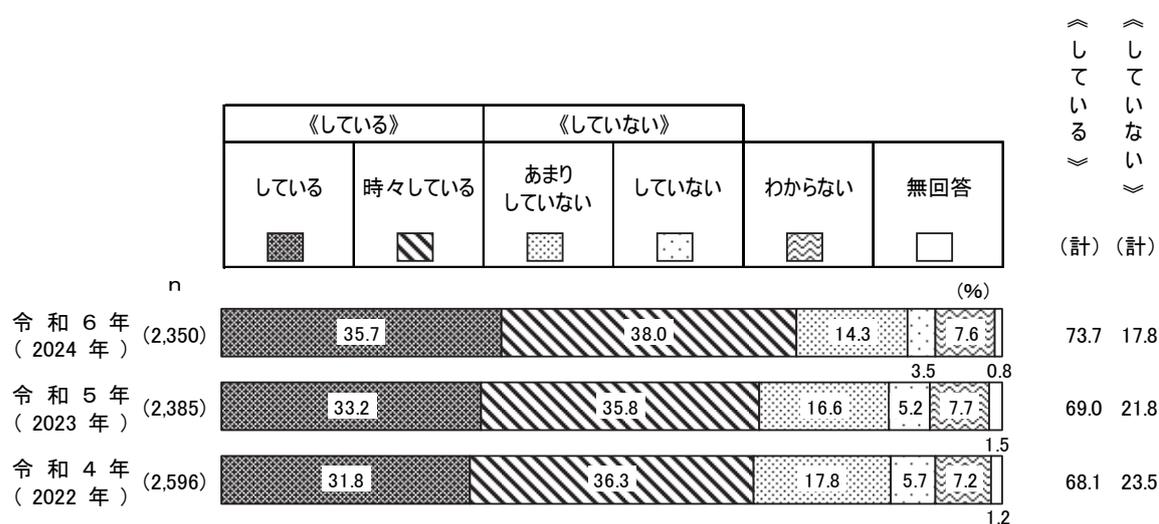
問 30 あなたは、日ごろ障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。

(○は1つだけ)

※「適切な配慮」とは・・・

- 困っている様子の方を見かけたら、声をかける。
- ゆっくりわかりやすく話すなどしたり、筆談したりするなど障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。
- 優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどを必要としている方の妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、内部障害、難病など、外見からは障害がわかりにくい方もいます。)

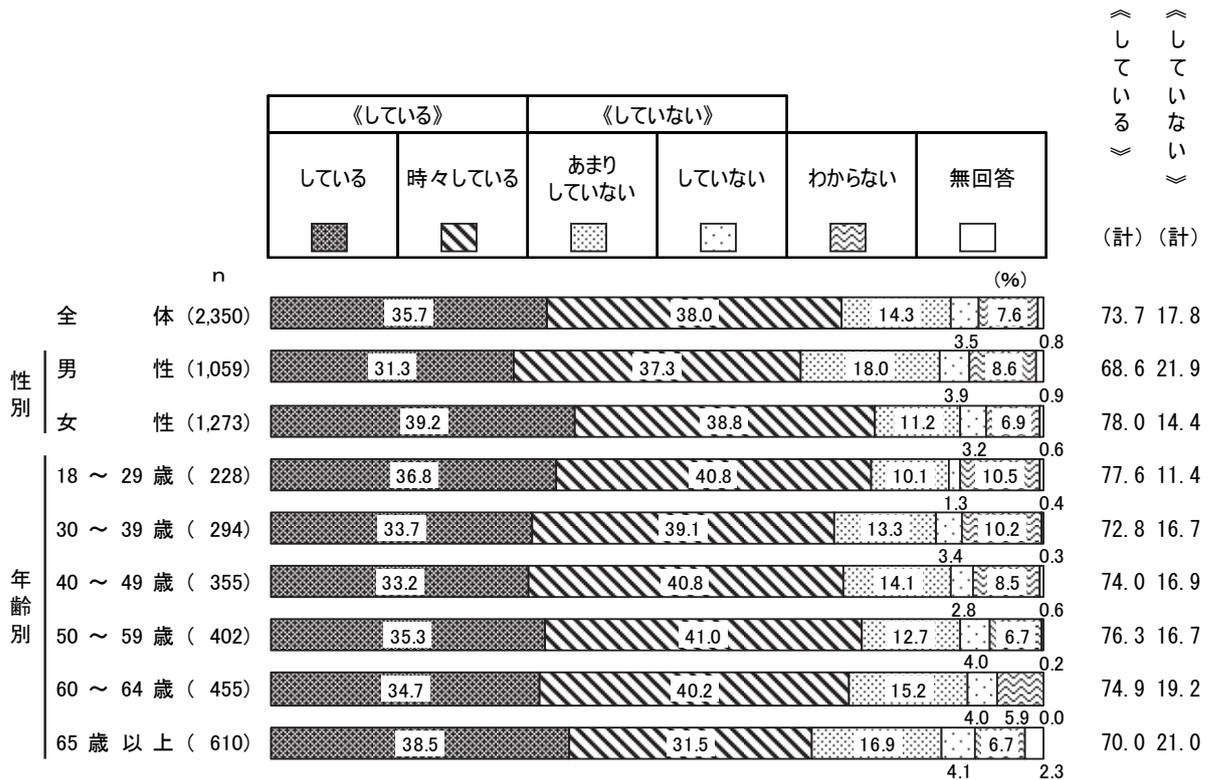
図 3-21-1 障害のある方への理解や配慮－全体、経年比較



日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「している」(35.7%)と「時々している」(38.0%)を合わせた《《している》》(73.7%)は7割強となっている。一方、「あまりしていない」(14.3%)と「していない」(3.5%)を合わせた《《していない》》(17.8%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《している》》は令和5年(2023年)(69.0%)より4.7ポイント増加している。(図3-21-1)

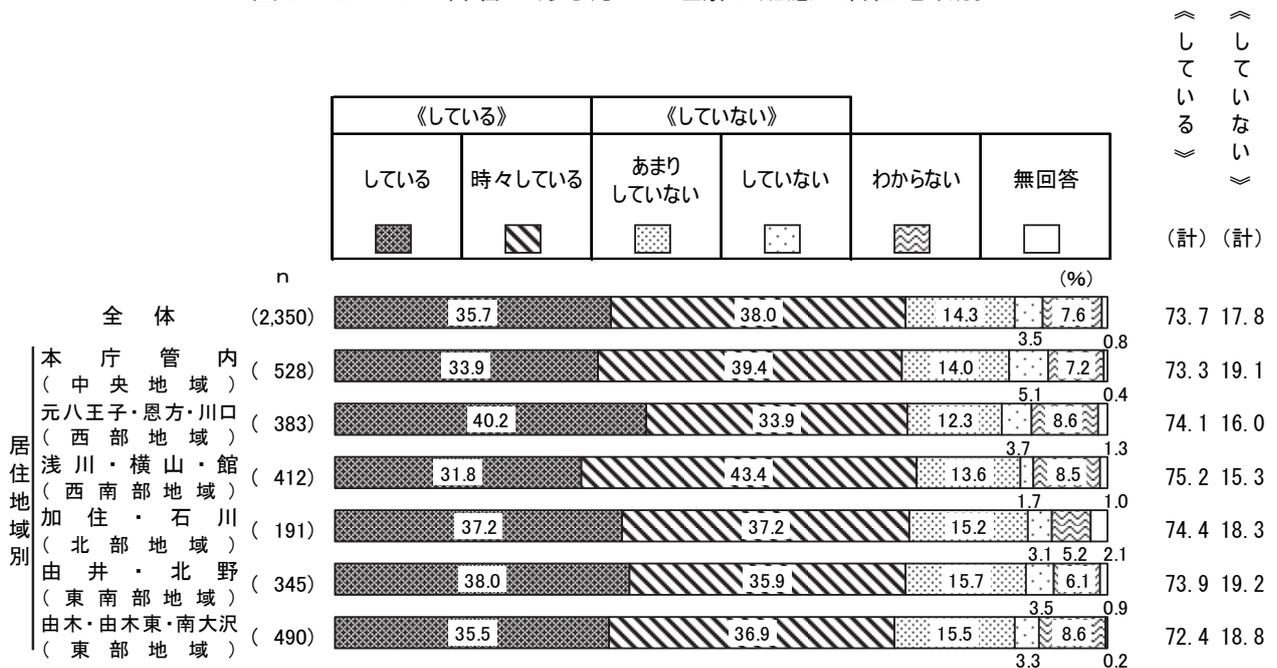
図3-21-2 障害のある方への理解や配慮—性別、年齢別



性別にみると、《している》は女性（78.0%）が男性（68.6%）より9.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《している》は18～29歳（77.6%）、50～59歳（76.3%）で8割近くと多くなっている。（図3-21-2）

図3-21-3 障害のある方への理解や配慮—居住地域別



居住地域別にみると、《している》は浅川・横山・館（西南部地域）（75.2%）、加住・石川（北部地域）（74.4%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（74.1%）で7割台半ばと多くなっている。

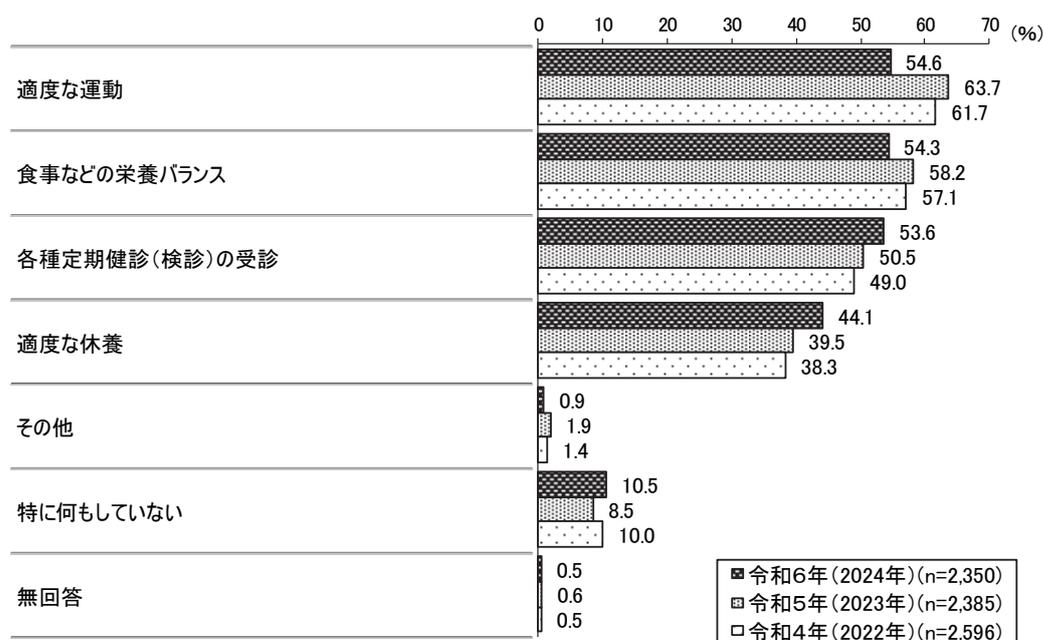
（図3-21-3）

(22) 健康のために心がけていること

◇「適度な運動」が5割台半ば

問 31 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。
(〇はいくつでも)

図 3-22-1 健康のために心がけていることー全体、経年比較

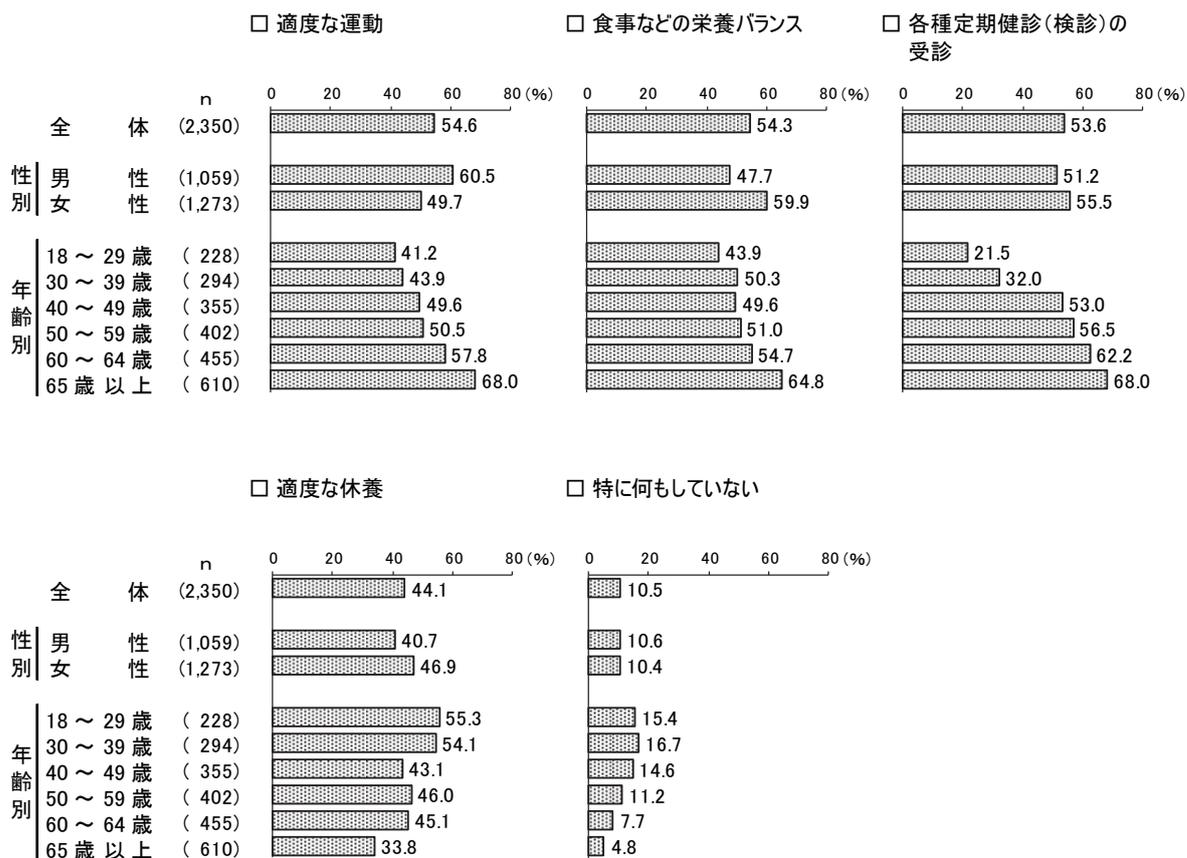


健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」(54.6%)が5割台半ばで最も多くなっている。次いで「食事などの栄養バランス」(54.3%)、「各種定期健診(検診)の受診」(53.6%)、「適度な休養」(44.1%)の順となっている。一方、「特に何もしていない」(10.5%)は約1割となっている。

前回までの調査と比較すると、「適度な休養」は令和5年(2023年)(39.5%)より4.6ポイント、「各種定期健診(検診)の受診」は令和5年(2023年)(50.5%)より3.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「適度な運動」は令和5年(2023年)(63.7%)より9.1ポイント、「食事などの栄養バランス」は令和5年(2023年)(58.2%)より3.9ポイント、それぞれ減少している。

(図 3-22-1)

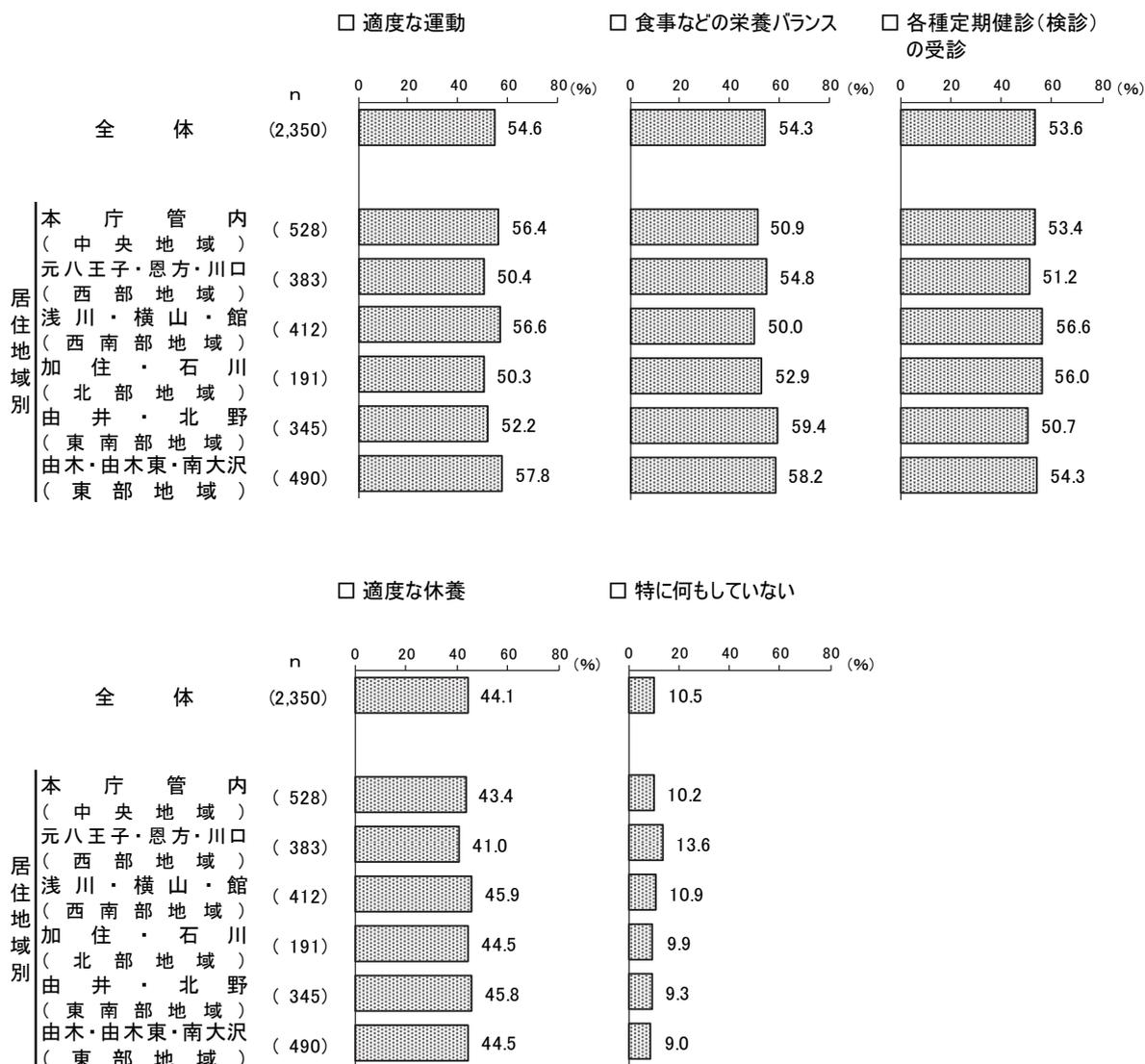
図3-22-2 健康のために心がけていることー性別、年齢別（「その他」を除く）



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性（59.9%）が男性（47.7%）より12.2ポイント、「適度な休養」は女性（46.9%）が男性（40.7%）より6.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「適度な運動」は男性（60.5%）が女性（49.7%）より10.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「適度な運動」と「各種定期健診（検診）の受診」は年代が高くなるほど割合が高く、どちらも65歳以上（ともに68.0%）で7割近くと多くなっている。「食事などの栄養バランス」は65歳以上（64.8%）で6割台半ばと多くなっている。（図3-22-2）

図3-22-3 健康のために心がけていること－居住地域別（「その他」を除く）



居住地域別にみると、「適度な運動」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（57.8%）、浅川・横山・館（西南部地域）（56.6%）、本庁管内（中央地域）（56.4%）で6割近くと多くなっている。「食事などの栄養バランス」は由井・北野（東南部地域）（59.4%）で6割弱と多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は浅川・横山・館（西南部地域）（56.6%）、加住・石川（北部地域）（56.0%）で6割近くと多くなっている。（図3-22-3）

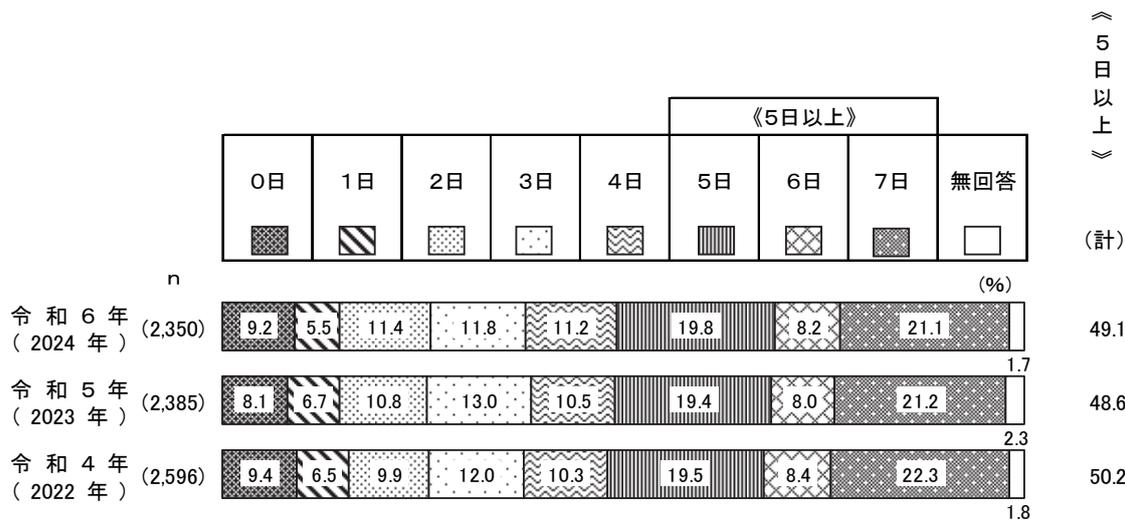
(23) 1週間のうち、10分間以上続けて歩く日数

◇《5日以上》が5割弱

問 32 1週間のうち、あなたが10分間以上続けて歩く日は何日ありますか。(○は1つだけ)

※歩くとは仕事や日常生活で歩くこと、ある場所からある場所へ移動すること、あるいは趣味や運動としてのウォーキング、散歩などを含みます。

図 3-23-1 1週間のうち、10分間以上続けて歩く日数—全体、経年比較

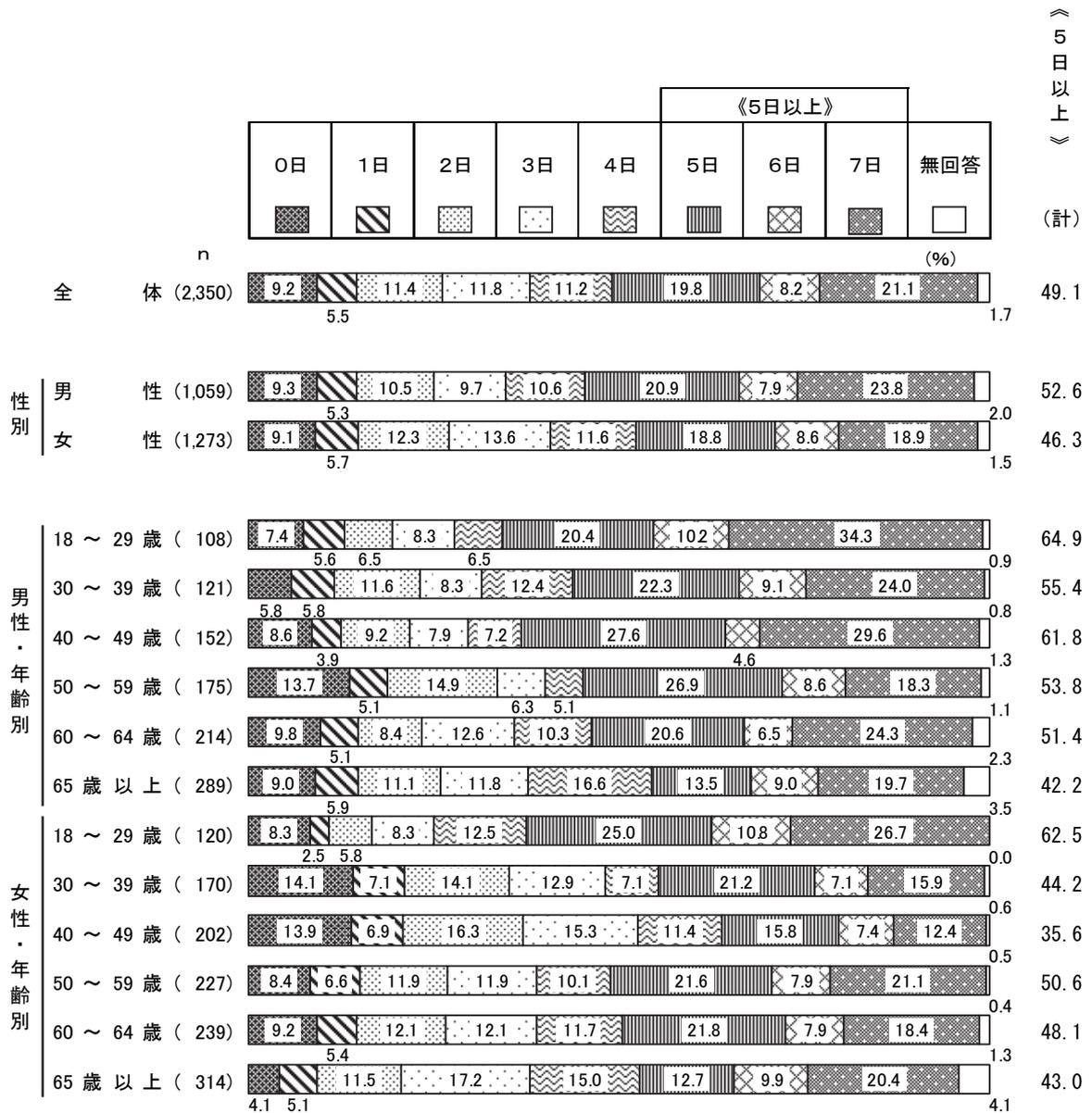


1週間のうち、10分間以上続けて歩く日は何日あるか聞いたところ、「7日」(21.1%)が2割強で最も多く、これに「5日」(19.8%)と「6日」(8.2%)を合わせた《5日以上》(49.1%)は5割弱となっている。一方、「0日」(9.2%)は1割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図 3-23-1)

図3-23-2 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数—性別、性・年齢別

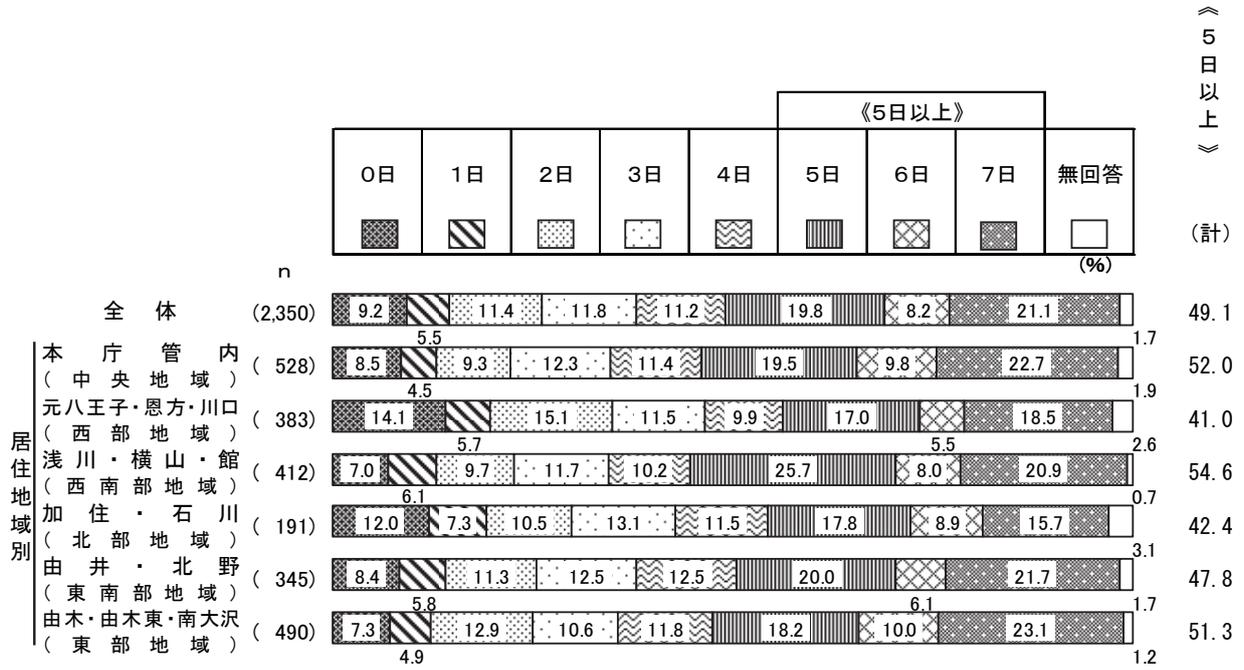


性別にみると、《5日以上》は男性（52.6%）が女性（46.3%）より6.3ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《5日以上》は男性18～29歳（64.9%）で6割台半ばと多くなっている。

(図3-23-2)

図3-23-3 1週間のうち、10分間以上続けて歩く日数—居住地域別



居住地域別にみると、《5日以上》は浅川・横山・館（西南部地域）（54.6%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-23-3）

(24) 1日の平均的な歩行時間と平均歩数

◇《30分以内》が5割強、《60分以上》が約3割

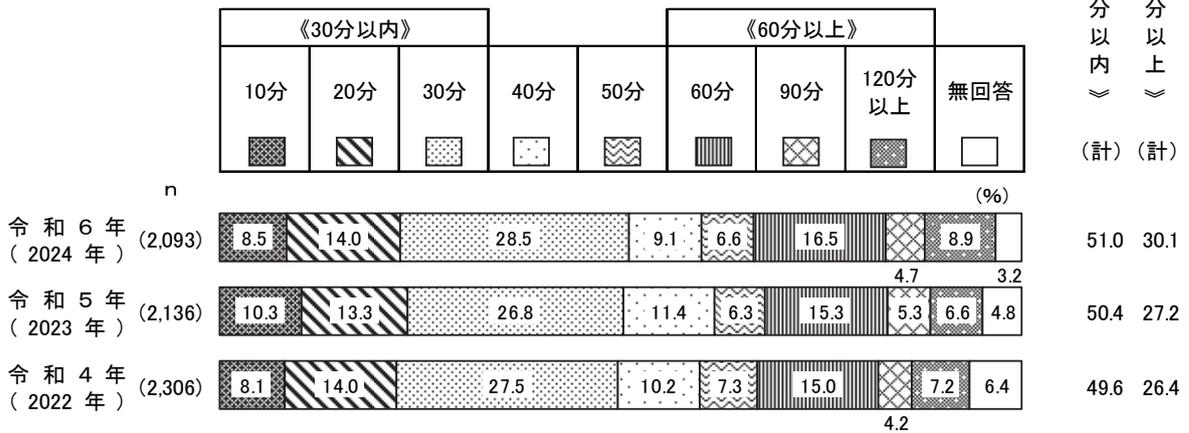
(問32で「1日」～「7日」とお答えの方へ)

問32-1 10分間以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度ですか。

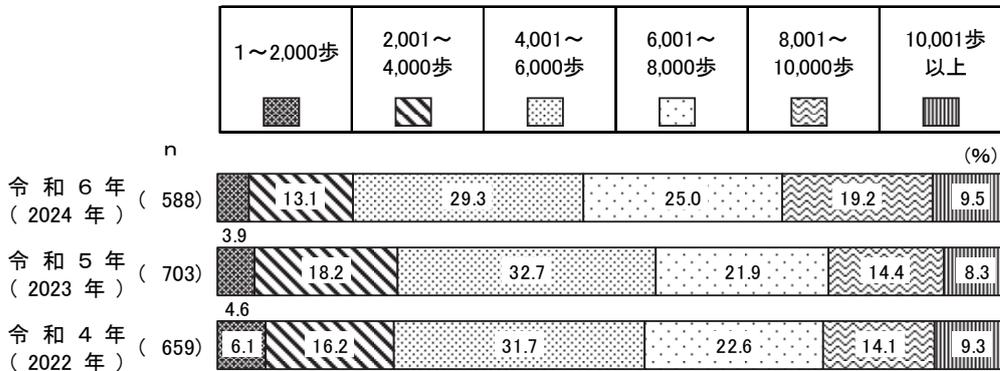
(○は1つだけ) また歩数計を所持している方は歩数を記入してください。

図3-24-1 1日の平均的な歩行時間と平均歩数－全体、経年比較

【歩行時間】



【歩数】



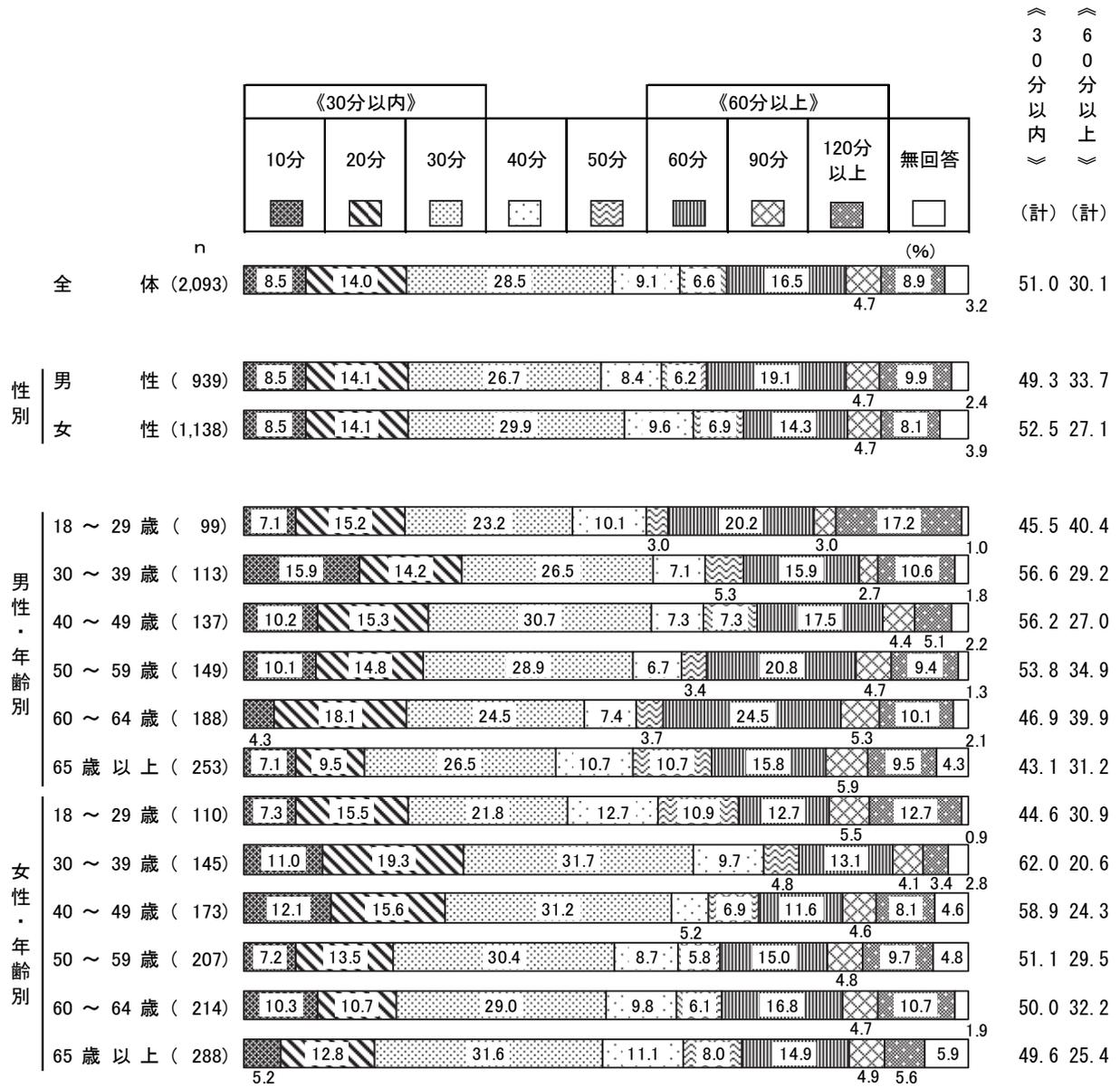
10分間以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度か聞いたところ、「30分」(28.5%)が3割近くで最も多く、これに「10分」(8.5%)と「20分」(14.0%)を合わせた《30分以内》(51.0%)は5割強となっている。また、「60分」(16.5%)、「90分」(4.7%)、「120分以上」(8.9%)の3つを合わせた《60分以上》(30.1%)は約3割となっている。

前回までの調査と比較すると、《60分以上》は令和5年(2023年)(27.2%)より2.9ポイント増加している。

1日の平均的な歩数について聞いたところ、「4,001～6,000歩」(29.3%)が3割弱で最も多く、次いで「6,001～8,000歩」(25.0%)、「8,001～10,000歩」(19.2%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「8,001～10,000歩」は令和5年(2023年)(14.4%)より4.8ポイント増加している。一方、「2,001～4,000歩」は令和5年(2023年)(18.2%)より5.1ポイント減少している。(図3-24-1)

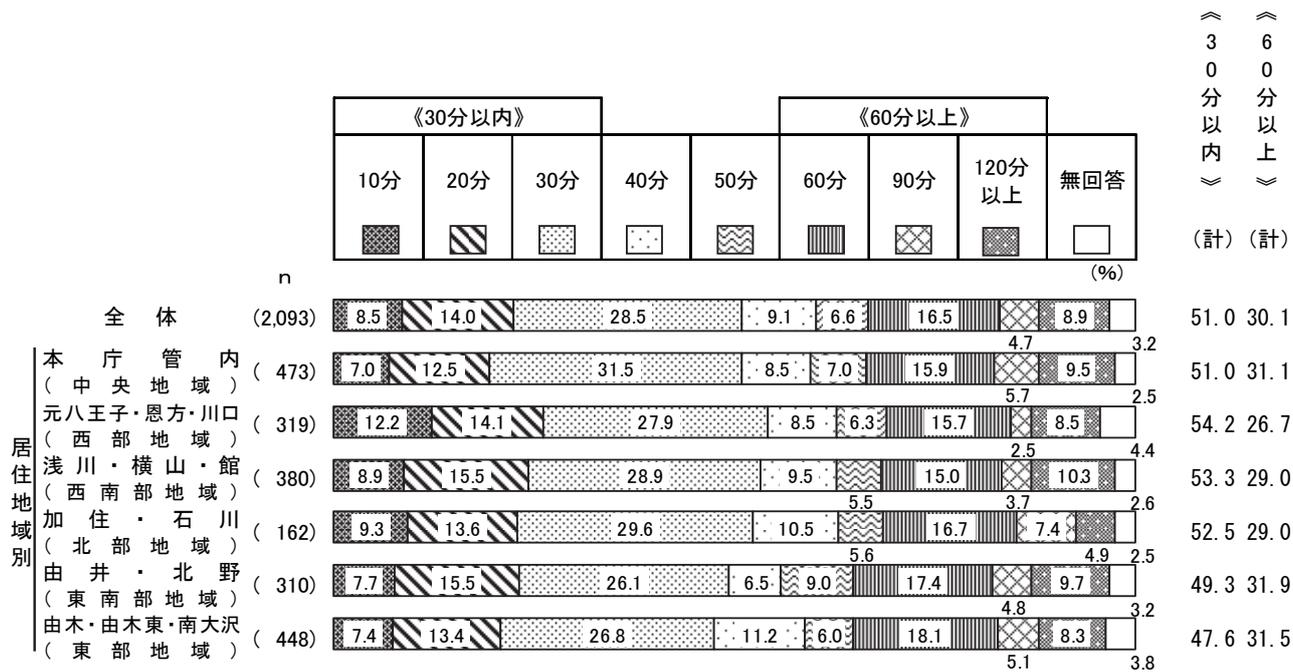
図3-24-2 1日の平均的な歩行時間—性別、性・年齢別



性別にみると、《60分以上》は男性（33.7%）が女性（27.1%）より6.6ポイント高くなっている。

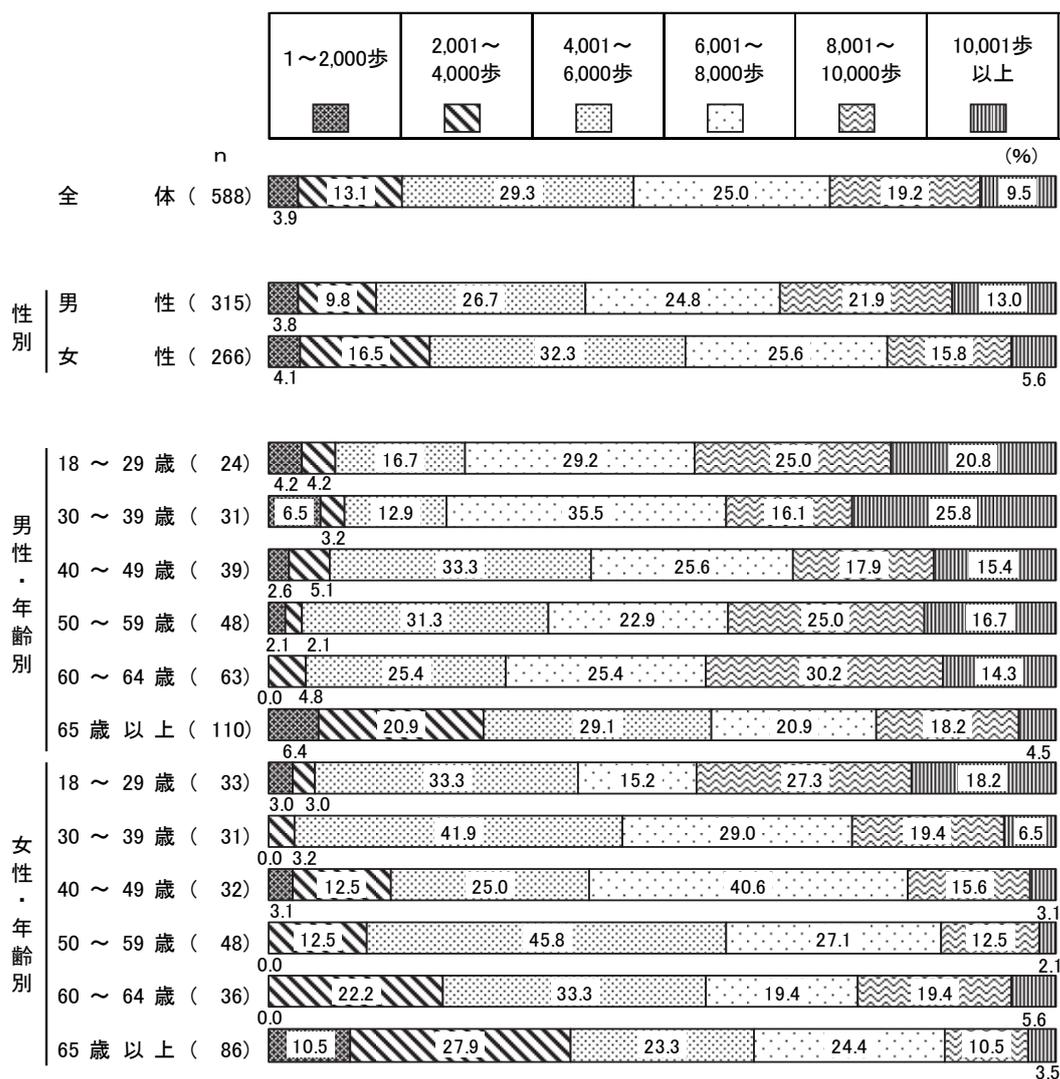
性・年齢別にみると、《30分以内》は女性30～39歳（62.0%）で6割強と多くなっている。一方、《60分以上》は男性18～29歳（40.4%）で約4割と多くなっている。（図3-24-2）

図3-24-3 1日の平均的な歩行時間—居住地域別



居住地域別にみると、《30分以内》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（54.2%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-24-3）

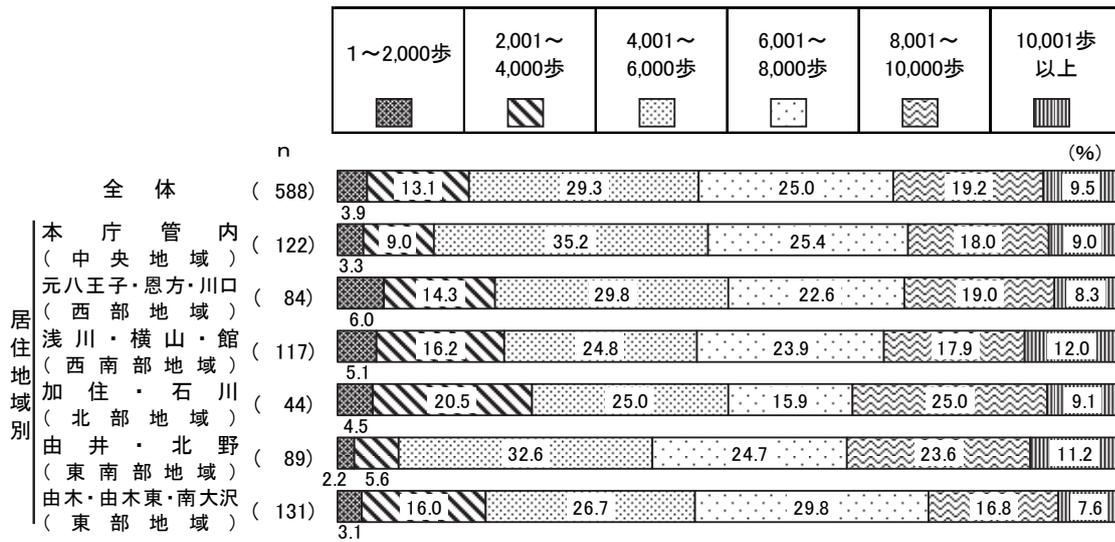
図 3-24-4 1日の平均歩数－性別、性・年齢別



性別にみると、「10,001歩以上」は男性（13.0%）が女性（5.6%）より7.4ポイント、「8,001~10,000歩」は男性（21.9%）が女性（15.8%）より6.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「2,001~4,000歩」は女性（16.5%）が男性（9.8%）より6.7ポイント、「4,001~6,000歩」は女性（32.3%）が男性（26.7%）より5.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「4,001~6,000歩」は女性50~59歳（45.8%）で4割台半ばと多くなっている。「6,001~8,000歩」は女性40~49歳（40.6%）で約4割と多くなっている。「8,001~10,000歩」は男性60~64歳（30.2%）で約3割と多くなっている。（図3-24-4）

図3-24-5 1日の平均歩数－居住地域別



居住地域別にみると、「4,001～6,000歩」は本庁管内（中央地域）（35.2%）で3割台半ばと多くなっている。「6,001～8,000歩」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（29.8%）で3割弱と多くなっている。（図3-24-5）

(25) 10 分間以上続けて歩く日の主な外出目的

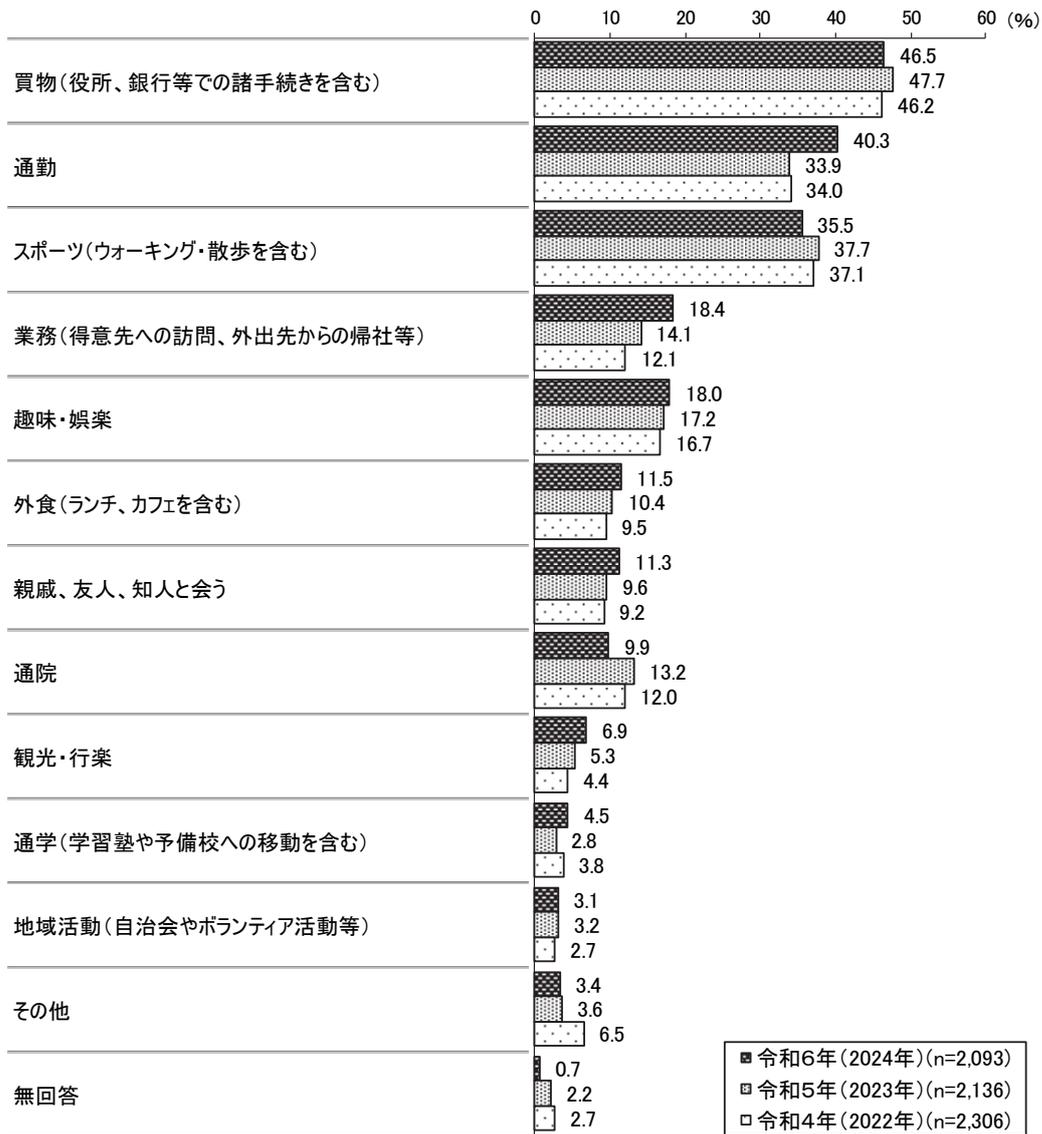
◇「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」が5割近く

(問 32 で「1 日」～「7 日」とお答えの方へ)

問 32-2 10 分間以上続けて歩く日の主な外出目的についてお答えください。

(○はいくつでも)

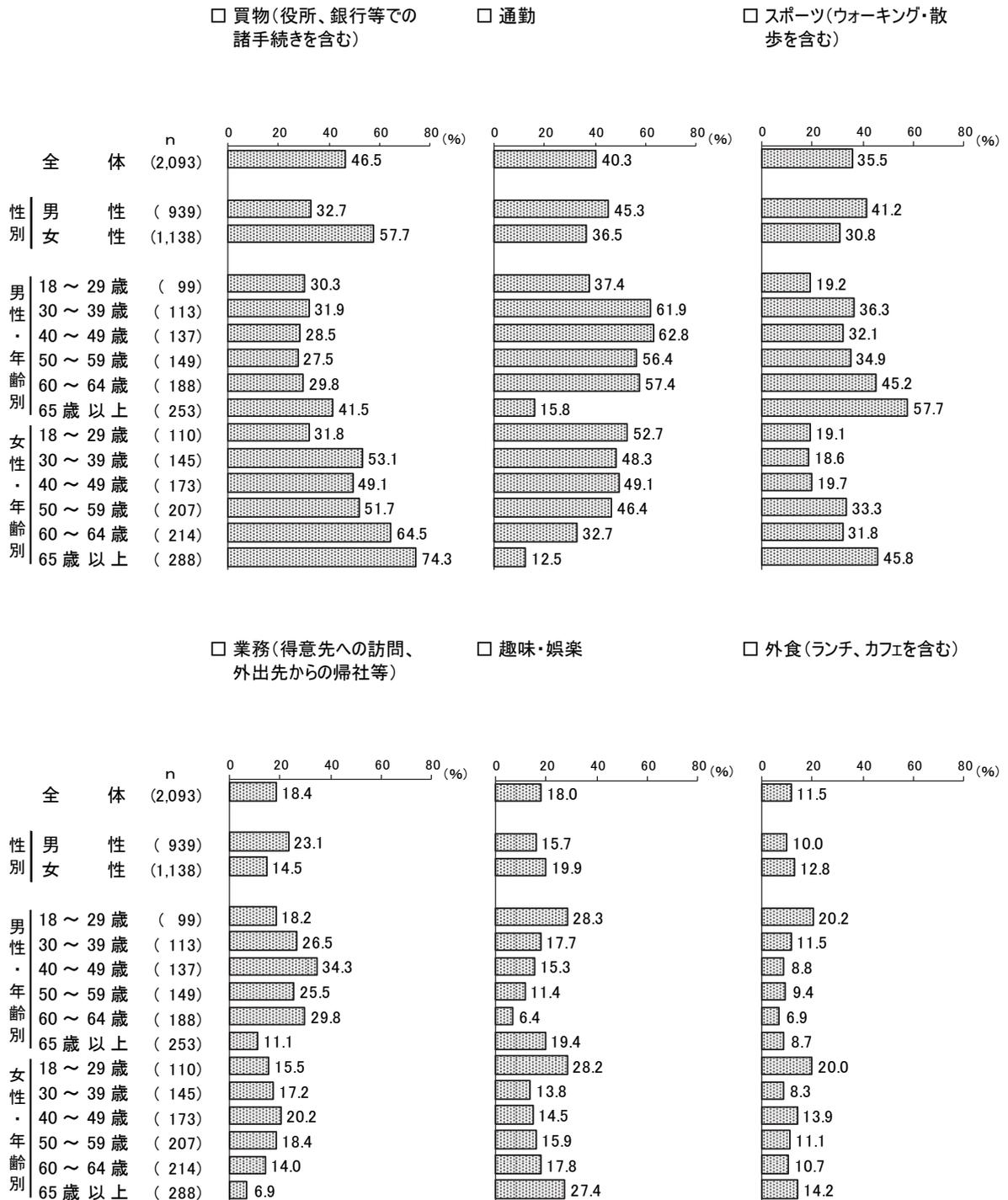
図 3-25-1 10 分間以上続けて歩く日の主な外出目的—全体、経年比較



1 週間のうち、10 分間以上続けて歩く日があると回答した 2,093 人に、主な外出目的について聞いたところ、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」（46.5%）が5割近くで最も多くなっている。次いで「通勤」（40.3%）、「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」（35.5%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「通勤」は令和5年（2023年）（33.9%）より6.4ポイント増加している。（図3-25-1）

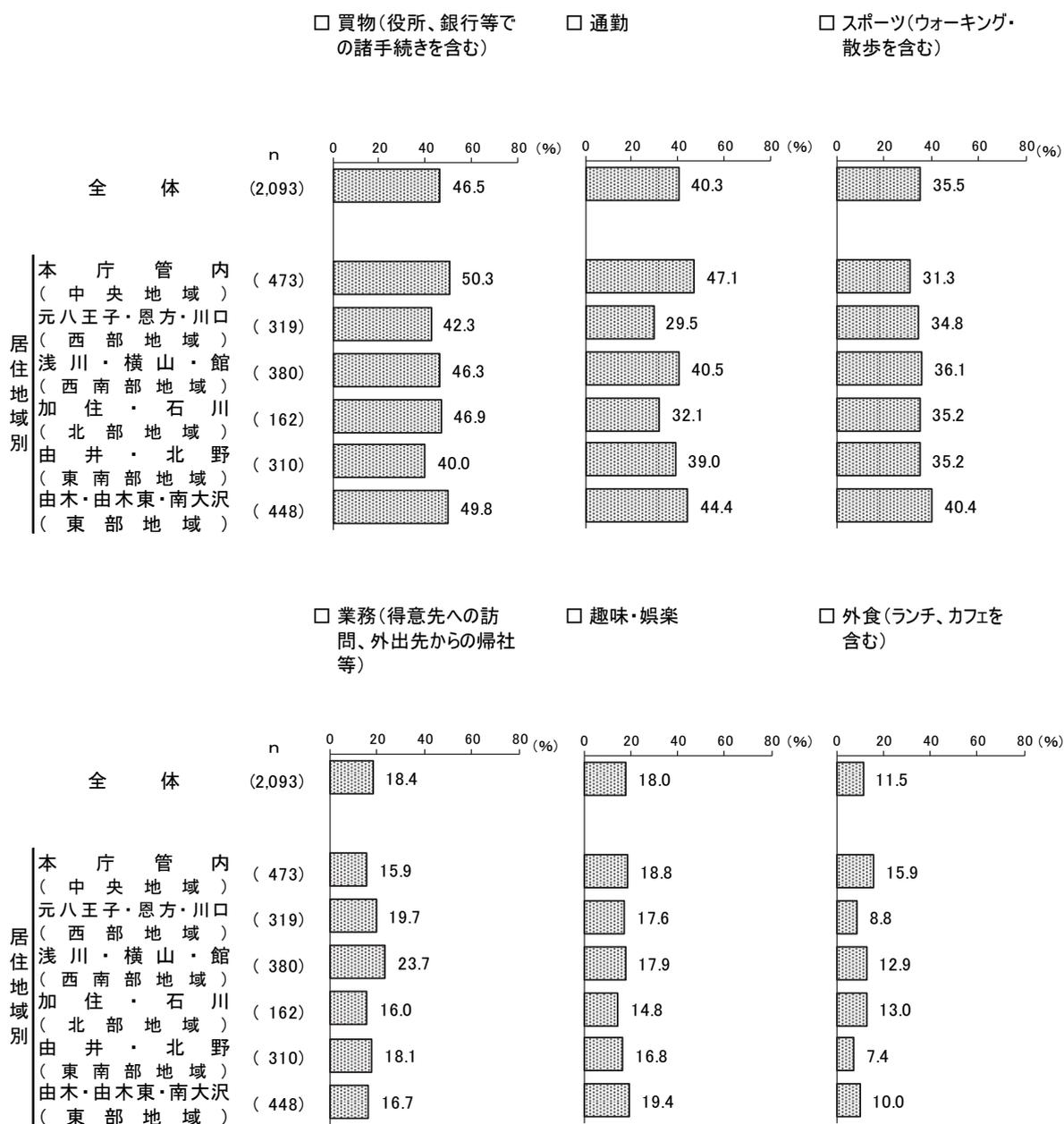
図3-25-2 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的一性別、性・年齢別（上位6項目）



性別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性（57.7%）が男性（32.7%）より25.0ポイント高くなっている。一方、「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は男性（41.2%）が女性（30.8%）より10.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性65歳以上（74.3%）で7割台半ば、女性60～64歳（64.5%）で6割台半ばと多くなっている。「通勤」は男性40～49歳（62.8%）、男性30～39歳（61.9%）で6割強と多くなっている。「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は男性65歳以上（57.7%）で6割近くと多くなっている。（図3-25-2）

図3-25-3 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的—居住地地域別（上位6項目）



居住地地域別にみると、「買物(役所、銀行等での諸手続きを含む)」は本庁管内(中央地域)(50.3%)で約5割と多くなっている。「通勤」は本庁管内(中央地域)(47.1%)で5割近くと多くなっている。「スポーツ(ウォーキング・散歩を含む)」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(40.4%)で約4割と多くなっている。(図3-25-3)

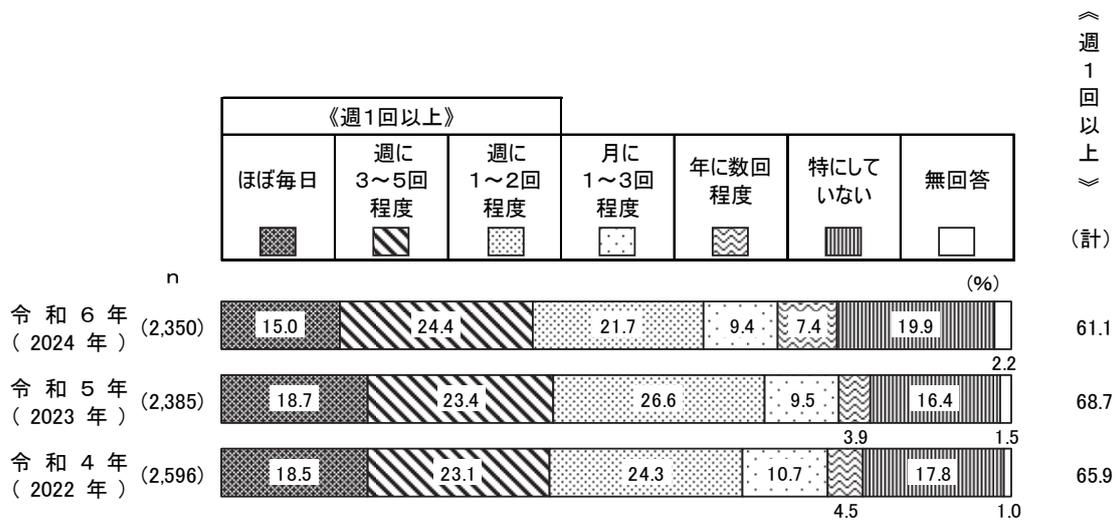
(26) この1年間の運動頻度

◇《週1回以上》が6割強

問 33 あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計回数をお答えください。(〇は1つだけ)

※運動には、野外活動（登山やハイキングなど）や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩（散策、ペットの散歩を含む）などで1日合計30分以上行うものも含まれます。

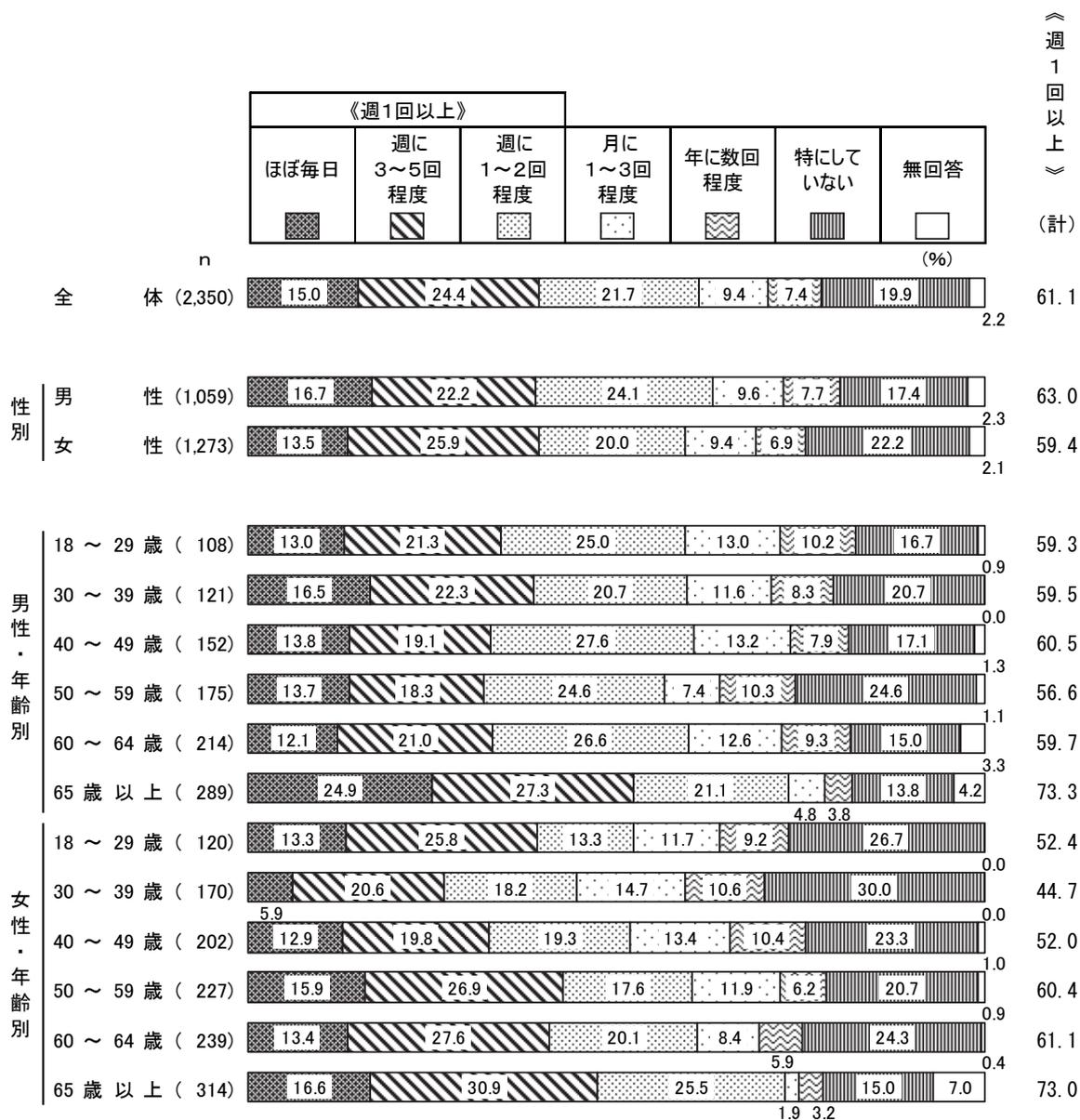
図3-26-1 この1年間の運動頻度—全体、経年比較



この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」(15.0%)、「週に3~5回程度」(24.4%)、「週に1~2回程度」(21.7%)の3つを合わせた《週1回以上》(61.1%)は6割強となっている。また、「月に1~3回程度」(9.4%)は1割弱、「年に数回程度」(7.4%)は1割近くとなっている。一方、「特にしていない」(19.9%)は2割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、《週1回以上》は令和5年(2023年)(68.7%)より7.6ポイント減少している。(図3-26-1)

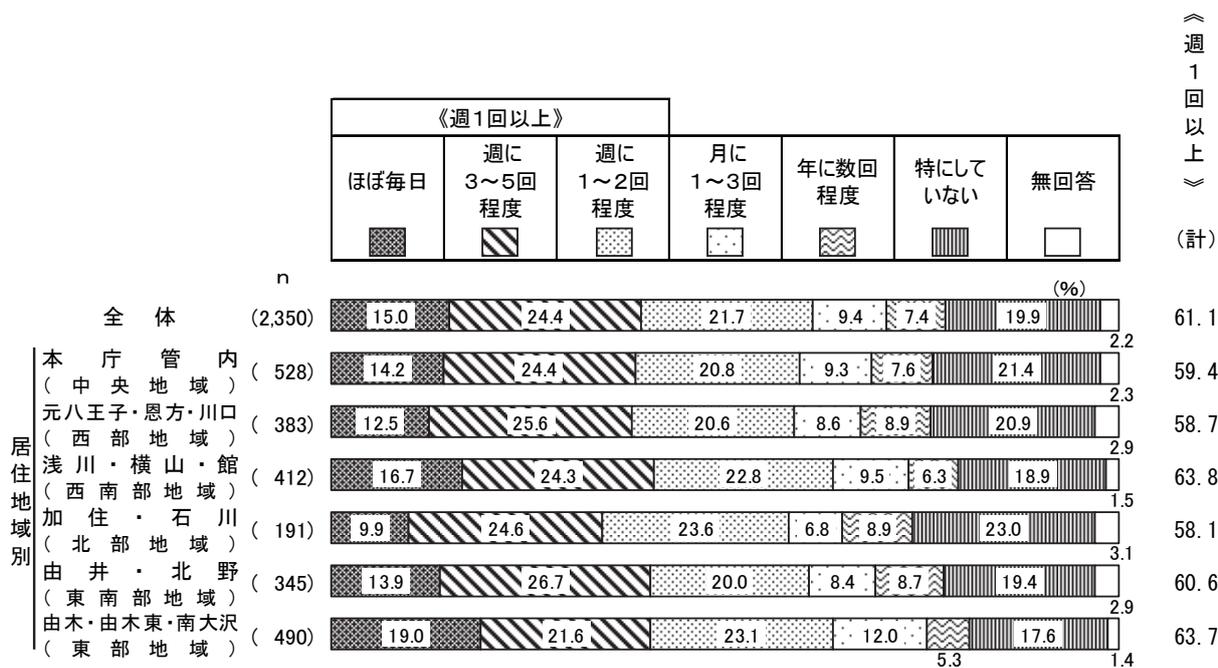
図3-26-2 この1年間の運動頻度—性別、性・年齢別



性別にみると、《週1回以上》は男性（63.0%）が女性（59.4%）より3.6ポイント高くなっている。一方、「特にしていない」は女性（22.2%）が男性（17.4%）より4.8ポイント高くなっている。

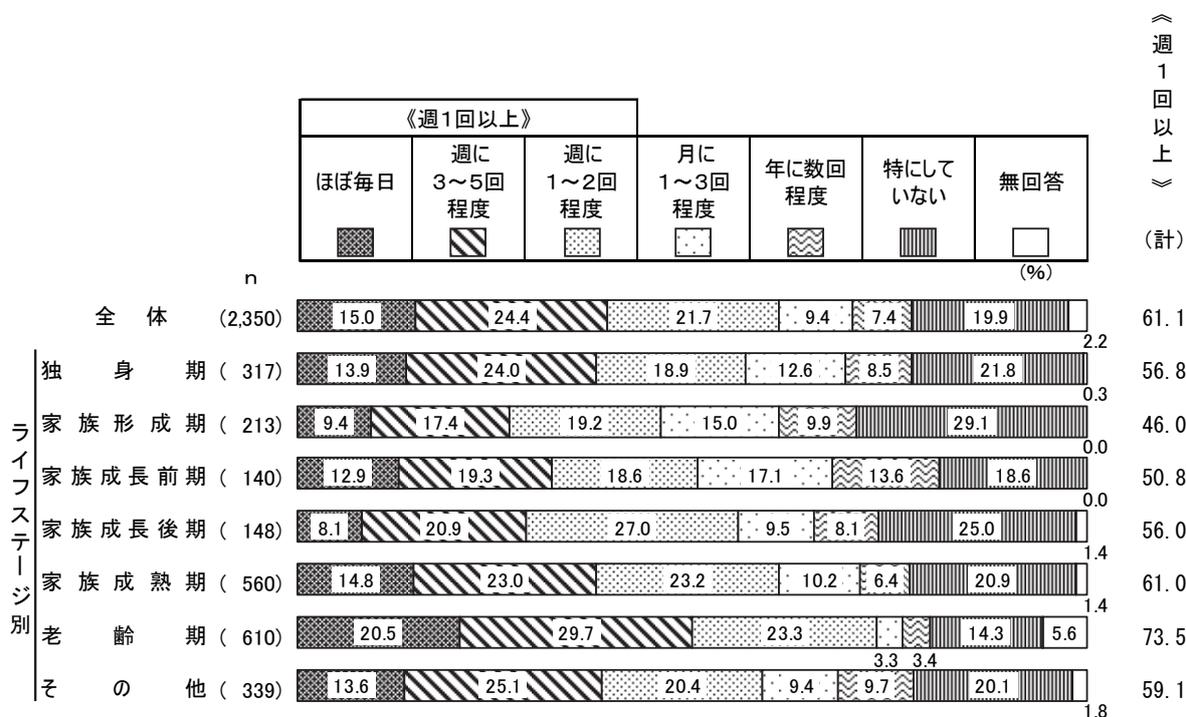
性・年齢別にみると、《週1回以上》は男性65歳以上（73.3%）、女性65歳以上（73.0%）で7割強と多くなっている。一方、「特にしていない」は女性30~39歳（30.0%）で3割と多くなっている。（図3-26-2）

図3-26-3 この1年間の運動頻度－居住地地域別



居住地地域別にみると、《週1回以上》は浅川・横山・館（西南部地域）（63.8%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（63.7%）で6割強と多くなっている。（図3-26-3）

図3-26-4 この1年間の運動頻度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《週1回以上》は老齢期（73.5%）で7割強と多くなっている。一方、「特にしていない」は家族形成期（29.1%）で3割弱と多くなっている。（図3-26-4）

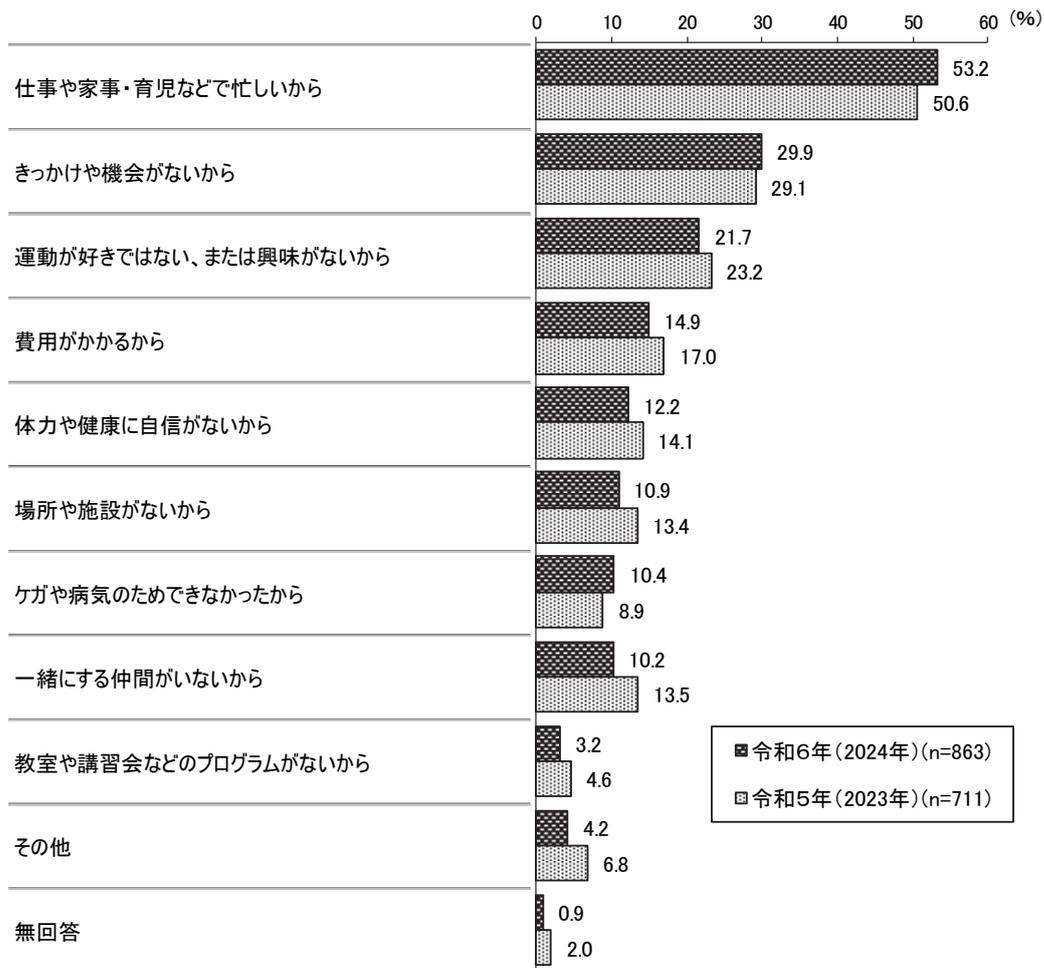
(27) 週1回以上運動しなかった理由

◇「仕事や家事・育児などで忙しいから」が5割強

(問33で「月に1～3回程度」「年に数回程度」「特にしていない」とお答えの方へ)

問33-1 八王子市では「スポーツ推進計画」を策定し、週1回以上スポーツ(運動)をする人を増やす取り組みを進めています。あなたが、週1回以上運動しなかった理由をお知らせください。(〇はいくつでも)

図3-27-1 週1回以上運動しなかった理由-全体、経年比較

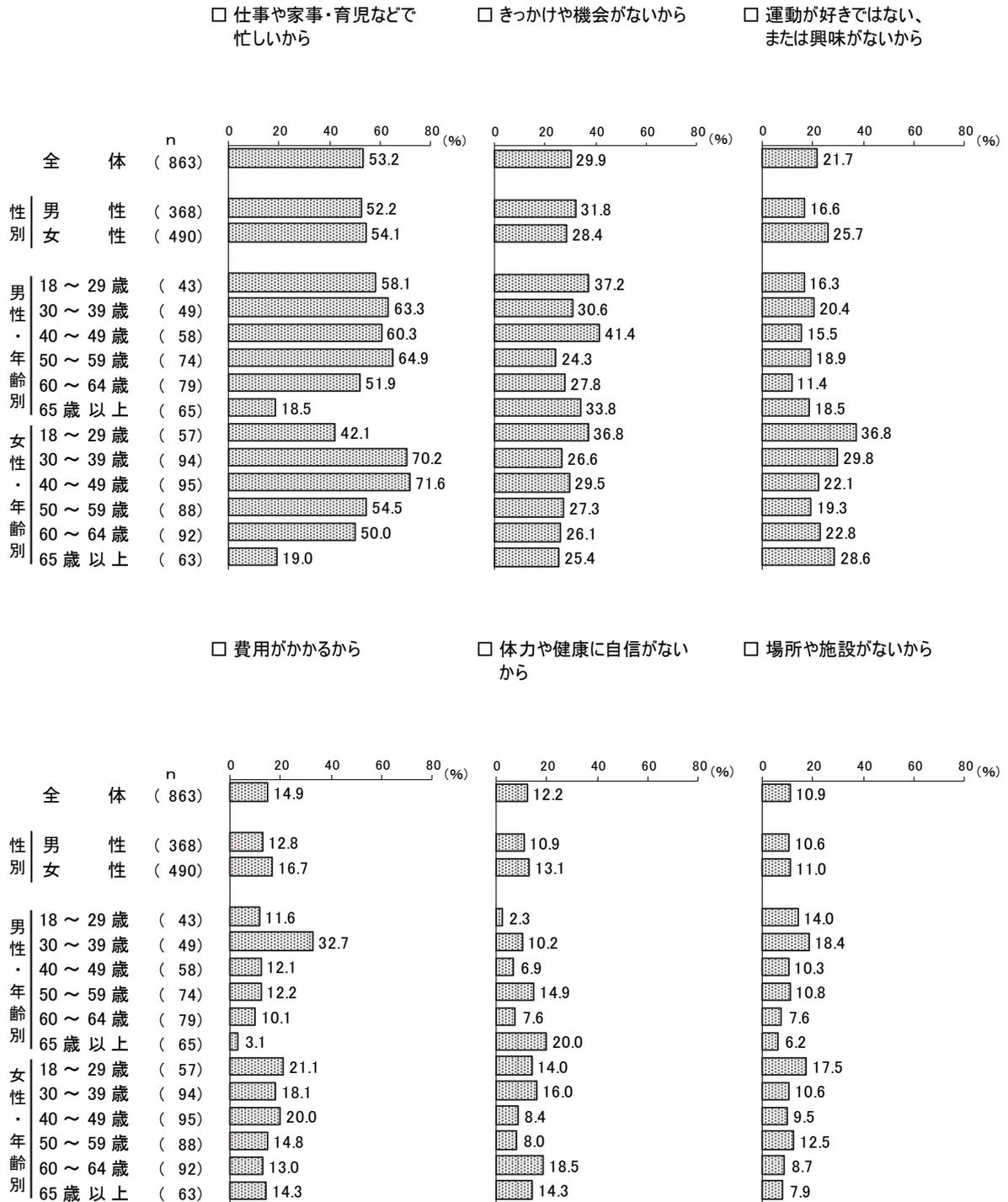


(注)「ケガや病気のためできなかったから」は、令和5年(2023年)は「ケガや病気のためできなかった」としていた。

運動頻度が週1回未満と回答した863人に、週1回以上運動しなかった理由を聞いたところ、「仕事や家事・育児などで忙しいから」(53.2%)が5割強で最も多くなっている。次いで「きっかけや機会がないから」(29.9%)、「運動が好きではない、または興味がないから」(21.7%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「仕事や家事・育児などで忙しいから」は令和5年(2023年)(50.6%)より2.6ポイント増加している。一方、「一緒にする仲間がないから」は令和5年(2023年)(13.5%)より3.3ポイント、「場所や施設がないから」は令和5年(2023年)(13.4%)より2.5ポイント、それぞれ減少している。(図3-27-1)

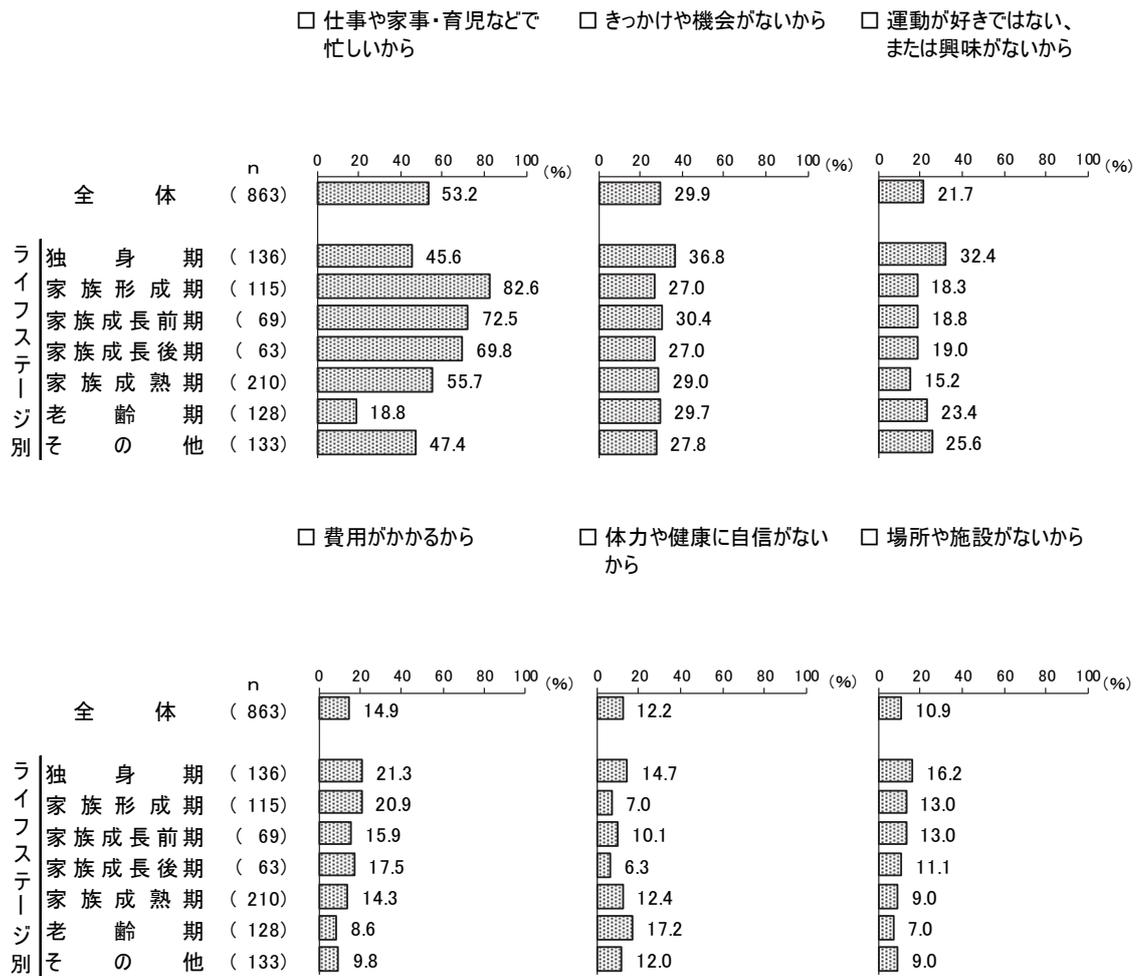
図3-27-2 週1回以上運動しなかった理由—性別、性・年齢別（上位6項目）



性別にみると、「運動が好きではない、または興味がないから」は女性（25.7%）が男性（16.6%）より9.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「仕事や家事・育児などで忙しいから」は女性40～49歳（71.6%）で7割強、女性30～39歳（70.2%）で約7割と多くなっている。「きっかけや機会がないから」は男性40～49歳（41.4%）で4割強と多くなっている。「運動が好きではない、または興味がないから」は女性18～29歳（36.8%）で4割近くと多くなっている。（図3-27-2）

図3-27-3 週1回以上運動しなかった理由－ライフステージ別（上位6項目）



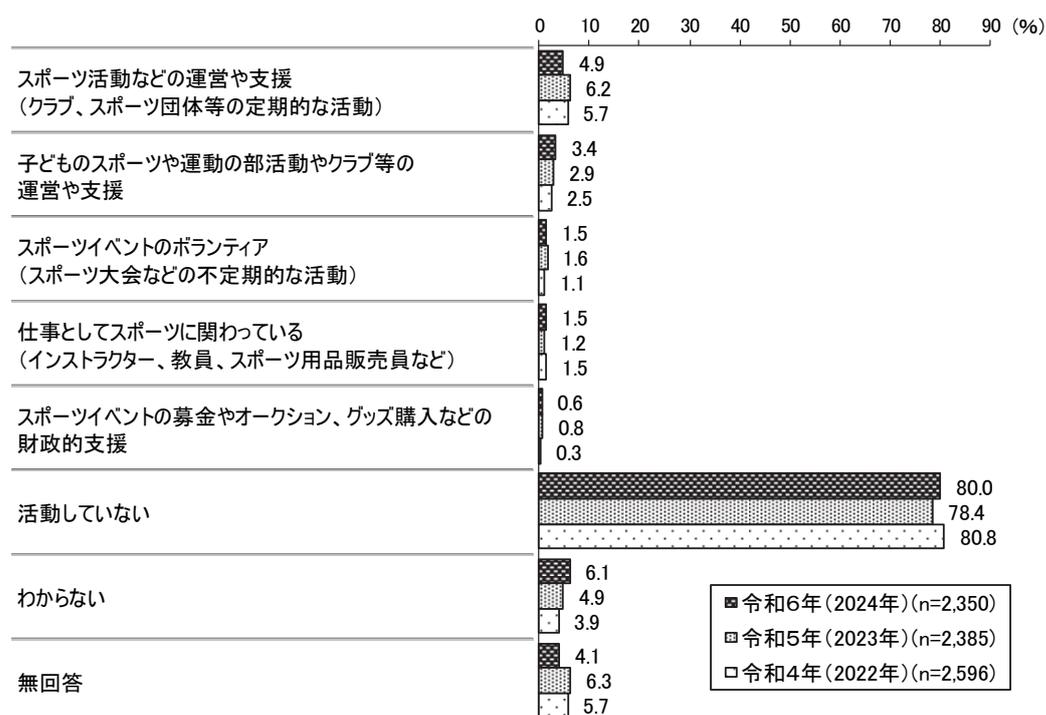
ライフステージ別にみると、「仕事や家事・育児などで忙しいから」は家族形成期（82.6%）で8割強と多くなっている。「きっかけや機会がないから」は独身期（36.8%）で4割近くと多くなっている。「運動が好きではない、または興味がないから」は独身期（32.4%）で3割強と多くなっている。（図3-27-3）

(28) この1年間に関わったスポーツを支える活動

◇「活動していない」が8割

問 34 この中に、あなたがこの1年間に関わったスポーツを支える活動がありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

図 3-28-1 この1年間に関わったスポーツを支える活動—全体、経年比較



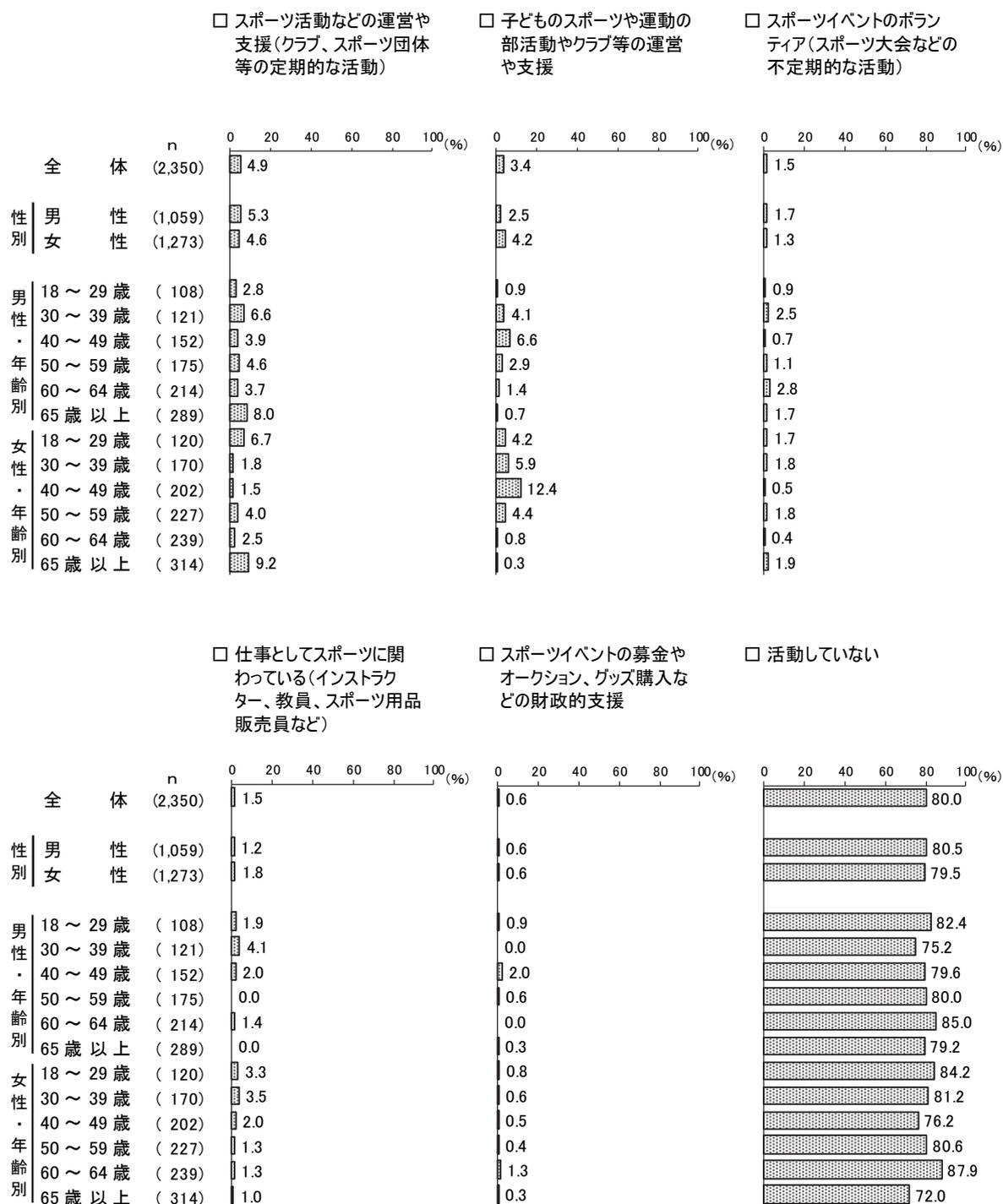
(注)「スポーツイベントの募金やオークション、グッズ購入などの財政的支援」は、令和4年(2022年)までは「スポーツイベントの募金やオークションなどのチャリティ活動」としていた。

この1年間に関わったスポーツを支える活動を聞いたところ、「活動していない」(80.0%)が8割となっている。活動した中では、「スポーツ活動などの運営や支援(クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動)」(4.9%)、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」(3.4%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図 3-28-1)

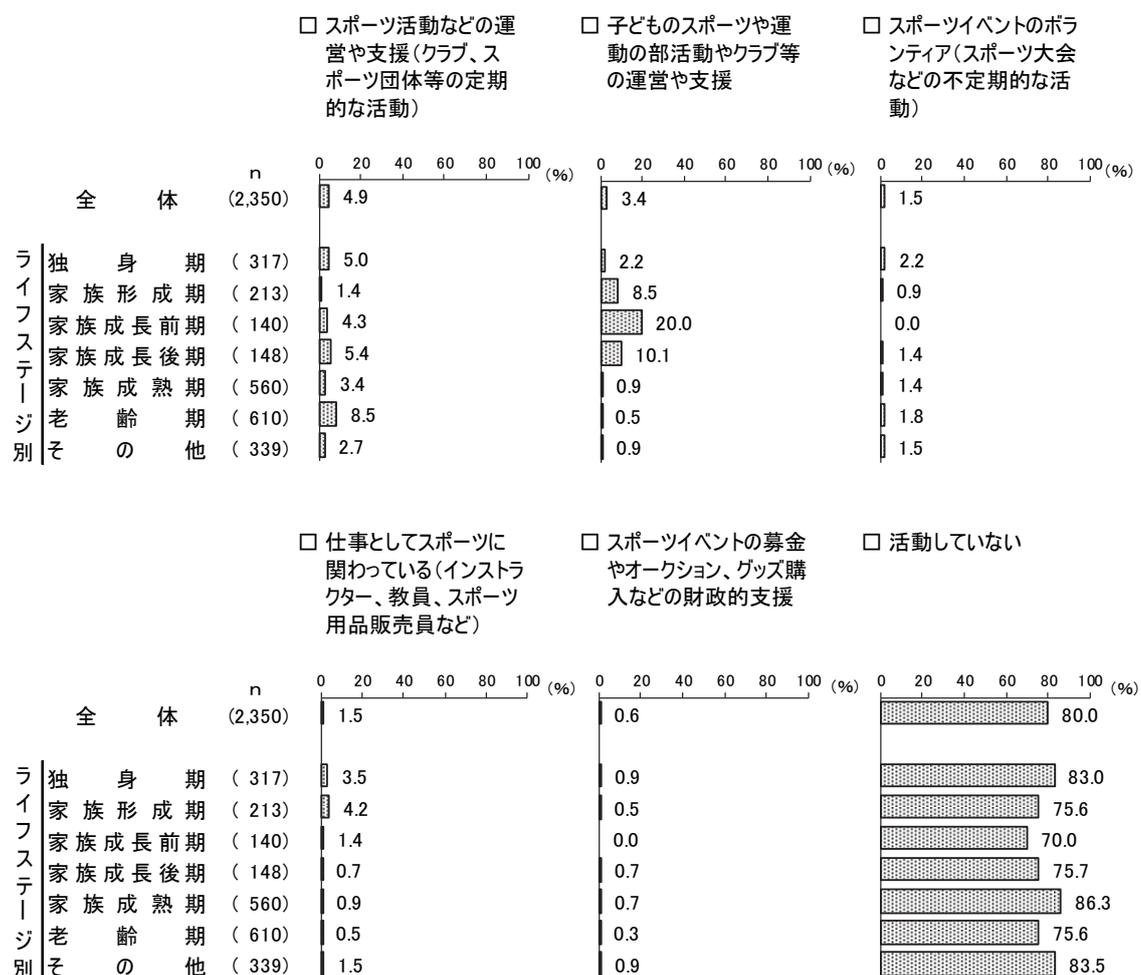
図3-28-2 この1年間に関わったスポーツを支える活動—性別、性・年齢別
 (「わからない」を除く)



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は女性40～49歳(12.4%)で1割強となっている。一方、「活動していない」は女性60～64歳(87.9%)で9割近くと多くなっている。(図3-28-2)

図3-28-3 この1年間に関わったスポーツを支える活動－ライフステージ別
 (「わからない」を除く)



ライフステージ別にみると、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は家族成長前期 (20.0%) で2割となっている。「活動していない」は家族成熟期 (86.3%) で9割近くと多くなっている。(図3-28-3)

(29) パラスポーツへの関心

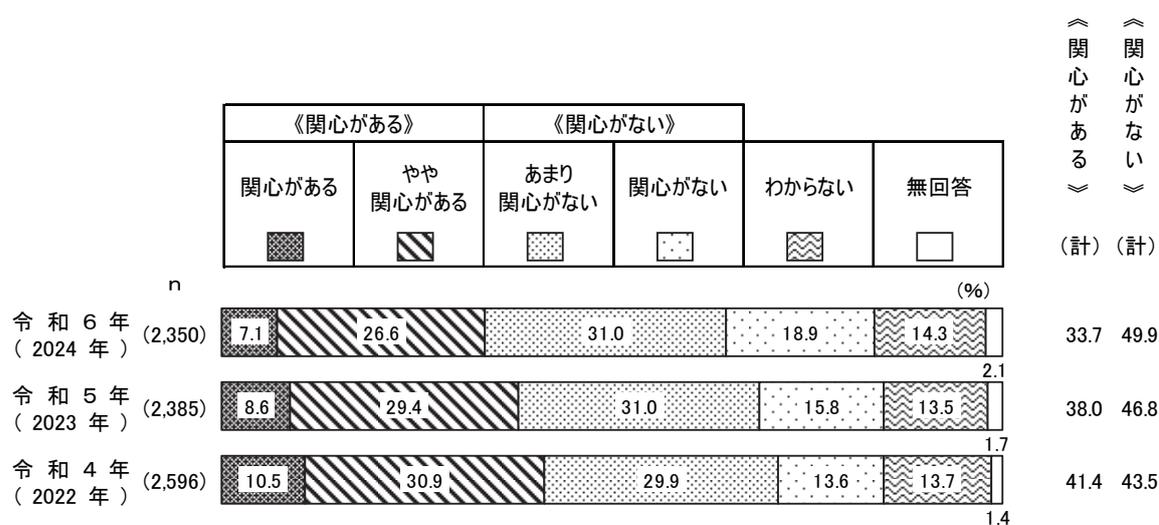
◇《関心がある》が3割強

問 35 あなたは、パラスポーツに関心がありますか。(○は1つだけ)

※「パラスポーツ」とは・・・

障害があってもスポーツ活動ができるよう、障害に応じ競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障害を補ったりする工夫・適合・開発がされたスポーツのことです。

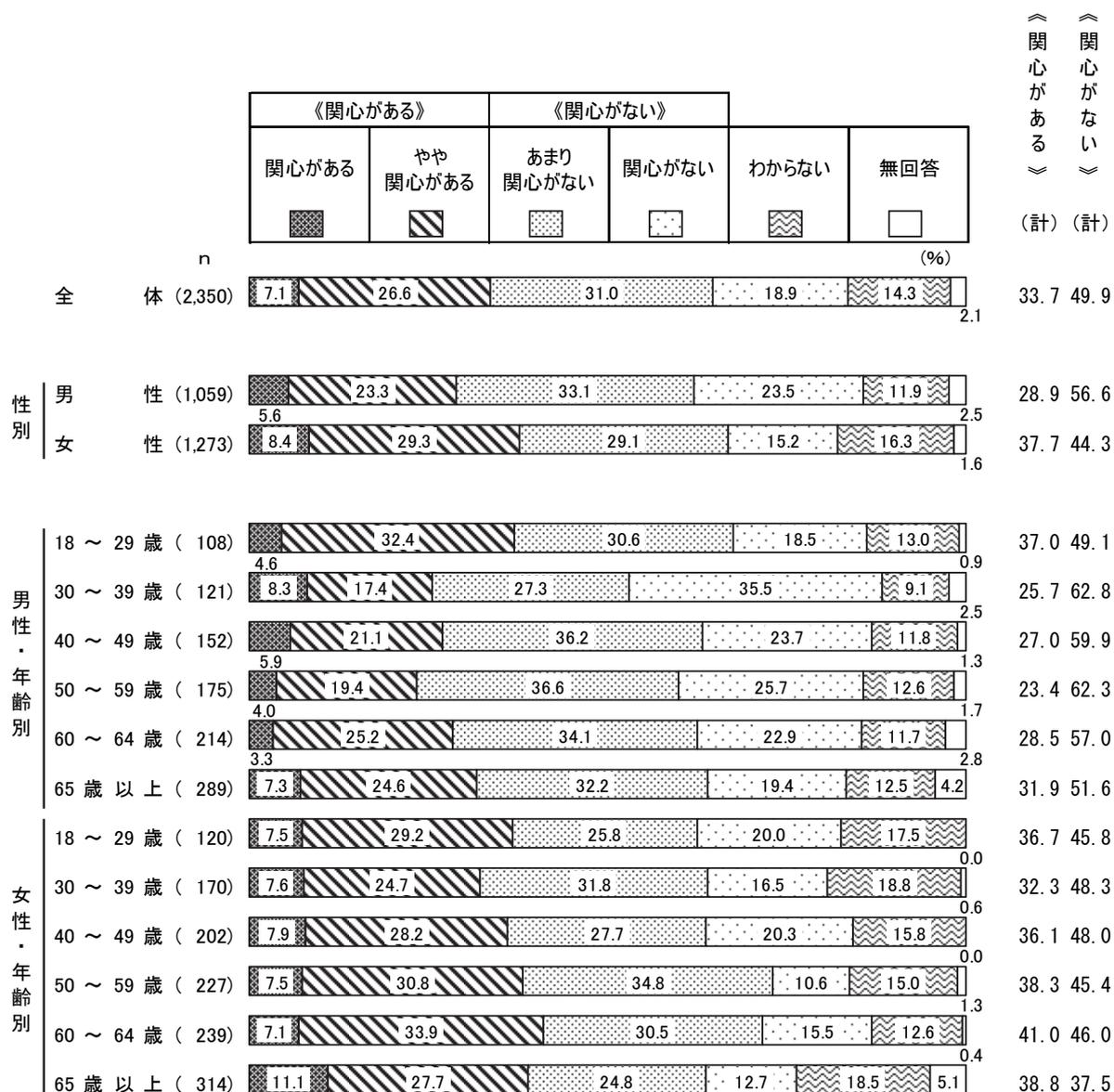
図 3-29-1 パラスポーツへの関心—全体、経年比較



パラスポーツへの関心を聞いたところ、「関心がある」(7.1%)と「やや関心がある」(26.6%)を合わせた《関心がある》(33.7%)は3割強となっている。一方、「あまり関心がない」(31.0%)と「関心がない」(18.9%)を合わせた《関心がない》(49.9%)は5割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、《関心がない》は令和5年(2023年)(46.8%)より3.1ポイント増加している。(図3-29-1)

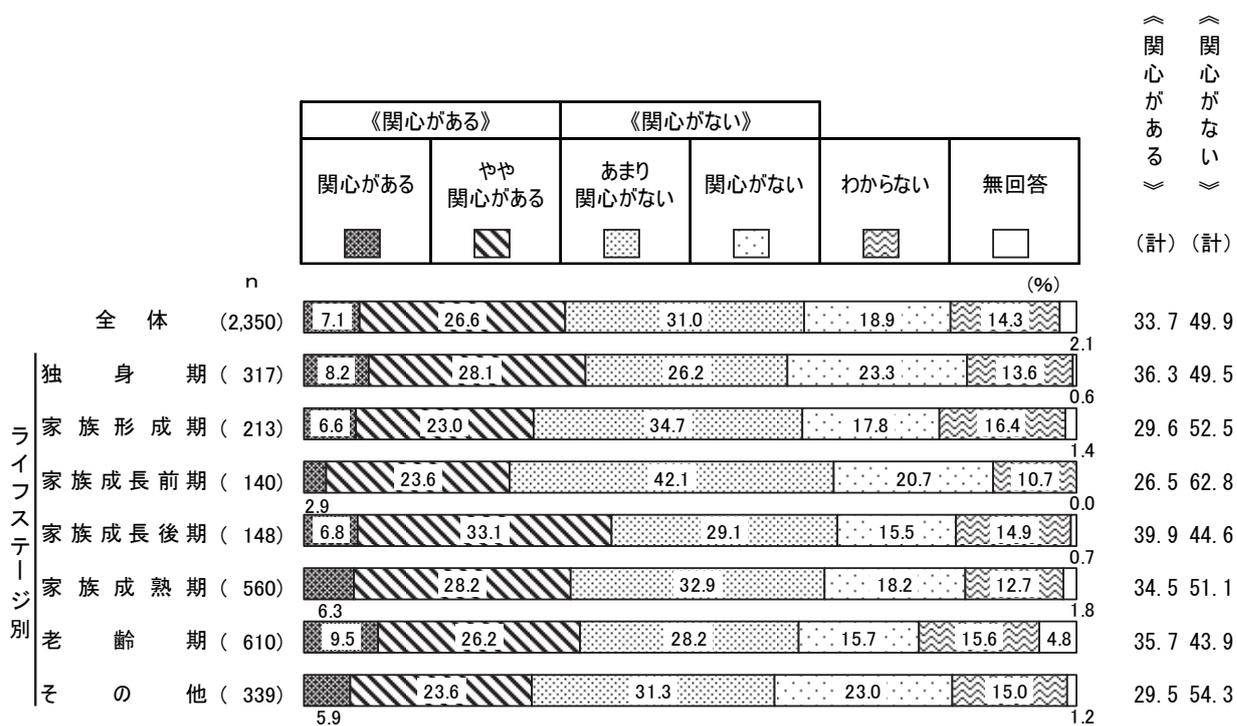
図3-29-2 パラスポーツへの関心—性別、性・年齢別



性別にみると、《関心がない》は男性（56.6%）が女性（44.3%）より 12.3 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《関心がある》は女性 60～64 歳（41.0%）で 4 割強と多くなっている。一方、《関心がない》は男性 30～39 歳（62.8%）、男性 50～59 歳（62.3%）で 6 割強と多くなっている。（図3-29-2）

図3-29-3 パラスポーツへの関心—ライフステージ別



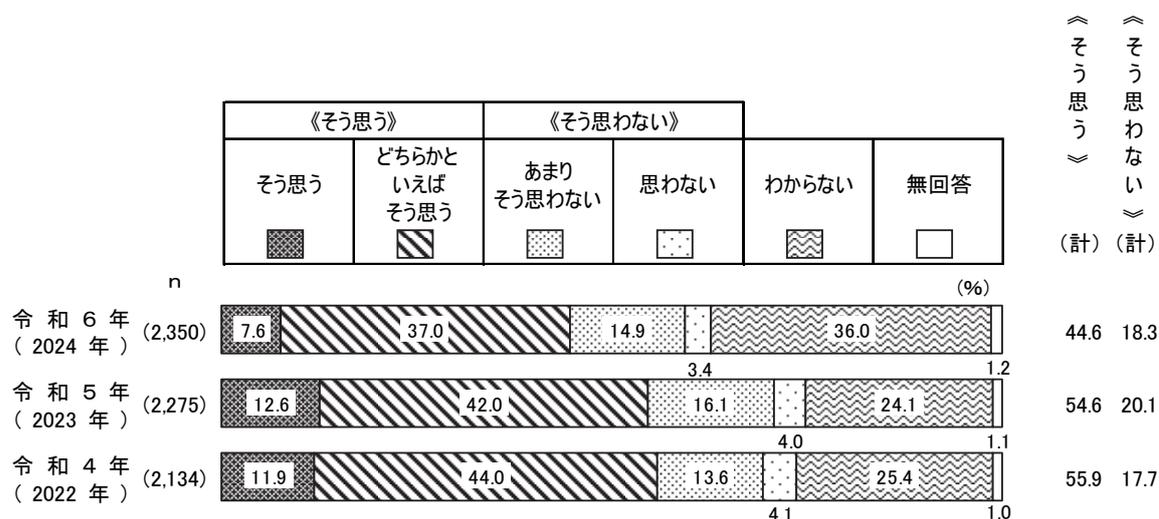
ライフステージ別にみると、《関心がある》は家族成長後期（39.9%）で4割弱と多くなっている。一方、《関心がない》は家族成長前期（62.8%）で6割強と多くなっている。（図3-29-3）

(30) 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか

◇《《そう思う》》が4割台半ば

問 36 あなたは、八王子市が「安心して子育てができるまち」になっていると思いますか。
(○は1つだけ)

図 3-30-1 「安心して子育てができるまち」になっていると思うかー全体、経年比較

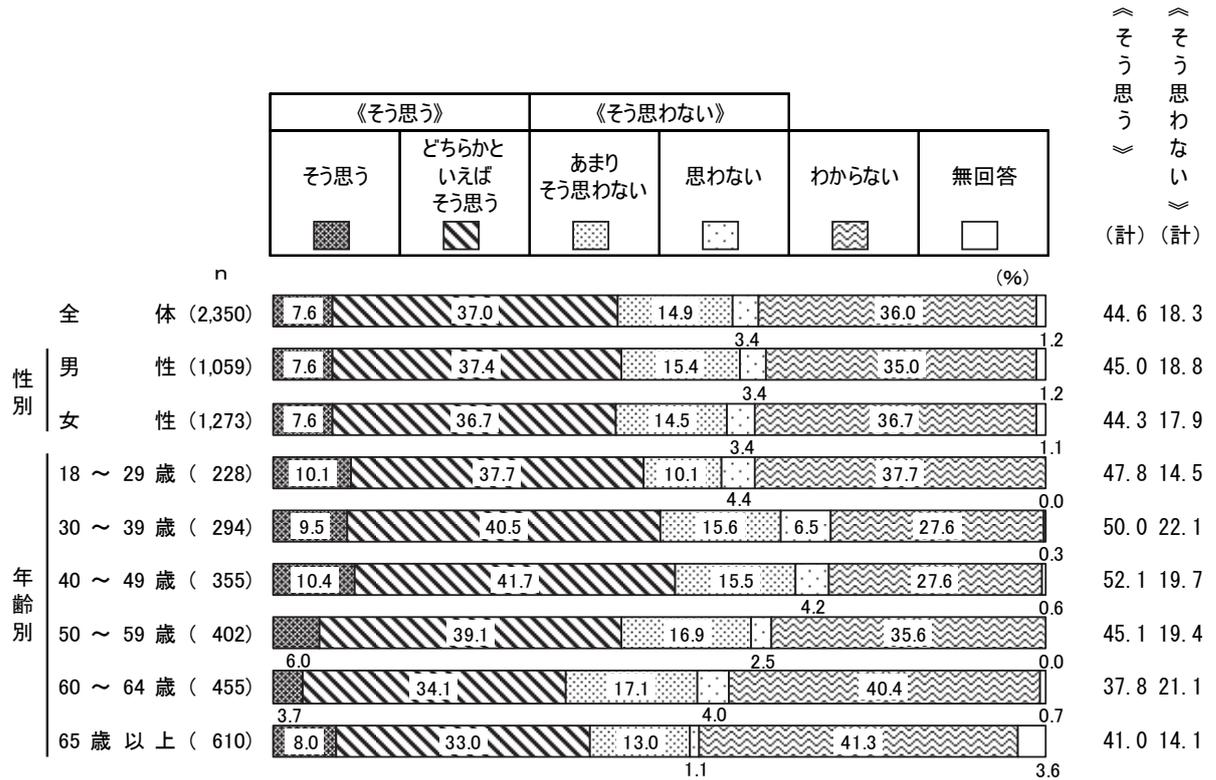


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年) 結果と比較

「安心して子育てができるまち」になっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(7.6%)と「どちらかといえばそう思う」(37.0%)を合わせた《《そう思う》》(44.6%)は4割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(14.9%)と「思わない」(3.4%)を合わせた《《そう思わない》》(18.3%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「わからない」は令和5年(2023年)(24.1%)より11.9ポイント増加している。(図3-30-1)

図3-30-2 「安心して子育てができるまち」になっていると思うかー性別、年齢別

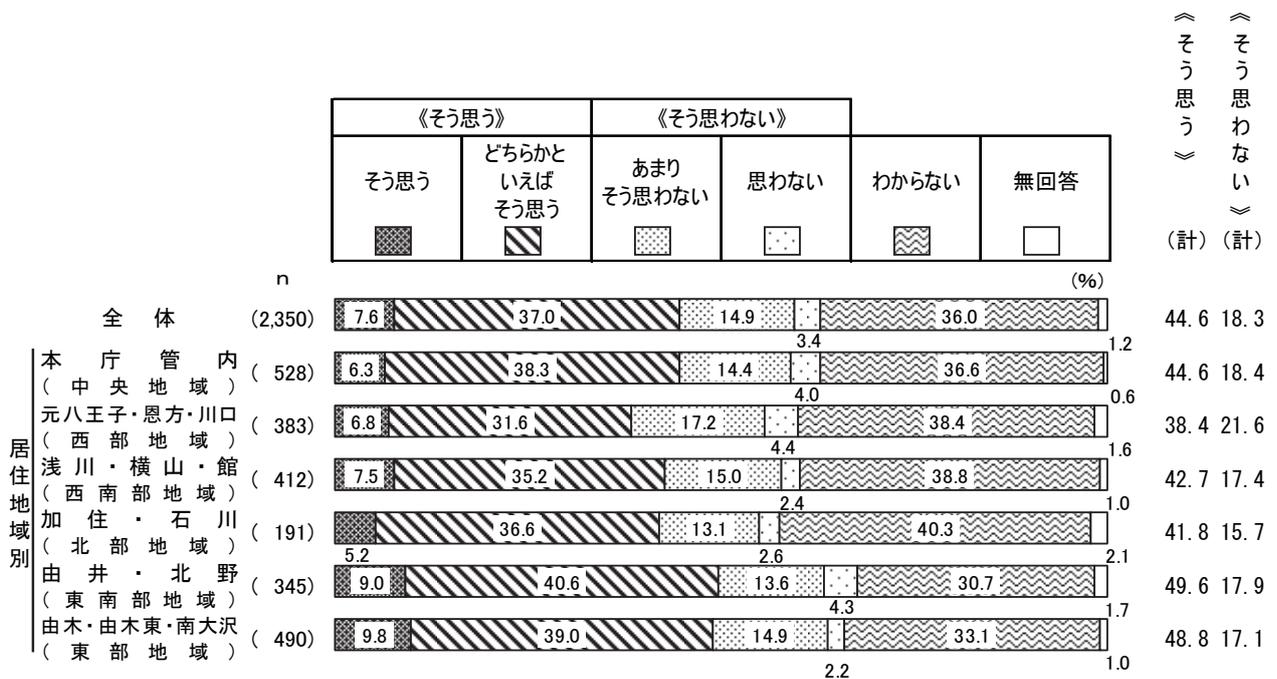


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《そう思う》は40～49歳（52.1%）で5割強と多くなっている。

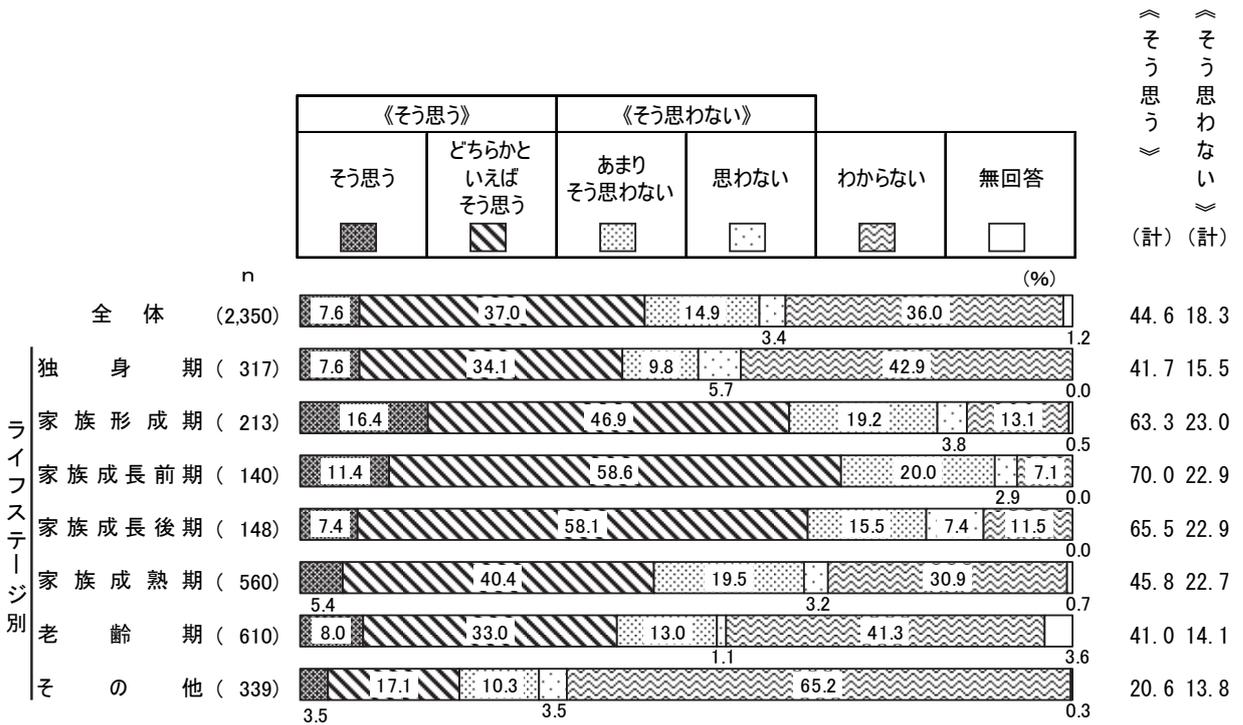
(図3-30-2)

図3-30-3 「安心して子育てができるまち」になっていると思うかー居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（49.6%）で5割弱と多くなっている。（図3-30-3）

図 3-30-4 「安心して子育てができるまち」になっていると思うかーライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（70.0%）で7割と多くなっている。

(図 3-30-4)

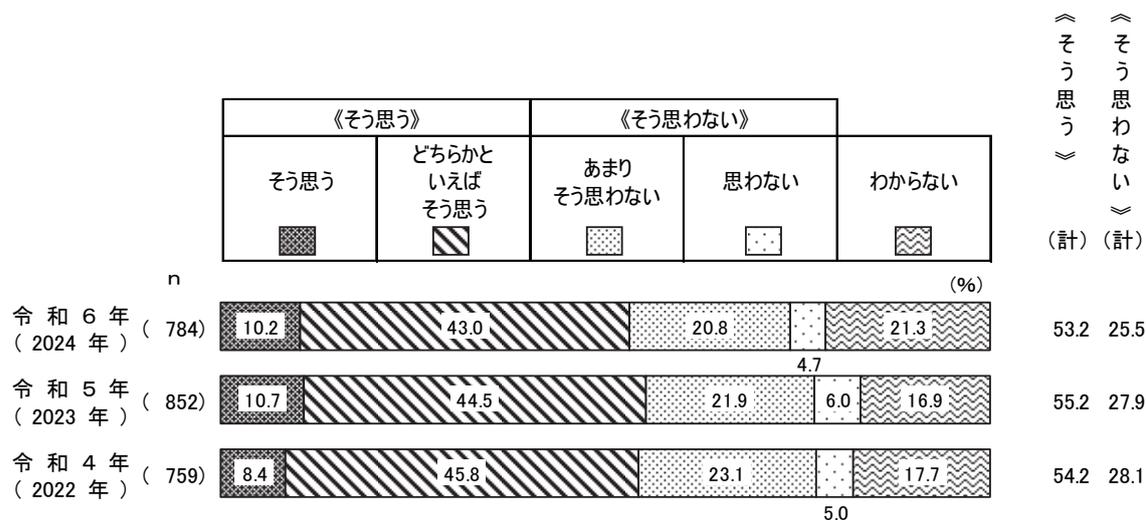
(31) 子育てを支える環境が整っていると思うか

◇《《そう思う》》が5割強

(子育て中の方へ)

問 37 あなたは、市などの様々な支援により、八王子市は子育てを支える環境が整っていると思いますか。(〇は1つだけ)

図 3-31-1 子育てを支える環境が整っていると思うかー全体、経年比較

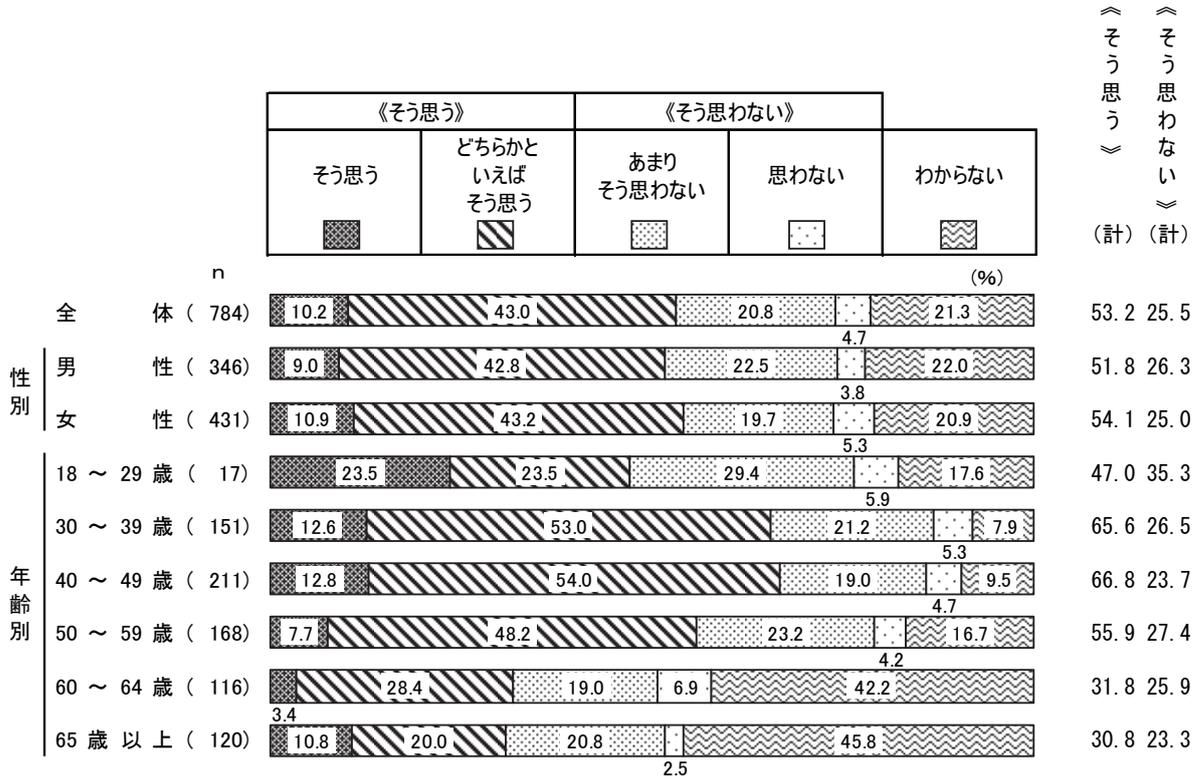


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和 4 年及び 5 年) 結果と比較
 ※子どもの有無においては、子どもの数が「1 人」から「5 人以上」及び無回答で、かつ、本設問において、回答していた方を母数とした。

子育て中の方に、子育てを支える環境が整っていると思うか聞いたところ、「《《そう思う》》」(10.2%) と「《《どちらかといえばそう思う》》」(43.0%) を合わせた《《そう思う》》 (53.2%) は 5 割強となっている。一方、「《《あまりそう思わない》》」(20.8%) と「《《思わない》》」(4.7%) を合わせた《《そう思わない》》 (25.5%) は 2 割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「《《わからない》》」は令和 5 年 (2023 年) (16.9%) より 4.4 ポイント増加している。(図 3-31-1)

図3-31-2 子育てを支える環境が整っていると思うか—性別、年齢別

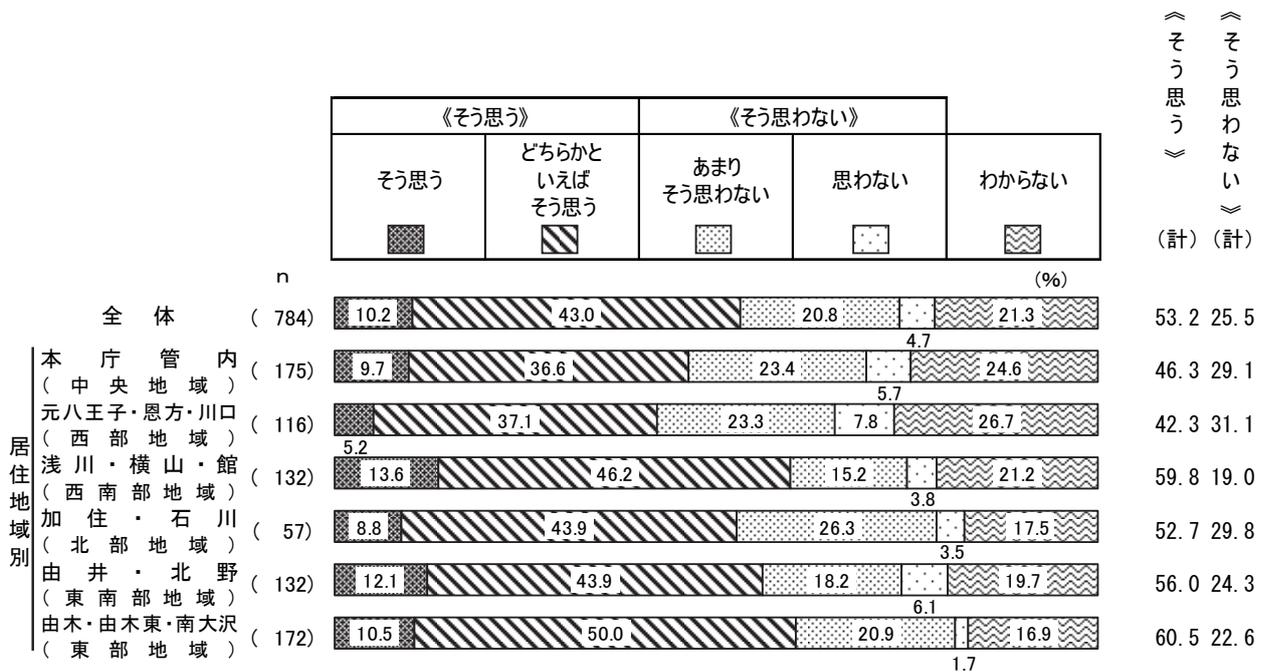


性別にみると、《そう思う》は女性（54.1%）が男性（51.8%）より2.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は40～49歳（66.8%）で7割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は50～59歳（27.4%）、30～39歳（26.5%）で3割近くと多くなっている。

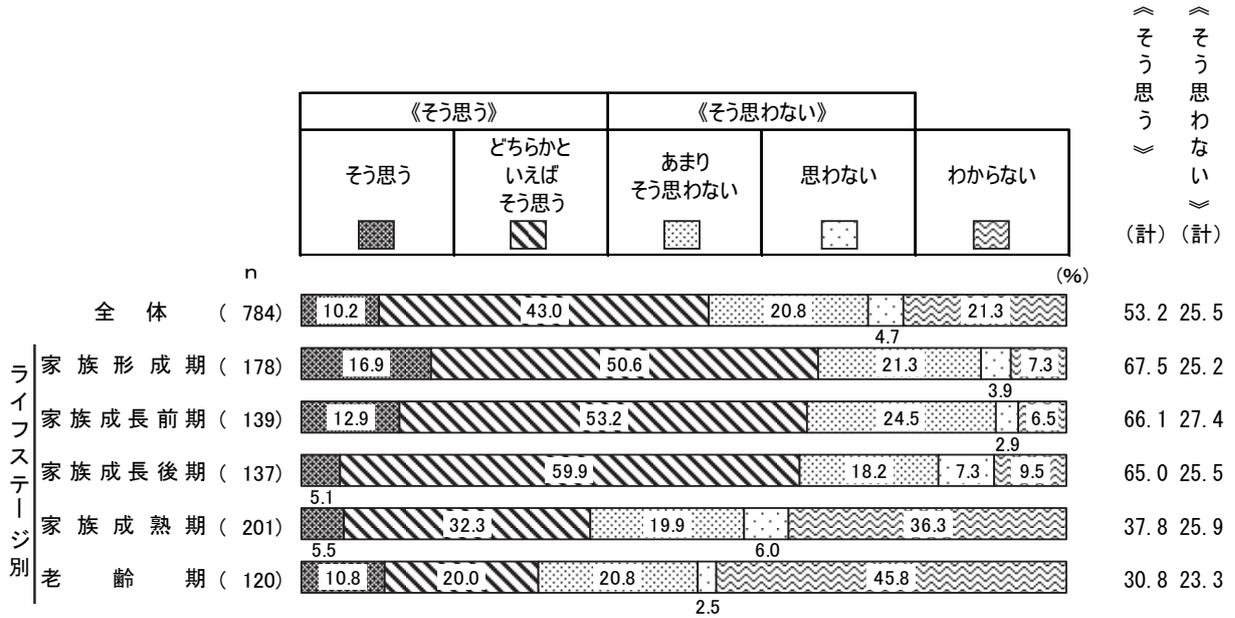
(図3-31-2)

図3-31-3 子育てを支える環境が整っていると思うか—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（60.5%）で約6割と多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（31.1%）で3割強と多くなっている。（図3-31-3）

図3-31-4 子育てを支える環境が整っていると思うかーライフステージ別



※「独身期」、「その他」はn（件数）が0件のため掲載していない。

ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族形成期（67.5%）、家族成長前期（66.1%）で7割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成長前期（27.4%）で3割近くと多くなっている。（図3-31-4）

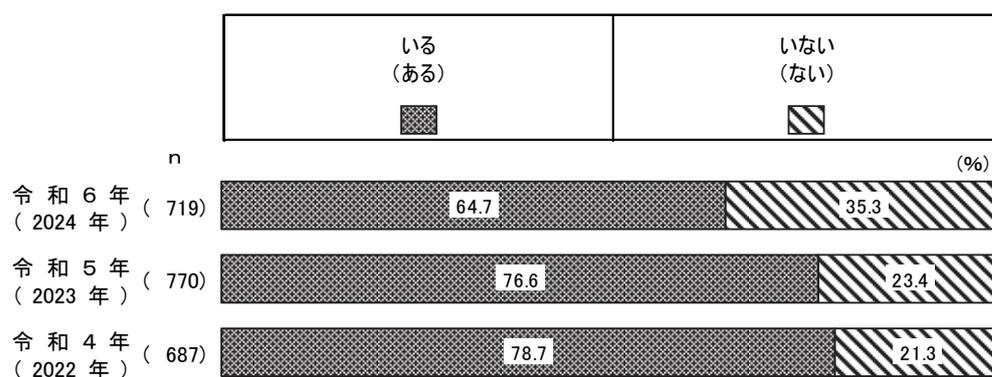
(32) 子育てに関して相談できる人（場所）の有無

◇「いる（ある）」が6割台半ば

(子育て中の方へ)

問 38 あなたは、子育てに関して困ったときに、いつでも相談できる人がいますか（場がありますか）。（○は1つだけ）

図 3-32-1 子育てに関して相談できる人（場所）の有無—全体、経年比較



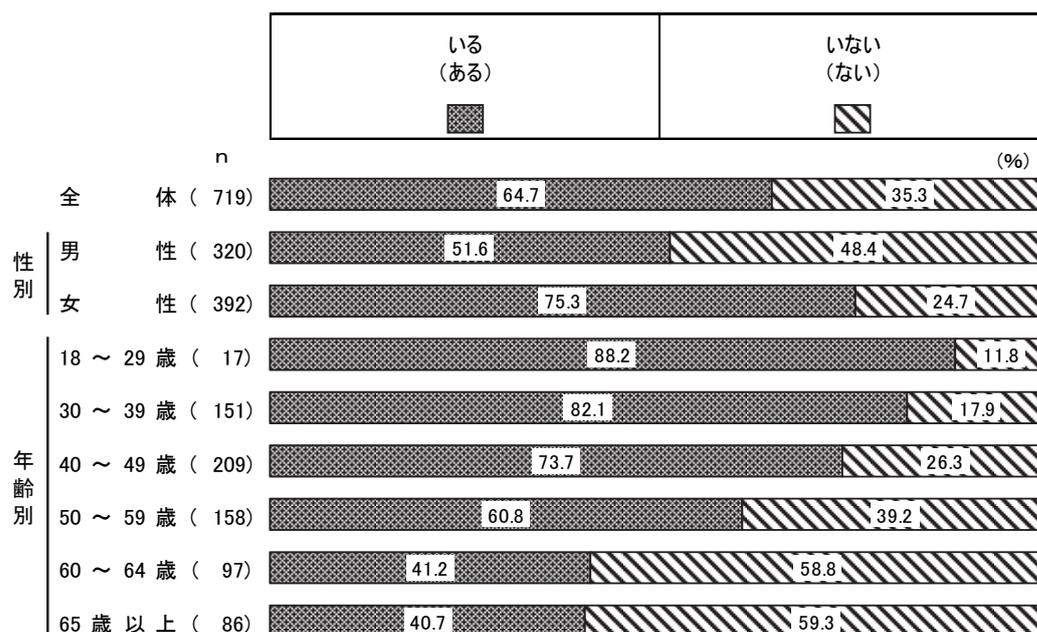
※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和 4 年及び 5 年) 結果と比較

※子どもの有無においては、子どもの数が「1 人」から「5 人以上」及び無回答で、かつ、本設問において、回答していた方を母数とした。

子育て中の方に、子育てに関して困ったときに、いつでも相談できる人や場所があるか聞いたところ、「いる（ある）」(64.7%) は6割台半ばとなっている。一方、「いない（ない）」(35.3%) は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「いない（ない）」は令和 5 年 (2023 年) (23.4%) より 11.9 ポイント増加している。(図 3-32-1)

図3-32-2 子育てに関して相談できる人（場所）の有無－性別、年齢別

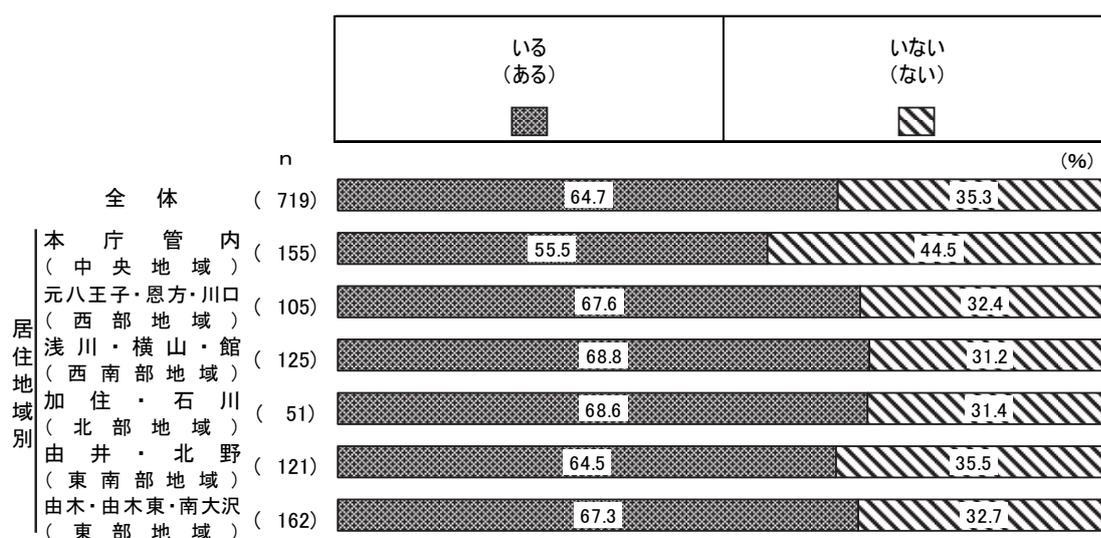


性別にみると、「いる（ある）」は女性（75.3%）が男性（51.6%）より23.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「いる（ある）」は30～39歳（82.1%）で8割強と多くなっている。一方、「いない（ない）」は65歳以上（59.3%）で6割弱、60～64歳（58.8%）で6割近くと多くなっている。

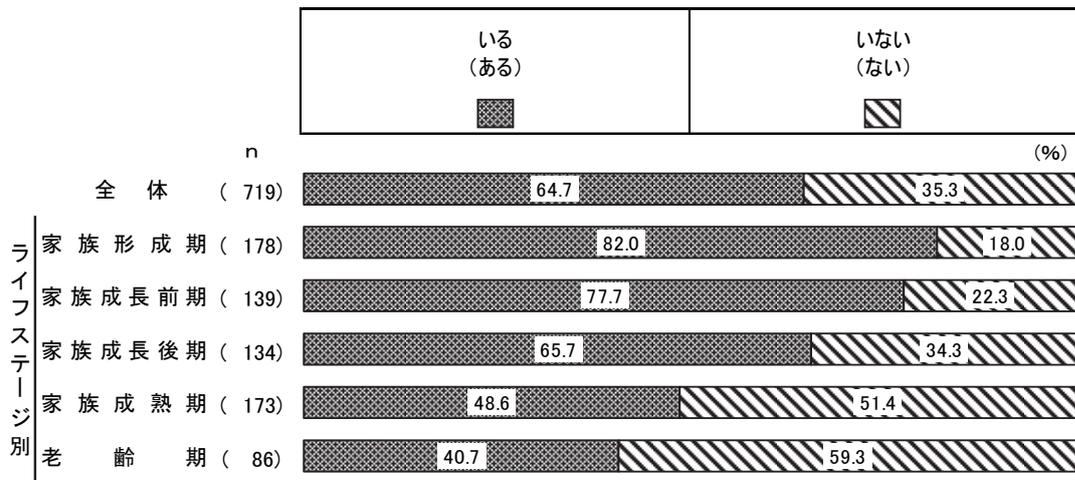
（図3-32-2）

図3-32-3 子育てに関して相談できる人（場所）の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「いない（ない）」は本庁管内（中央地域）（44.5%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-32-3）

図3-32-4 子育てに関して相談できる人（場所）の有無—ライフステージ別



※「独身期」、「その他」はn（件数）が0件のため掲載していない。

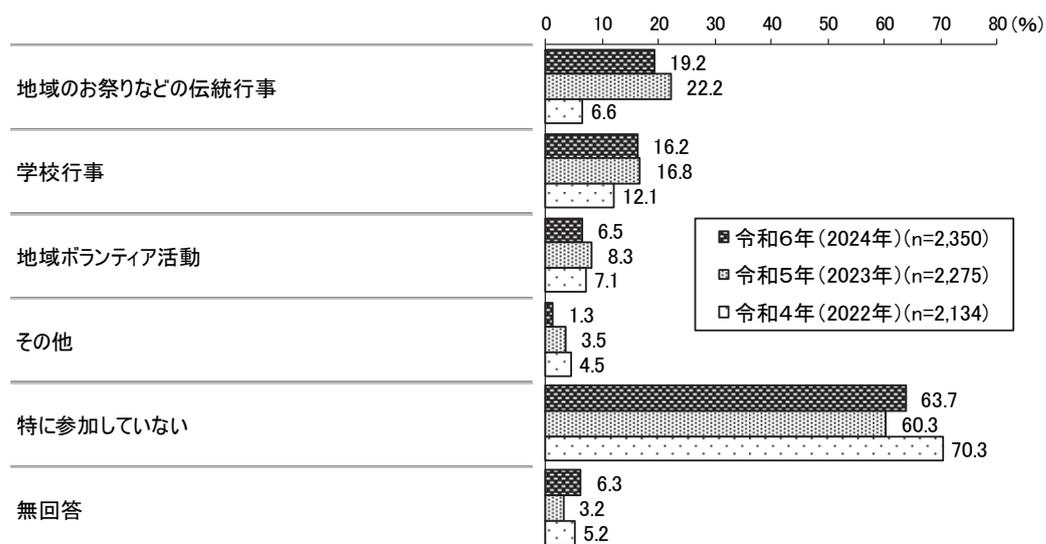
ライフステージ別にみると、「いる（ある）」は家族形成期（82.0%）で8割強と多くなっている。一方、「いない（ない）」は老齢期（59.3%）で6割弱と多くなっている。（図3-32-4）

(33) 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況

◇「特に参加していない」が6割強

問 39 あなたは、この1年間に、子どもやその保護者とともに行う次のような活動に参加しましたか。(〇はいくつでも)

図3-33-1 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況—全体、経年比較

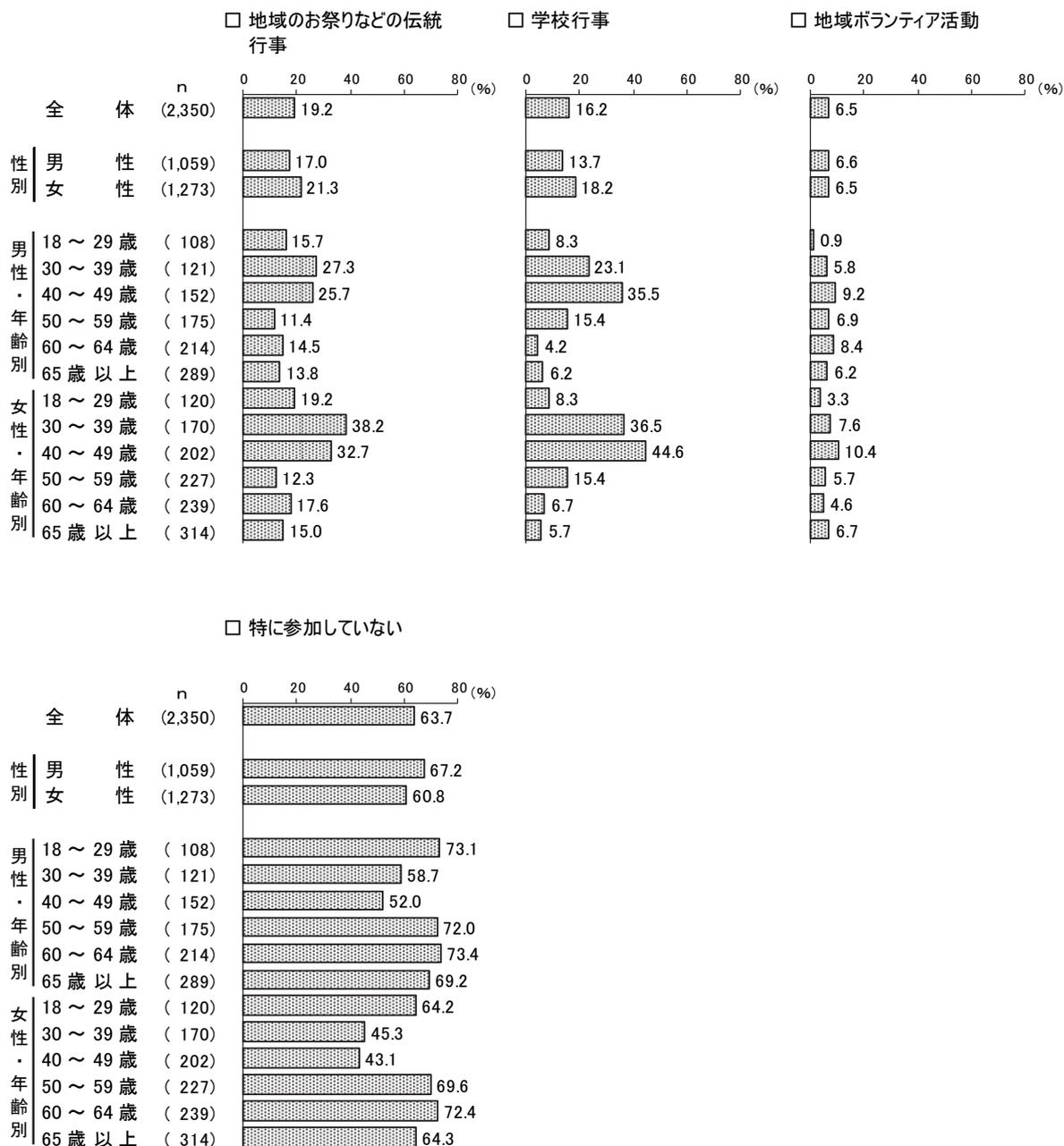


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

子どもやその保護者とともに行う活動への参加について聞いたところ、「特に参加していない」(63.7%)が6割強となっている。参加した活動の中では、「地域のお祭りなどの伝統行事」(19.2%)が2割弱と最も多く、次いで「学校行事」(16.2%)、「地域ボランティア活動」(6.5%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、「特に参加していない」は令和5年(2023年)(60.3%)より3.4ポイント増加している。(図3-33-1)

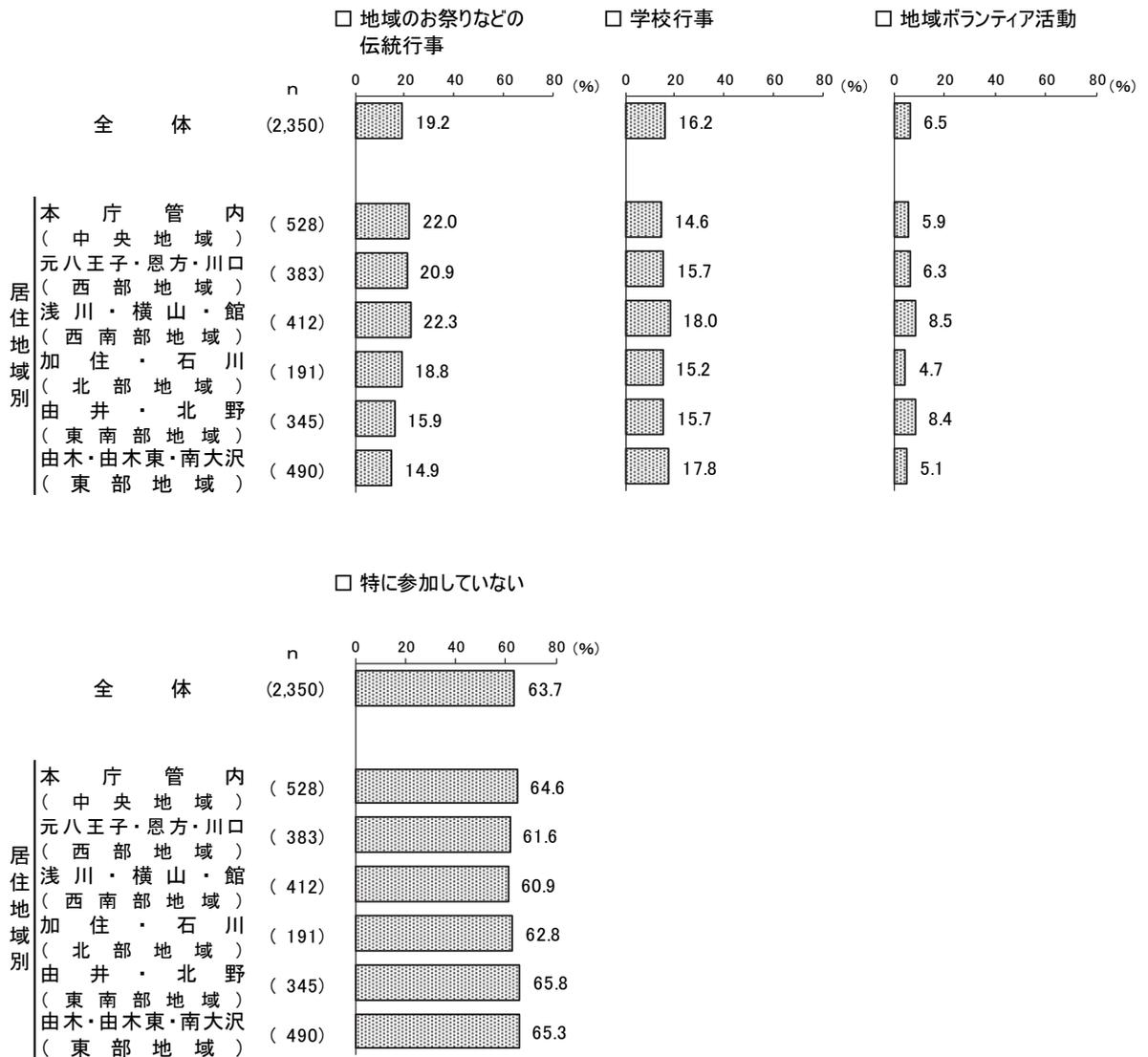
図3-33-2 子どもや保護者とともに行動への参加状況—性別、性・年齢別（「その他」を除く）



性別にみると、「学校行事」は女性（18.2%）が男性（13.7%）より4.5ポイント、「地域のお祭りなどの伝統行事」は女性（21.3%）が男性（17.0%）より4.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特に参加していない」は男性（67.2%）が女性（60.8%）より6.4ポイント高くなっている。

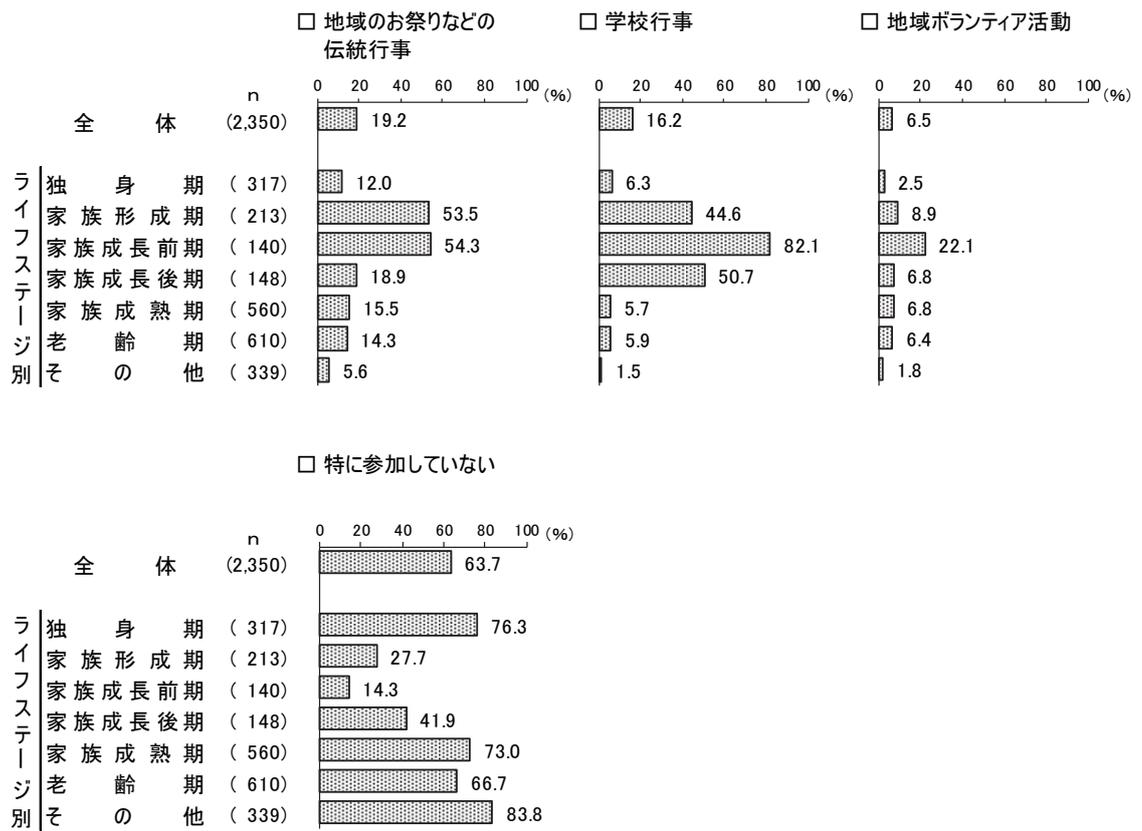
性・年齢別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は女性30～39歳（38.2%）で4割近くと多くなっている。「学校行事」は女性40～49歳（44.6%）で4割台半ばと多くなっている。「特に参加していない」は男性の18～29歳（73.1%）、50～59歳（72.0%）、60～64歳（73.4%）、女性の60～64歳（72.4%）で7割強と多くなっている。（図3-33-2）

図 3-33-3 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況—居住地域別（「その他」を除く）



居住地域別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は浅川・横山・館（西南部地域）（22.3%）、本庁管内（中央地域）（22.0%）で2割強となっている。（図 3-33-3）

図3-33-4 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況ーライフステージ別（「その他」を除く）



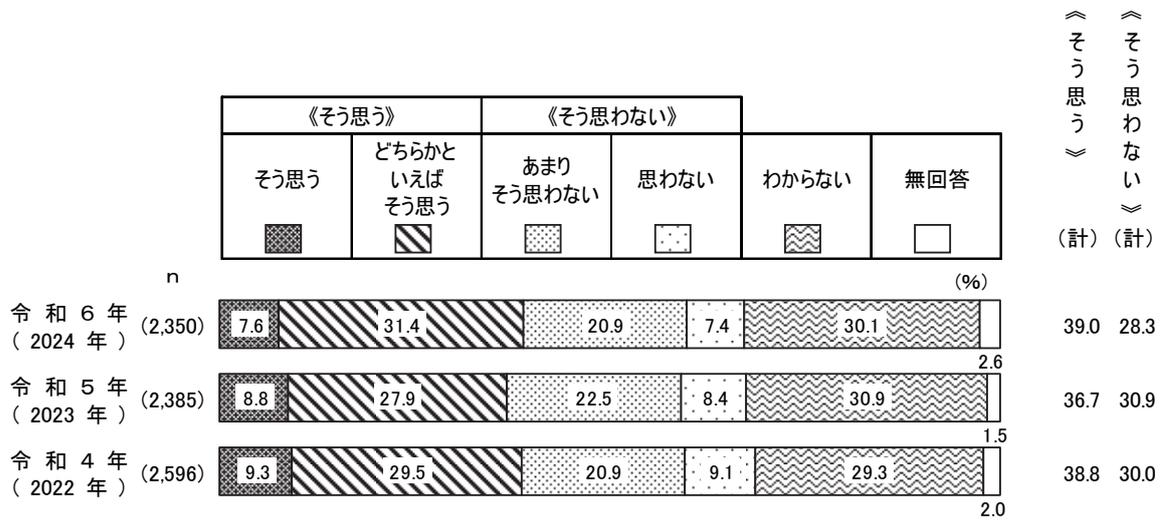
ライフステージ別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は家族成長前期（54.3%）で5割台半ば、家族形成期（53.5%）で5割強と多くなっている。「学校行事」は家族成長前期（82.1%）で8割強と多くなっている。「特に参加していない」はその他（83.8%）で8割強と多くなっている。（図3-33-4）

(34) 地域と子どもたちとのかかわりあい

◇《《そう思う》》が4割弱

問 40 あなたの住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(○は1つだけ)

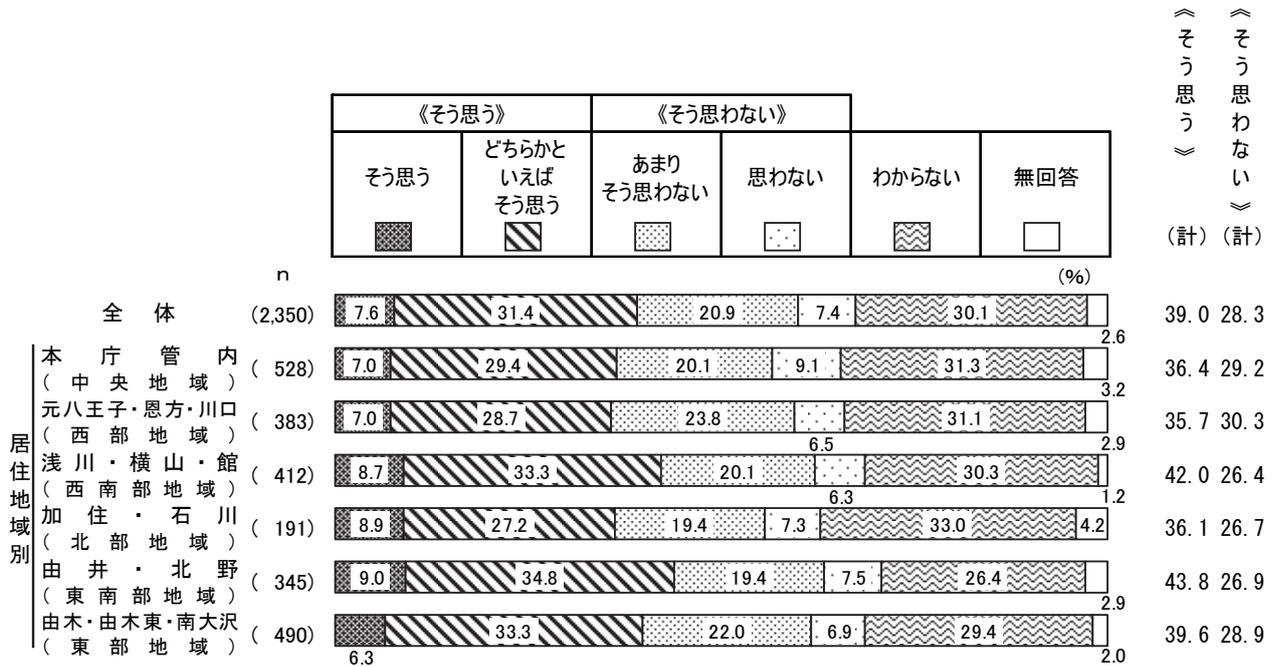
図 3-34-1 地域と子どもたちとのかかわりあい—全体、経年比較



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」(7.6%)と「どちらかといえばそう思う」(31.4%)を合わせた《《そう思う》》(39.0%)は4割弱となっている。一方、「あまりそう思わない」(20.9%)と「思わない」(7.4%)を合わせた《《そう思わない》》(28.3%)は3割近くとなっている。

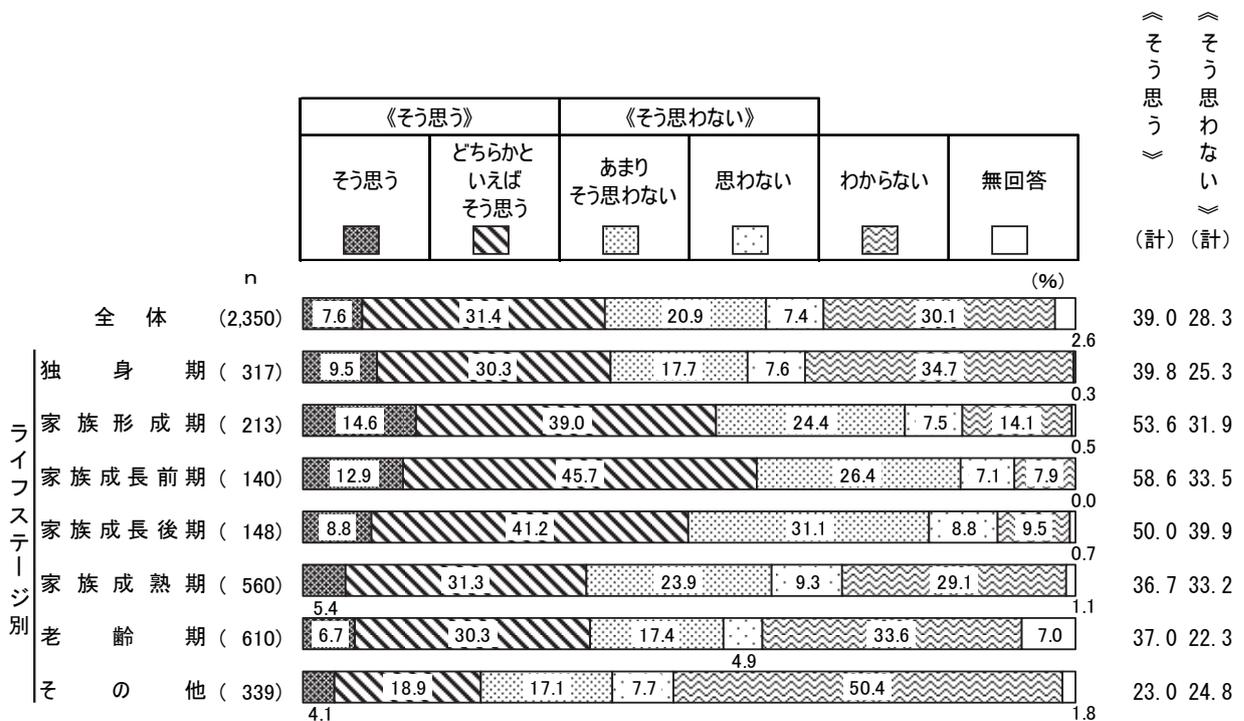
前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和5年(2023年)(36.7%)より2.3ポイント増加している。(図3-34-1)

図3-34-2 地域と子どもたちとのかかわりあい—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（43.8%）、浅川・横山・館（西南部地域）（42.0%）で4割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（30.3%）で約3割と多くなっている。（図3-34-2）

図3-34-3 地域と子どもたちとのかかわりあい—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（58.6%）で6割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成長後期（39.9%）で4割弱と多くなっている。

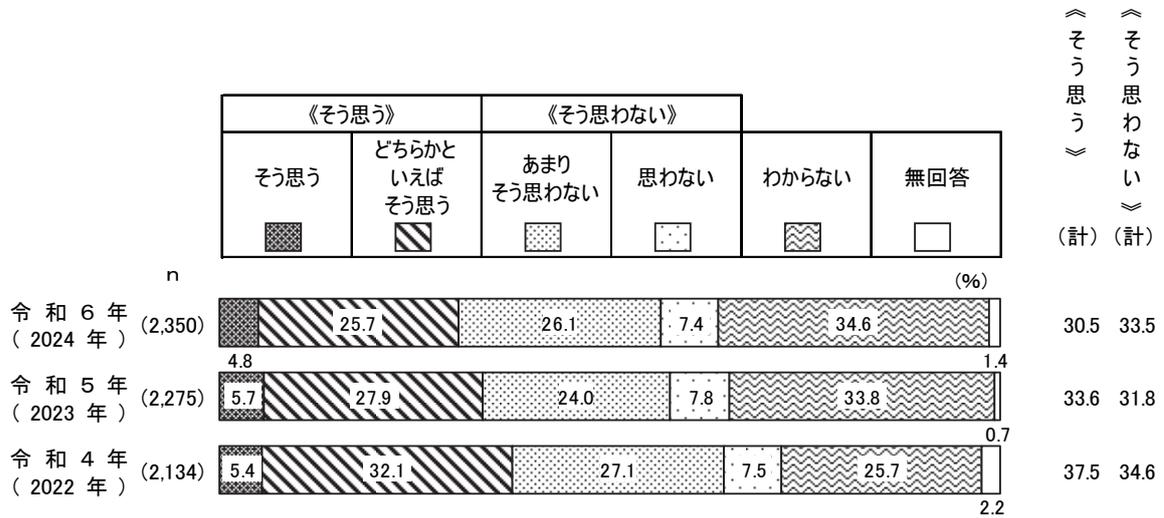
（図3-34-3）

(35) 「災害につよいまち」になっていると思うか

◇《《そう思う》》が約3割

問 41 あなたは、八王子市が「災害に強いまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

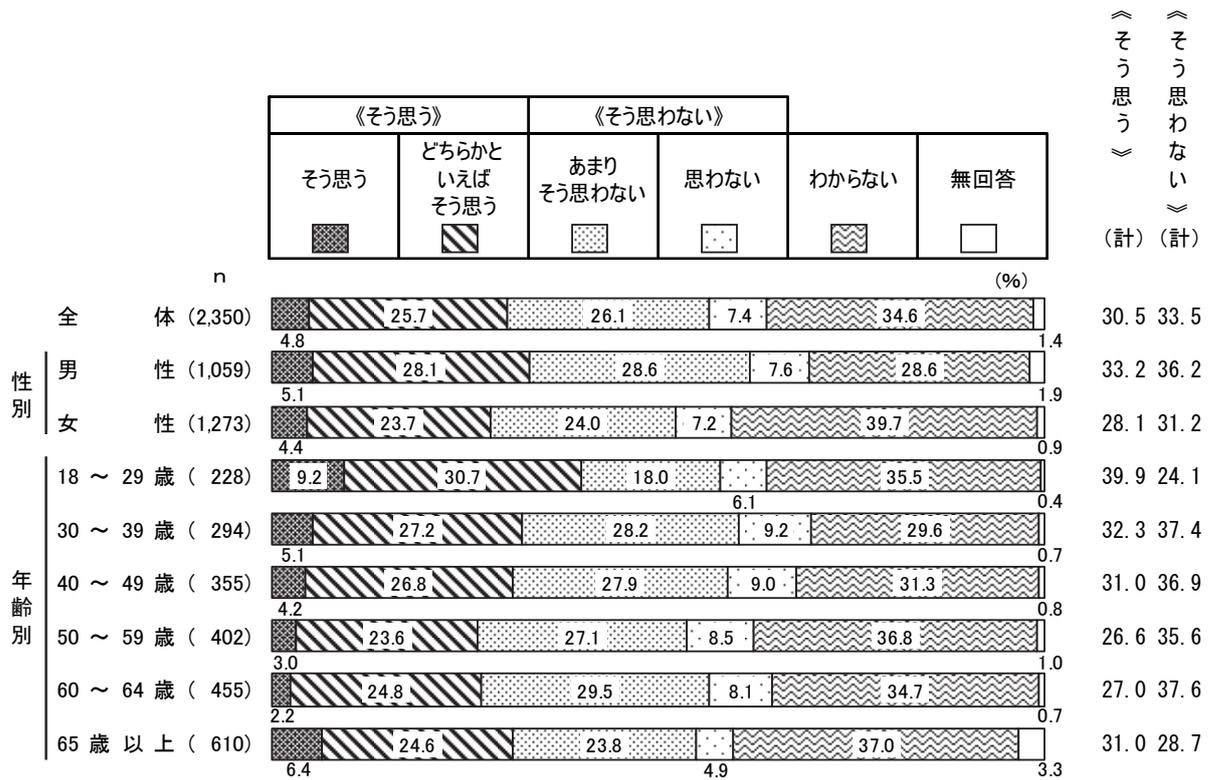
図 3-35-1 「災害につよいまち」になっていると思うかー全体、経年比較



「災害に強いまち」になっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.8%)と「どちらかといえばそう思う」(25.7%)を合わせた《《そう思う》》(30.5%)は約3割となっている。一方、「あまりそう思わない」(26.1%)と「思わない」(7.4%)を合わせた《《そう思わない》》(33.5%)は3割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和5年(2023年)(33.6%)より3.1ポイント減少している。(図3-35-1)

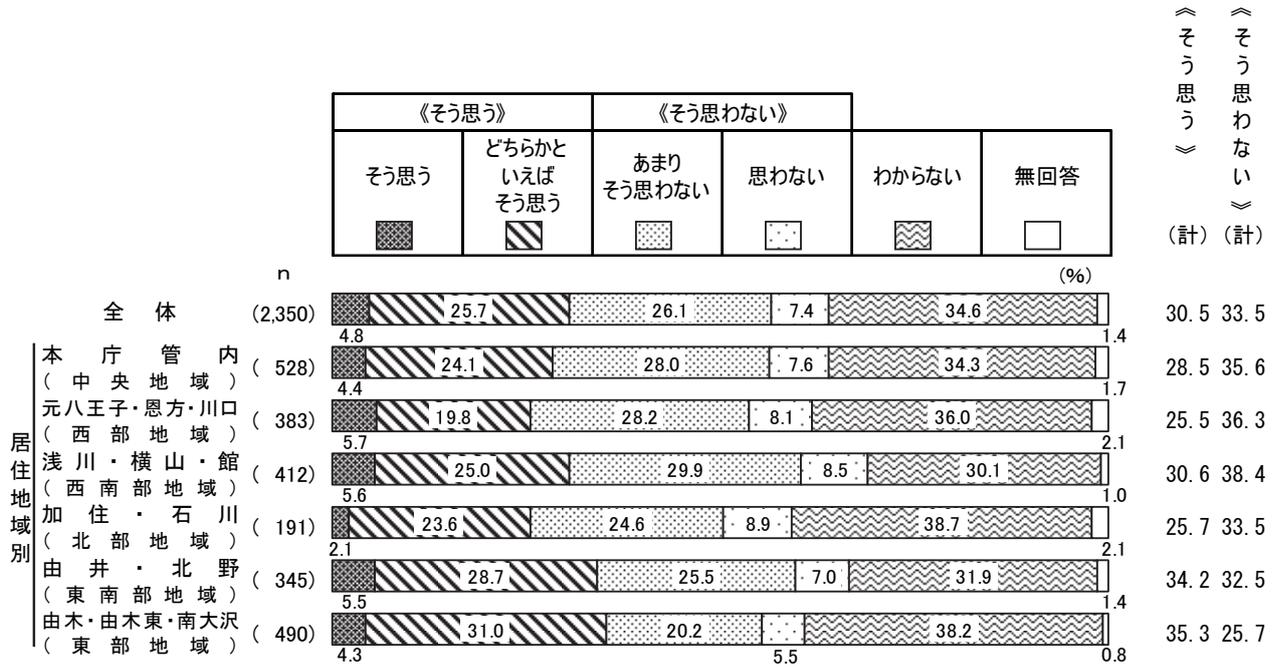
図3-35-2 「災害につよまち」になっていると思うか—性別、年齢別



性別にみると、《そう思う》は男性（33.2%）が女性（28.1%）より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（39.9%）で4割弱と多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（37.6%）、30～39歳（37.4%）、40～49歳（36.9%）で4割近くと多くなっている。（図3-35-2）

図3-35-3 「災害につよいまち」になっていると思うか—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（35.3%）、由井・北野（東南部地域）（34.2%）で3割台半ばと多くなっている。一方、《そう思わない》は浅川・横山・館（西南部地域）（38.4%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（36.3%）で4割近くと多くなっている。（図3-35-3）

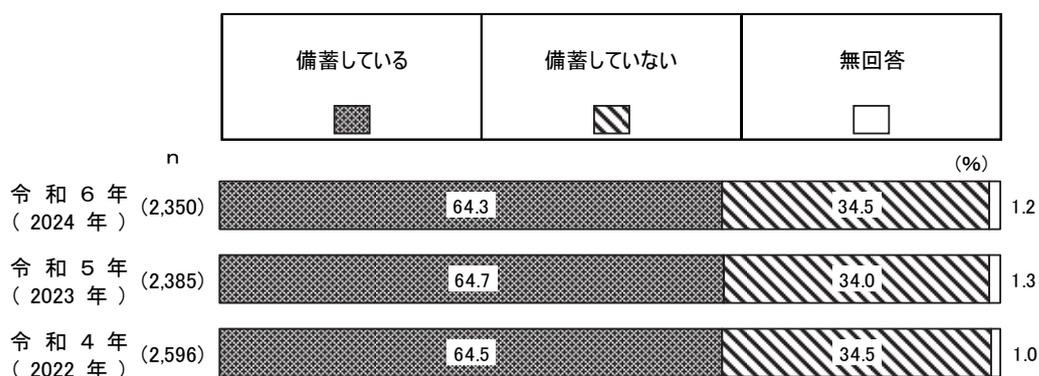
(36) 食料の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割台半ば

問 42 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【1. 食料について】(○は1つだけ)

図3-36-1 食料の備蓄の有無－全体、経年比較

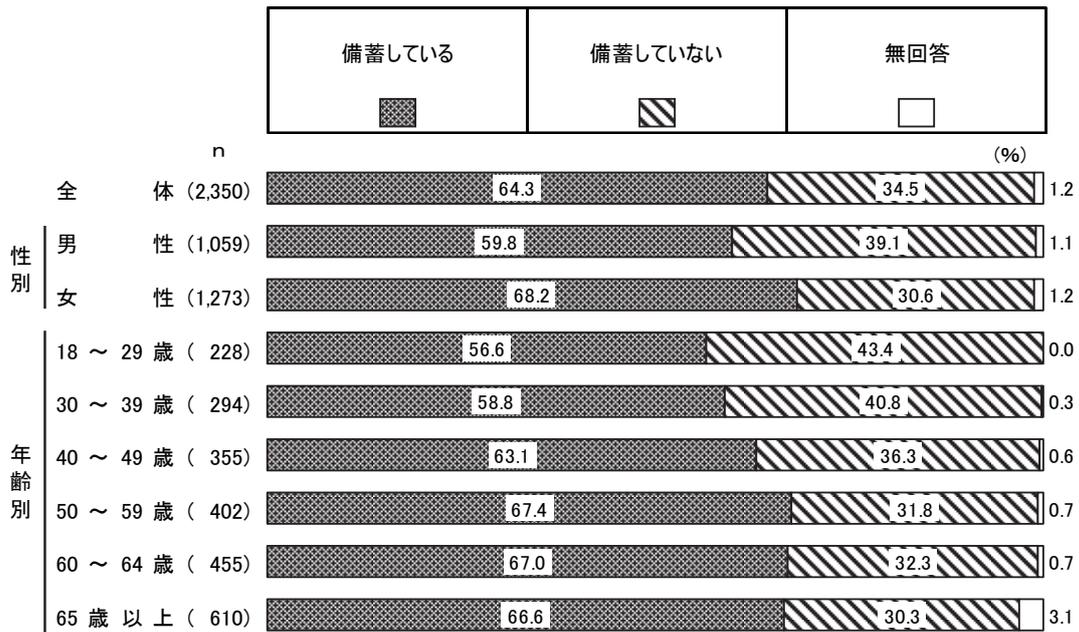


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(64.3%)は6割台半ばとなっている。一方、「備蓄していない」(34.5%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-36-1)

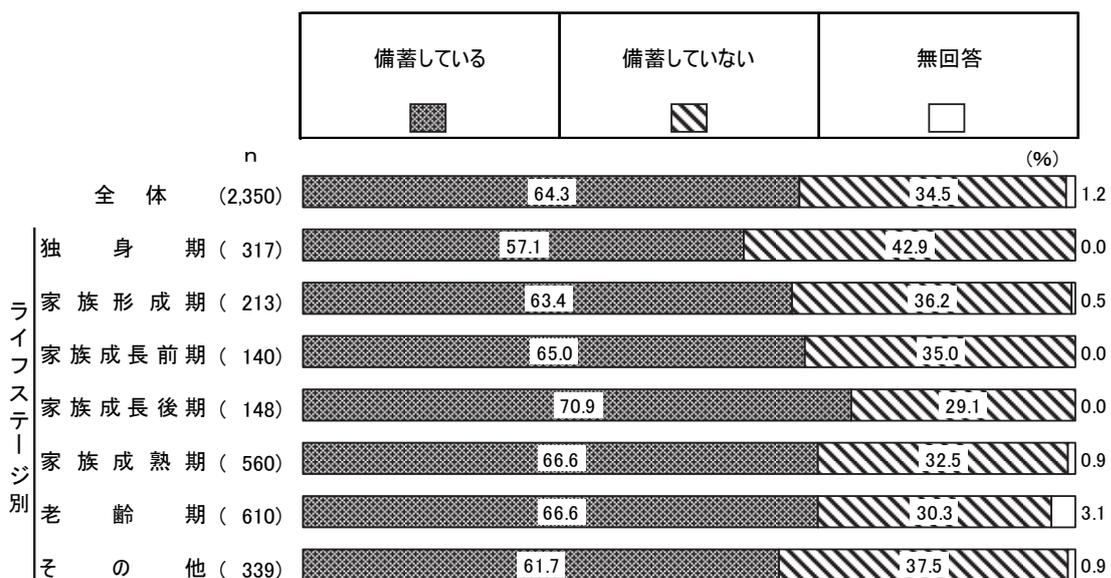
図 3-36-2 食料の備蓄の有無—性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（68.2%）が男性（59.8%）より 8.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は 50～59 歳（67.4%）、60～64 歳（67.0%）、65 歳以上（66.6%）で 7 割近くと多くなっている。一方、「備蓄していない」は 18～29 歳（43.4%）で 4 割強と多くなっている。（図 3-36-2）

図 3-36-3 食料の備蓄の有無—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長後期（70.9%）で約 7 割と多くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期（42.9%）で 4 割強と多くなっている。（図 3-36-3）

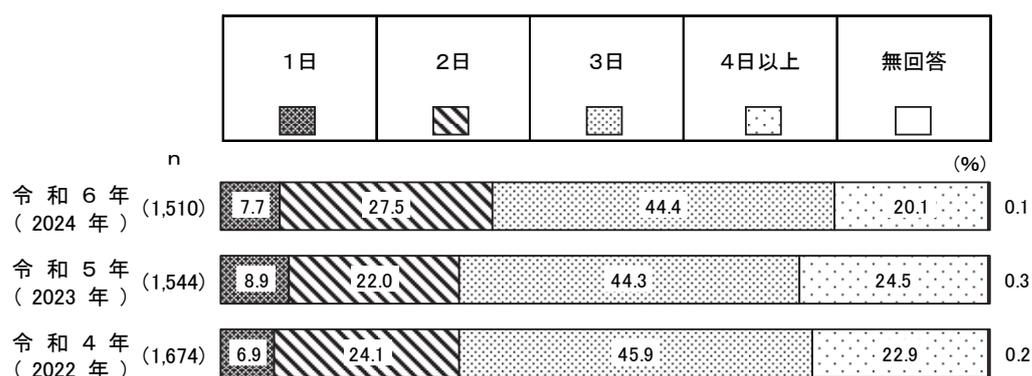
(37) 食料の備蓄量

◇「3日」が4割台半ば

(食料を「備蓄している」とお答えの方へ)

問 42-1-1 家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図 3-37-1 食料の備蓄量－全体、経年比較

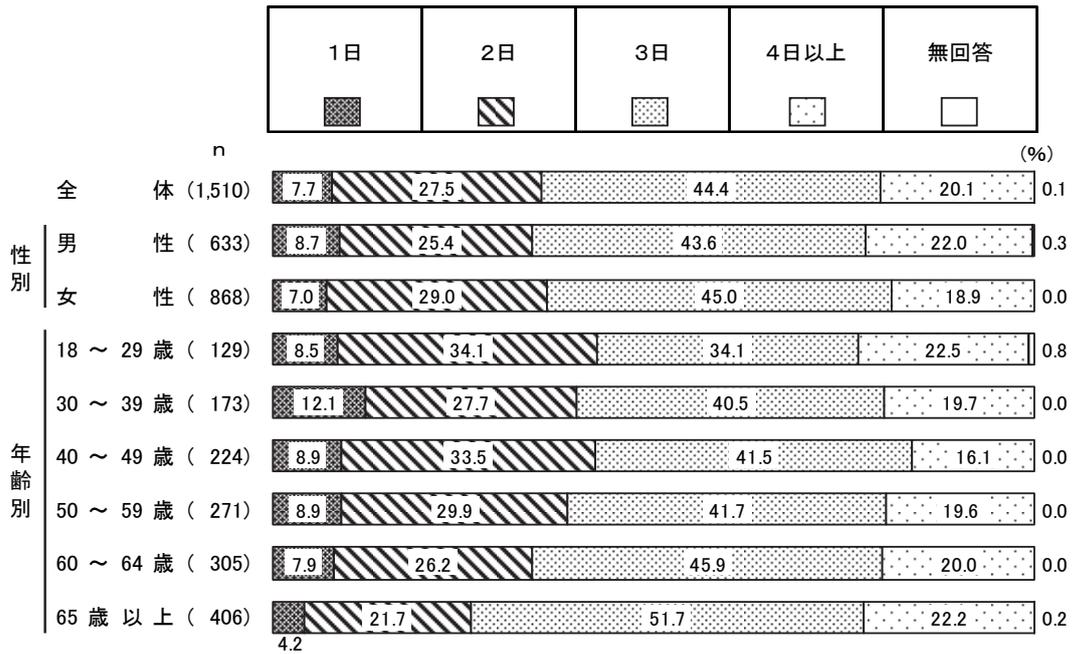


食料を「備蓄している」と回答した1,510人に、家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(44.4%)が4割台半ばで最も多くなっている。次いで「2日」(27.5%)、「4日以上」(20.1%)、「1日」(7.7%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、「2日」は令和5年(2023年)(22.0%)より5.5ポイント増加している。一方、「4日以上」は令和5年(2023年)(24.5%)より4.4ポイント減少している。

(図 3-37-1)

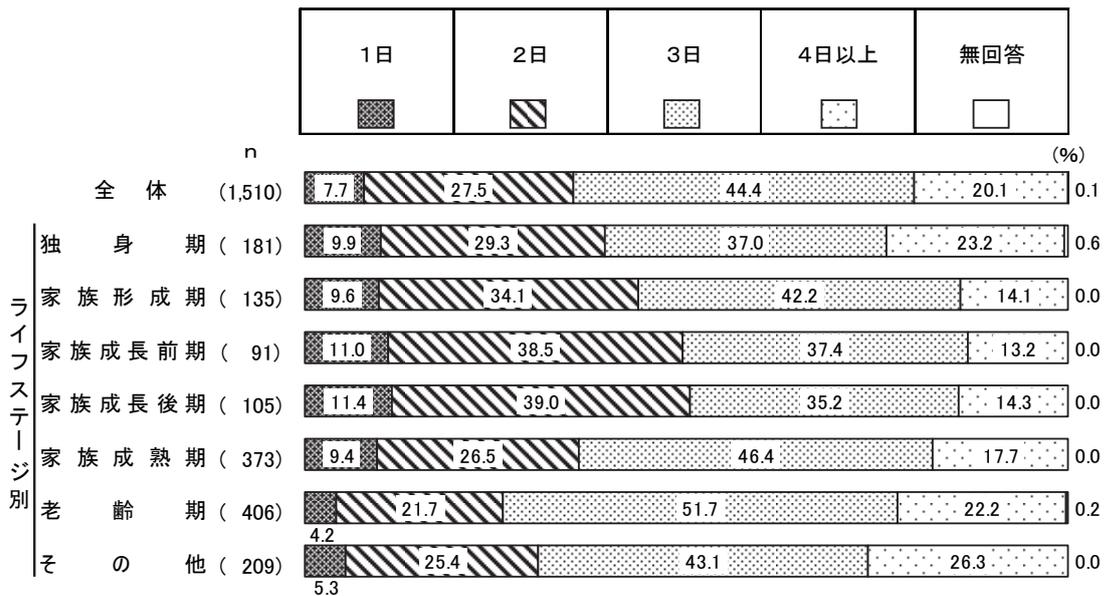
図3-37-2 食料の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「2日」は女性（29.0%）が男性（25.4%）より3.6ポイント高くなっている。一方、「4日以上」は男性（22.0%）が女性（18.9%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「2日」は18～29歳（34.1%）で3割台半ばと多くなっている。「3日」は65歳以上（51.7%）で5割強と多くなっている。（図3-37-2）

図3-37-3 食料の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「2日」は家族成長後期（39.0%）で4割弱と多くなっている。「3日」は老齢期（51.7%）で5割強と多くなっている。「4日以上」はその他（26.3%）で3割近くと多くなっている。（図3-37-3）

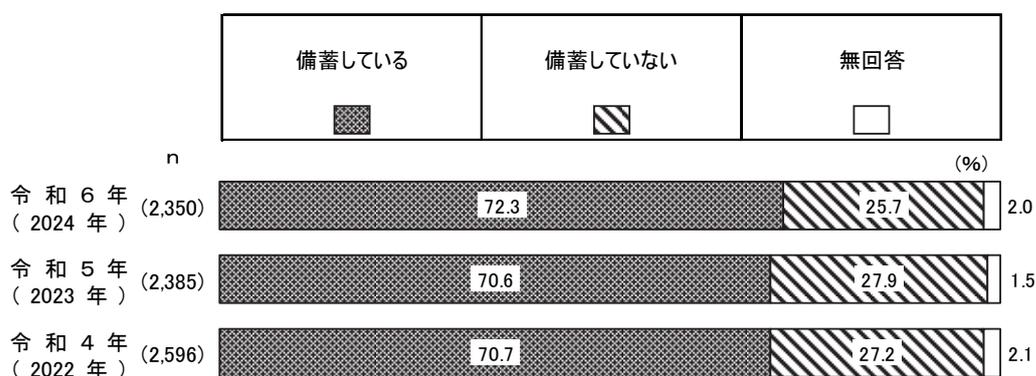
(38) 飲料水の備蓄の有無

◇「備蓄している」が7割強

問 42 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【2. 飲料水について】(○は1つだけ)

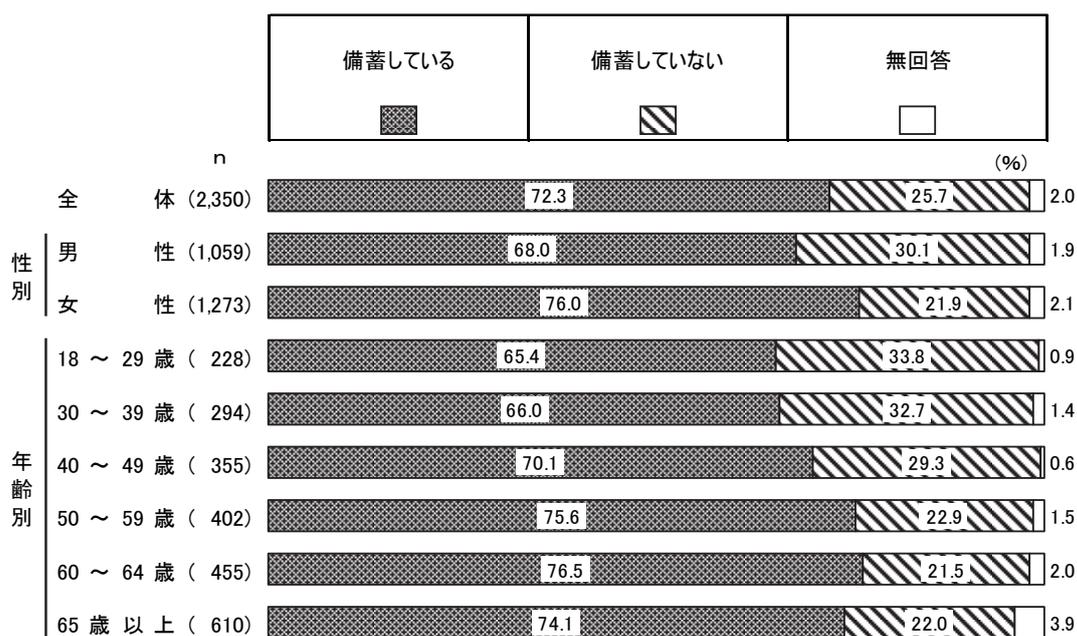
図3-38-1 飲料水の備蓄の有無—全体、経年比較



災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(72.3%)が7割強となっている。一方、「備蓄していない」(25.7%)は2割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「備蓄していない」は令和5年(2023年)(27.9%)より2.2ポイント減少している。(図3-38-1)

図 3-38-2 飲料水の備蓄の有無—性別、年齢別

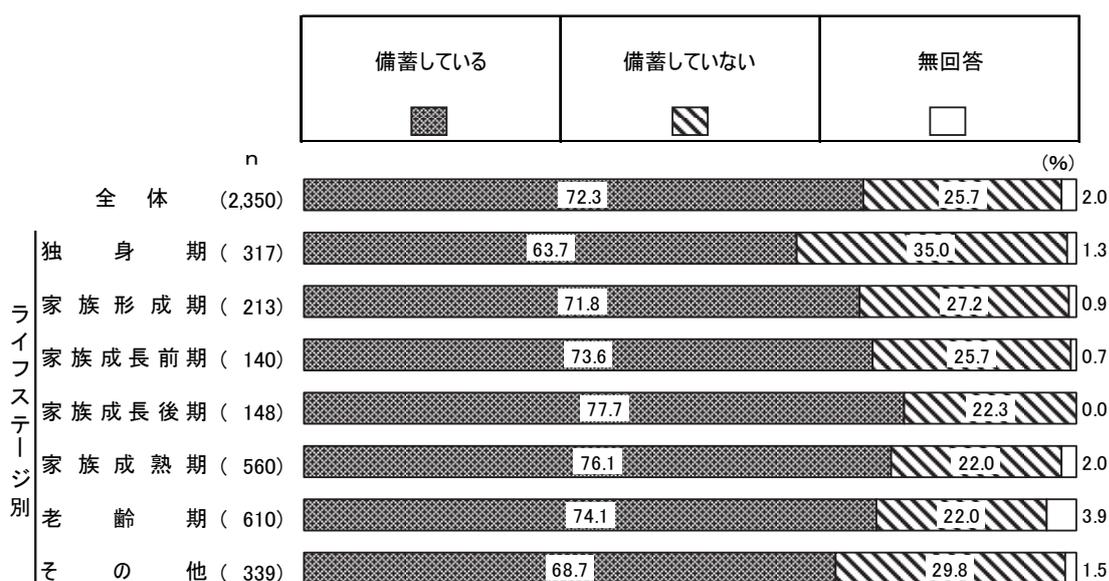


性別にみると、「備蓄している」は女性（76.0%）が男性（68.0%）より 8.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は 60～64 歳（76.5%）で 8 割近くと多くなっている。一方、「備蓄していない」は 18～29 歳（33.8%）、30～39 歳（32.7%）で 3 割強と多くなっている。

(図 3-38-2)

図 3-38-3 飲料水の備蓄の有無—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長後期（77.7%）、家族成熟期（76.1%）で 8 割近くと多くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期（35.0%）で 3 割台半ばと多くなっている。(図 3-38-3)

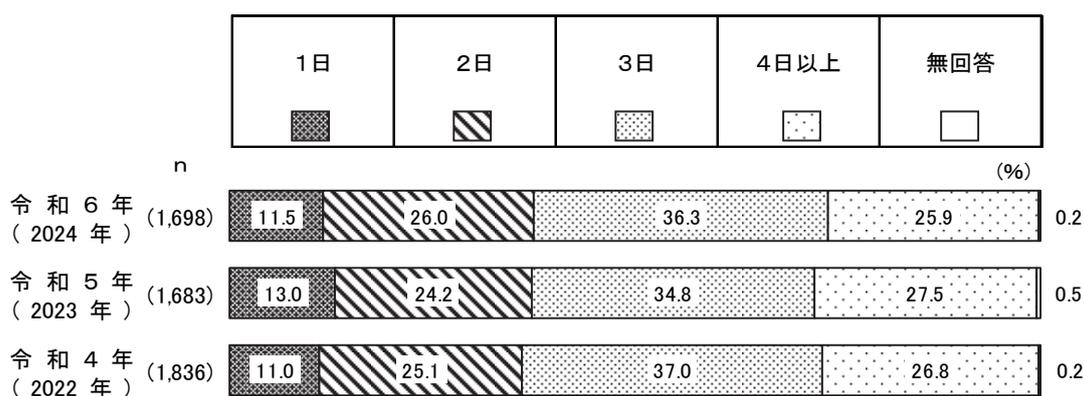
(39) 飲料水の備蓄量

◇「3日」が4割近く

(飲料水を「備蓄している」とお答えの方へ)

問 42-2-1 家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図 3-39-1 飲料水の備蓄量—全体、経年比較



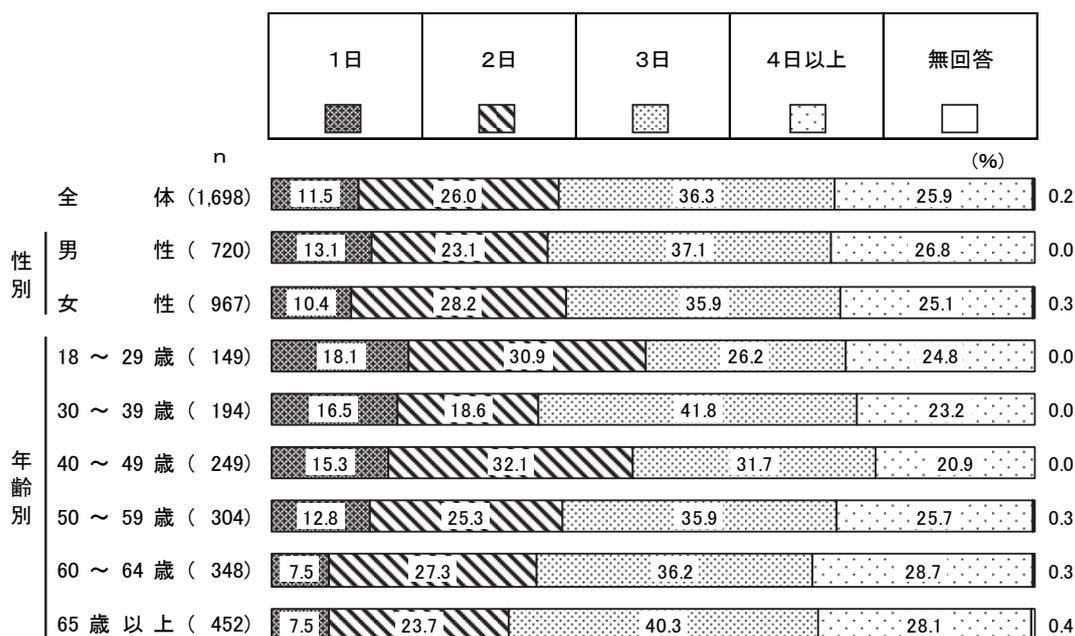
(注) 飲料水は大人1人1日3リットルで計算

飲料水を「備蓄している」と回答した1,698人に、家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(36.3%)が4割近くで最も多くなっている。次いで「2日」(26.0%)、「4日以上」(25.9%)、「1日」(11.5%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図 3-39-1)

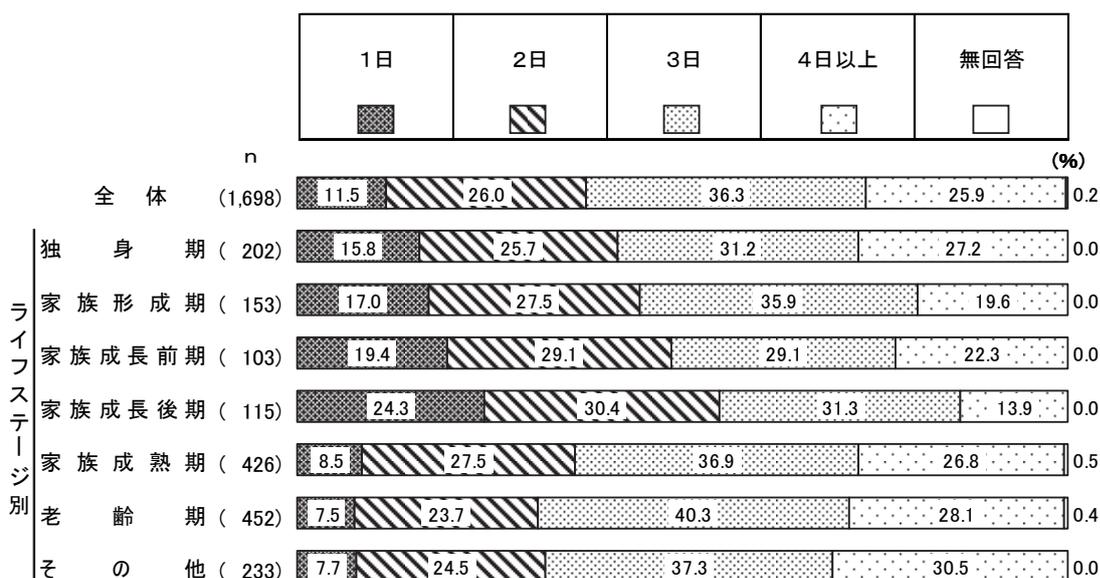
図3-39-2 飲料水の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「2日」は女性（28.2%）が男性（23.1%）より5.1ポイント高くなっている。一方、「1日」は男性（13.1%）が女性（10.4%）より2.7ポイント高くなっている。

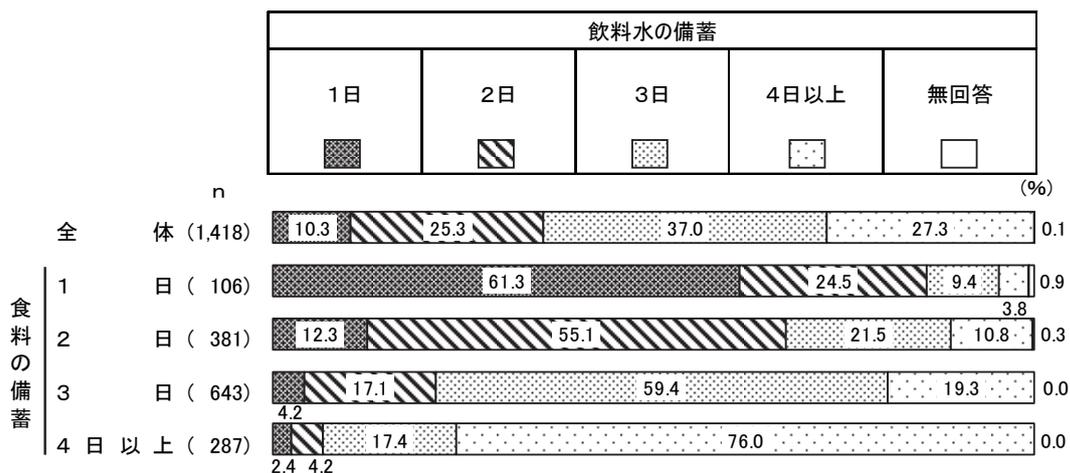
年齢別にみると、「2日」は40～49歳（32.1%）で3割強と多くなっている。「3日」は30～39歳（41.8%）で4割強と多くなっている。「4日以上」は60～64歳（28.7%）、65歳以上（28.1%）で3割近くと多くなっている。（図3-39-2）

図3-39-3 飲料水の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「2日」は家族成長後期（30.4%）で約3割と多くなっている。「3日」は老齢期（40.3%）で約4割と多くなっている。「4日以上」はその他（30.5%）で約3割と多くなっている。（図3-39-3）

図3-39-4 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量



飲料水の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄量をみると、飲料水の備蓄日数と食料の備蓄日数はほぼ相関関係にあり、「飲料水、食料ともに4日以上」(76.0%)が8割近くと多くなっている。(図3-39-4)

図3-39-5 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量 (全体に占める人数及び構成比)

		飲料水の備蓄							
		4日以上	3日	2日	1日	備蓄日数不明	備蓄していない	備蓄の有無不明	
(n=2,350)		439 18.7	617 26.3	442 18.8	196 8.3	4 0.2	604 25.7	48 2.0	
食料の備蓄	4日以上	304 12.9	218 9.3	50 2.1	12 0.5	7 0.3	- -	17 0.7	- -
	3日	671 28.6	124 5.3	382 16.3	110 4.7	27 1.1	- -	28 1.2	- -
	2日	416 17.7	41 1.7	82 3.5	210 8.9	47 2.0	1 0.0	35 1.5	- -
	1日	117 5.0	4 0.2	10 0.4	26 1.1	65 2.8	1 0.0	11 0.5	- -
	備蓄日数不明	2 0.1	- -	- -	1 0.0	- -	- -	- -	1 0.0
	備蓄していない	811 34.5	52 2.2	93 4.0	81 3.4	50 2.1	- -	511 21.7	24 1.0
	備蓄の有無不明	29 1.2	- -	- -	2 0.1	- -	2 0.1	2 0.1	23 1.0

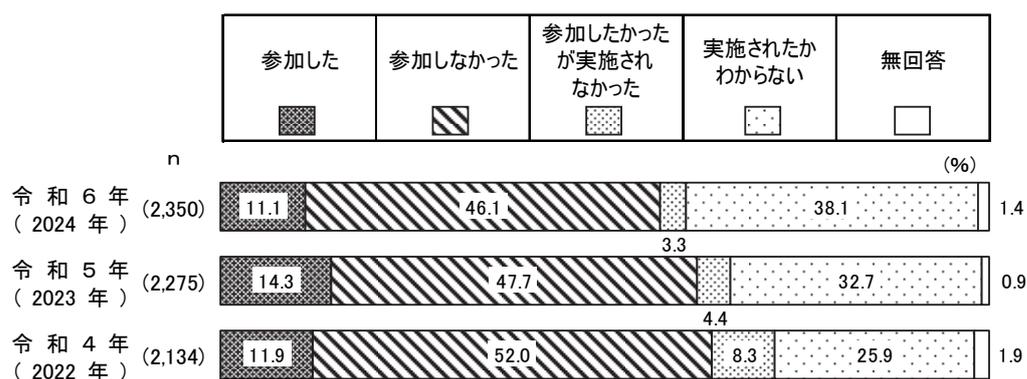
飲料水の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量(全体に占める人数及び構成比)をみると、「飲料水、食料ともに備蓄していない」(n=511、21.7%)が全体の2割強と最も多くなっている。次いで「飲料水、食料ともに3日」(n=382、16.3%)、「飲料水、食料ともに4日以上」(n=218、9.3%)、「飲料水、食料ともに2日」(n=210、8.9%)などの順となっている。なお、《飲料水、食料ともに3日以上備蓄》(網掛け部分)(n=774、32.9%)している人は全体の3割強となっている。(図3-39-5)

(40) 地域の防災訓練への参加状況

◇「参加しなかった」が5割近く

問 43 あなたは、この1年間に、市や町会・自治会、マンション管理組合などが主催する地域の防災訓練に参加しましたか。(○は1つだけ)

図3-40-1 地域の防災訓練への参加状況－全体、経年比較

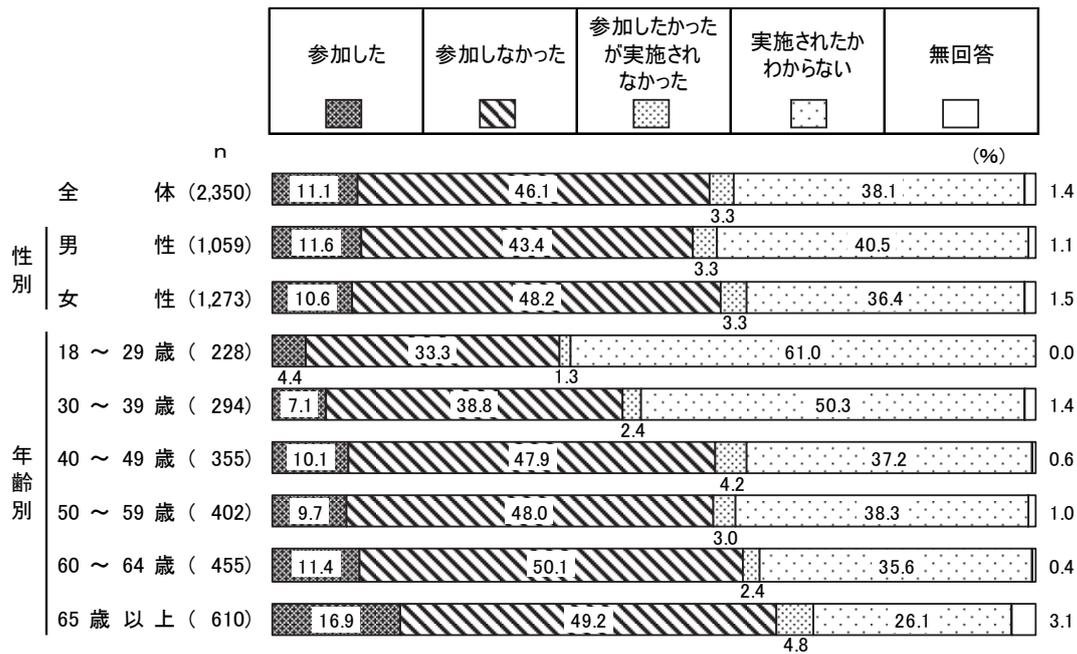


※「八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

市や町会・自治会、マンション管理組合などが主催する地域の防災訓練に参加したか聞いたところ、「参加した」(11.1%)は1割強となっている。一方、「参加しなかった」(46.1%)は5割近くとなっている。「実施されたかわからない」(38.1%)は4割近く、「参加したかったが実施されなかった」(3.3%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、「実施されたかわからない」は令和5年(2023年)(32.7%)より5.4ポイント増加している。一方、「参加した」は令和5年(2023年)(14.3%)より3.2ポイント減少している。(図3-40-1)

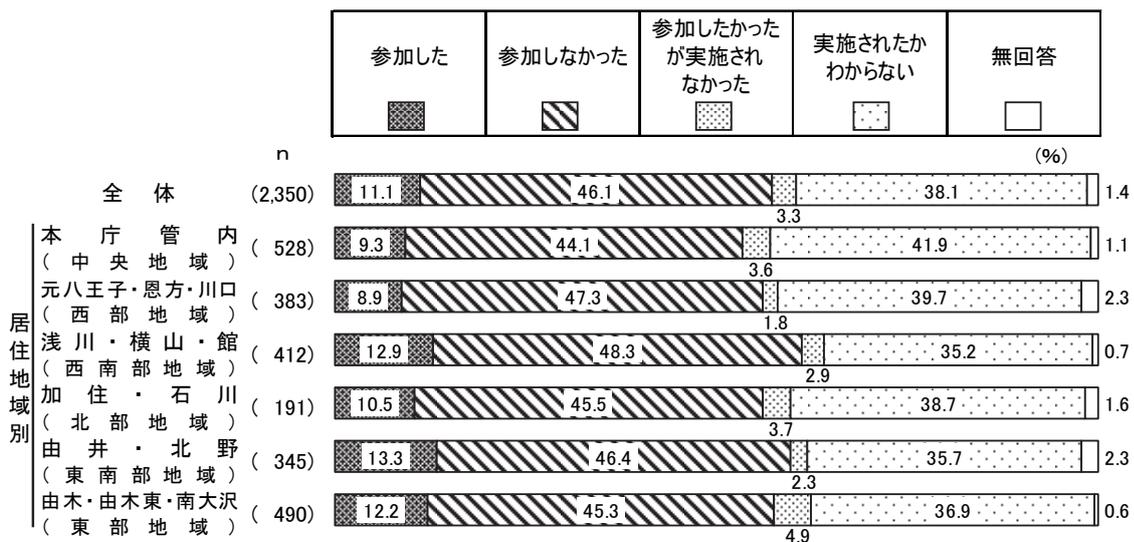
図3-40-2 地域の防災訓練への参加状況－性別、年齢別



性別にみると、「参加しなかった」は女性（48.2%）が男性（43.4%）より4.8ポイント高くなっている。一方、「実施されたかわからない」は男性（40.5%）が女性（36.4%）より4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「参加しなかった」は60～64歳（50.1%）で約5割と多くなっている。「実施されたかわからない」は18～29歳（61.0%）で6割強と多くなっている。（図3-40-2）

図3-40-3 地域の防災訓練への参加状況－居住地域別



居住地域別にみると、「参加しなかった」は浅川・横山・館（西南部地域）（48.3%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（47.3%）、由井・北野（東南部地域）（46.6%）で5割近くと多くなっている。「実施されたかわからない」は本庁管内（中央地域）（41.9%）で4割強と多くなっている。

（図3-40-3）

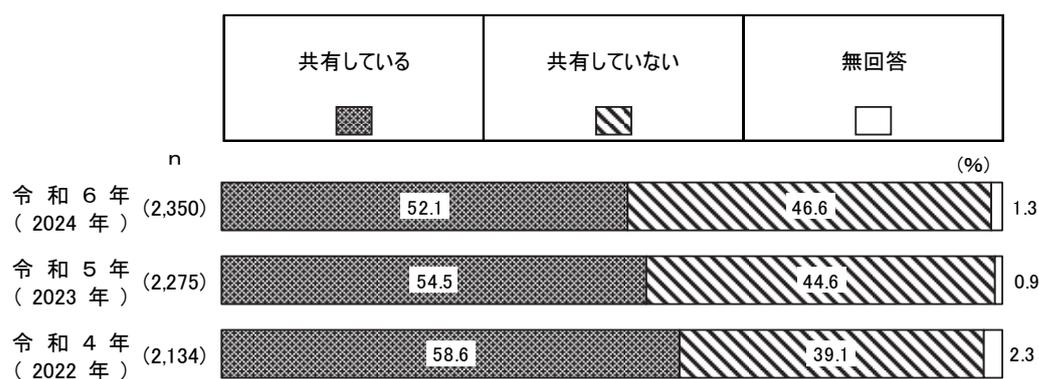
(41) 『災害時の避難場所』の共有

◇「共有している」が5割強

問 44 あなたは、“災害時の避難場所”を家族や友人などと共有していますか。

(○は1つだけ)

図3-41-1 『災害時の避難場所』の共有—全体、経年比較

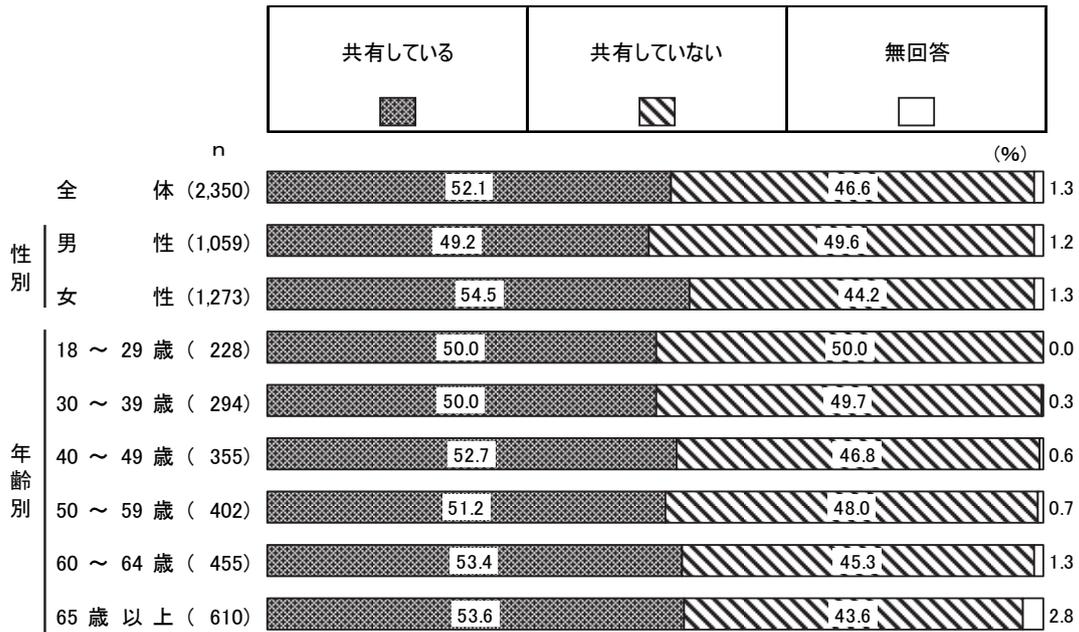


※「八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

“災害時の避難場所”を家族や友人などと共有しているか聞いたところ、「共有している」(52.1%)は5割強となっている。一方、「共有していない」(46.6%)は5割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「共有していない」は令和5年(2023年)(44.6%)より2.0ポイント増加している。(図3-41-1)

図3-41-2 『災害時の避難場所』の共有－性別、年齢別

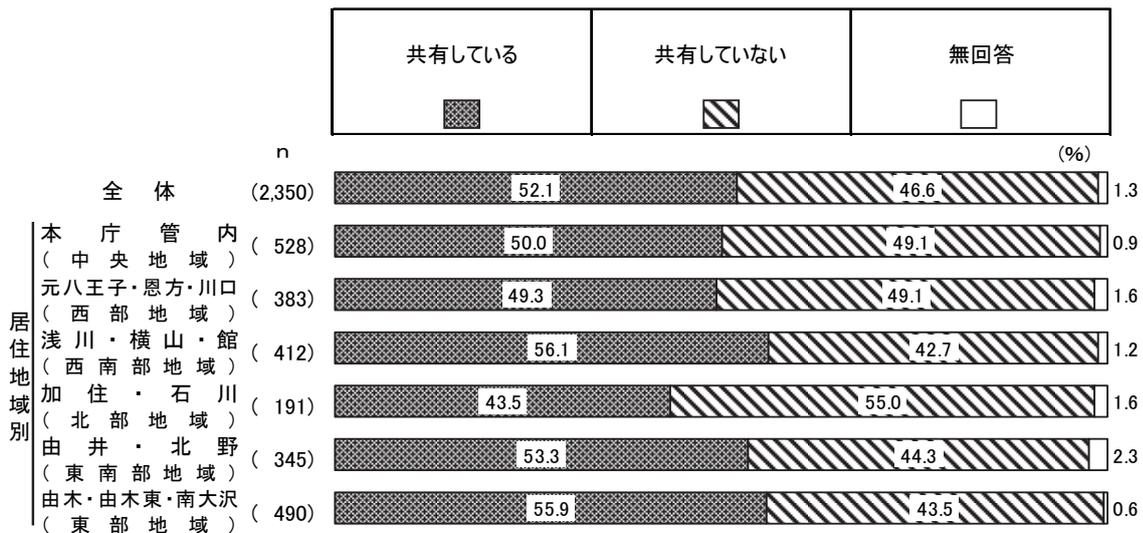


性別にみると、「共有している」は女性（54.5%）が男性（49.2%）より 5.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「共有していない」は18～29歳（50.0%）で5割と多くなっている。

(図3-41-2)

図3-41-3 『災害時の避難場所』の共有－居住地域別



居住地域別にみると、「共有している」は浅川・横山・館（西南部地域）（56.1%）で6割近くと多くなっている。一方、「共有していない」は加住・石川（北部地域）（55.0%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-41-3）

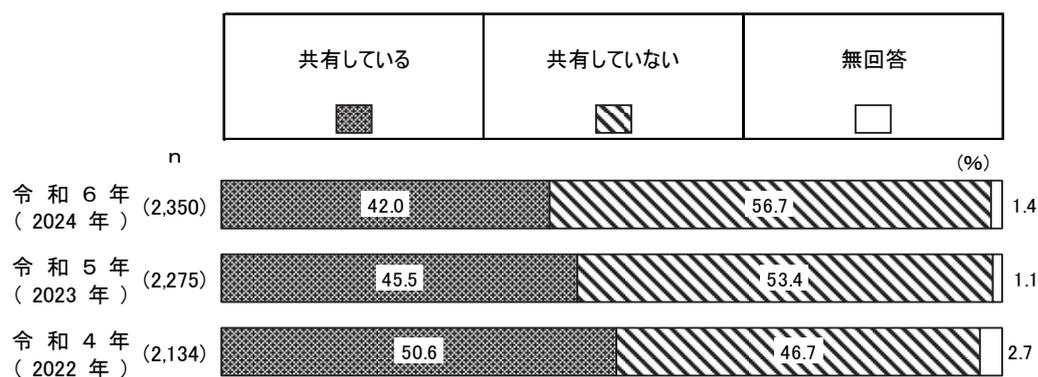
(42) 『災害時の安否確認の方法』の共有

◇「共有している」が4割強

問 45 あなたは、“災害時の安否確認の方法”を家族や友人などと共有していますか。

(○は1つだけ)

図3-42-1 『災害時の安否確認の方法』の共有－全体、経年比較

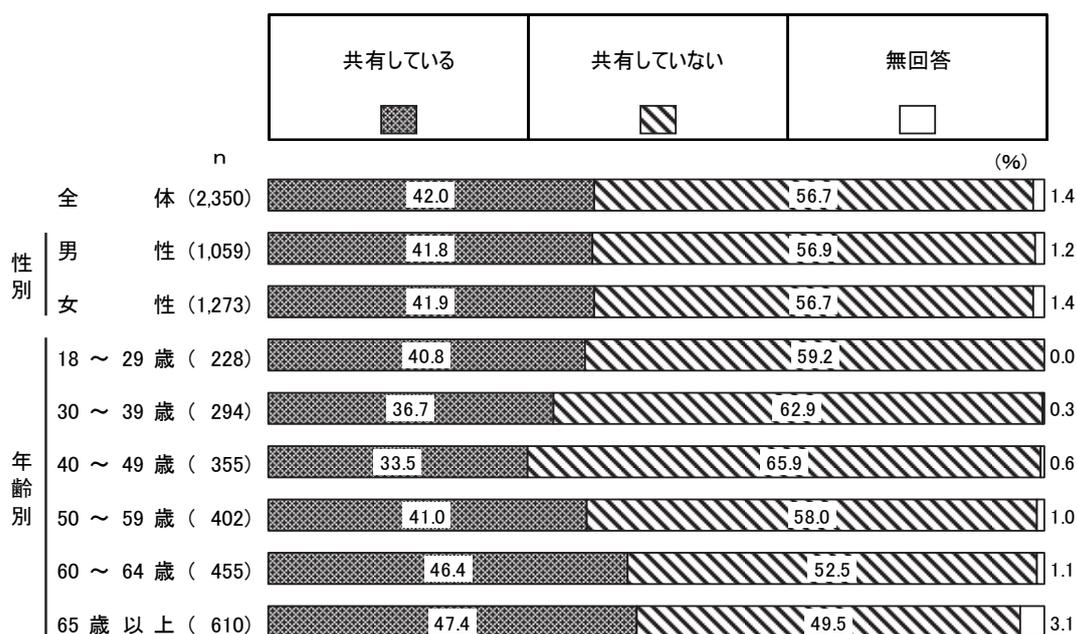


※「八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

“災害時の安否確認の方法”を家族や友人などと共有しているか聞いたところ、「共有している」(42.0%)は4割強となっている。一方、「共有していない」(56.7%)は6割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「共有していない」は令和5年(2023年)(53.4%)より3.3ポイント増加している。(図3-42-1)

図3-42-2 『災害時の安否確認の方法』の共有—性別、年齢別

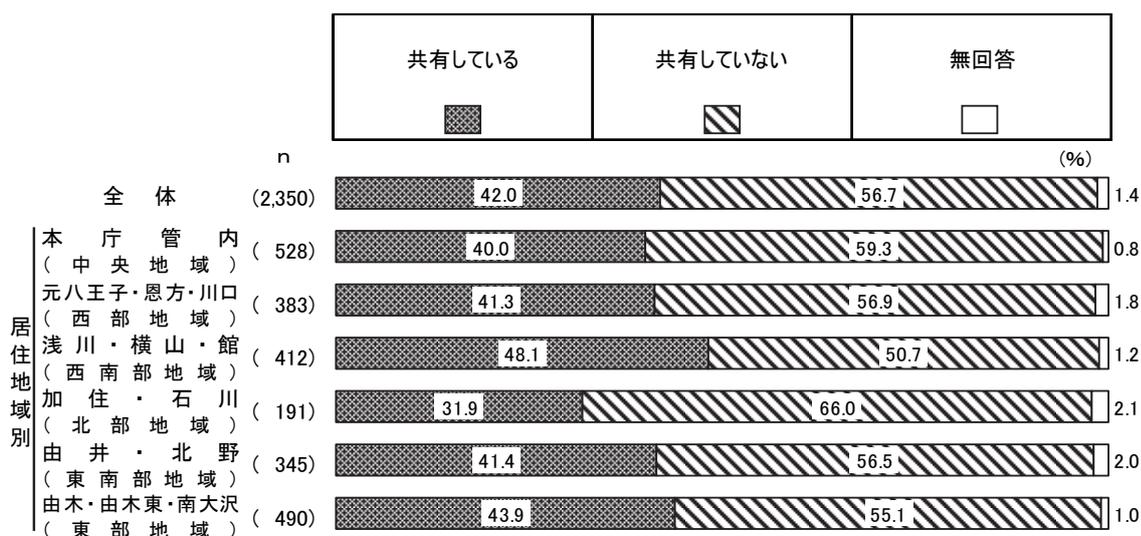


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「共有している」は65歳以上(47.4%)、60～64歳(46.4%)で5割近くと多くなっている。一方、「共有していない」は40～49歳(65.9%)で6割台半ばと多くなっている。

(図3-42-2)

図3-42-3 『災害時の安否確認の方法』の共有—居住地域別



居住地域別にみると、「共有している」は浅川・横山・館(西南部地域)(48.1%)で5割近くと多くなっている。一方、「共有していない」は加住・石川(北部地域)(66.0%)で7割近くと多くなっている。(図3-42-3)

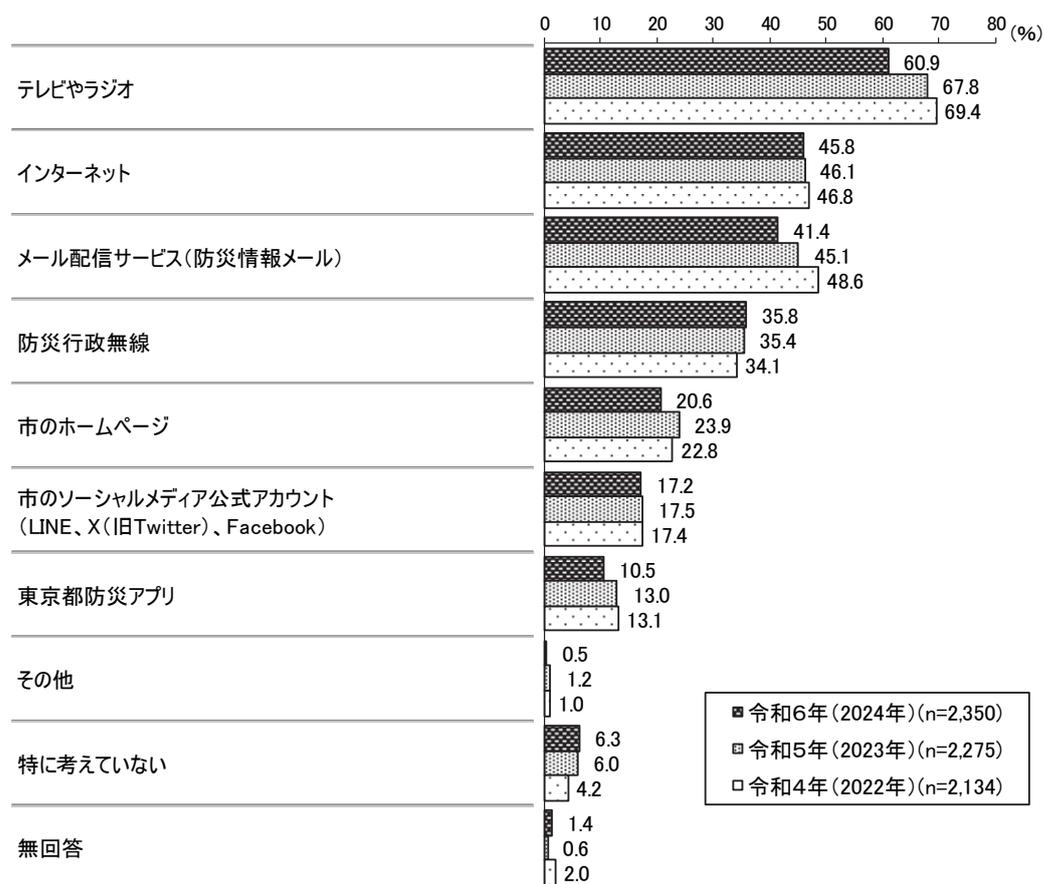
(43) 災害時の災害情報の入手方法

◇「テレビやラジオ」が約6割

問 46 あなたの家庭では、災害時にどのような方法で災害情報を入手する考えですか。

(○はいくつでも)

図 3-43-1 災害時の災害情報の入手方法—全体、経年比較



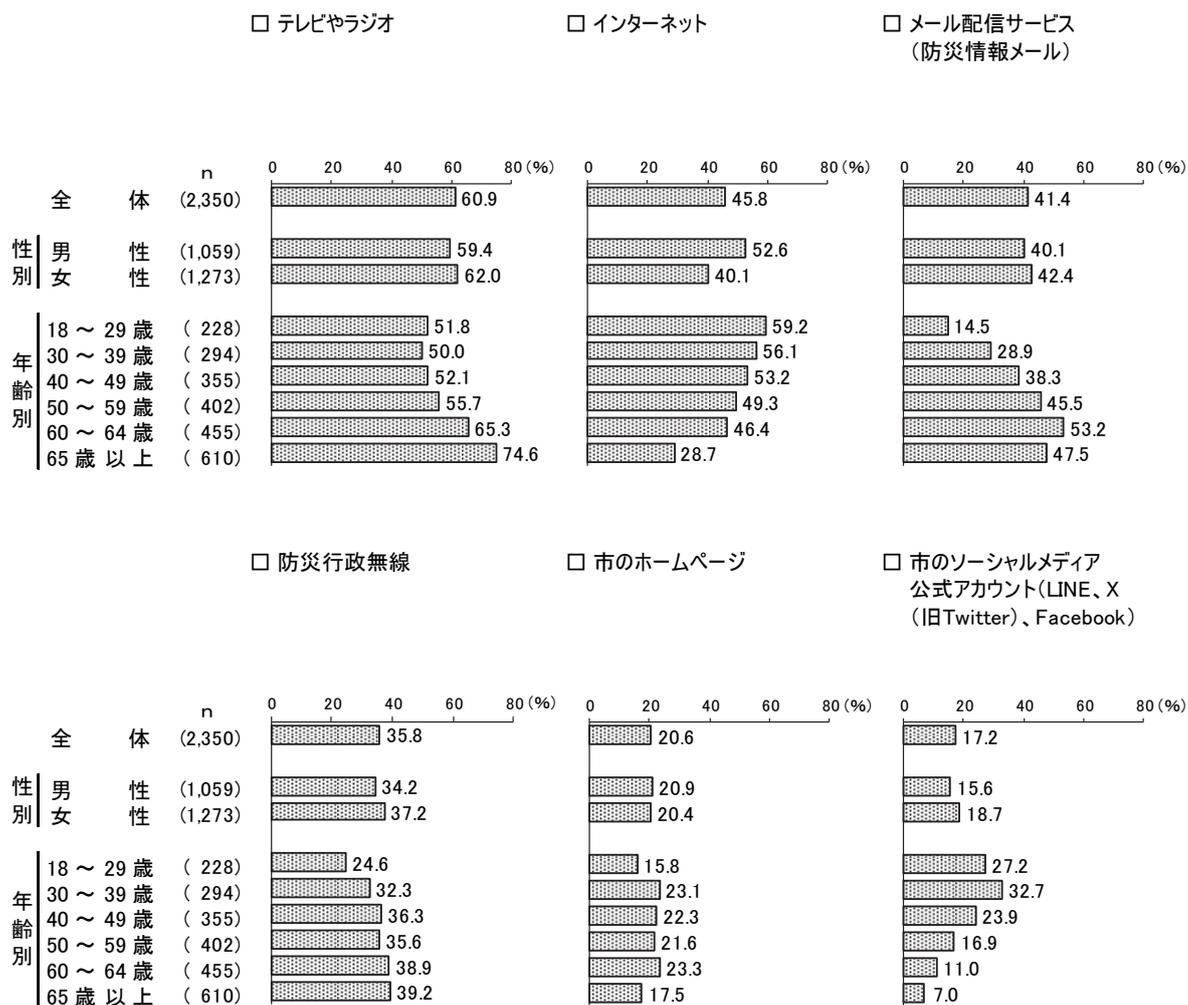
※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

(注)「市のソーシャルメディア公式アカウント(LINE、X(旧Twitter)、Facebook)」は、令和4年(2022年)は「市のソーシャルメディア公式アカウント(LINE、Twitter、Facebook)」としていた。

災害時にどのような方法で災害情報を入手するか聞いたところ、「テレビやラジオ」(60.9%)が約6割で最も多くなっている。次いで「インターネット」(45.8%)、「メール配信サービス(防災情報メール)」(41.4%)、「防災行政無線」(35.8%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「テレビやラジオ」は令和5年(2023年)(67.8%)より6.9ポイント減少している。(図3-43-1)

図3-43-2 災害時の災害情報の入手方法—性別、年齢別（上位6項目）

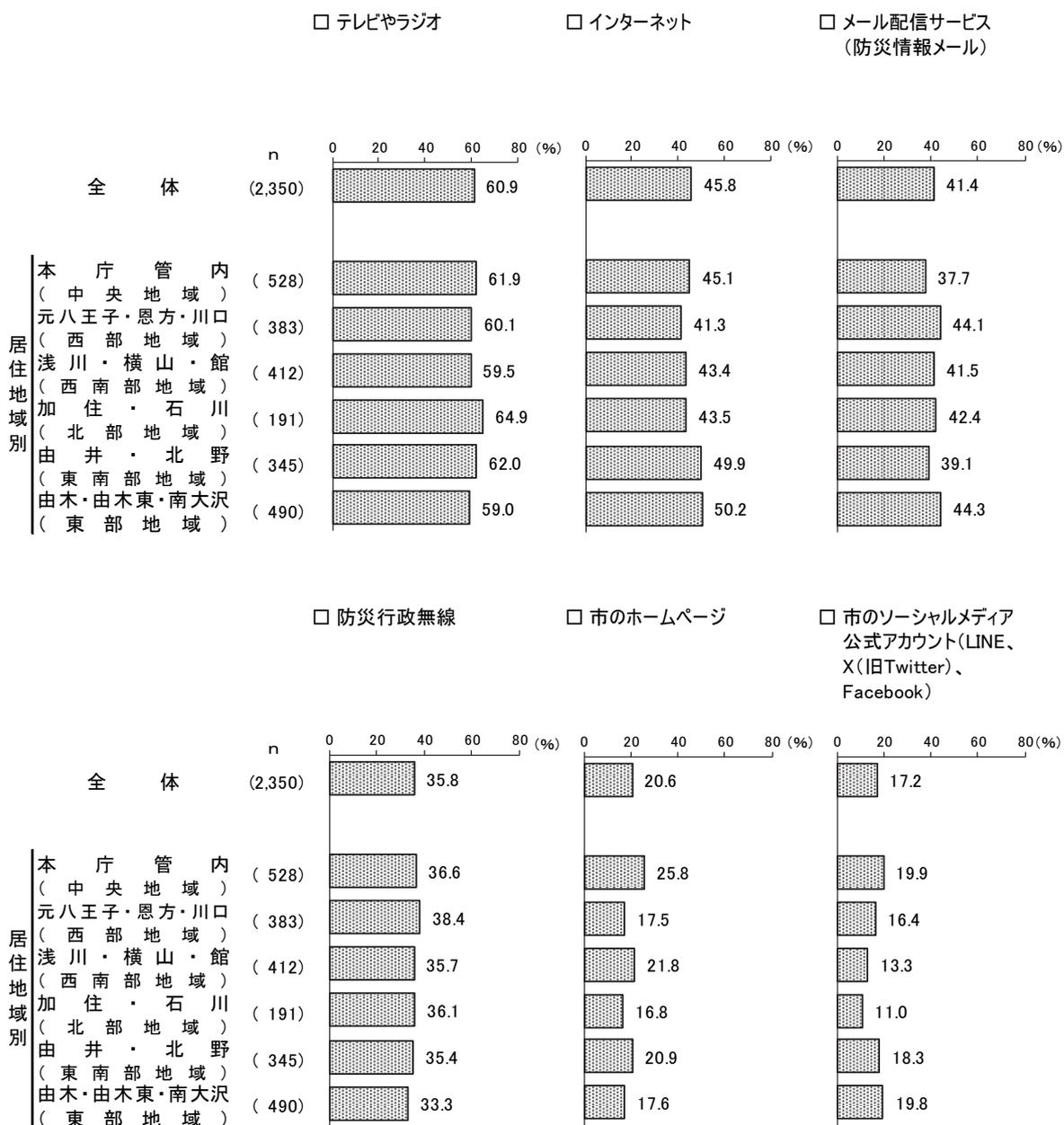


性別にみると、「インターネット」は男性（52.6%）が女性（40.1%）より12.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「テレビやラジオ」は65歳以上（74.6%）で7割台半ばと多くなっている。「インターネット」は年代が低くなるほど割合が高く、18～29歳（59.2%）で6割弱と多くなっている。「メール配信サービス（防災情報メール）」は60～64歳（53.2%）で5割強と多くなっている。

（図3-43-2）

図3-43-3 災害時の災害情報の入手方法－居住地域別（上位6項目）



居住地域別にみると、「テレビやラジオ」は加住・石川（北部地域）（64.9%）で6割台半ばと多くなっている。「インターネット」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（50.2%）で約5割と多くなっている。「メール配信サービス（防災情報メール）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（44.3%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（44.1%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-43-3）

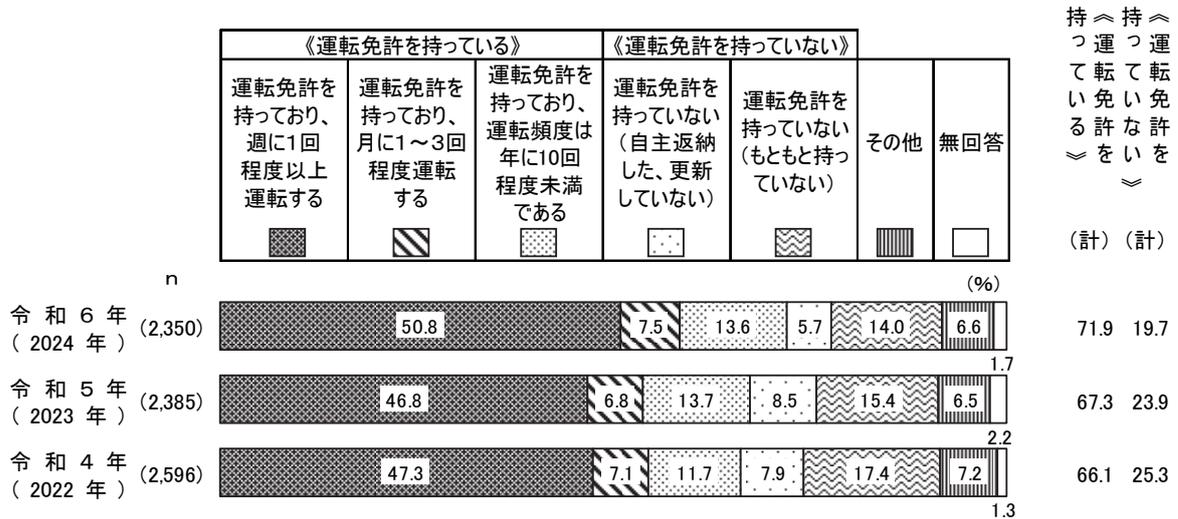
(44) 運転免許保有状況と運転頻度

◇「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」が約5割

問 47 あなたの運転免許の保有状況と自動車の運転頻度についてお答えください。

(○は1つだけ)

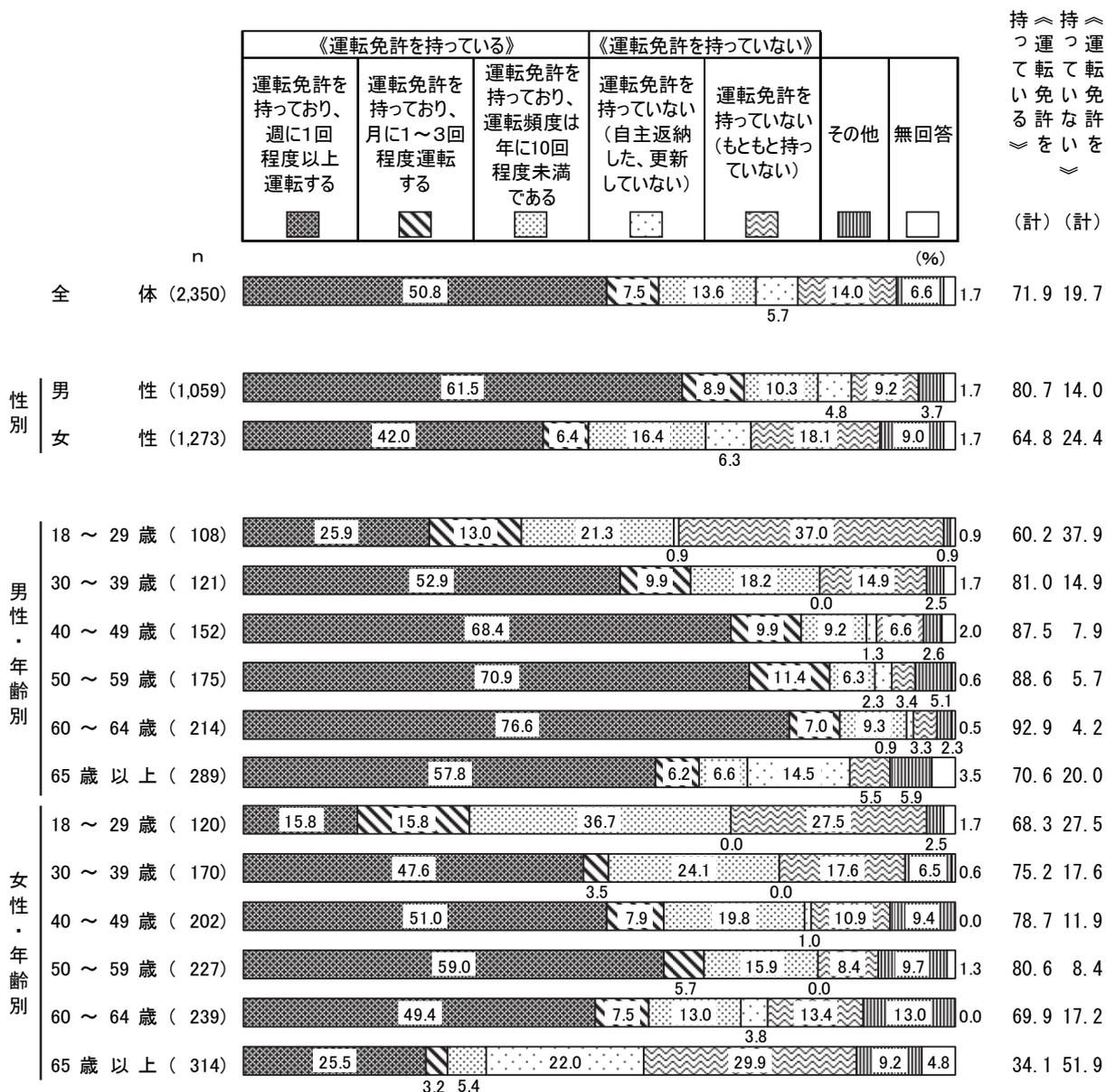
図3-44-1 運転免許保有状況と運転頻度－全体、経年比較



運転免許の保有状況と自動車の運転頻度について聞いたところ、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」(50.8%)が約5割で最も多く、これに「運転免許を持っており、月に1～3回程度運転する」(7.5%)と「運転免許を持っており、運転頻度は年に10回程度未満である」(13.6%)を合わせた《運転免許を持っている》(71.9%)は7割強となっている。一方、「運転免許を持っていない(自主返納した、更新していない)」(5.7%)と「運転免許を持っていない(もともと持っていない)」(14.0%)を合わせた《運転免許を持っていない》(19.7%)は2割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、《運転免許を持っている》は令和5年(2023年)(67.3%)より4.6ポイント増加している。(図3-44-1)

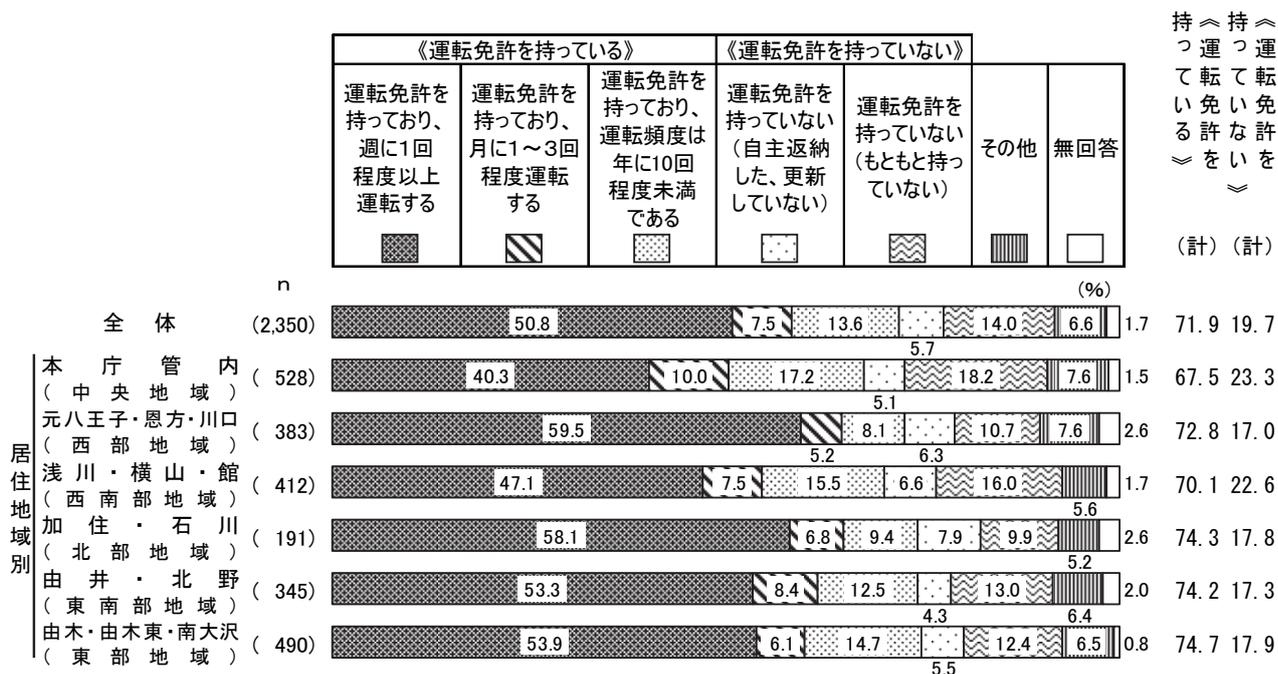
図3-44-2 運転免許保有状況と運転頻度—性別、性・年齢別



性別にみると、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は男性（61.5%）が女性（42.0%）より19.5ポイント、《運転免許を持っている》は男性（80.7%）が女性（64.8%）より15.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、《運転免許を持っている》は男性60~64歳（92.9%）で9割強と多くなっている。「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は男性60~64歳（76.6%）で8割近くと多くなっている。一方、《運転免許を持っていない》は女性65歳以上（51.9%）で5割強と多くなっている。（図3-44-2）

図3-44-3 運転免許保有状況と運転頻度－居住地域別



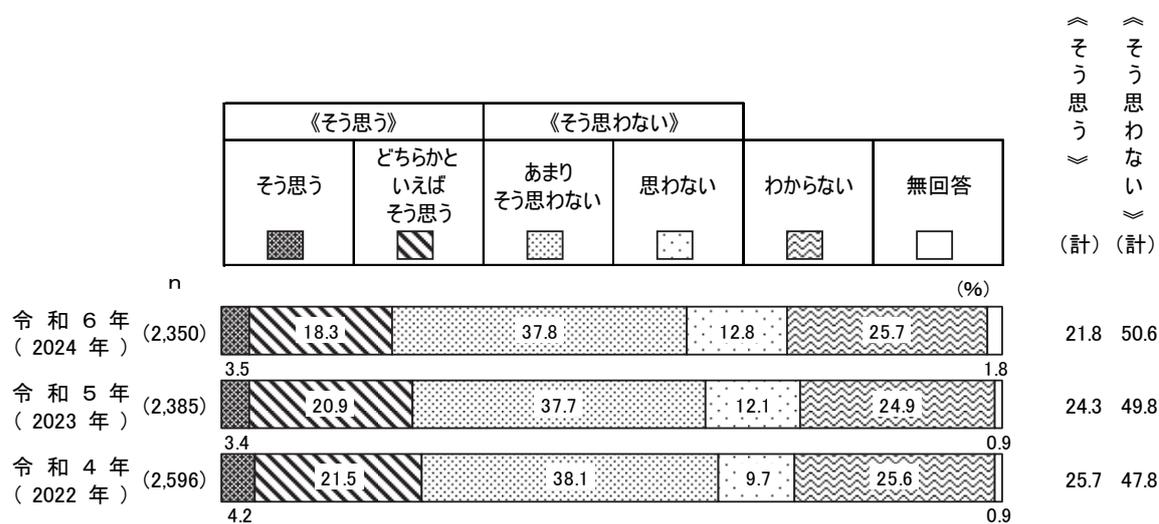
居住地域別にみると、「運転免許を持っている」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(74.7%)、加住・石川(北部地域)(74.3%)、由井・北野(東南部地域)(74.2%)で7割台半ばと多くなっている。「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は元八王子・恩方・川口(西部地域)(59.5%)で6割弱と多くなっている。(図3-44-3)

(45) 市内の交通渋滞緩和

◇《《そう思う》》が2割強

問 48 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。(○は1つだけ)

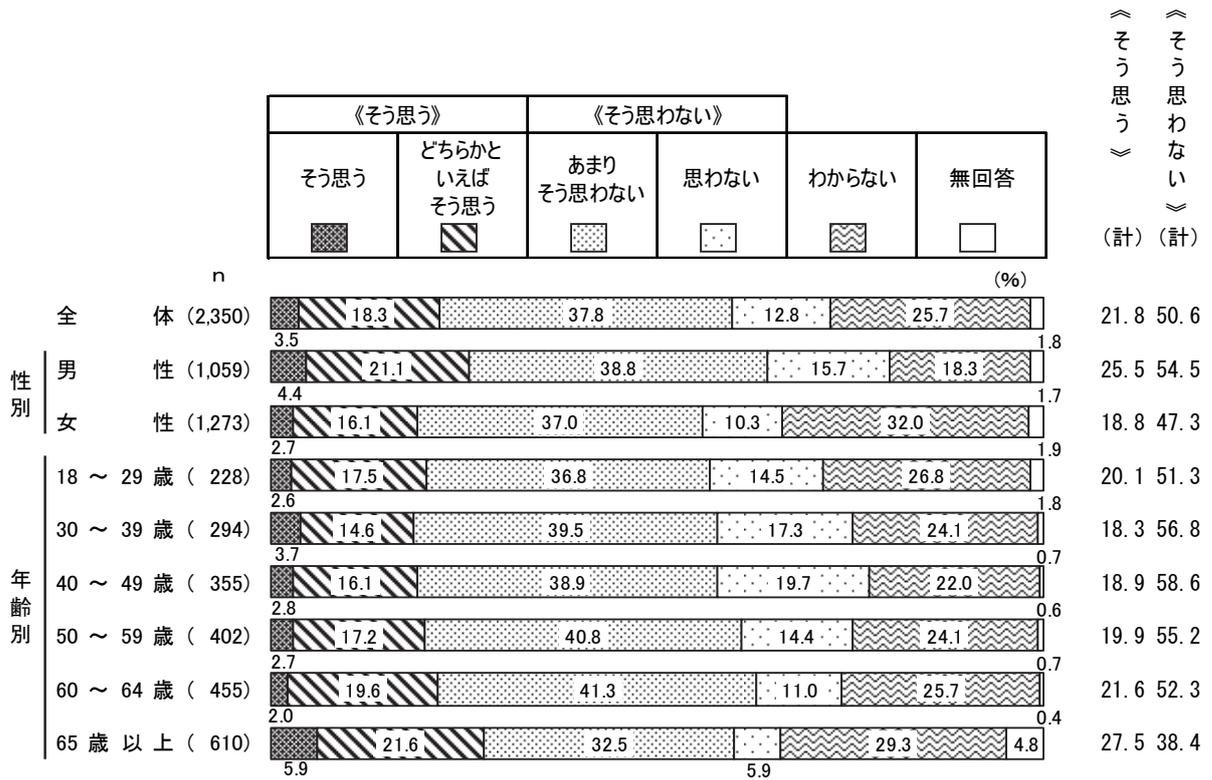
図 3-45-1 市内の交通渋滞緩和—全体、経年比較



市内の交通渋滞が緩和されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.5%)と「どちらかといえばそう思う」(18.3%)を合わせた《《そう思う》》(21.8%)は2割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(37.8%)と「思わない」(12.8%)を合わせた《《そう思わない》》(50.6%)は約5割となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和5年(2023年)(24.3%)より2.5ポイント減少している。(図3-45-1)

図 3-45-2 市内の交通渋滞緩和—性別、年齢別

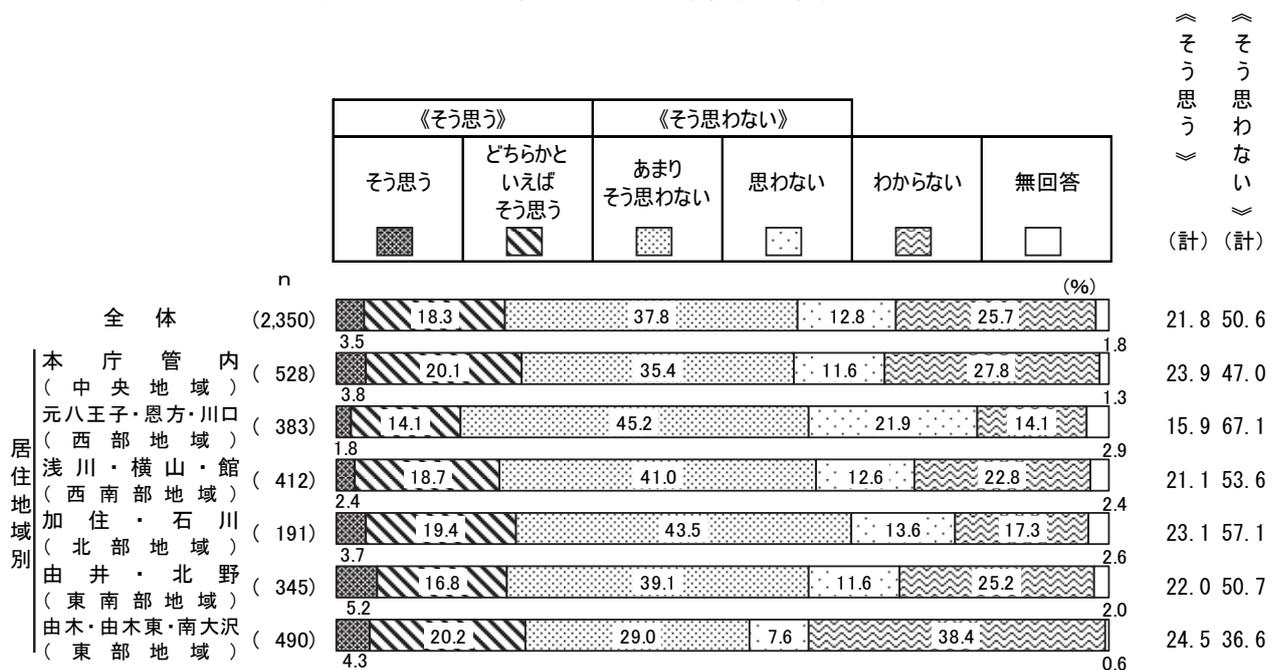


性別にみると、《そう思わない》は男性（54.5%）が女性（47.3%）より 7.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は 65 歳以上（27.5%）で 3 割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は 40～49 歳（58.6%）、30～39 歳（56.8%）で 6 割近くと多くなっている。

(図 3-45-2)

図 3-45-3 市内の交通渋滞緩和—居住地地域別



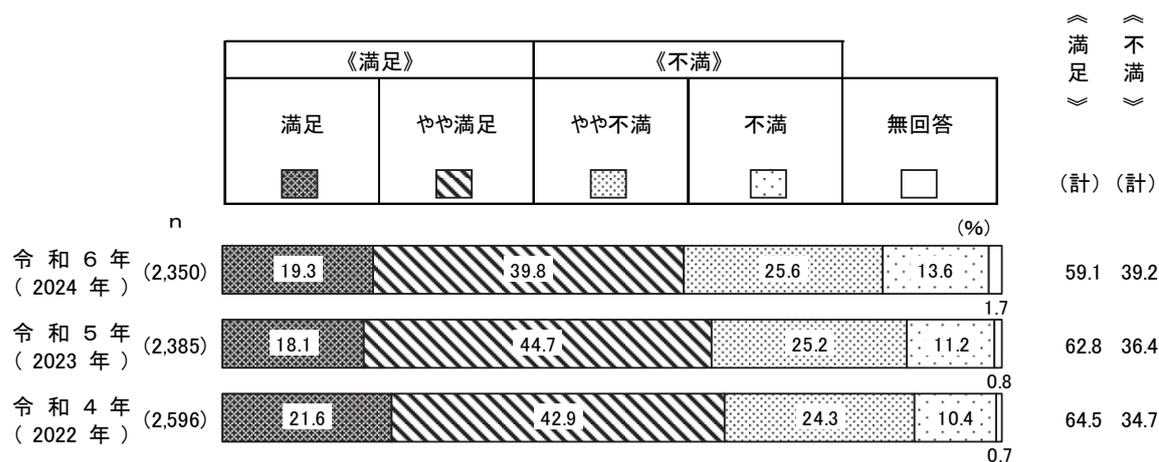
居住地地域別にみると、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（67.1%）で 7 割近くと多くなっている。(図 3-45-3)

(46) 公共交通の利便性の満足度

◇《満足》が6割弱

問 49 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は1つだけ）

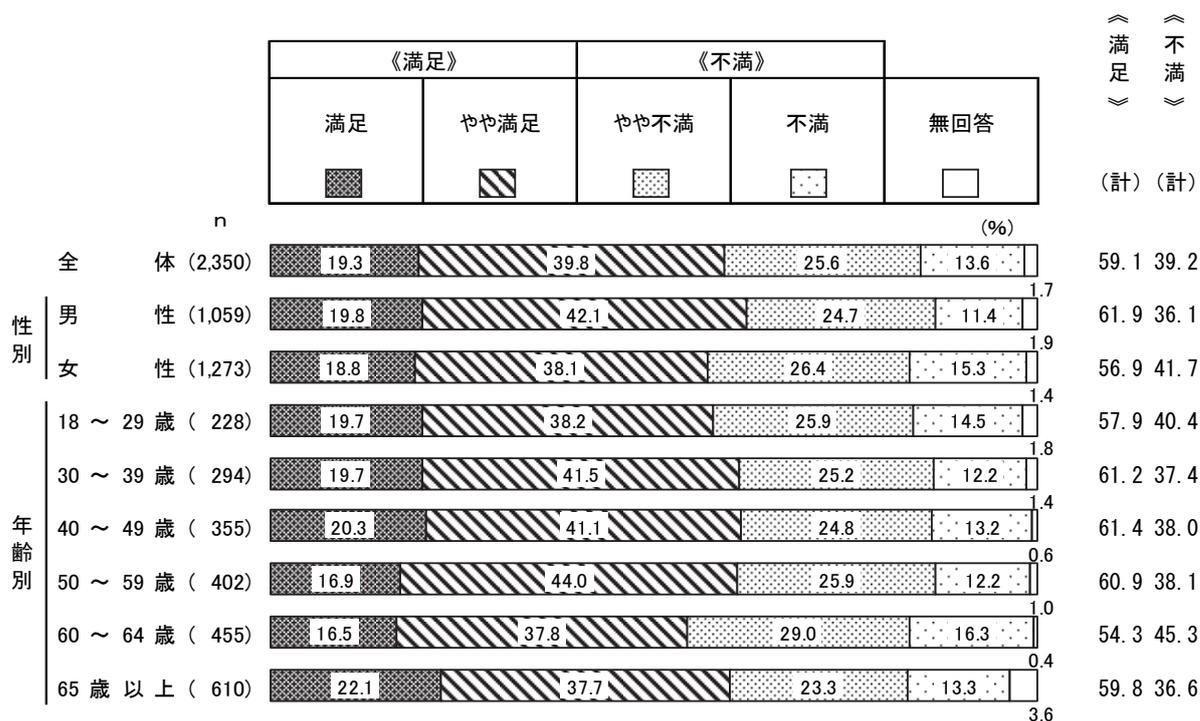
図3-46-1 公共交通の利便性の満足度—全体、経年比較



地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足しているか聞いたところ、「満足」（19.3%）と「やや満足」（39.8%）を合わせた《満足》（59.1%）は6割弱となっている。一方、「やや不満」（25.6%）と「不満」（13.6%）を合わせた《不満》（39.2%）は4割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、《不満》は令和5年（2023年）（36.4%）より2.8ポイント増加している。（図3-46-1）

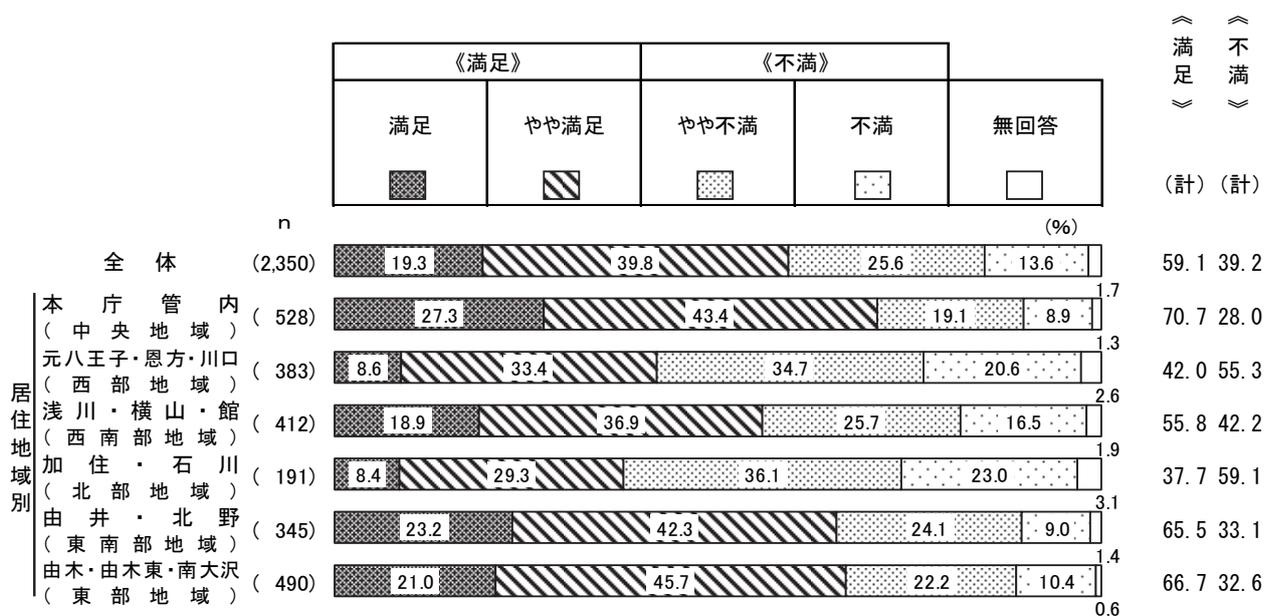
図3-46-2 公共交通の利便性の満足度－性別、年齢別



性別にみると、《不満》は女性（41.7%）が男性（36.1%）より5.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《満足》は40～49歳（61.4%）、30～39歳（61.2%）で6割強と多くなっている。一方、《不満》は60～64歳（45.3%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-46-2）

図3-46-3 公共交通の利便性の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）（70.7%）で約7割と多くなっている。一方、《不満》は加住・石川（北部地域）（59.1%）で6割弱と多くなっている。（図3-46-3）

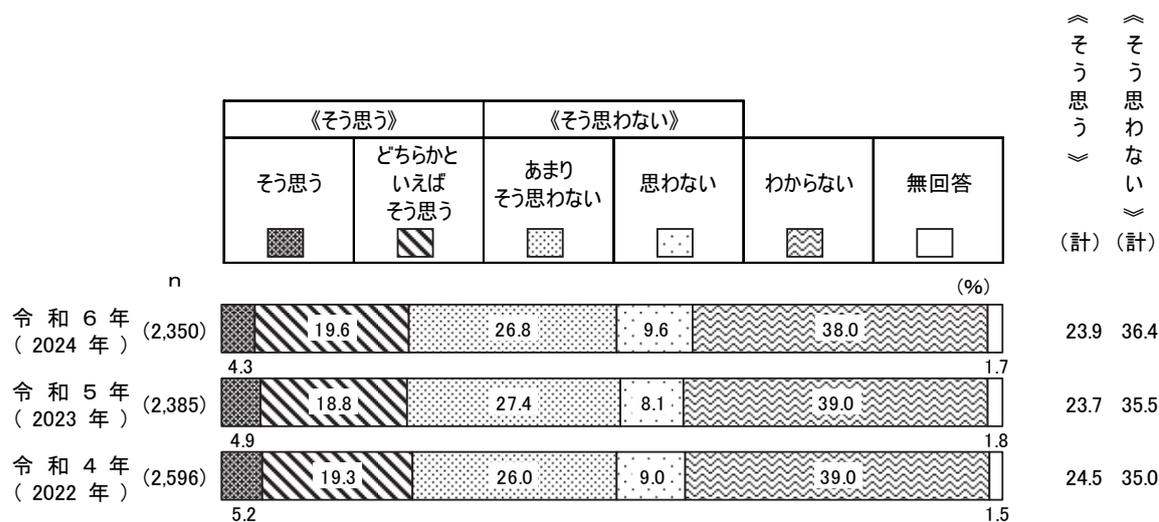
(47) 大学等のまちづくりへの活用

◇《《そう思う》》が2割強

問 50 あなたは、市内およびその周辺地域に立地している大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力が、まちづくりに活かされていると思いますか。

(○は1つだけ)

図3-47-1 大学等のまちづくりへの活用—全体、経年比較

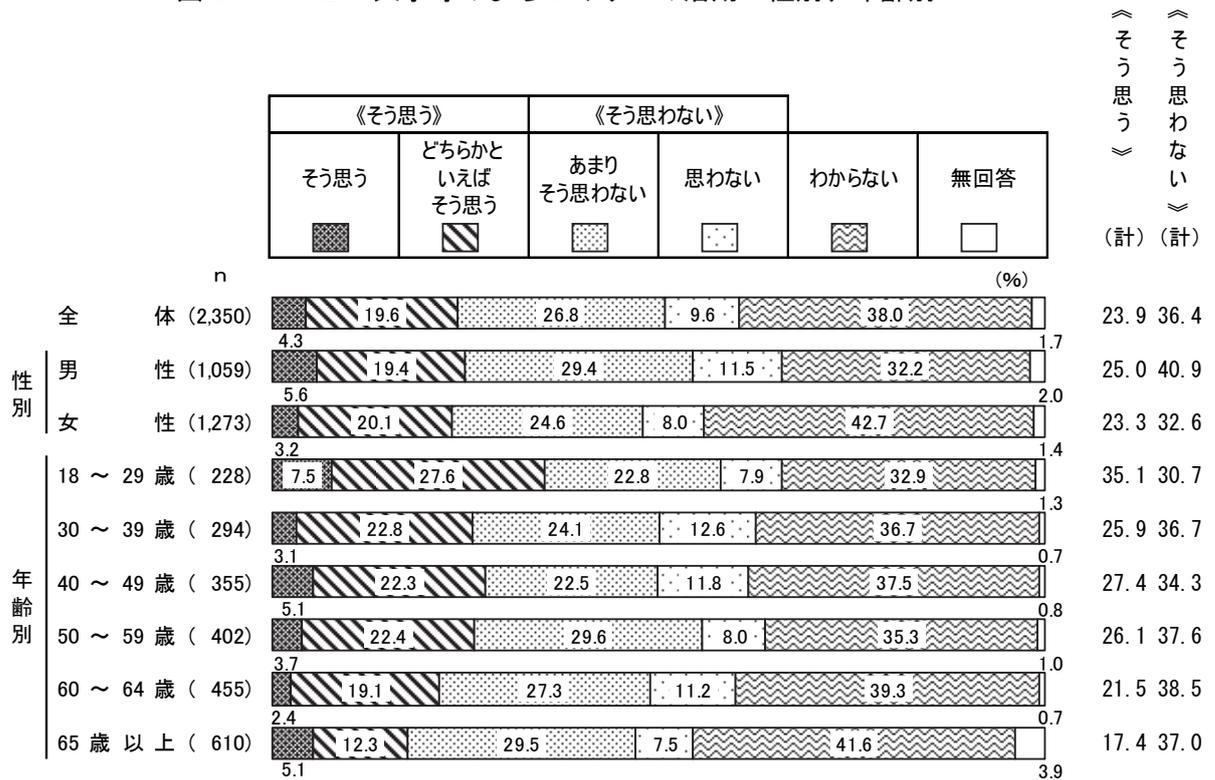


大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.3%)と「どちらかといえばそう思う」(19.6%)を合わせた《《そう思う》》(23.9%)は2割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(26.8%)と「思わない」(9.6%)を合わせた《《そう思わない》》(36.4%)は4割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-47-1)

図3-47-2 大学等のまちづくりへの活用—性別、年齢別

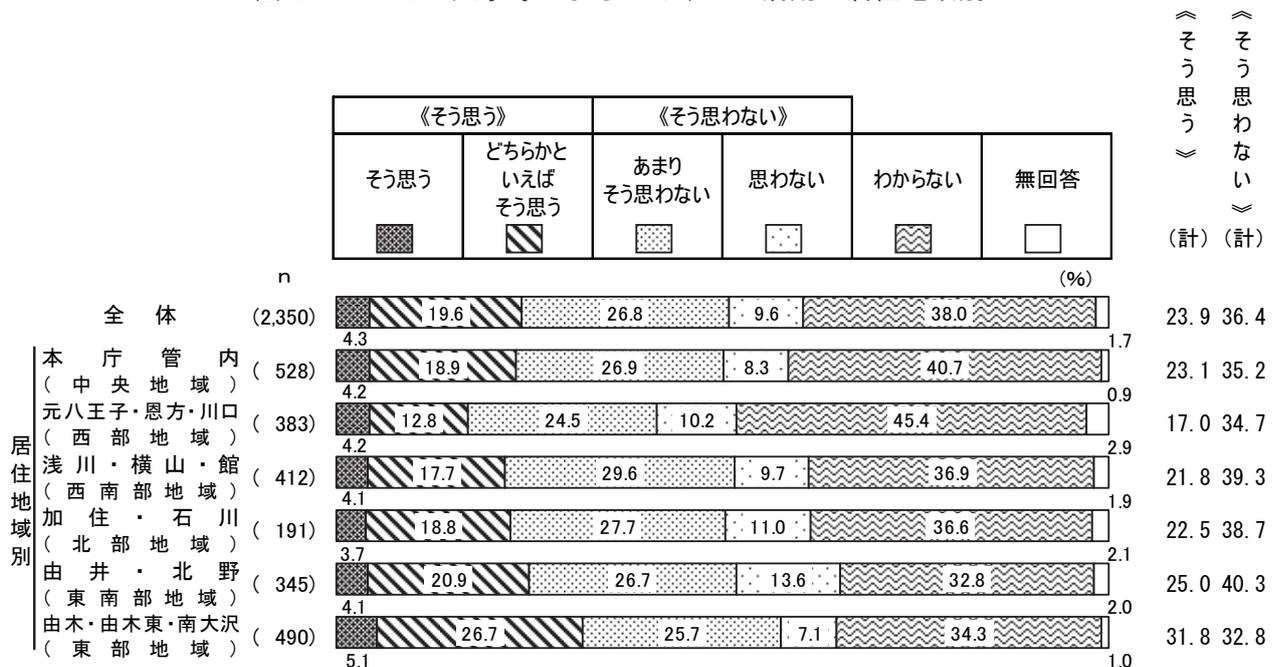


性別にみると、《そう思わない》は男性（40.9%）が女性（32.6%）より8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（35.1%）で3割台半ばと多くなっている。

(図3-47-2)

図3-47-3 大学等のまちづくりへの活用—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（31.8%）で3割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は由井・北野（東南部地域）（40.3%）で約4割と多くなっている。（図3-47-3）

(48) 八王子に関連する文化芸術に触れる機会

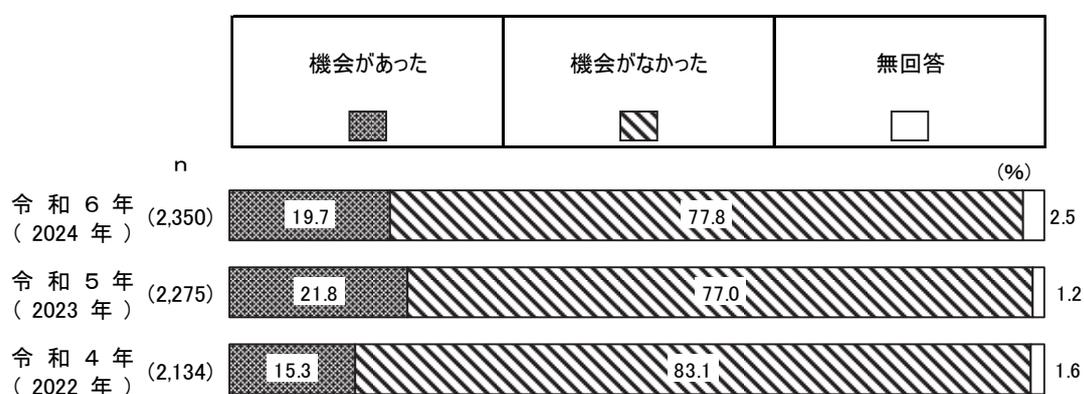
◇「機会があった」が2割弱

問 51 あなたは、この1年間に、八王子に関連する文化芸術に触れる機会がありましたか。
(○は1つだけ)

※文化芸術とは・・・

音楽、美術、メディア芸術、伝統芸能、歴史的な建物や遺跡、文学、生活文化、演劇、舞踊、芸能など市民の暮らしの中にある文化芸術活動の全て。

図 3-48-1 八王子に関連する文化芸術に触れる機会－全体、経年比較

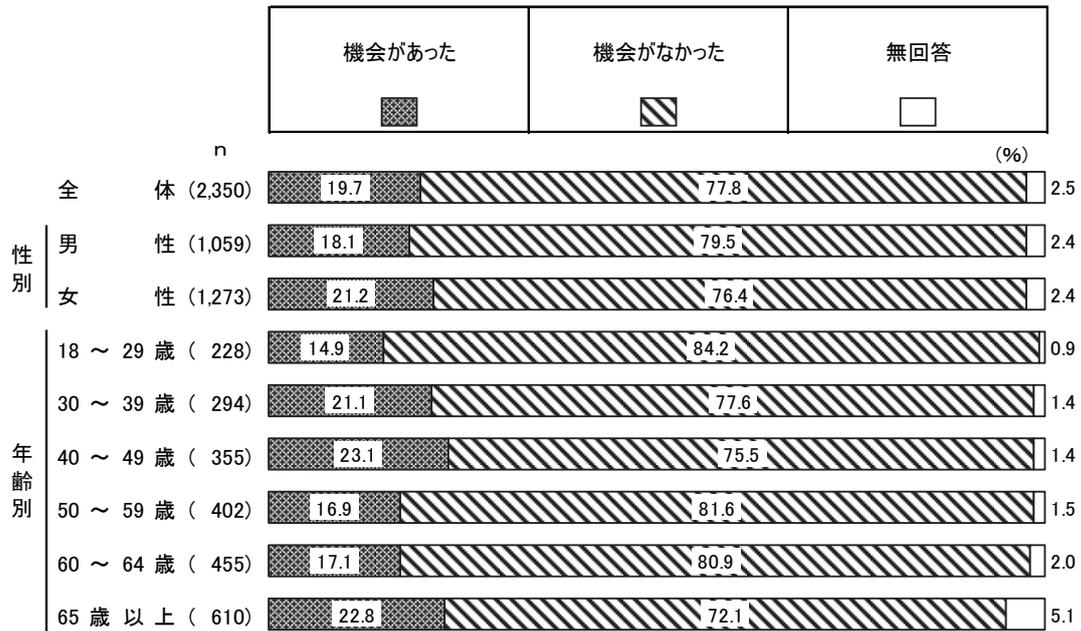


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和 4 年及び 5 年) 結果と比較

この 1 年間に、八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか聞いたところ、「機会があった」(19.7%) は 2 割弱となっている。一方、「機会がなかった」(77.8%) は 8 割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「機会があった」は令和 5 年 (2023 年) (21.8%) より 2.1 ポイント減少している。(図 3-48-1)

図 3-48-2 八王子に関連する文化芸術に触れる機会—性別、年齢別

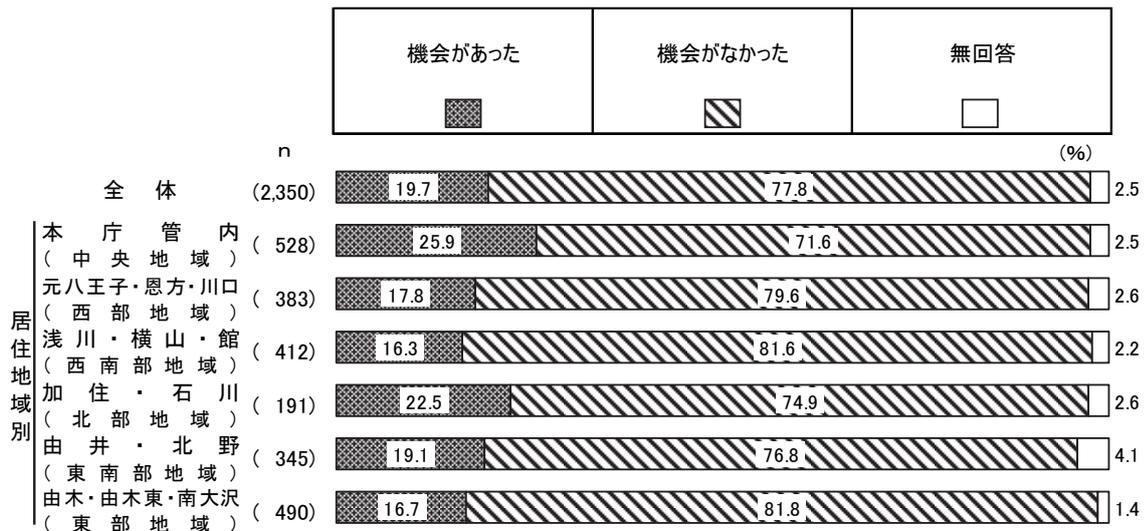


性別にみると、「機会があった」は女性（21.2%）が男性（18.1%）より 3.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「機会がなかった」は 18~29 歳（84.2%）で 8 割台半ばと多くなっている。

（図 3-48-2）

図 3-48-3 八王子に関連する文化芸術に触れる機会—居住地域別



居住地域別にみると、「機会がなかった」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（81.8%）、浅川・横山・館（西南部地域）（81.6%）で 8 割強と多くなっている。（図 3-48-3）

(49) この1年間の文化芸術活動への参加頻度

◇「半年に1～2回程度」が1割台半ば

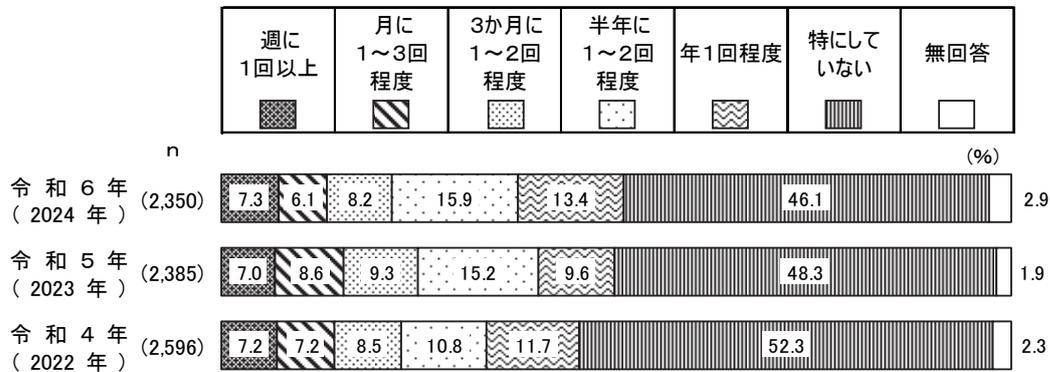
問52 あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）しましたか。（○は1つだけ）

※文化芸術活動とは・・・

- 音楽（オペラ、オーケストラ、合唱、吹奏楽、ジャズなど）
- ポップス（J-POP（日本の若者向けポピュラー音楽）など）
- 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）
- メディア芸術（映画、マンガ、アニメーション、メディアアートなど）
- 伝統芸能（歌舞伎、落語、車人形、雅楽、能楽など）
- 歴史的な建物や遺跡（建造物、史跡、名勝など）
- 文学（小説、詩、短歌、俳句など）
- 生活文化（茶道、華道、書道、囲碁、将棋など）
- 演劇（現代演劇、ミュージカル、人形劇など）
- 舞踊（日本舞踊、バレエ、コンテンポラリーダンスなど）
- 芸能（落語、講談、浪曲、漫才など）

など

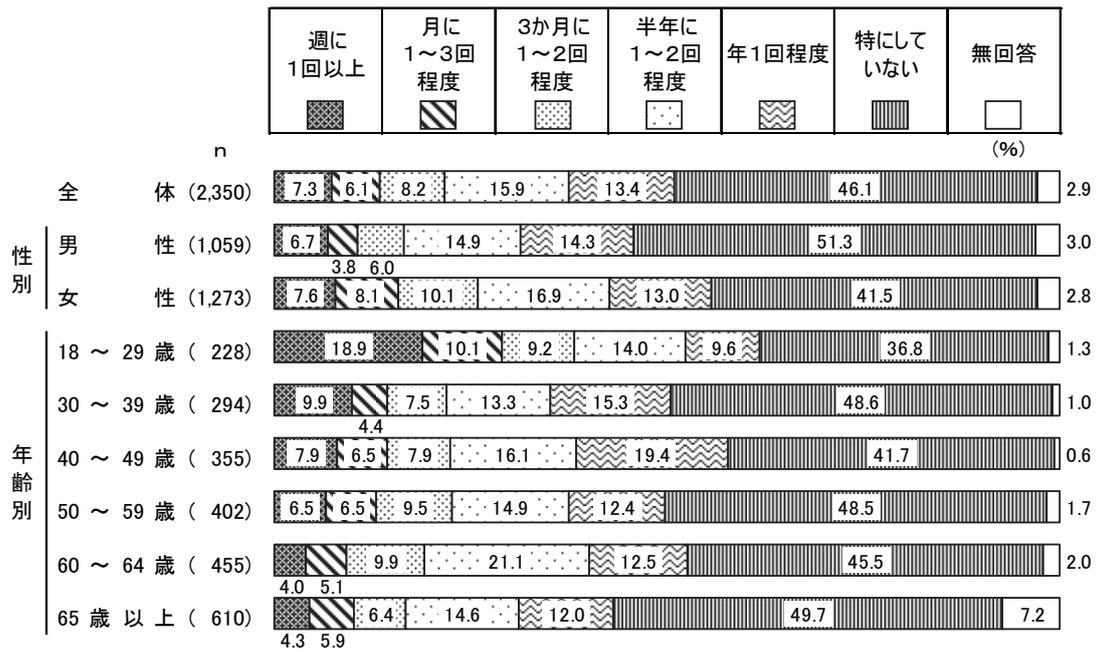
図3-49-1 この1年間の文化芸術活動への参加頻度－全体、経年比較



この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加したか聞いたところ、「半年に1～2回程度」(15.9%)が1割台半ばで最も多くなっている。次いで「年1回程度」(13.4%)、「3か月に1～2回程度」(8.2%)などの順となっている。一方、「特にしていない」(46.1%)は5割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「年1回程度」は令和5年(2023年)(9.6%)より3.8ポイント増加している。一方、「特にしていない」は令和5年(2023年)(48.3%)より2.2ポイント減少している。(図3-49-1)

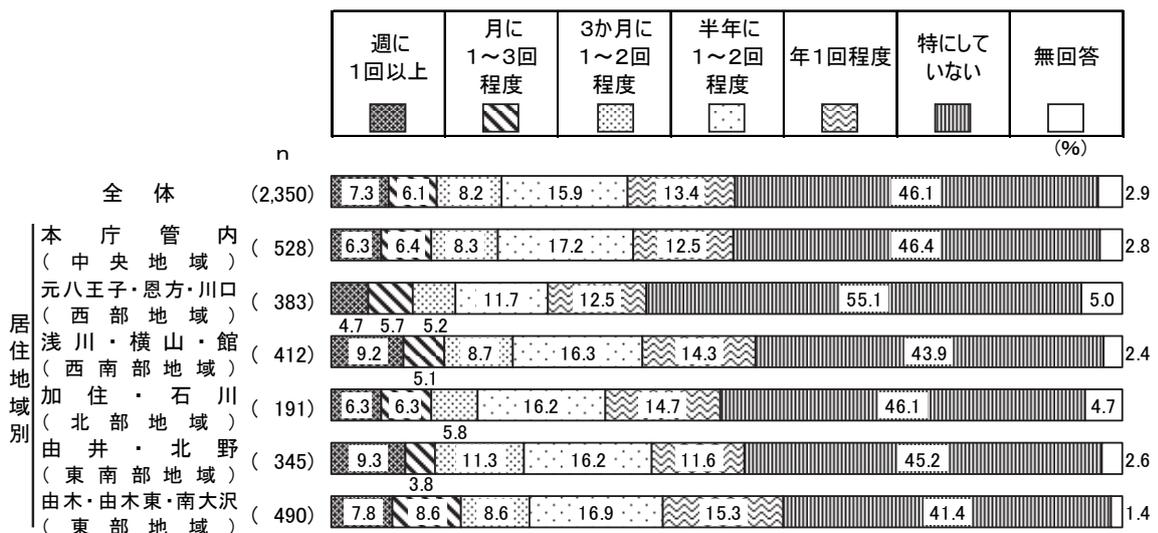
図3-49-2 この1年間の文化芸術活動への参加頻度—性別、年齢別



性別にみると、「特にしていない」は男性（51.3%）が女性（41.5%）より9.8ポイント高くなっている。一方、「月に1~3回程度」は女性（8.1%）が男性（3.8%）より4.3ポイント、「3か月に1~2回程度」は女性（10.1%）が男性（6.0%）より4.1ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「半年に1~2回程度」は60~64歳（21.1%）で2割強となっている。「特にしていない」は65歳以上（49.7%）で5割弱と多くなっている。（図3-49-2）

図3-49-3 この1年間の文化芸術活動への参加頻度—居住地域別



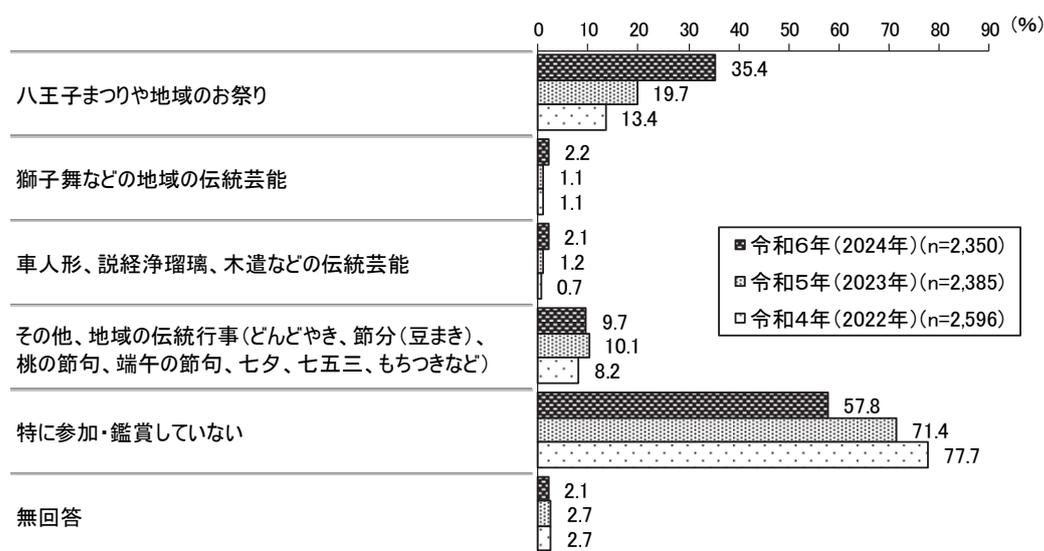
居住地域別にみると、「特にしていない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（55.1%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-49-3）

(50) この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が3割台半ば

問 53 あなたは、この1年間に、次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（○はいくつでも）

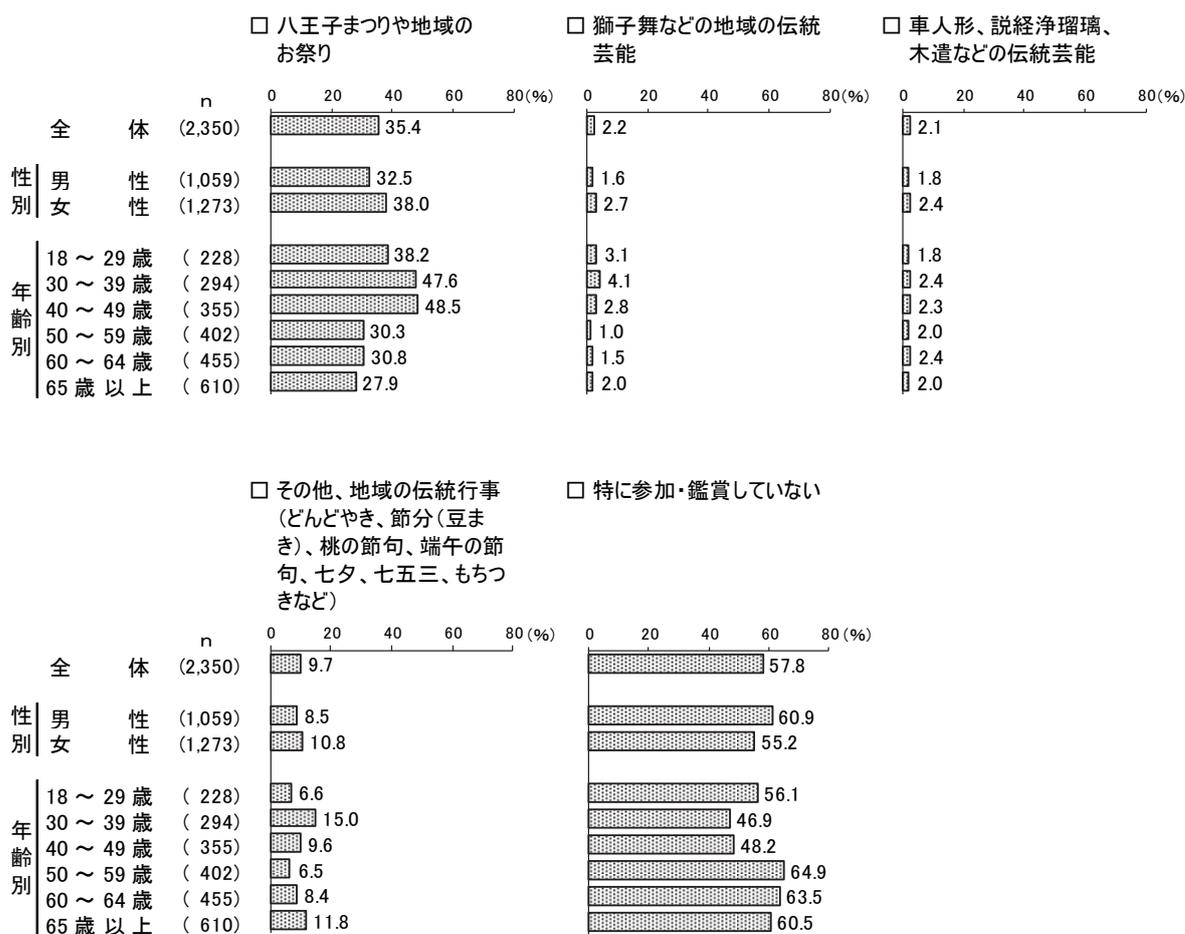
図3-50-1 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－全体、経年比較



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」(35.4%)が3割台半ばで最も多くなっている。次いで「その他、地域の伝統行事(どんどやき、節分(豆まき)、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど)」(9.7%)、「獅子舞などの地域の伝統芸能」(2.2%)、「車人形、説経浄瑠璃、木遣などの伝統芸能」(2.1%)の順となっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」(57.8%)は6割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「八王子まつりや地域のお祭り」は令和5年(2023年)(19.7%)より15.7ポイント増加している。一方、「特に参加・鑑賞していない」は令和5年(2023年)(71.4%)より13.6ポイント減少している。(図3-50-1)

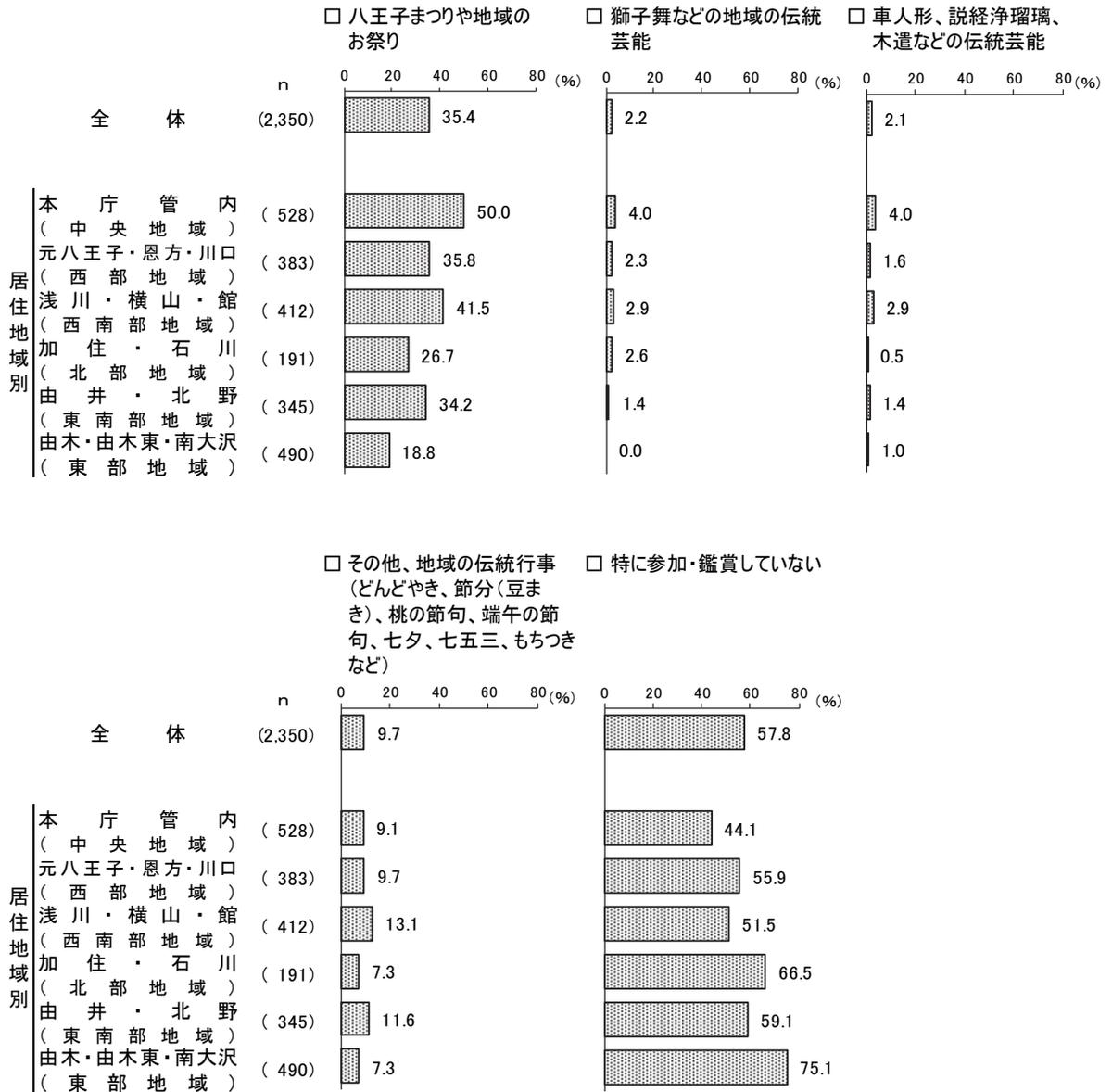
図3-50-2 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－性別、年齢別



性別にみると、「特に参加・鑑賞していない」は男性（60.9%）が女性（55.2%）より 5.7 ポイント高くなっている。一方、「八王子まつりや地域のお祭り」は女性（38.0%）が男性（32.5%）より 5.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は 40～49 歳（48.5%）、30～39 歳（47.6%）で 5 割近くと多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は 50～59 歳（64.9%）で 6 割台半ばと多くなっている。（図3-50-2）

図3-50-3 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況—居住地域別



居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内（中央地域）（50.0%）で5割と多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（75.1%）で7割台半ばと多くなっている。（図3-50-3）

(51) 日本遺産認定の周知度

◇《認定されたことを知っている》が5割強

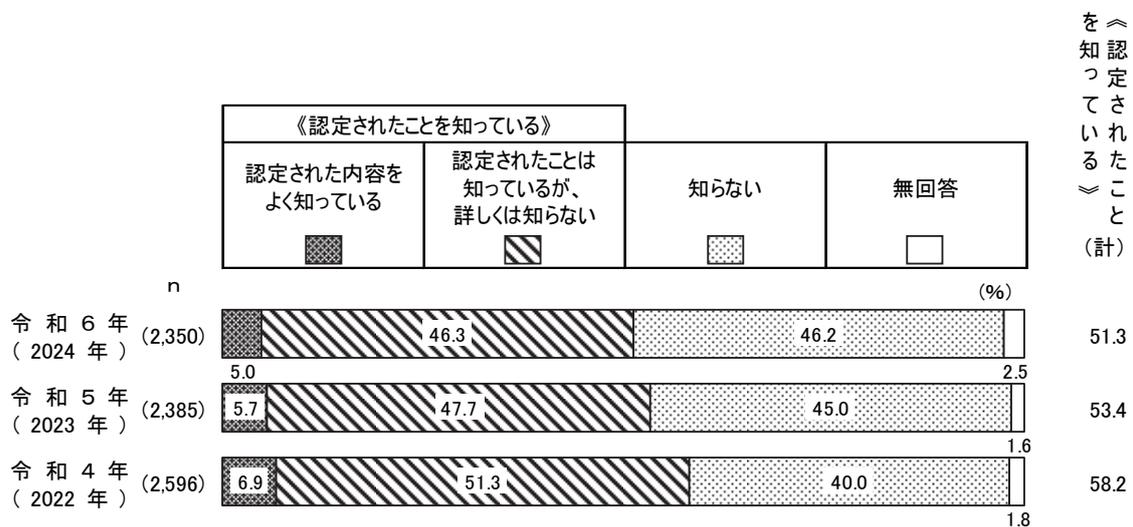
問 54 八王子市の歴史文化の魅力を語るストーリーが『日本遺産』に認定されたことを知っていますか。(○は1つだけ)

※「日本遺産」とは・・・

地域の歴史的な魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを国が認定する制度です。日本全国で、104のストーリーが「日本遺産」に認定されており、都内で唯一認定されているのが、八王子市のストーリー『霊気満山 高尾山 ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～』です。

このストーリーは、養蚕や織物が盛んだったことから「桑都」と称された八王子の発展の歴史を、霊山・高尾山への人々の祈りをテーマにしてつづられています。

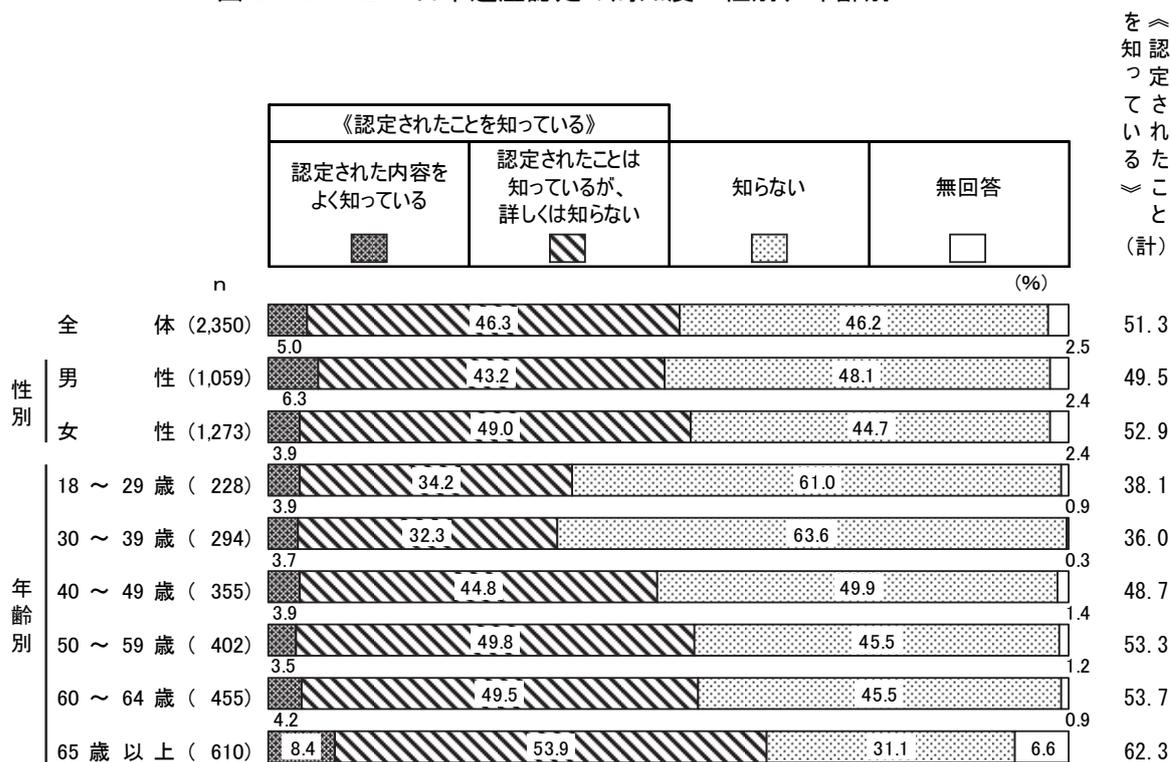
図3-51-1 日本遺産認定の周知度—全体、経年比較



八王子市の歴史文化の魅力を語るストーリーが『日本遺産』に認定されたことを知っているか聞いたところ、「認定された内容をよく知っている」(5.0%)と「認定されたことは知っているが、詳しくは知らない」(46.3%)を合わせた《認定されたことを知っている》(51.3%)は5割強となっている。一方、「知らない」(46.2%)は5割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《認定されたことを知っている》は令和5年(2023年)(53.4%)より2.1ポイント減少している。(図3-51-1)

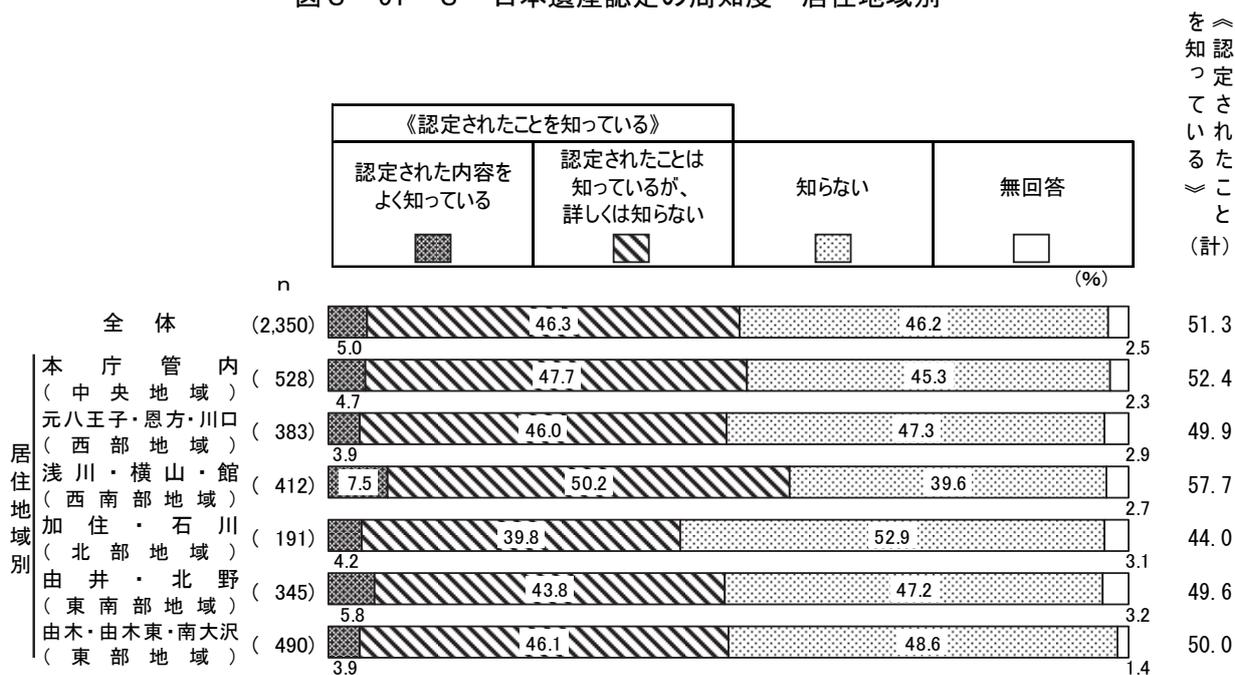
図3-51-2 日本遺産認定の周知度—性別、年齢別



性別にみると、《認定されたことを知っている》は女性（52.9%）が男性（49.5%）より3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《認定されたことを知っている》は65歳以上（62.3%）で6割強と多くなっている。一方、「知らない」は30～39歳（63.6%）、18～29歳（61.0%）で6割強と多くなっている。（図3-51-2）

図3-51-3 日本遺産認定の周知度—居住地域別



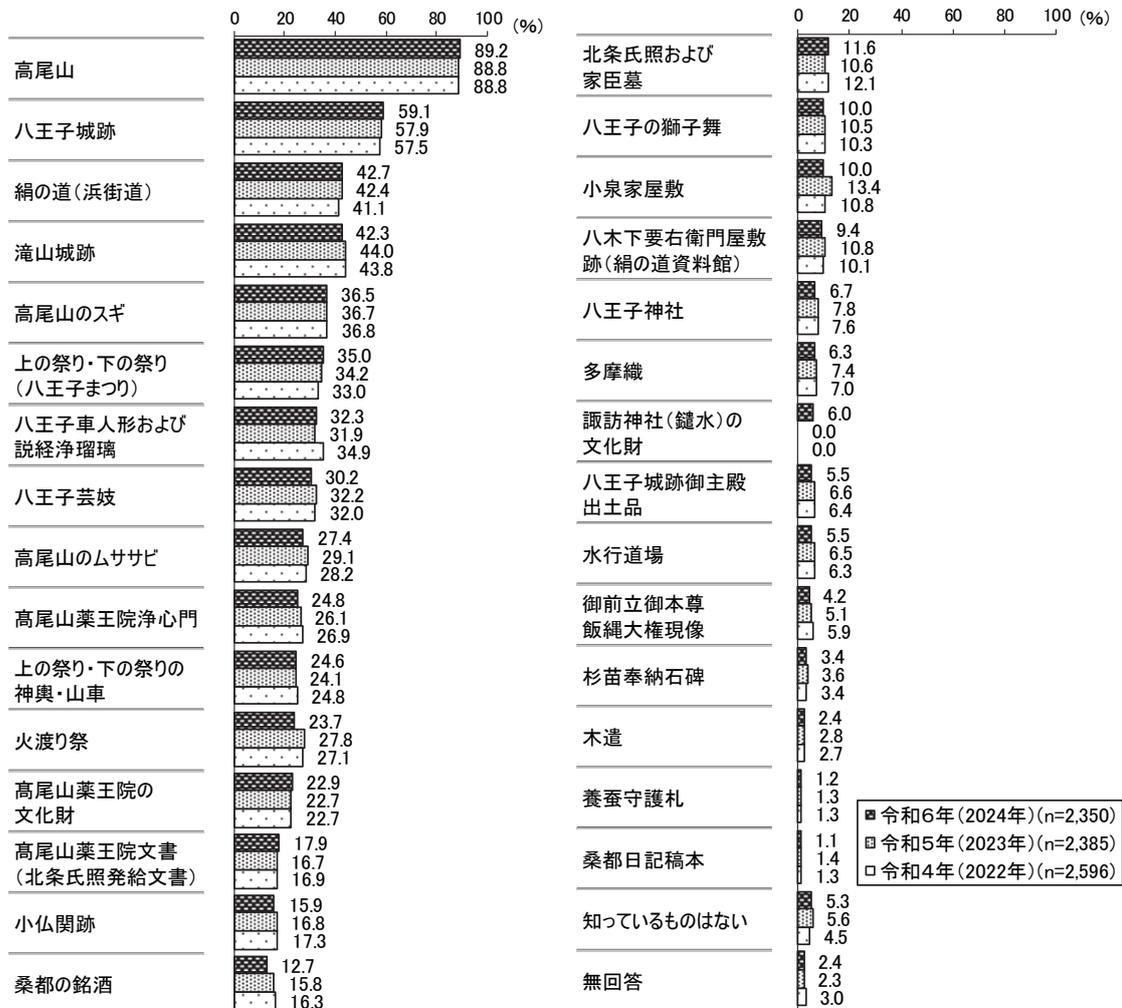
居住地域別にみると、《認定されたことを知っている》は浅川・横山・館（西南部地域）（57.7%）で6割近くと多くなっている。一方、「知らない」は加住・石川（北部地域）（52.9%）で5割強と多くなっている。（図3-51-3）

(52) 日本遺産構成文化財の周知度

◇「高尾山」が9割弱

問 55 八王子市の『日本遺産』の構成文化財（30件）のうち、知っているものは何がありますか。（○はいくつでも）

図3-52-1 日本遺産構成文化財の周知度－全体、経年比較



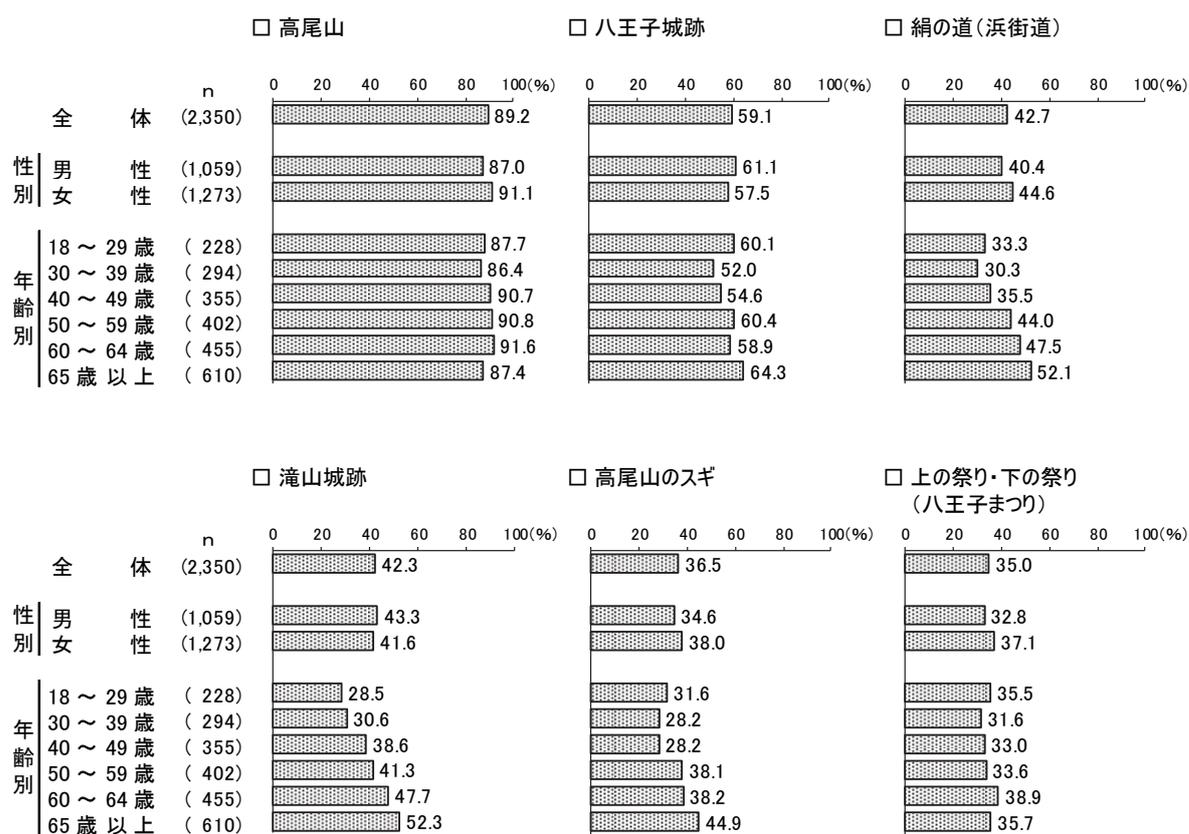
(注) 設問文の「八王子市の『日本遺産』の構成文化財（30件）のうち、知っているものは何がありますか。」は、令和5年（2023年）までは「八王子市の『日本遺産』の構成文化財（29件）のうち、知っているものは何がありますか。」としていた。

(注) 「諏訪神社（鑓水）の文化財」は、令和6年（2024年）から追加された選択肢。

八王子市の『日本遺産』の構成文化財（30件）のうち、知っているものを聞いたところ、「高尾山」（89.2%）が9割弱で最も多くなっている。次いで「八王子城跡」（59.1%）、「絹の道（浜街道）」（42.7%）、「滝山城跡」（42.3%）などの順となっている。一方、「知っているものはない」（5.3%）は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、「火渡り祭」は令和5年（2023年）（27.8%）より4.1ポイント、「小泉家屋敷」は令和5年（2023年）（13.4%）より3.4ポイント、「桑都の銘酒」は令和5年（2023年）（15.8%）より3.1ポイント、「八王子芸妓」は令和5年（2023年）（32.2%）より2.0ポイント、それぞれ減少している。（図3-52-1）

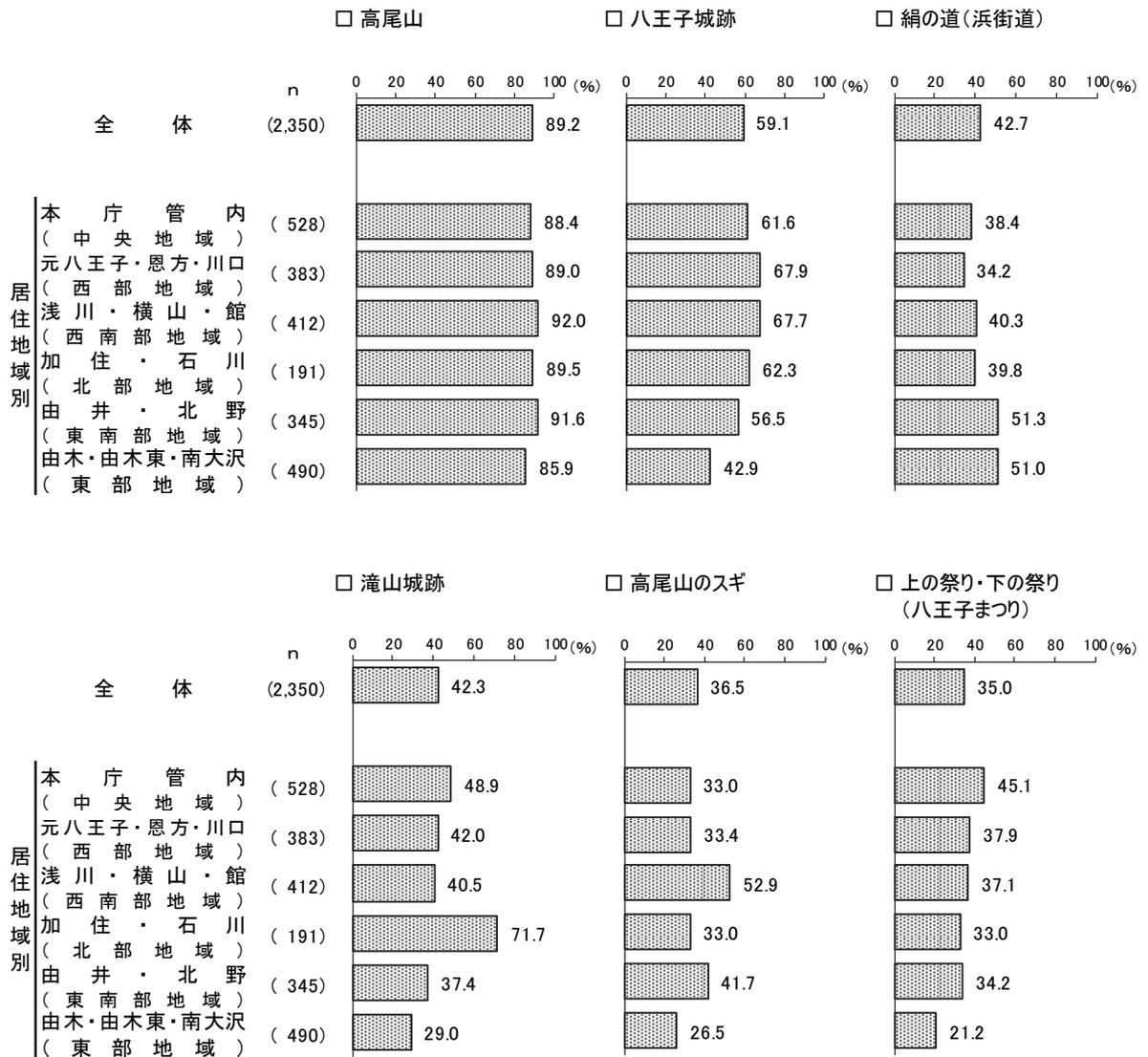
図3-52-2 日本遺産構成文化財の周知度－性別、年齢別（上位6項目）



性別にみると、「上の祭り・下の祭り（八王子まつり）」は女性（37.1%）が男性（32.8%）より4.3ポイント、「絹の道（浜街道）」は女性（44.6%）が男性（40.4%）より4.2ポイント、「高尾山」は女性（91.1%）が男性（87.0%）より4.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「八王子城跡」は男性（61.1%）が女性（57.5%）より3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「高尾山」は60～64歳（91.6%）で9割強と多くなっている。「八王子城跡」は65歳以上（64.3%）で6割台半ばと多くなっている。「滝山城跡」は65歳以上（52.3%）で5割強と多くなっている。（図3-52-2）

図3-52-3 日本遺産構成文化財の周知度—居住地域別（上位6項目）



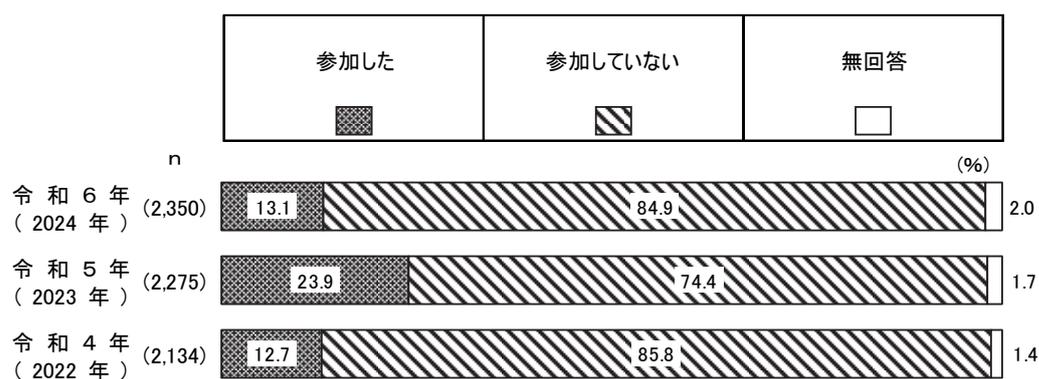
居住地域別にみると、「高尾山」は浅川・横山・館（西南部地域）（92.0%）、由井・北野（東南部地域）（91.6%）で9割強と多くなっている。「八王子城跡」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（67.9%）、浅川・横山・館（西南部地域）（67.7%）で7割近くと多くなっている。「滝山城跡」は加住・石川（北部地域）（71.7%）で7割強と多くなっている。（図3-52-3）

(53) 日本遺産や歴史文化などにふれる地域行事・活動への参加状況

◇「参加した」が1割強

問 56 あなたは、この1年間に、日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動に参加しましたか。(○は1つだけ)

図3-53-1 日本遺産や歴史文化などにふれる地域行事・活動への参加状況—全体、経年比較

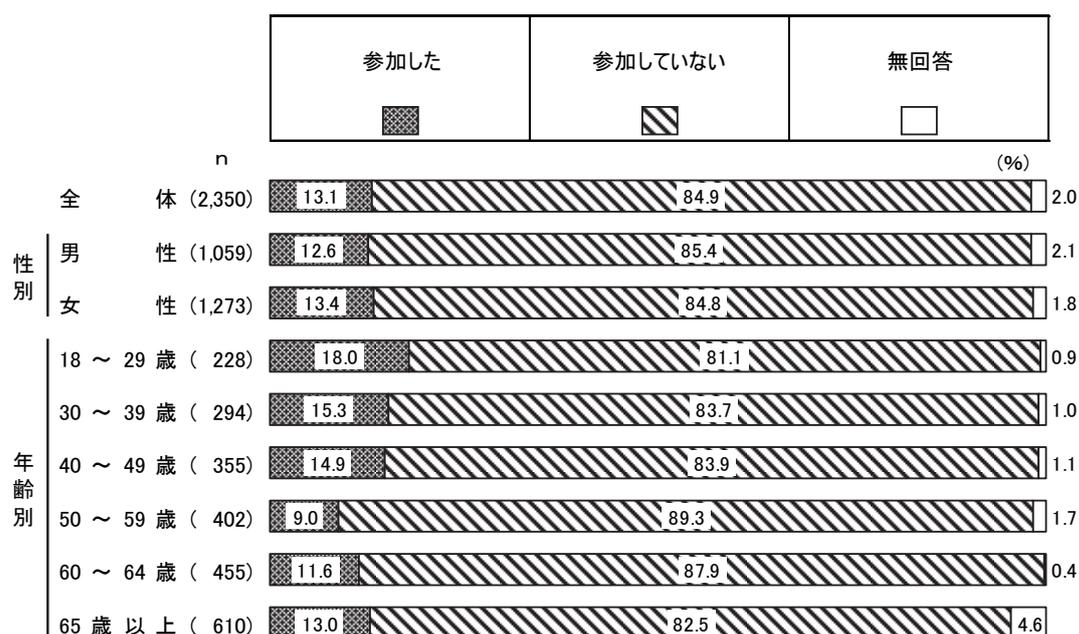


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

この1年間に、日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動に参加したか聞いたところ、「参加した」(13.1%)は1割強となっている。一方、「参加していない」(84.9%)は8割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「参加していない」は令和5年(2023年)(74.4%)より10.5ポイント増加している。(図3-53-1)

図3-53-2 日本遺産や歴史文化などにふれる地域行事・活動への参加状況－性別、年齢別

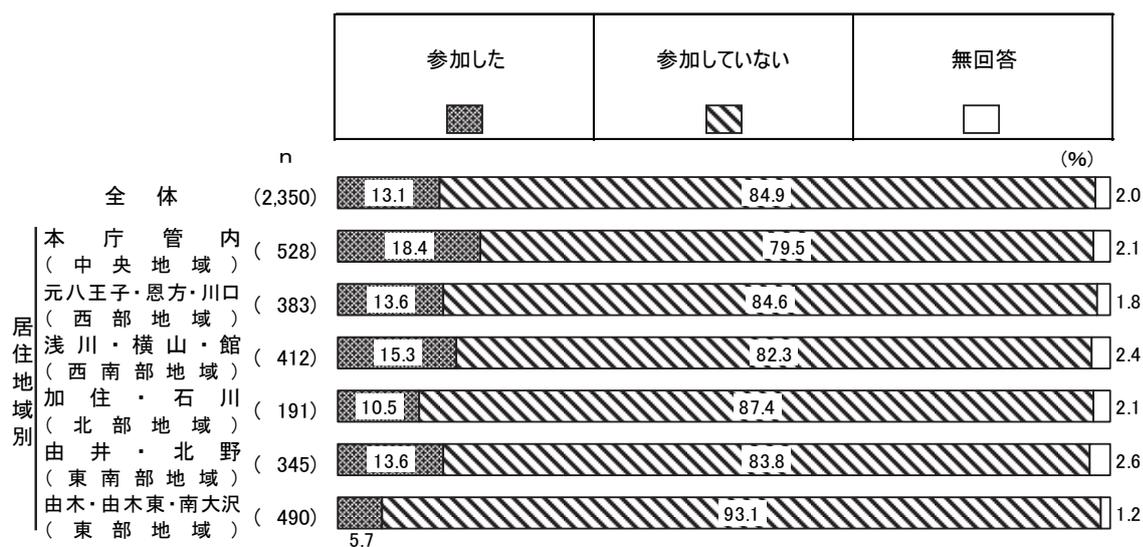


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「参加していない」は50～59歳（89.3%）で9割弱と多くなっている。

(図3-53-2)

図3-53-3 日本遺産や歴史文化などにふれる地域行事・活動への参加状況－居住地域別



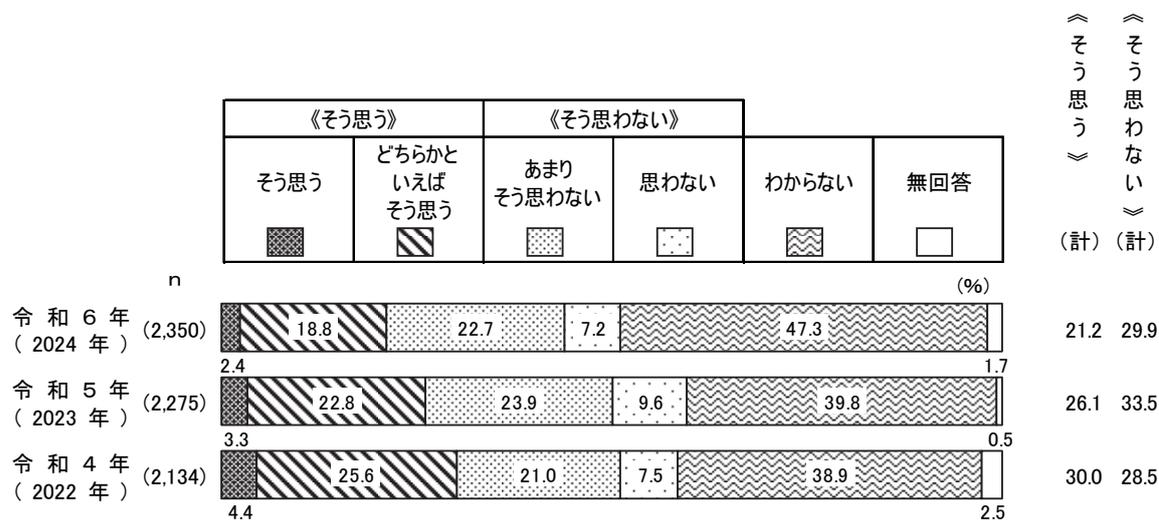
居住地域別にみると、「参加していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（93.1%）で9割強と多くなっている。(図3-53-3)

(54) 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか

◇《《そう思う》》が2割強

問 57 あなたは、八王子市が、「年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

図 3-54-1 誰もが活躍できる環境が整っていると思うかー全体、経年比較

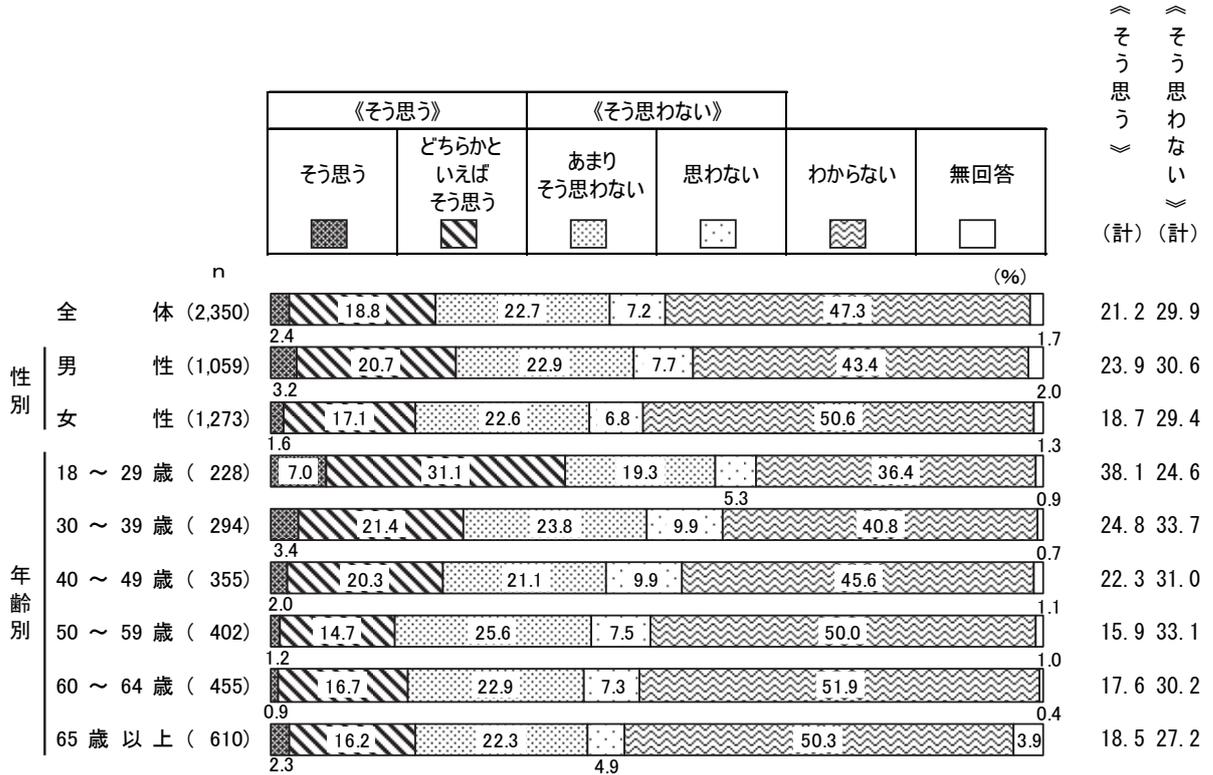


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

「年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境が整っているまち」になっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(2.4%)と「どちらかといえばそう思う」(18.8%)を合わせた《《そう思う》》(21.2%)は2割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(22.7%)と「思わない」(7.2%)を合わせた《《そう思わない》》(29.9%)は3割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、「わからない」は令和5年(2023年)(39.8%)より7.5ポイント増加している。(図3-54-1)

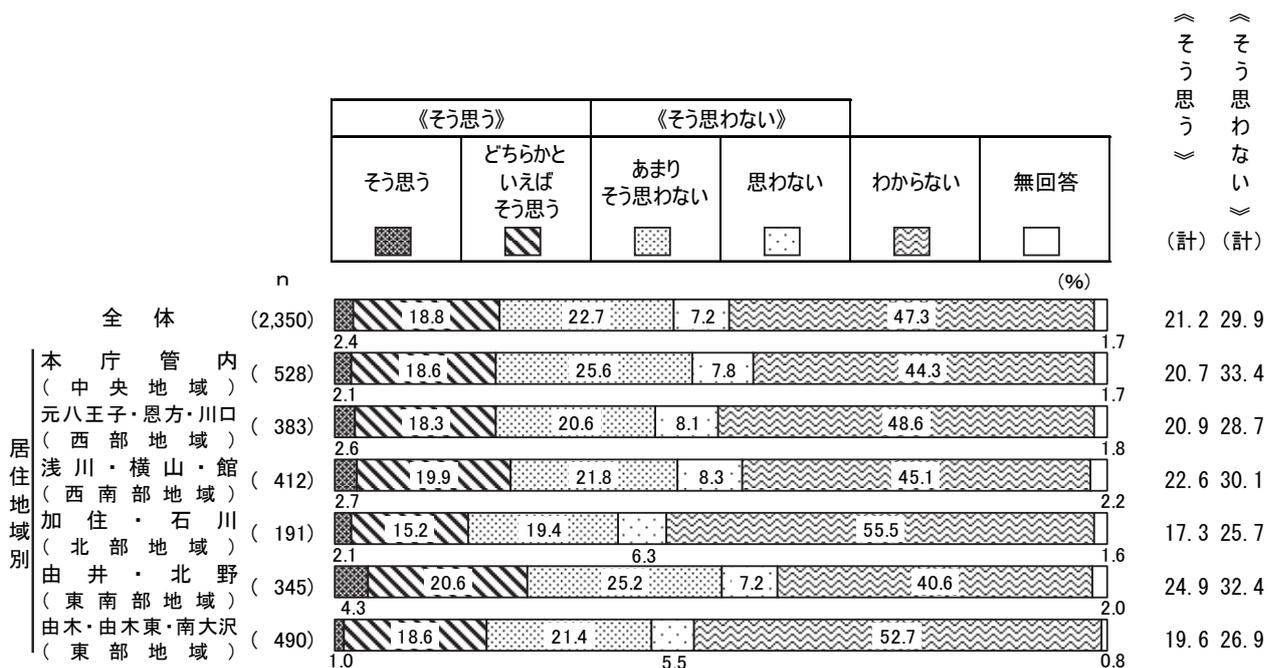
図3-54-2 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか—性別、年齢別



性別にみると、《そう思う》は男性（23.9%）が女性（18.7%）より5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（38.1%）で4割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は30～39歳（33.7%）、50～59歳（33.1%）、40～49歳（31.0%）で3割強と多くなっている。（図3-54-2）

図3-54-3 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか—居住地域別



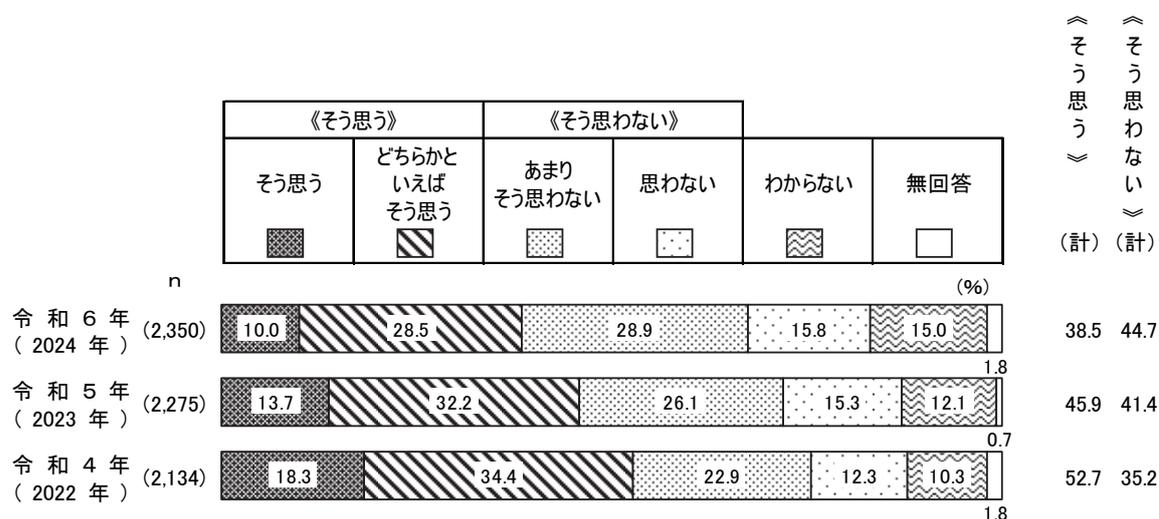
居住地域別にみると、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（33.4%）、由井・北野（東南部地域）（32.4%）で3割強と多くなっている。（図3-54-3）

(55) 外国人と交流したいと思うか

◇《《そう思う》》が4割近く

問 58 あなたは、外国人と交流したいと思いますか。(○は1つだけ)

図3-55-1 外国人と交流したいと思うかー全体、経年比較

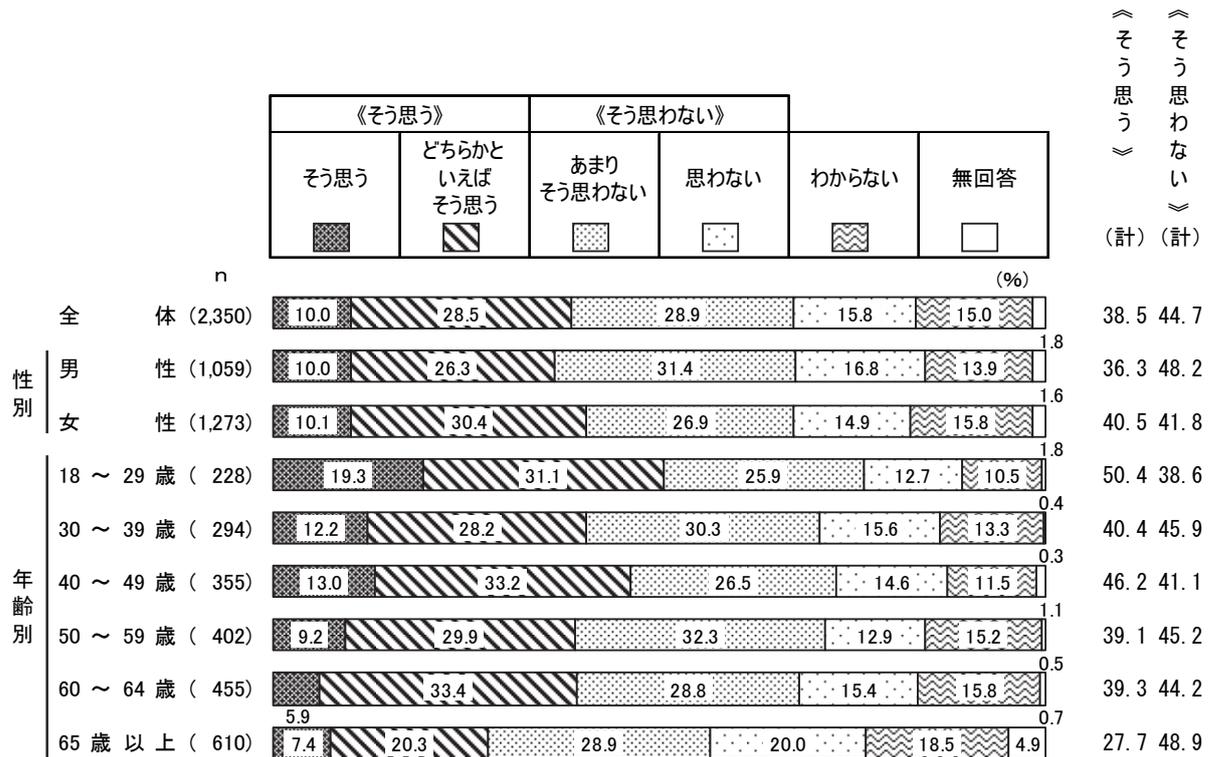


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

外国人と交流したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(10.0%)と「どちらかといえばそう思う」(28.5%)を合わせた《《そう思う》》(38.5%)は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(28.9%)と「思わない」(15.8%)を合わせた《《そう思わない》》(44.7%)は4割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思わない》》は令和5年(2023年)(41.4%)より3.3ポイント増加している。一方、《《そう思う》》は令和5年(2023年)(45.9%)より7.4ポイント減少している。(図3-55-1)

図3-55-2 外国人と交流したいと思うか—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（48.2%）が女性（41.8%）より6.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（50.4%）で約5割と多くなっている。一方、《そう思わない》は65歳以上（48.9%）で5割近くと多くなっている。（図3-55-2）

(56) 男女共同参画社会の実現度

◇《《そう思う》》は(ウ)学校教育の場で6割近く

問 59 あなたは、次の(ア)～(オ)の分野で男女共同参画が実現していると思いますか。
 (ア)～(オ)の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

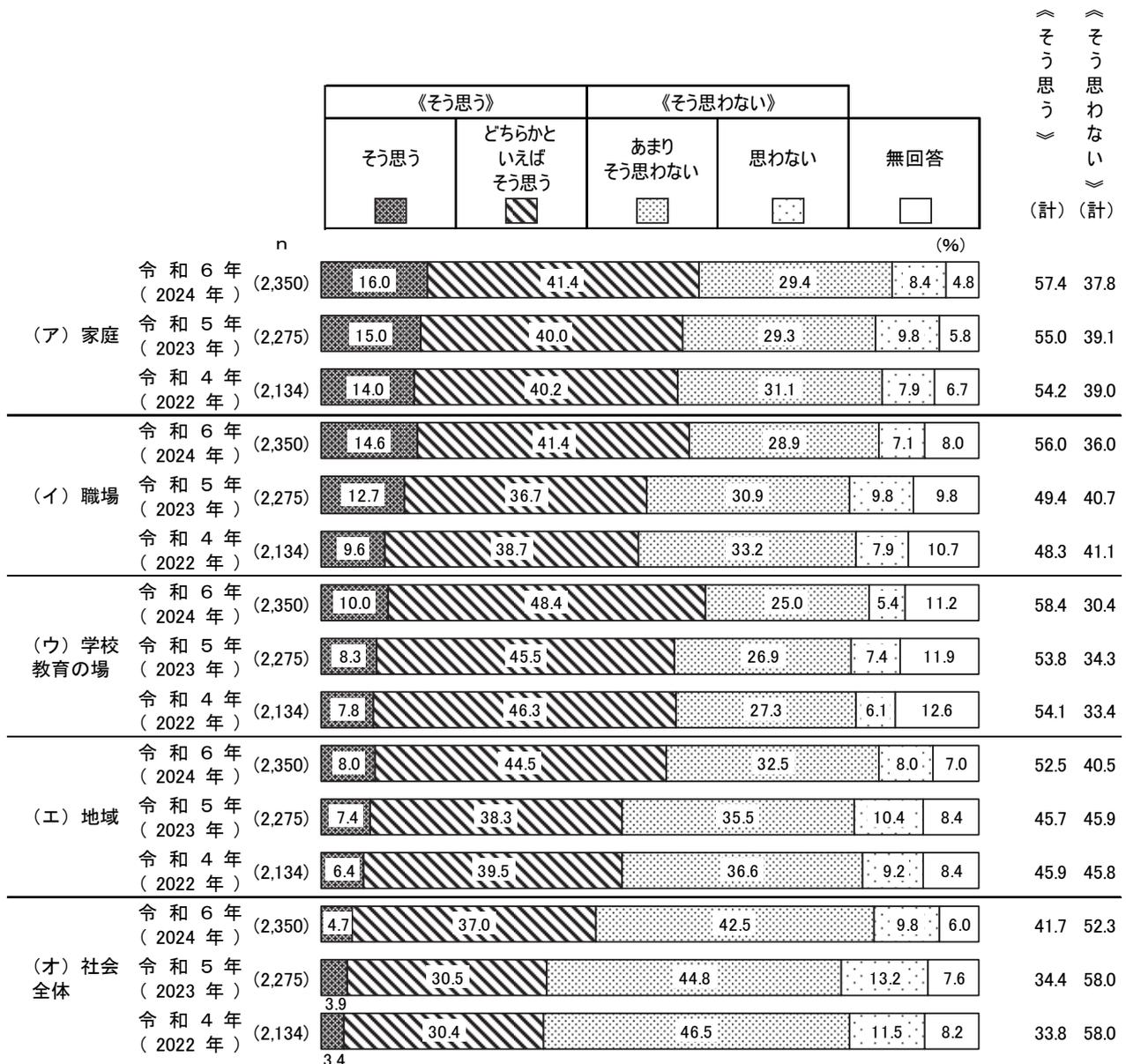
※男女共同参画社会とは・・・

性別にかかわらず、「社会の対等な構成員」として、自らの意思によって社会のあらゆる分野で活動ができ、それにともなって男女とも同じに利益を受け、責任を担う社会のこと。

※固定的な性別役割分担意識とは・・・

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」「男性は主要な業務、女性は補助的業務」など、性別によって役割を固定する考え方のこと。

図 3-56-1 男女共同参画社会の実現度—全体、経年比較



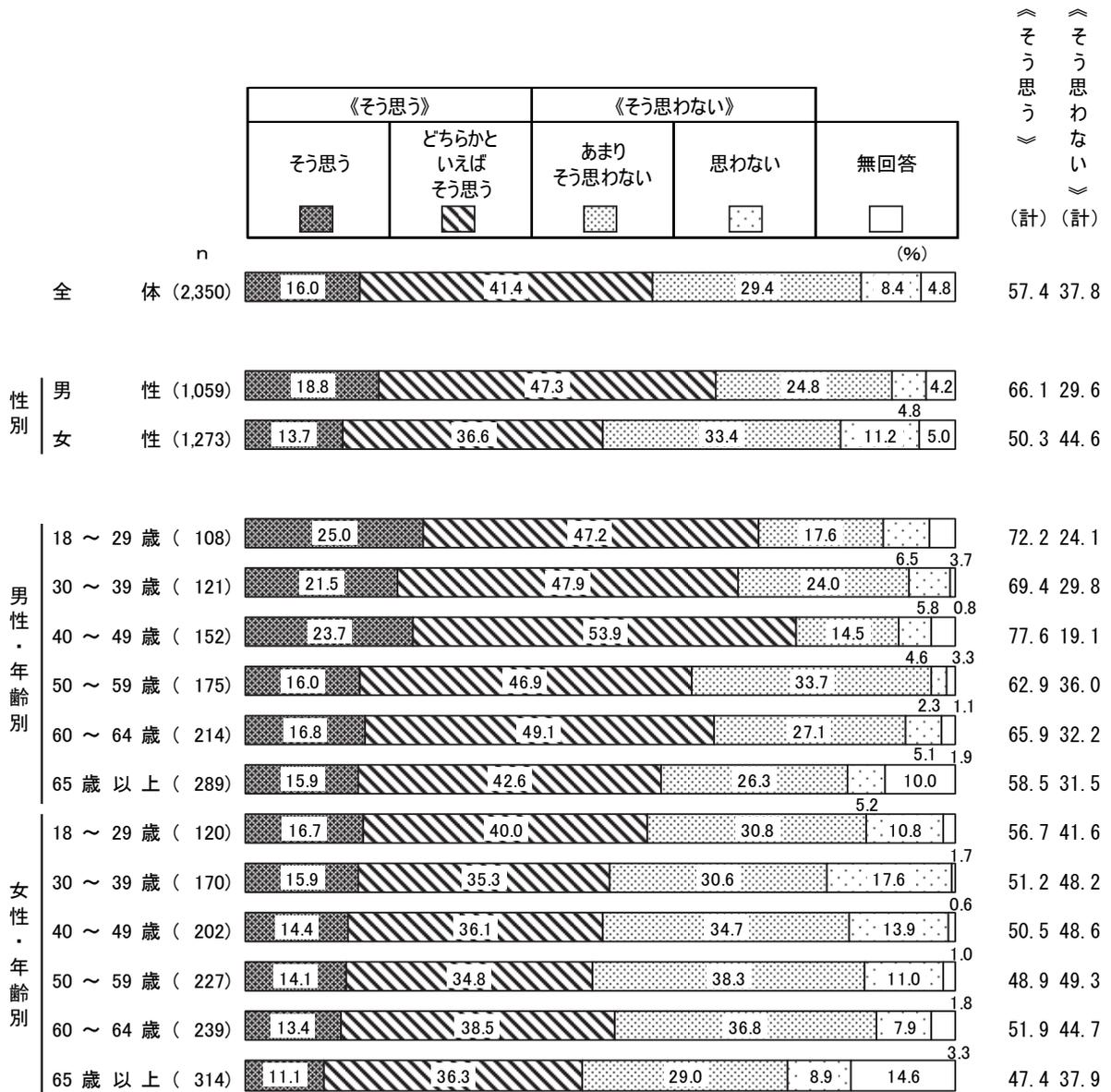
※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年) 結果と比較

どの分野の男女共同参画が実現していると思うか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》は、(ウ) 学校教育の場 (58.4%) が6割近くで最も多くなっている。次いで(ア) 家庭 (57.4%)、(イ) 職場 (56.0%)、(エ) 地域 (52.5%)、(オ) 社会全体 (41.7%) の順となっている。

前回までの調査と比較すると、《そう思う》は全ての項目で令和5年(2023年)より増加しており、(オ) 社会全体で令和5年(2023年) (34.4%) より7.3ポイント増加している。

(図3-56-1)

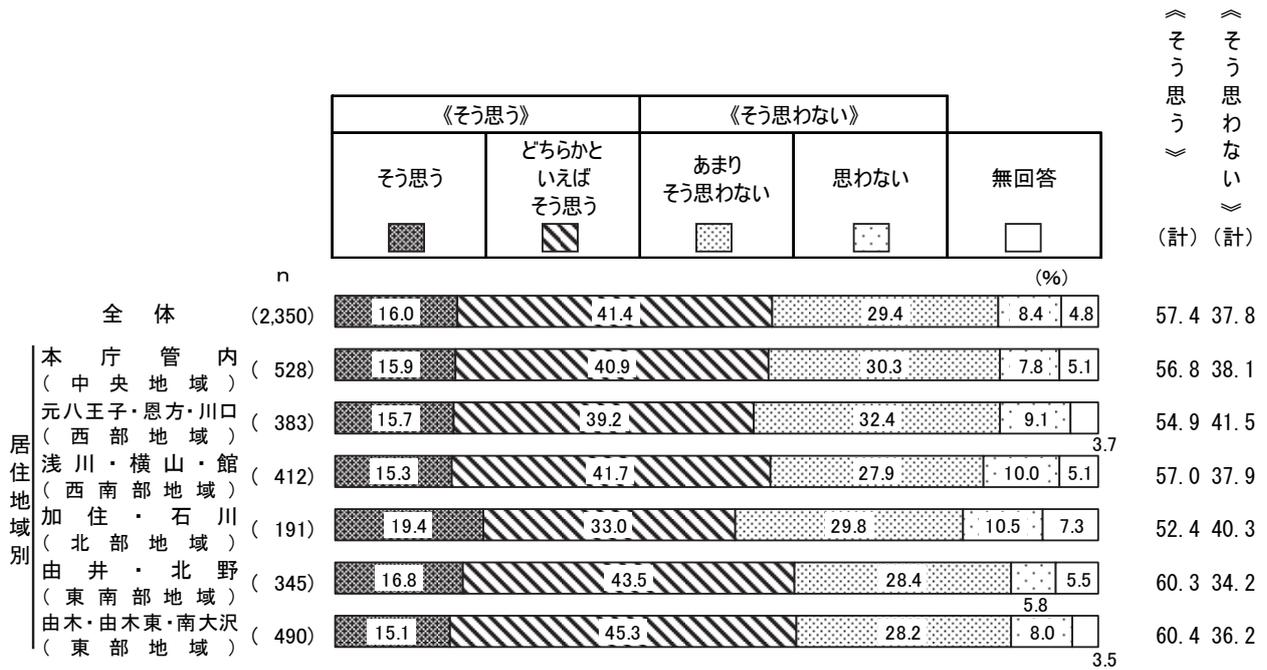
図3-56-2 男女共同参画社会の実現度（ア）家庭—性別、性・年齢別



性別にみると、《そう思う》は男性（66.1%）が女性（50.3%）より 15.8 ポイント高くなっている。

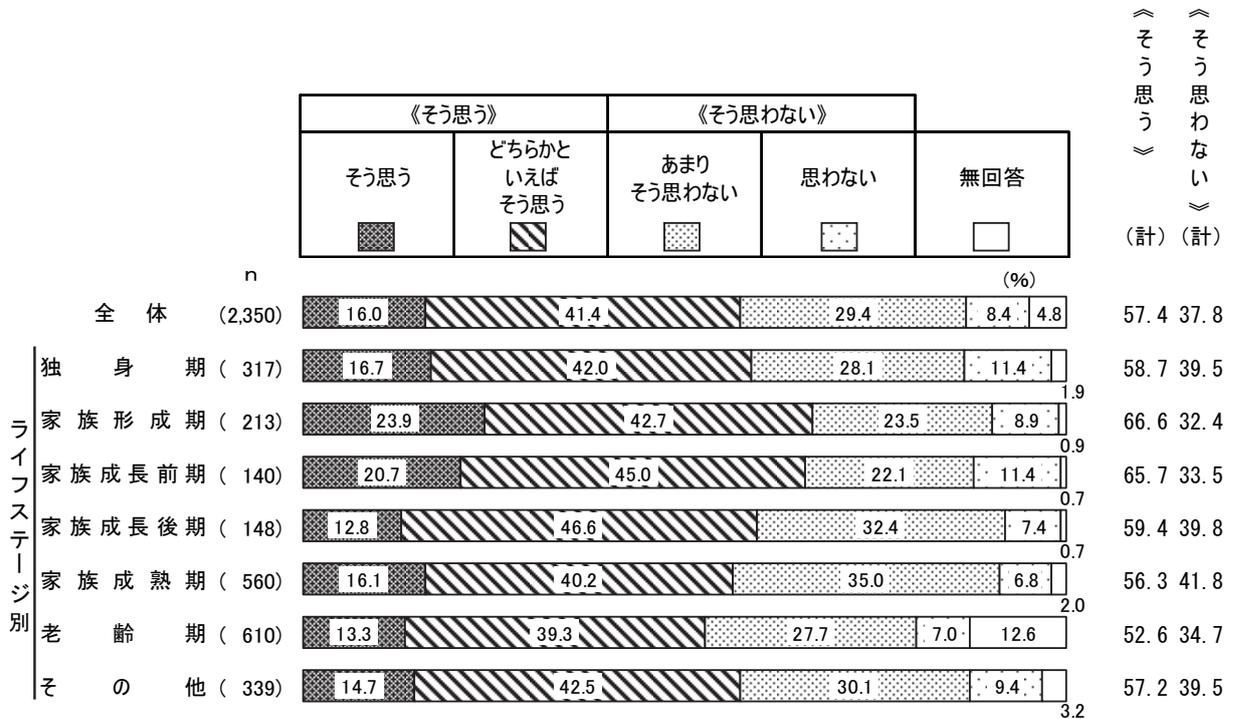
性・年齢別にみると、《そう思う》は男性 40～49 歳（77.6%）で 8 割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は女性 50～59 歳（49.3%）で 5 割弱と多くなっている。（図3-56-2）

図3-56-3 男女共同参画社会の実現度（ア）家庭—居住地域別



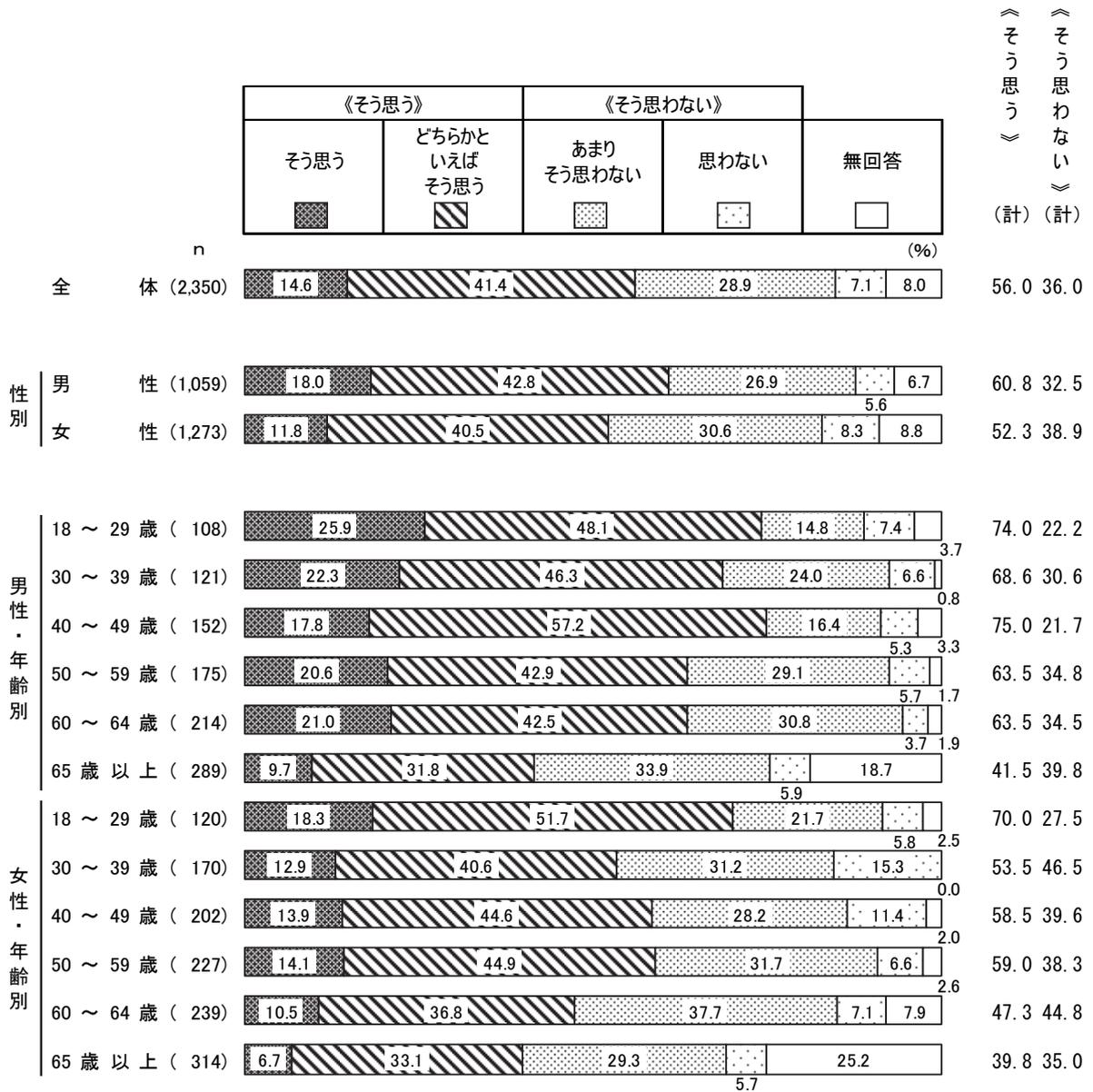
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（60.4%）、由井・北野（東南部地域）（60.3%）で約6割と多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（41.5%）で4割強と多くなっている。（図3-56-3）

図3-56-4 男女共同参画社会の実現度（ア）家庭—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族形成期（66.6%）で7割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成熟期（41.8%）で4割強と多くなっている。（図3-56-4）

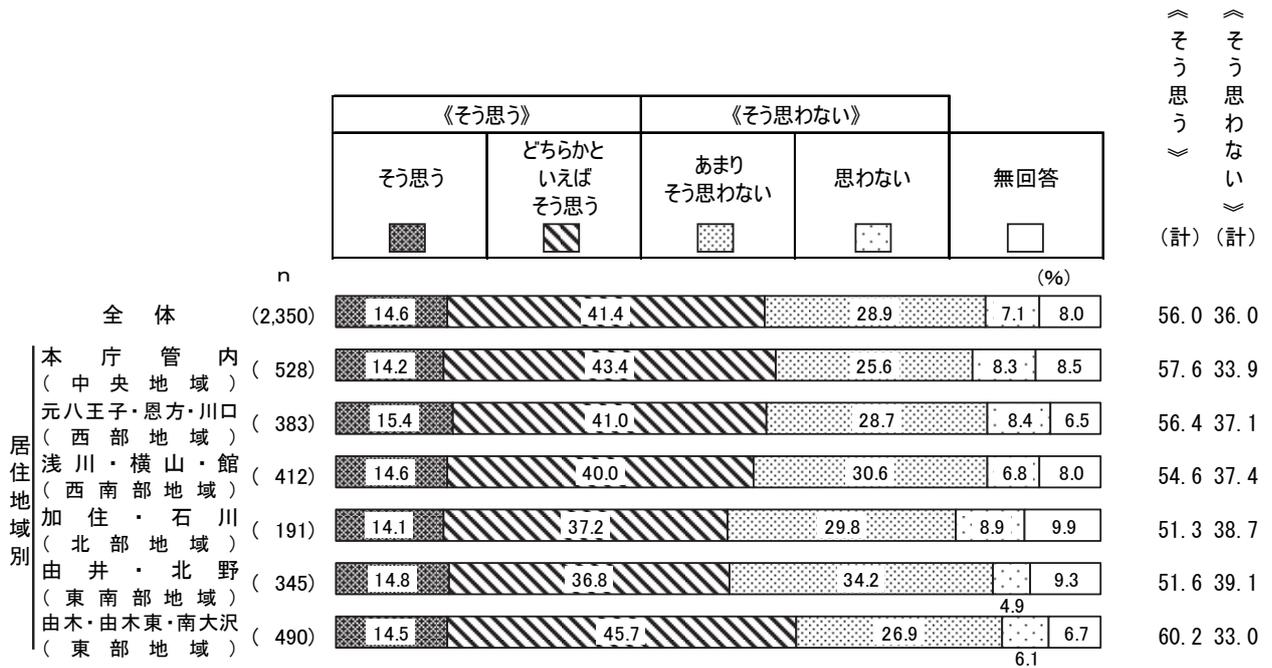
図3-56-5 男女共同参画社会の実現度（イ）職場—性別、性・年齢別



性別にみると、《そう思う》は男性（60.8%）が女性（52.3%）より8.5ポイント高くなっている。

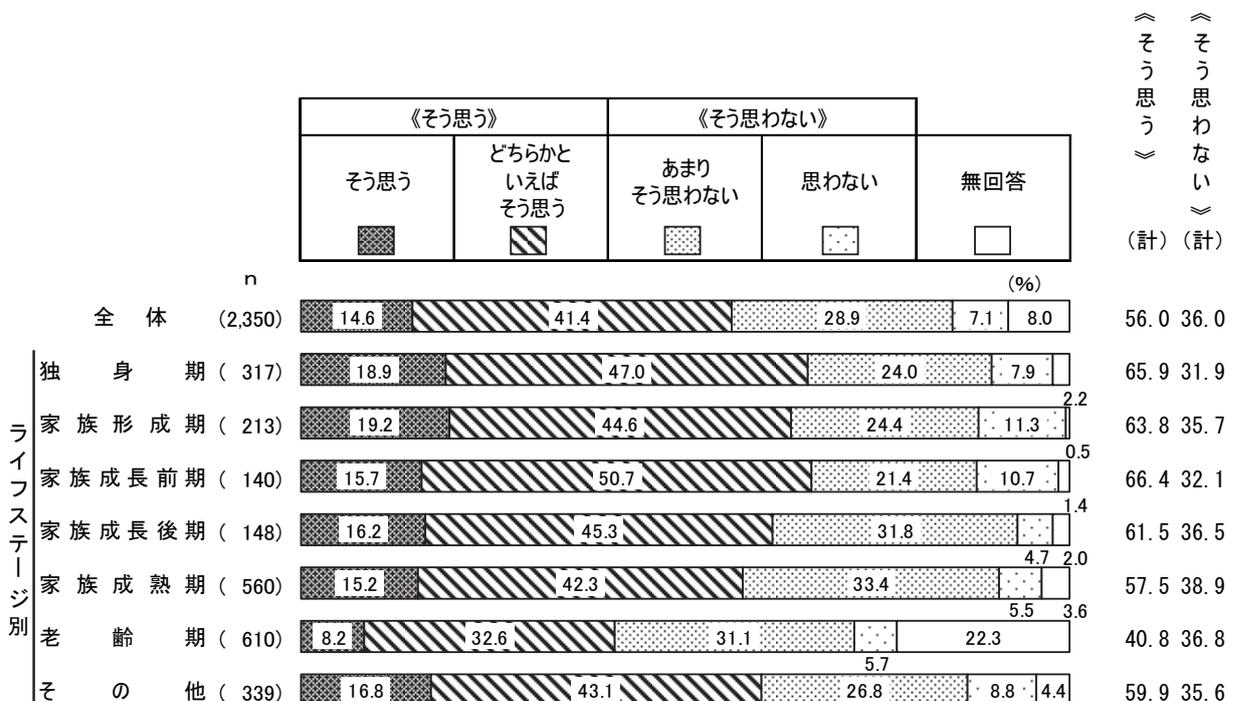
性・年齢別にみると、《そう思う》は男性40～49歳（75.0%）、18～29歳（74.0%）で7割台半ばと多くなっている。一方、《そう思わない》は女性30～39歳（46.5%）で5割近くと多くなっている。（図3-56-5）

図3-56-6 男女共同参画社会の実現度（イ）職場—居住地域別



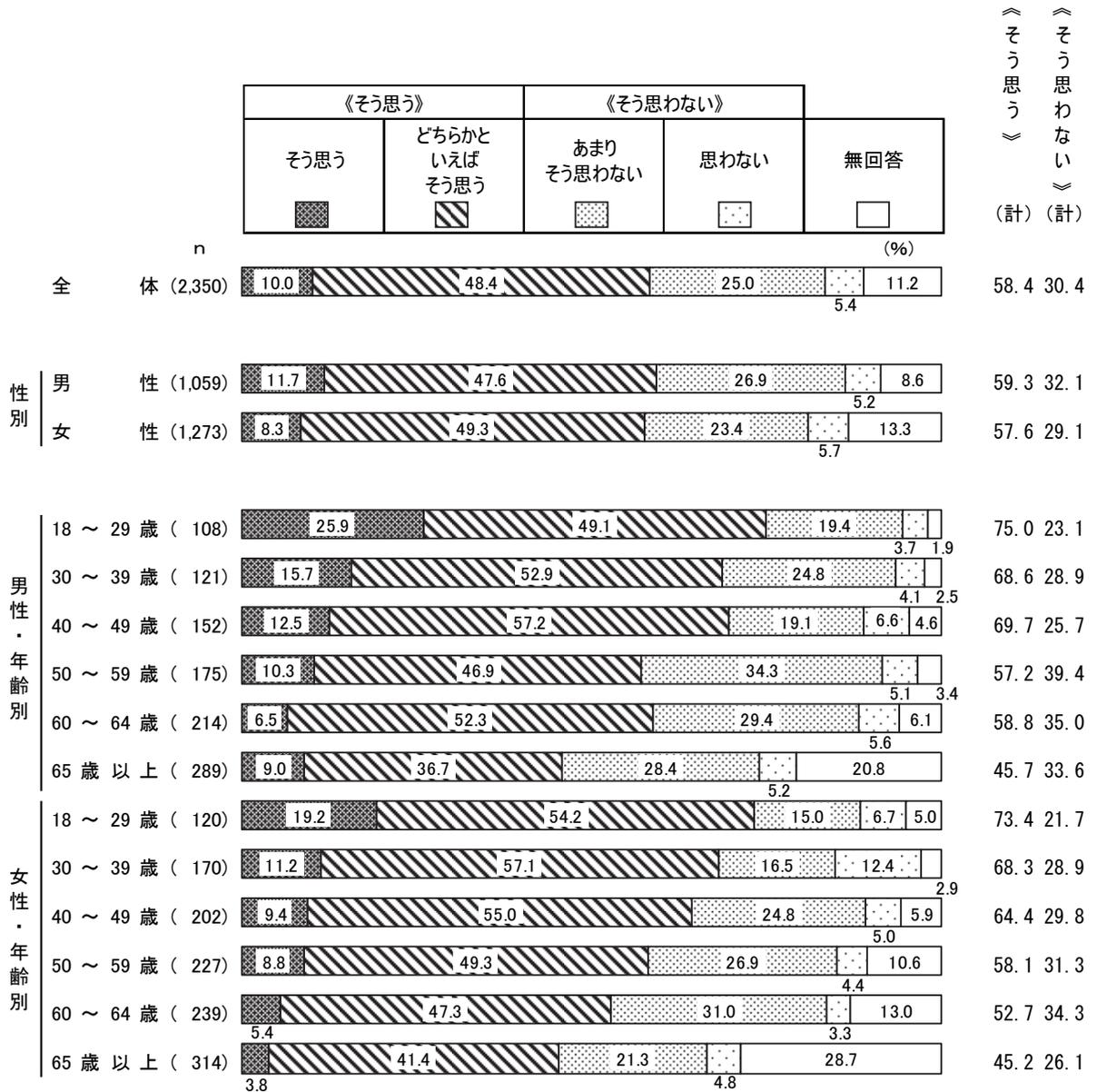
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（60.2%）で約6割と多くなっている。一方、《そう思わない》は由井・北野（東南部地域）（39.1%）で4割弱と多くなっている。（図3-56-6）

図3-56-7 男女共同参画社会の実現度（イ）職場—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（66.4%）で7割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成熟期（38.9%）、老齢期（36.8%）、家族成長後期（36.5%）で4割近くと多くなっている。（図3-56-7）

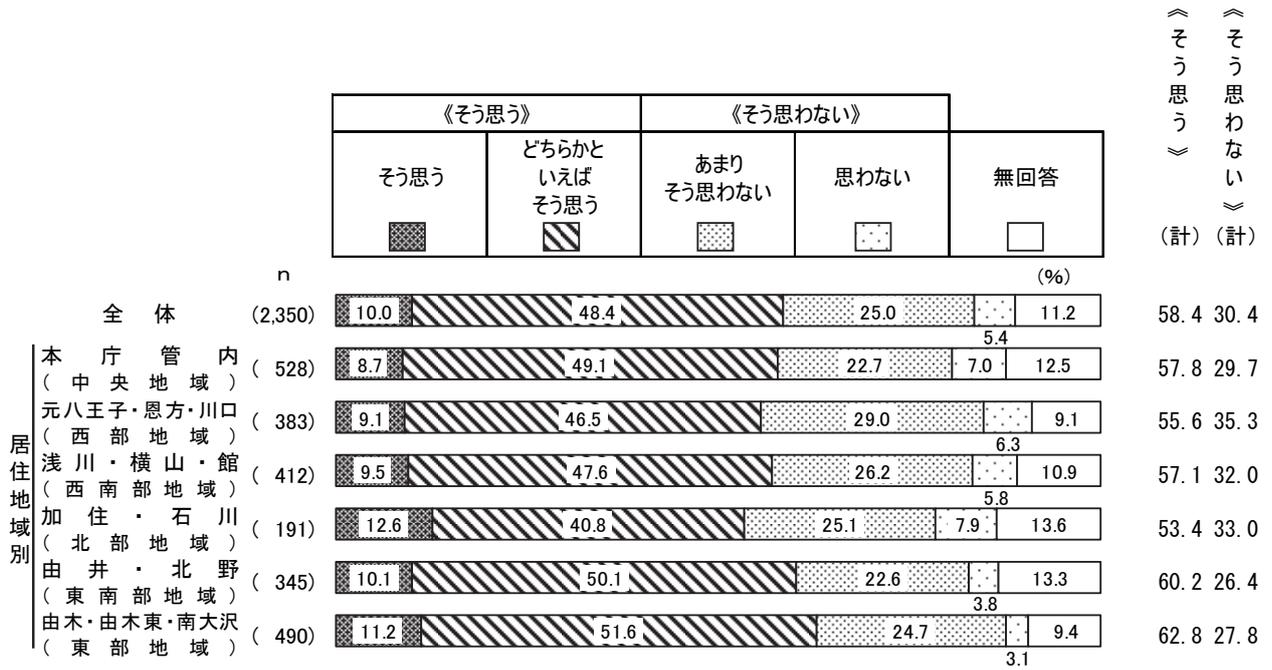
図3-56-8 男女共同参画社会の実現度（ウ）学校教育の場—性別、性・年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（32.1%）が女性（29.1%）より3.0ポイント高くなっている。

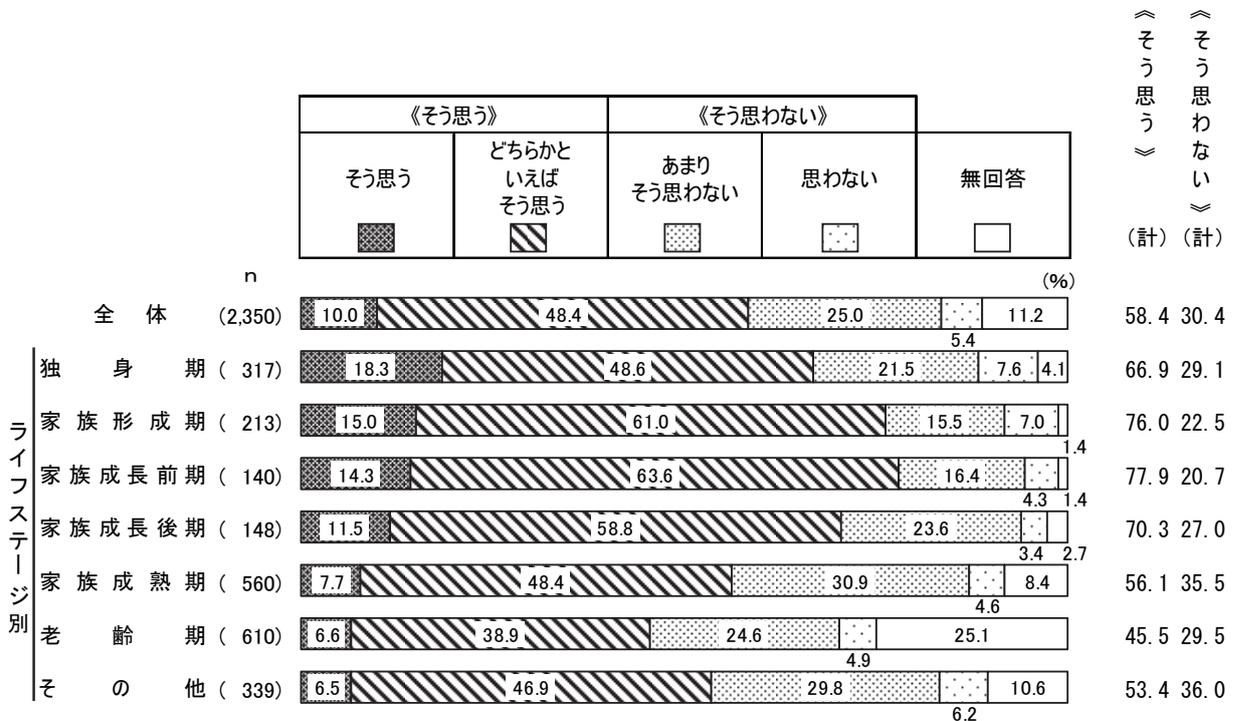
性・年齢別にみると、《そう思う》は男性18～29歳（75.0%）で7割台半ば、女性18～29歳（73.4%）で7割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は男性50～59歳（39.4%）で4割弱と多くなっている。（図3-56-8）

図3-56-9 男女共同参画社会の実現度（ウ）学校教育の場—居住地域別



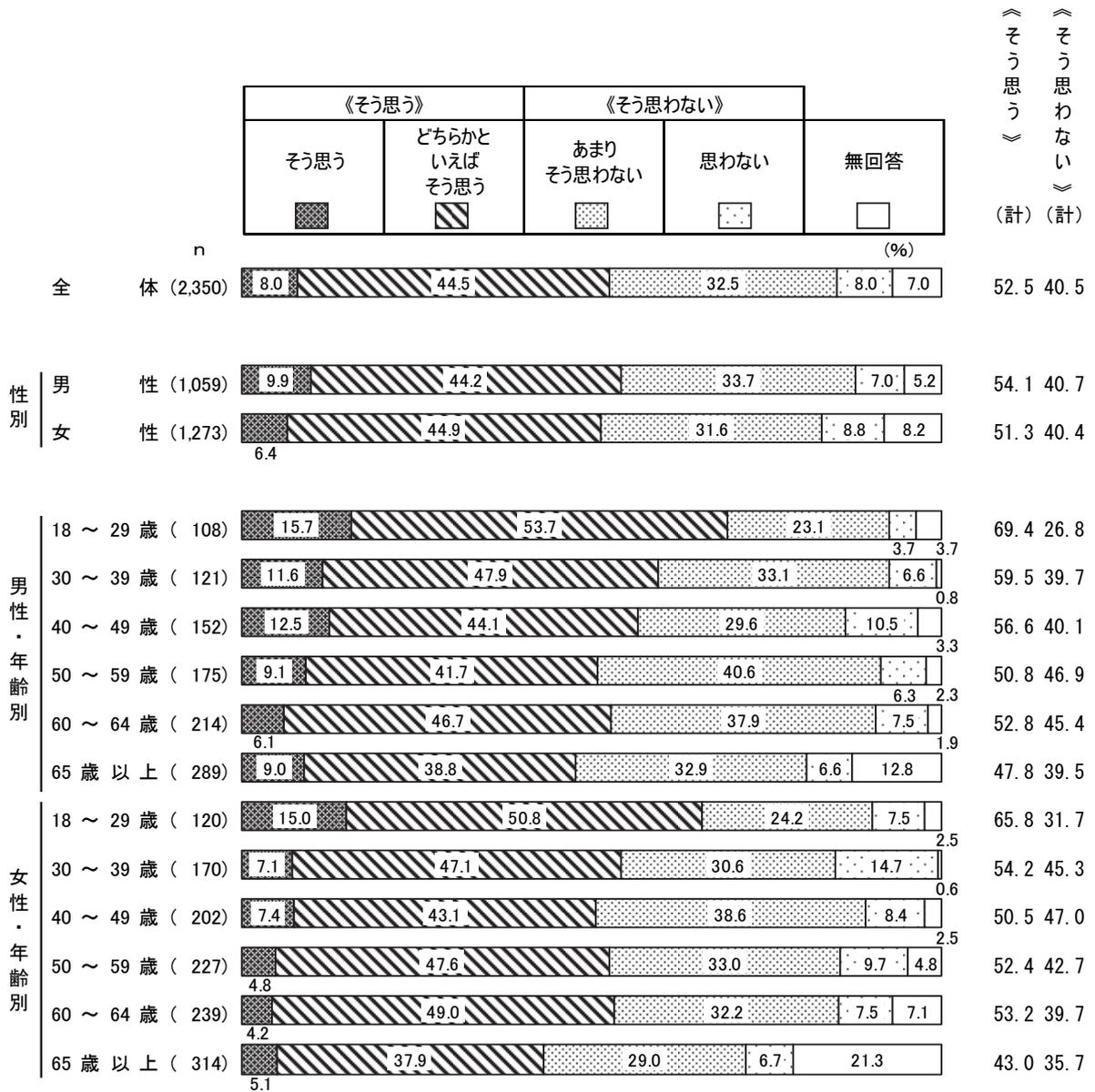
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（62.8%）で6割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（35.3%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-56-9）

図3-56-10 男女共同参画社会の実現度（ウ）学校教育の場—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（77.9%）、家族形成期（76.0%）で8割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》はその他（36.0%）で4割近くと多くなっている。（図3-56-10）

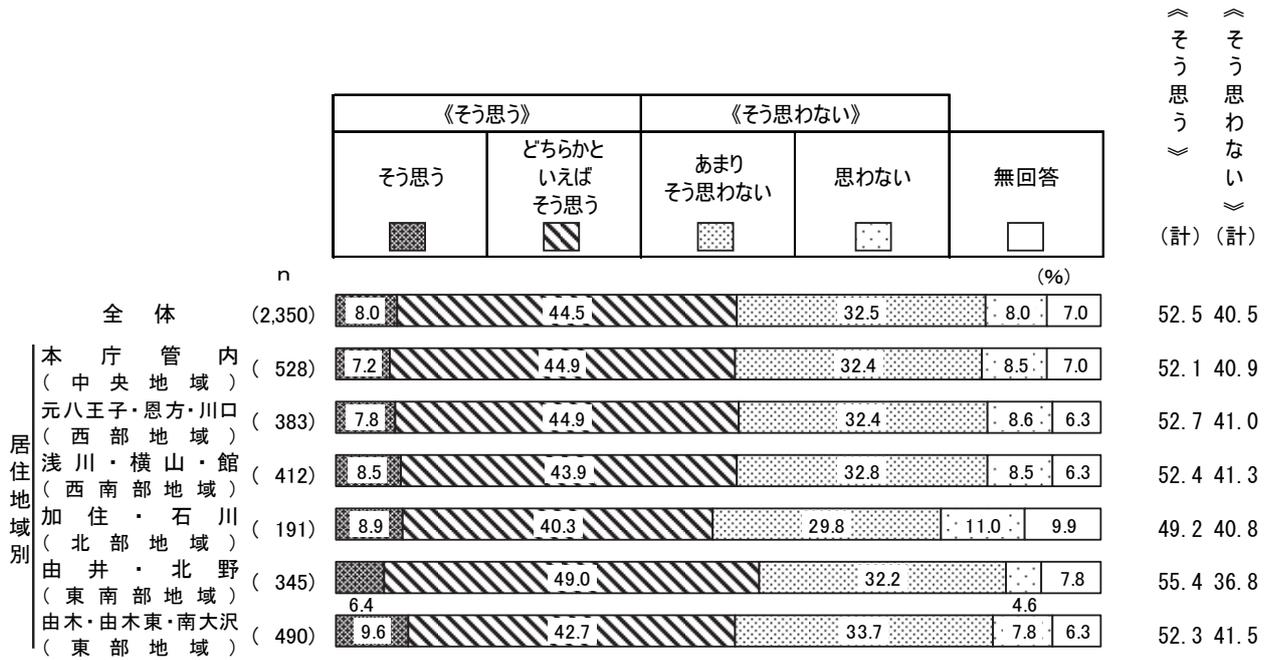
図3-56-11 男女共同参画社会の実現度（エ）地域一性別、性・年齢別



性別にみると、《そう思う》は男性（54.1%）が女性（51.3%）より2.8ポイント高くなっている。

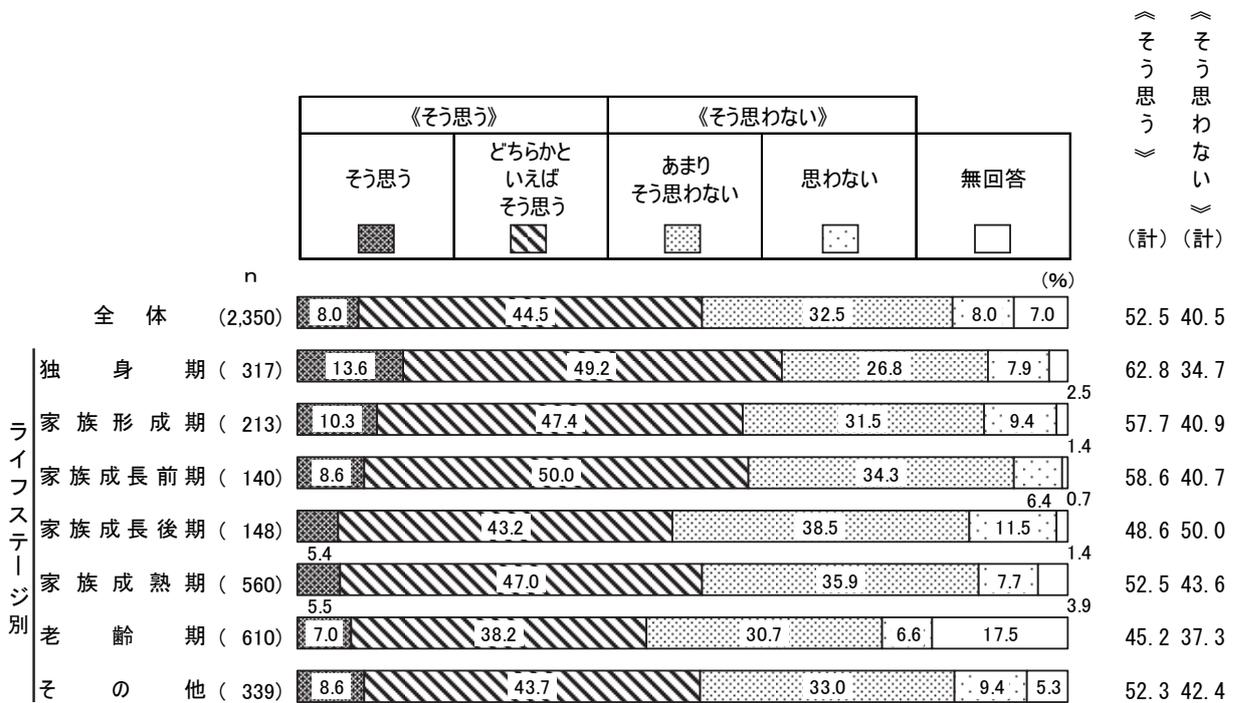
性・年齢別にみると、《そう思う》は男性18～29歳（69.4%）で7割弱と多くなっている。一方、《そう思わない》は女性40～49歳（47.0%）、男性50～59歳（46.9%）で5割近くと多くなっている。（図3-56-11）

図3-56-12 男女共同参画社会の実現度（エ）地域—居住地域別



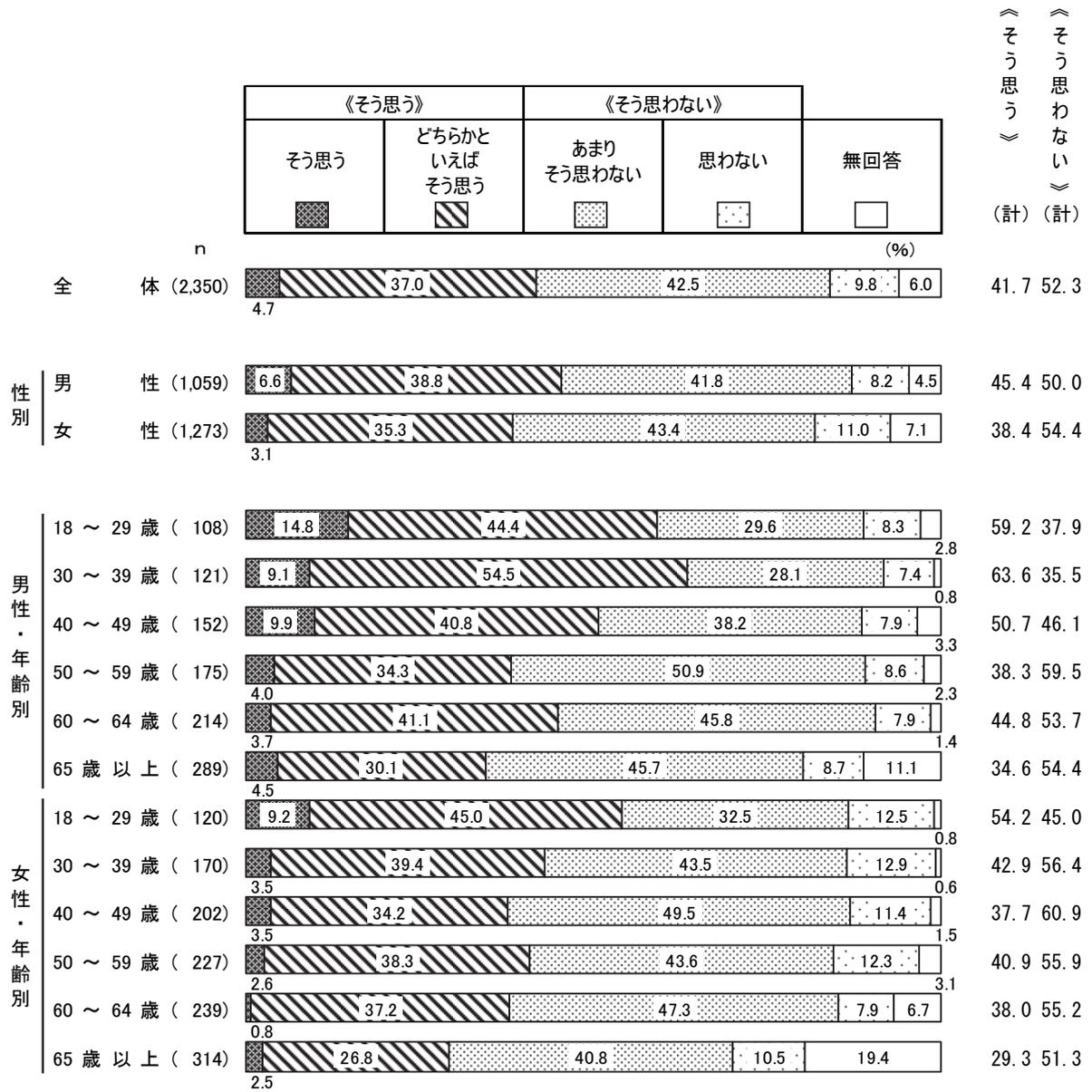
居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（55.4%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-56-12）

図3-56-13 男女共同参画社会の実現度（エ）地域—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は独身期（62.8%）で6割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成長後期（50.0%）で5割と多くなっている。（図3-56-13）

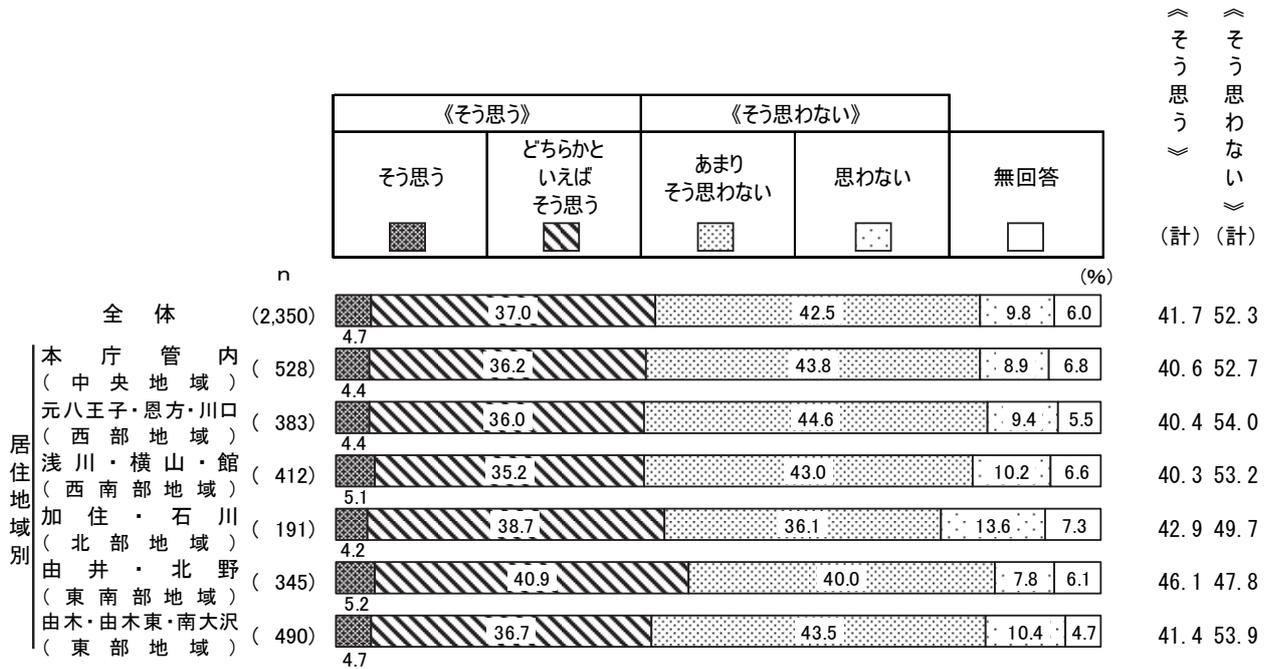
図3-56-14 男女共同参画社会の実現度（才）社会全体一性別、性・年齢別



性別にみると、《そう思う》は男性（45.4%）が女性（38.4%）より7.0ポイント高くなっている。

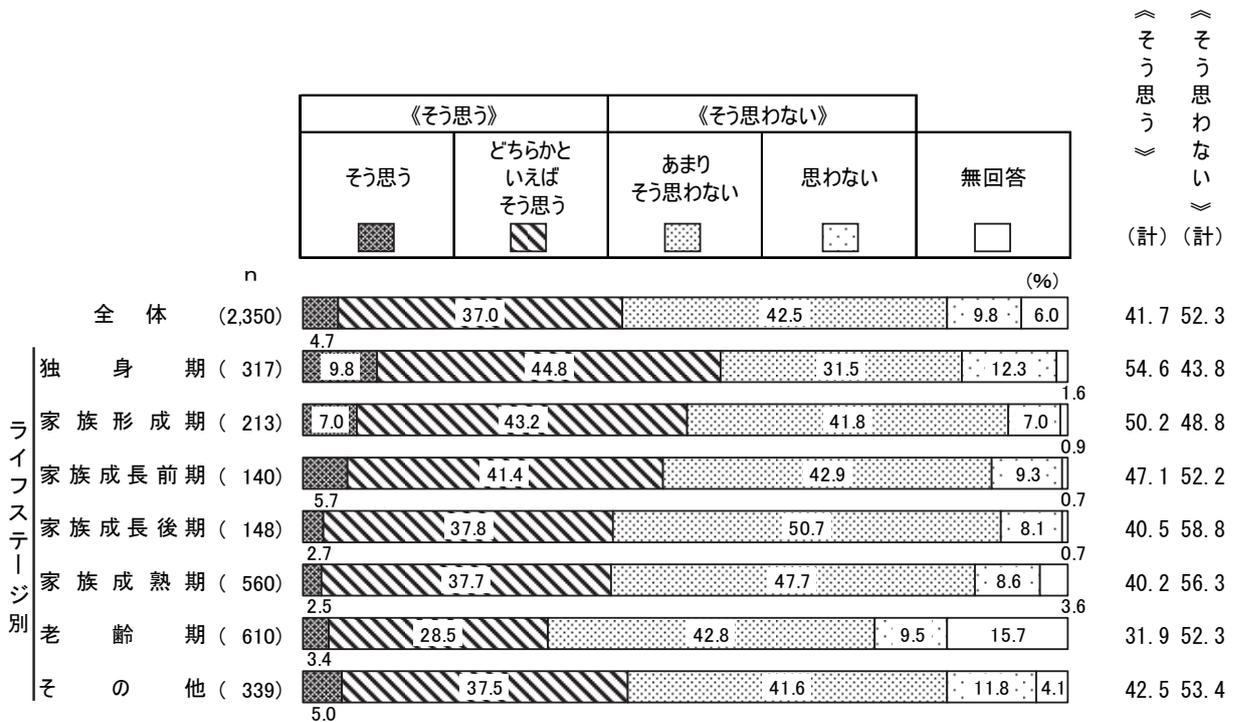
性・年齢別にみると、《そう思う》は男性30～39歳（63.6%）で6割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は女性40～49歳（60.9%）で約6割と多くなっている。（図3-56-14）

図3-56-15 男女共同参画社会の実現度（オ）社会全体－居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（46.1%）で5割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（54.0%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-56-15）

図3-56-16 男女共同参画社会の実現度（オ）社会全体－ライフステージ別



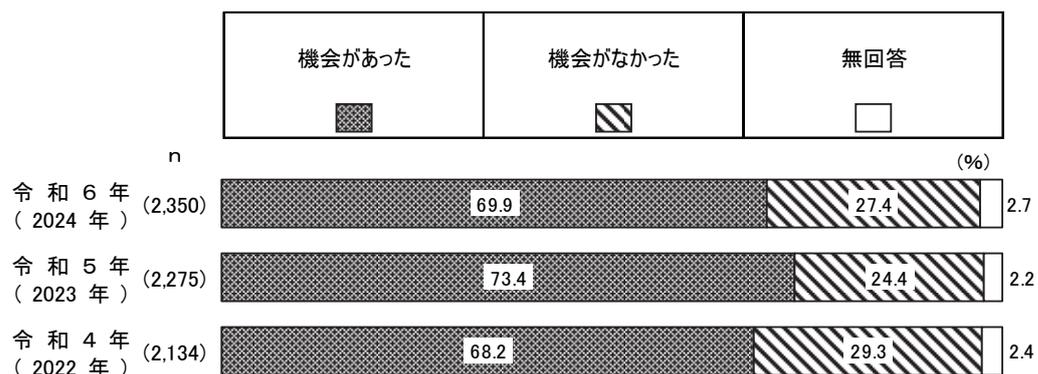
ライフステージ別にみると、《そう思う》は独身期（54.6%）で5割台半ばと多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成長後期（58.8%）、家族成熟期（56.3%）で6割近くと多くなっている。（図3-56-16）

(57) 自然と触れ合う機会の有無

◇「機会があった」が7割弱

問 60 あなたは、この1年間に、自然と触れ合う機会がありましたか。(○は1つだけ)

図3-57-1 自然と触れ合う機会の有無—全体、経年比較

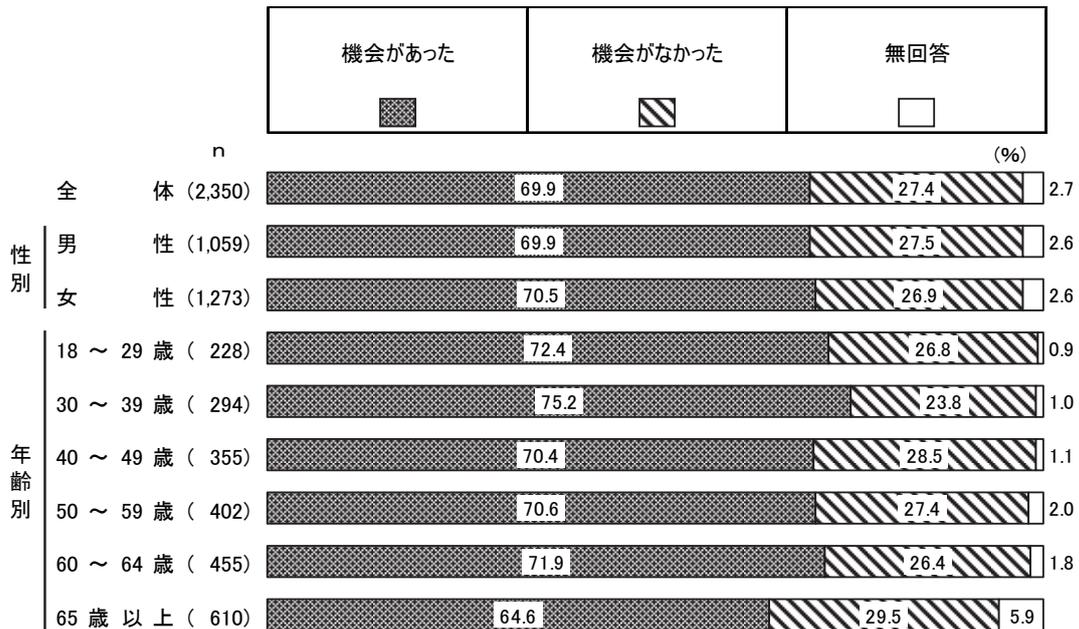


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

この1年間に、自然と触れ合う機会があったか聞いたところ、「機会があった」(69.9%)は7割弱となっている。一方、「機会がなかった」(27.4%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「機会がなかった」は令和5年(2023年)(24.4%)より3.0ポイント増加している。(図3-57-1)

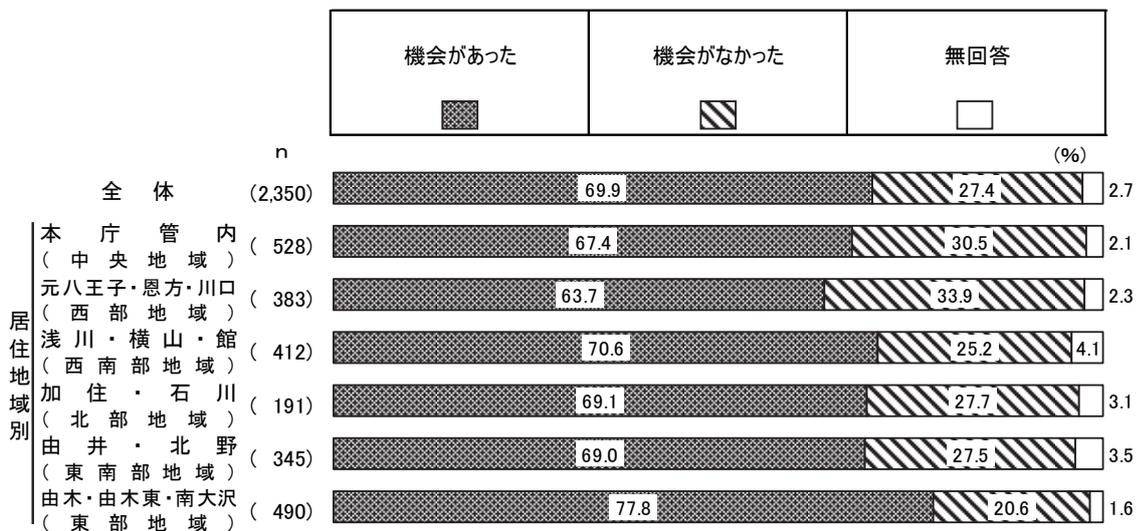
図3-57-2 自然と触れ合う機会の有無－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「機会があった」は30～39歳（75.2%）で7割台半ばと多くなっている。一方、「機会がなかった」は65歳以上（29.5%）で3割弱と多くなっている。（図3-57-2）

図3-57-3 自然と触れ合う機会の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「機会があった」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（77.8%）で8割近くと多くなっている。一方、「機会がなかった」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（33.9%）で3割強と多くなっている。（図3-57-3）

(58) 「生物多様性」の周知度

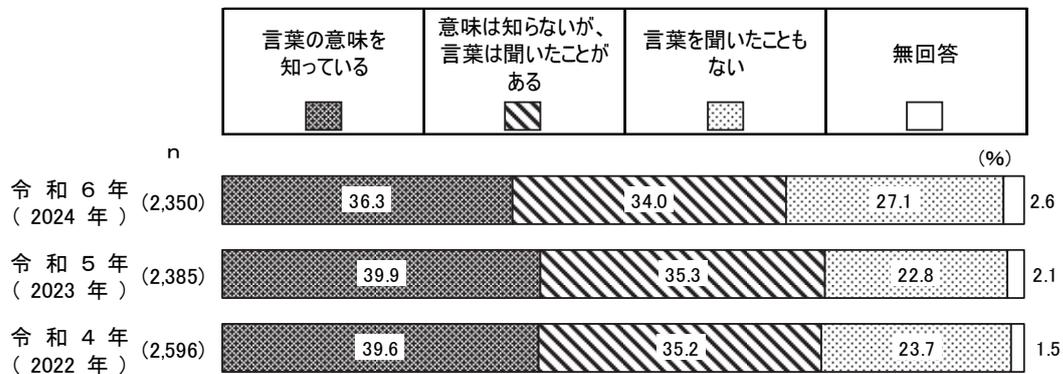
◇「言葉の意味を知っている」が4割近く

問 61 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

※生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより、地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

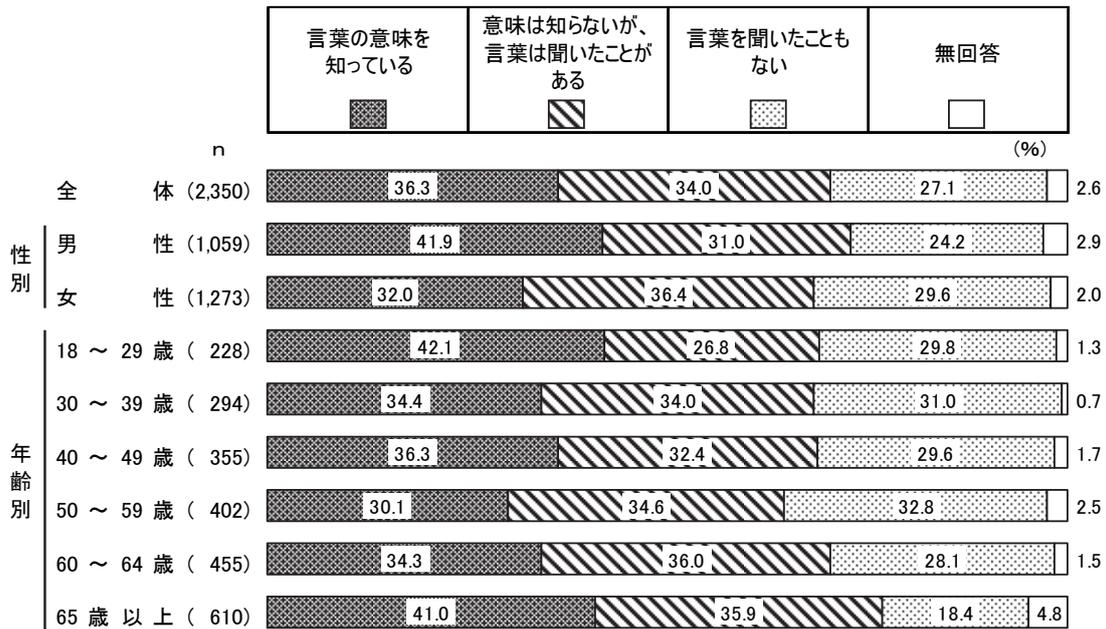
図 3-58-1 「生物多様性」の周知度—全体、経年比較



「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(36.3%)が4割近く、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(34.0%)は3割台半ばとなっている。一方、「言葉を聞いたこともない」(27.1%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「言葉を聞いたこともない」は令和 5 年 (2023 年) (22.8%) より 4.3 ポイント増加している。(図 3-58-1)

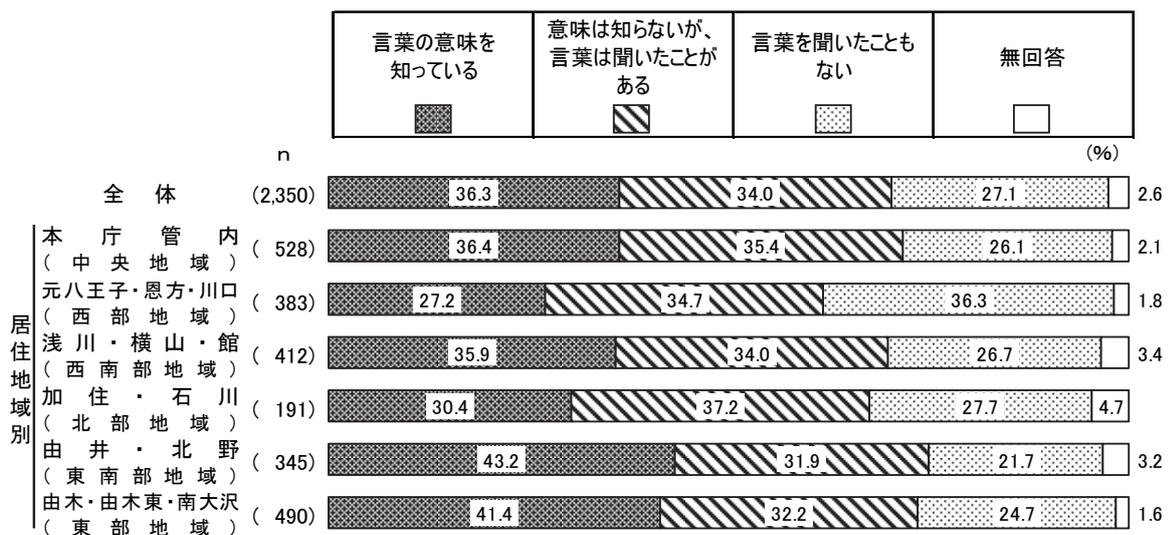
図3-58-2 「生物多様性」の周知度—性別、年齢別



性別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性（41.9%）が女性（32.0%）より9.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は18～29歳（42.1%）、65歳以上（41.0%）で4割強と多くなっている。「言葉を聞いたこともない」は50～59歳（32.8%）、30～39歳（31.0%）で3割強と多くなっている。（図3-58-2）

図3-58-3 「生物多様性」の周知度—居住地域別



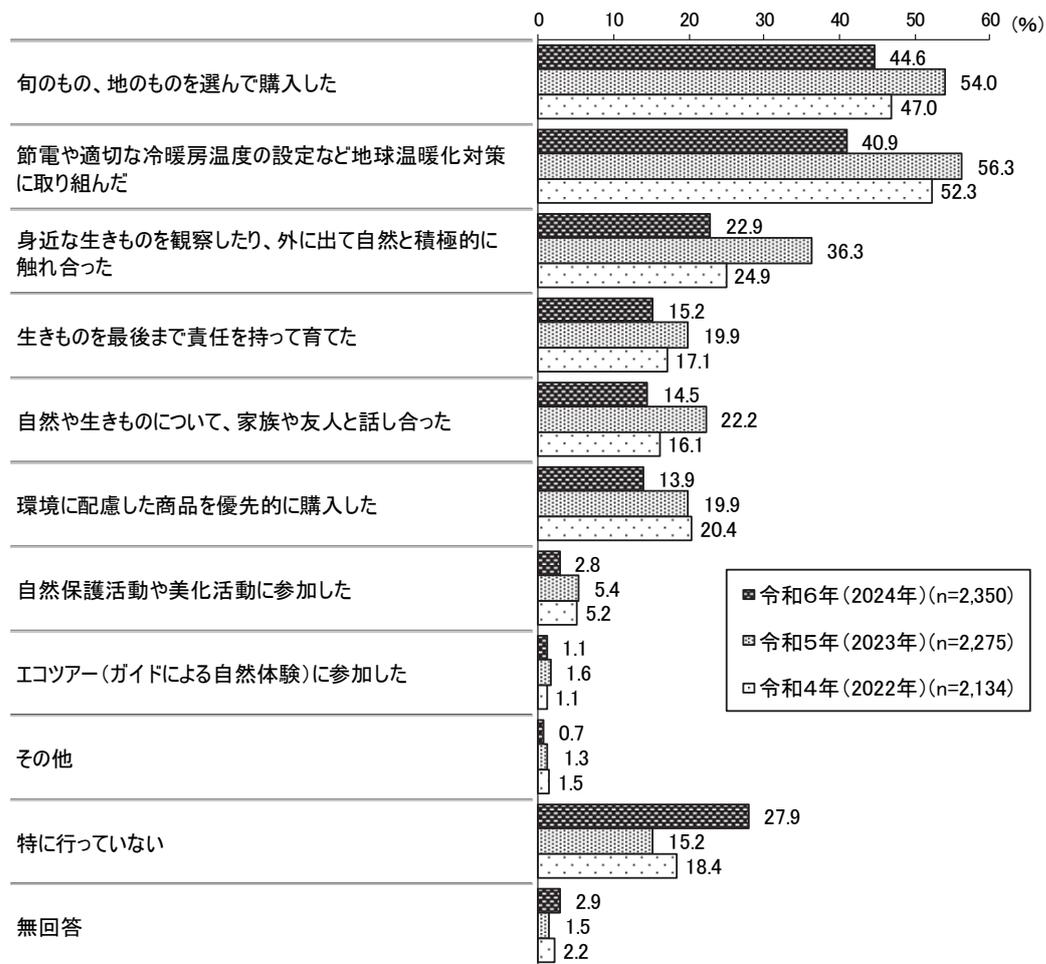
居住地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は由井・北野（東南部地域）（43.2%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（41.4%）で4割強と多くなっている。「言葉を聞いたこともない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（36.3%）で4割近くと多くなっている。（図3-58-3）

(59) 「生物多様性」に配慮したライフスタイルとして行ったこと

◇「旬のもの、地のものを選んで購入した」が4割台半ば

問 62 あなたは、この1年間に、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、どのようなことを行いましたか。(〇はいくつでも)

図3-59-1 「生物多様性」に配慮したライフスタイルとして行ったことー全体、経年比較

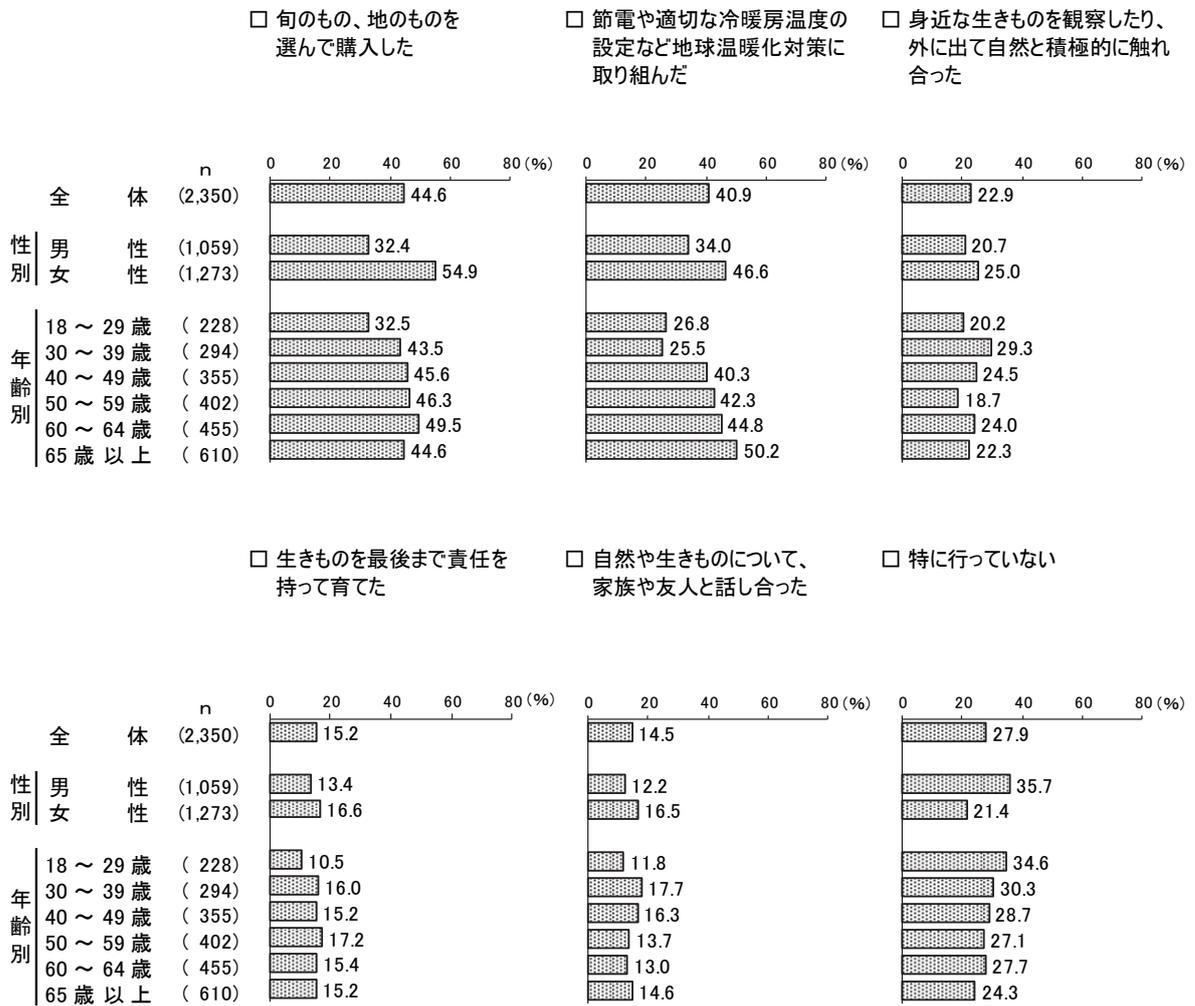


※「八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査」(令和4年及び5年)結果と比較

生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったことを聞いたところ、「旬のもの、地のものを選んで購入した」(44.6%)が4割台半ばと最も多くなっている。次いで「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」(40.9%)、「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」(22.9%)などの順となっている。一方、「特に行っていない」(27.9%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「特に行っていない」は令和5年(2023年)(15.2%)より12.7ポイント増加している。一方、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は令和5年(2023年)(56.3%)より15.4ポイント、「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は令和5年(2023年)(36.3%)より13.4ポイント、それぞれ減少している。(図3-59-1)

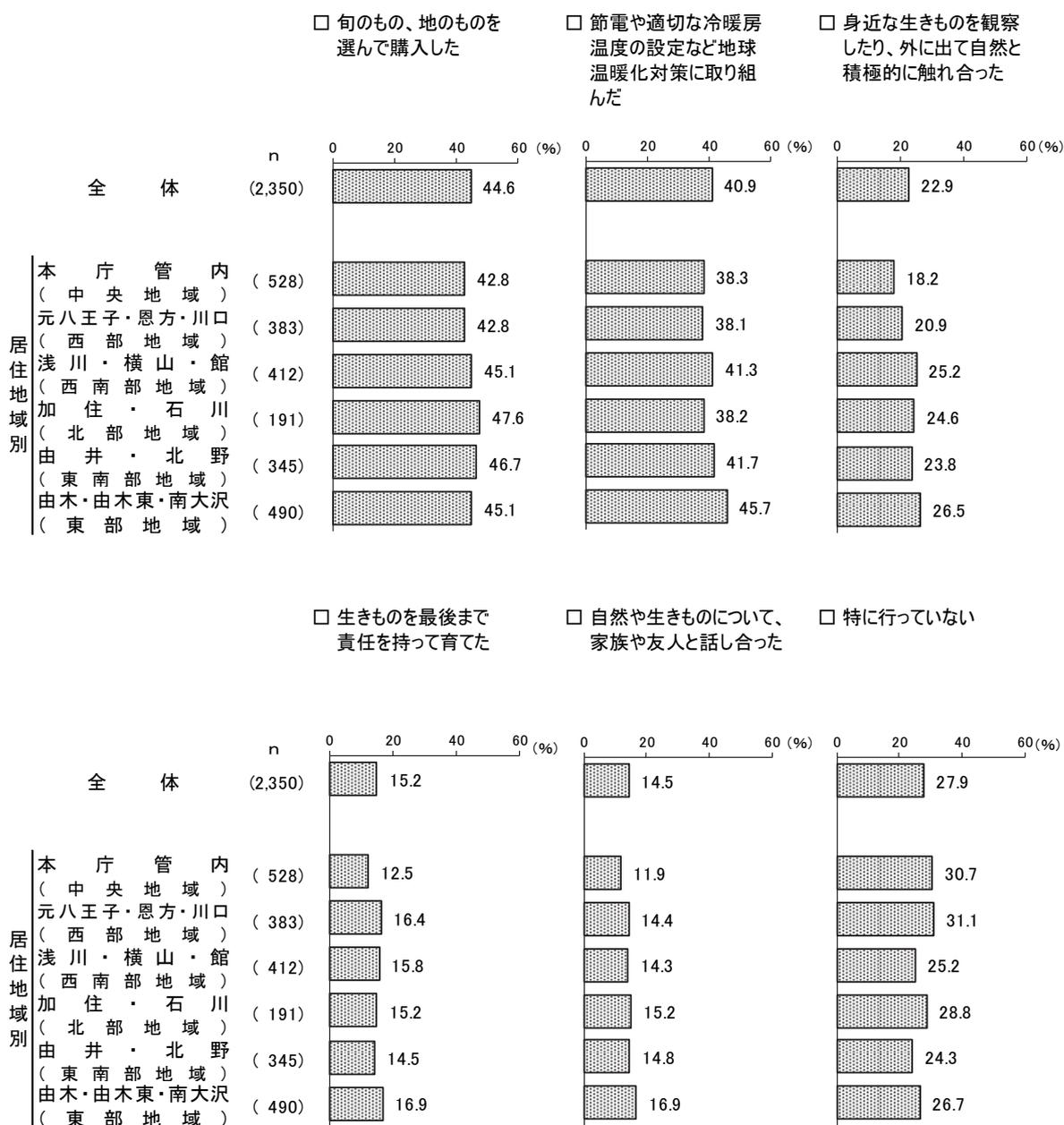
図3-59-2 「生物多様性」に配慮したライフスタイルとして行ったこと—性別、年齢別
(上位5項目+「特に行っていない」)



性別にみると、「旬のもの、地のもので購入した」は女性（54.9%）が男性（32.4%）より 22.5 ポイント、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は女性（46.6%）が男性（34.0%）より 12.6 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特に行っていない」は男性（35.7%）が女性（21.4%）より 14.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「旬のもの、地のもので購入した」は60～64歳（49.5%）で5割弱と多くなっている。「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は65歳以上（50.2%）で約5割と多くなっている。「特に行っていない」は18～29歳（34.6%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-59-2）

図3-59-3 「生物多様性」に配慮したライフスタイルとして行ったこと－居住地域別
(上位5項目+「特に行っていない」)



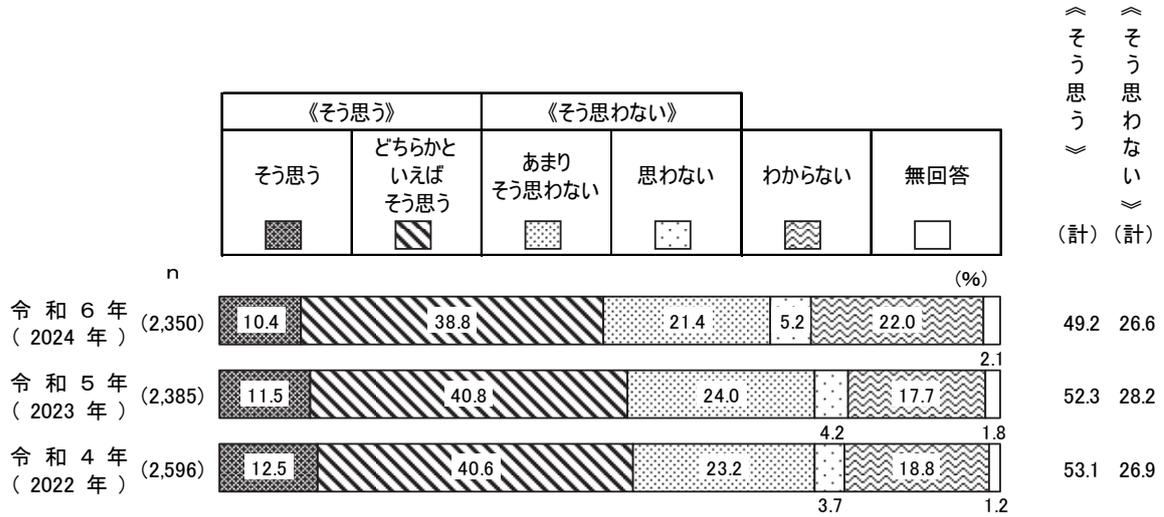
居住地域別にみると、「旬のもの、地のものを選んで購入した」は加住・石川(北部地域)(47.6%)、由井・北野(東南部地域)(46.7%)で5割近くと多くなっている。「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(45.7%)で4割台半ばと多くなっている。「特に行っていない」は元八王子・恩方・川口(西部地域)(31.1%)で3割強と多くなっている。(図3-59-3)

(60) 自然、歴史、文化が生かされた景観

◇《《そう思う》》が5割弱

問 63 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に生かされていると思いますか。(○は1つだけ)

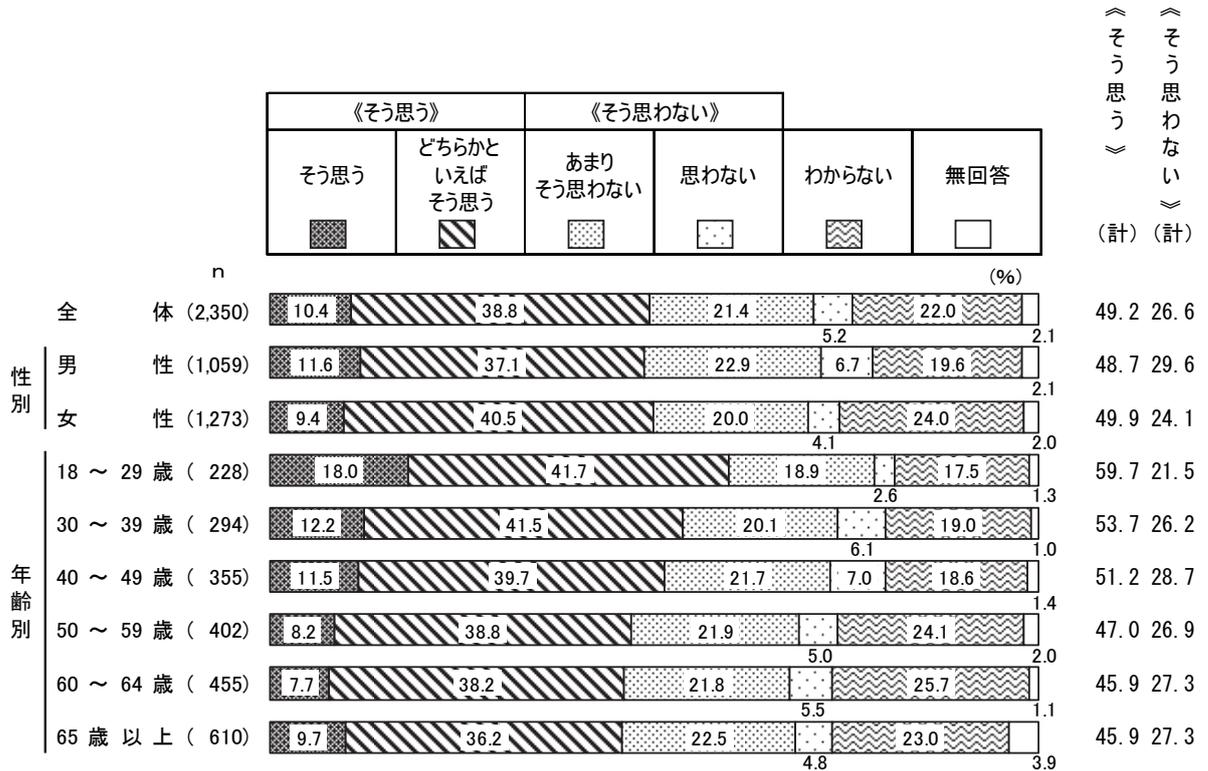
図3-60-1 自然、歴史、文化が生かされた景観－全体、経年比較



市の豊かな自然、歴史、文化などが、住んでいる地域やまちの景観に生かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(10.4%)と「どちらかといえばそう思う」(38.8%)を合わせた《《そう思う》》(49.2%)は5割弱となっている。一方、「あまりそう思わない」(21.4%)と「思わない」(5.2%)を合わせた《《そう思わない》》(26.6%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和5年(2023年)(52.3%)より3.1ポイント減少している。(図3-60-1)

図3-60-2 自然、歴史、文化が活かされた景観—性別、年齢別

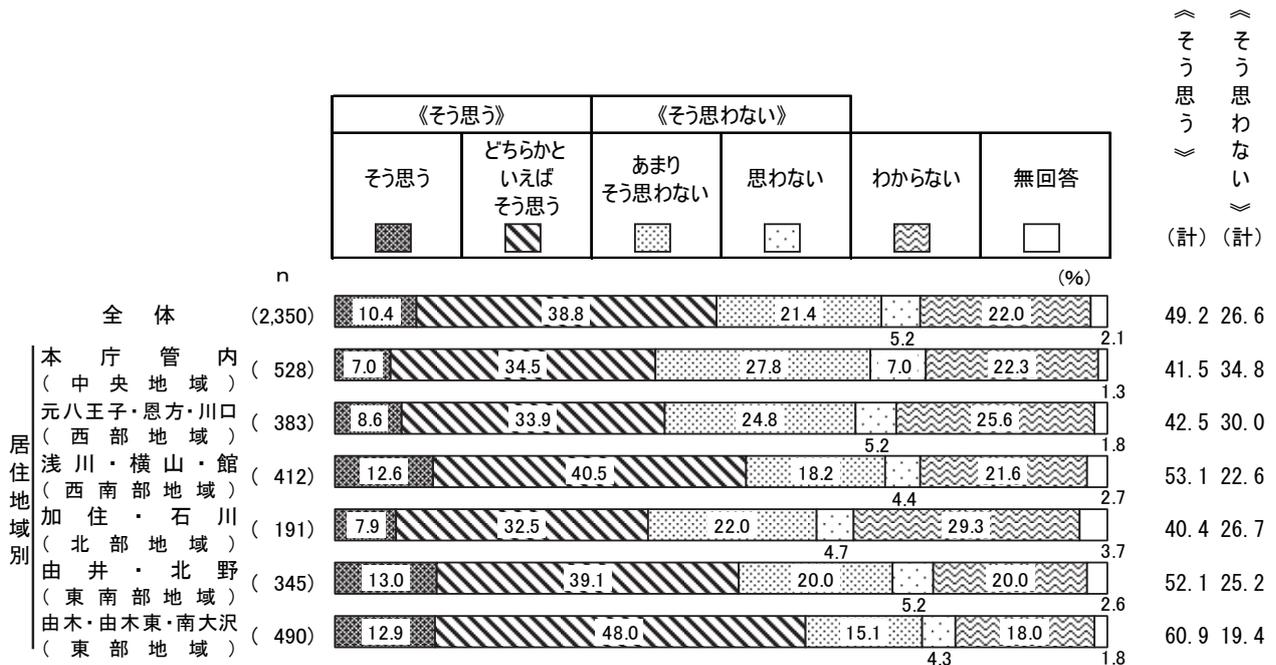


性別にみると、《そう思わない》は男性（29.6%）が女性（24.1%）より5.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（59.7%）で6割弱と多くなっている。

(図3-60-2)

図3-60-3 自然、歴史、文化が活かされた景観—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（60.9%）で約6割と多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（34.8%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-60-3）

(61) 地球環境への配慮

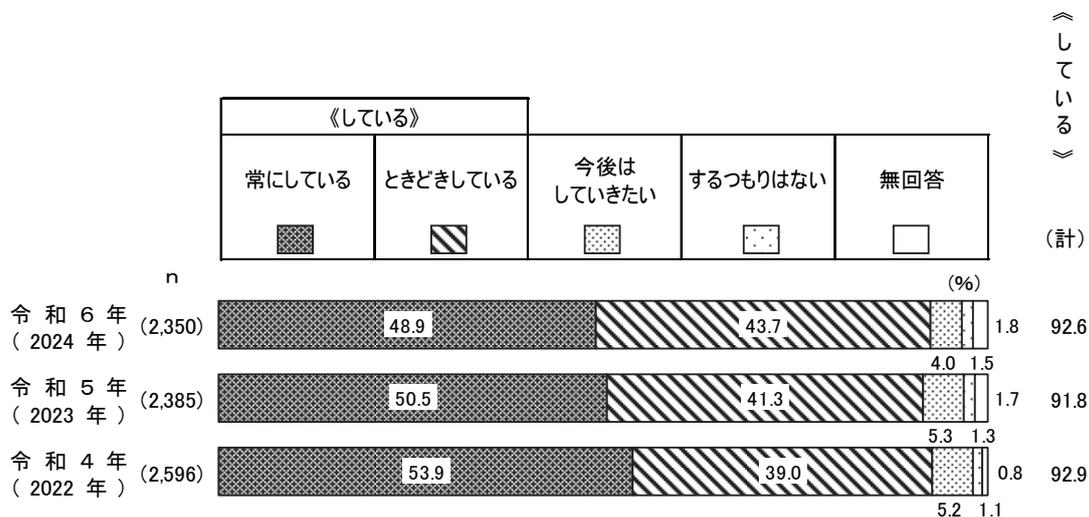
◇《している》が9割強

問 64 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。(〇は1つだけ)

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取り組みとは・・・

- 過度な冷暖房の使用を抑える
- マイカーの使用を抑える
- 電気をこまめに消す
- 省エネ製品を利用する
- 冷蔵庫の開閉に気を使う
- 買物用のバッグを持参して買い物に行く
- ごみと資源物を分別し、適正に排出する
- など

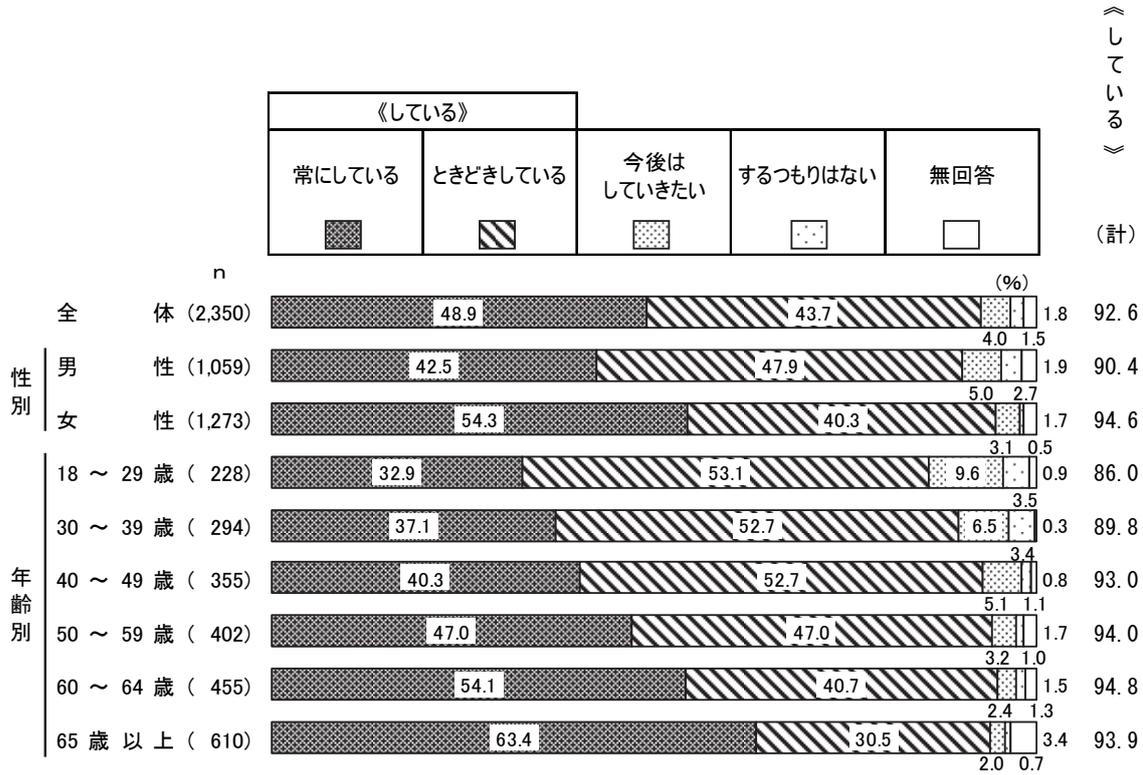
図 3-61-1 地球環境への配慮－全体、経年比較



ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「常にしている」(48.9%)と「ときどきしている」(43.7%)を合わせた《している》(92.6%)は9割強となっている。また、「今後はしていきたい」(4.0%)と「するつもりはない」(1.5%)はともに1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、「ときどきしている」は令和5年(2023年)(41.3%)より2.4ポイント増加している。(図3-61-1)

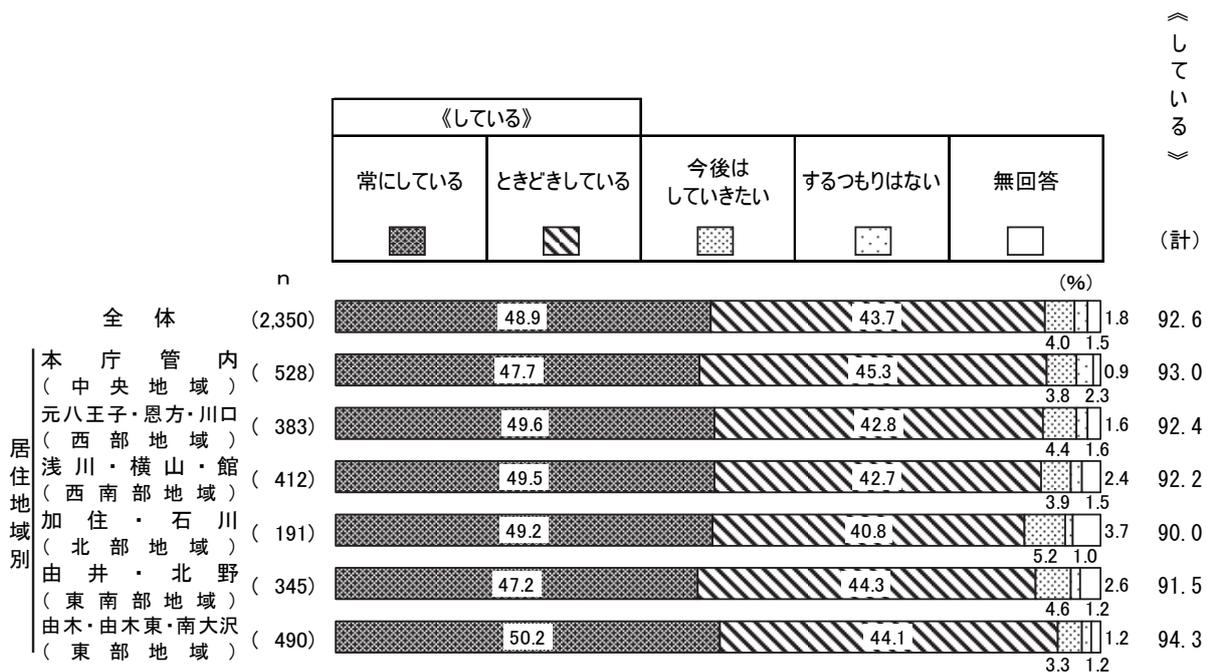
図3-61-2 地球環境への配慮—性別、年齢別



性別にみると、《している》は女性（94.6%）が男性（90.4%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《している》は60～64歳（94.8%）、50～59歳（94.0%）で9割台半ばと多くなっている。「常にしている」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（63.4%）で6割強と多くなっている。（図3-61-2）

図3-61-3 地球環境への配慮—居住地域別



居住地域別にみると、《している》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（94.3%）で9割台半ばと多くなっている。（図3-61-3）